

# 真菅地区

## ○峯山福生院新任恵山請状

宝曆六年十月

(天図近世文書)

〔大谷〕

## ○峯山福生院後住推挙状

宝曆四年二月

(天図近世文書)

乍恐書付ヲ以御願奉申上候

一、此度峯山福生院無住之儀ニ付、川原村弘福寺弟子禪鐘卜申僧、生国者武劬足立郡田嶋村儀右衛門卜申仁子息ニ而御座候所、右福生院後住ニ相被望候、郷内得心之上御願奉申上候、何卒入寺被為仰付被下候者、難有可奉存候、以上、

箱本畝火村

宝曆四年

久兵衛

戌壬二月

神主

大谷伊織

御奉行様

請状之夏

一、此度峯山福生院江入寺被致候恵山と申僧之義者、出生十市郡大福村幸作と申仁之子息、真言宗ニ而拙僧弟子ニ紛無御座候、然上ハ如何様之義出来仕候共、拙僧罷出急度埒明可申候、為後日仍而請状如件、

宝曆六年十月

十市郡大福村薬師堂

常真

本主

恵山

大谷宮内殿  
畝火山郷中

請状之夏

一、十市郡大福村薬師堂住寺常真弟子恵山と申僧、私兄弟ニ相違無御座候、此度峯山福生院江入寺被致候、然

上者万一如何様之義出来仕候共、私罷出急度引請分立  
可申候、為後日之仍而請狀如件、

宝曆六子年十月

大谷村

利兵衛 ㊦

大谷宮内殿

畝火山郷中

請狀之事

一、十市郡大福村薬師堂住寺淨春弟子恵山と申僧、私兄弟ニ相違無御座候、此度峯山福生院へ入寺被致候、然上ハ万一如何様之儀出来仕候共、私罷出急度引請分立可申候、為後日之仍而請狀如件、

宝曆六丙子年

大谷村

十月 日

治兵衛

神主

大谷宮内様

畝火山郷中

┌

○南都奉行所へ手続方ニ付言上書

宝曆六年十月

(天図近世文書)

書付ヲ以奉申上候

一、畝傍山大明神社地之儀ニ付候而者、是迄南都御奉行所江別段御届ケ申上候儀手扣等ニも見当り不申、勿論大明神御造榮(マツ)之儀者先年ハ廿一年メニ而、其節者郷中年番箱元連印書付ヲ以南都表江御届ケ申上候儀ニ御座候、依之此上社地之儀ニ付南都御奉行所ハ御沙汰有之候ハ、是迄御上様江奉申上候心得ヲ以御届ケ可申上奉存候得共、夫迄者差扣罷居候儀ニ御座候、右ニ付社人仲間内社地聞合仕候ケ所、別紙ニ奉申上候間、此上之儀者御上様ハ御差図被為成下候様、奉願上候、以上、

天保三辰年

八月廿七日

大谷播磨 ㊦

御役所様

┌

○峯山福生院不埒ニ付願上書

宝曆十三年六月

(天図近世文書)

乍恐書付を以奉願上候

一、峯山福生院去年九月、神主大谷□□惣代箱本畝火村喜兵衛右兩人江被申候儀、拙僧此度官職之願上度、是ニ付郷方へ銀子□□四百目無心申度、兩人世話致候様被相頼候、其節福生院江申候儀、近年一統困窮之砌、此節申出候而も銀子相調候事難斗、且又右躰之儀ハ前格ニ而、御地頭様江御届ケ申上來候間、志ばらく可被相見合様ニ申置候処、当春二月十三日ニ福生院方郷中枝郷迄登山可致旨之廻状被出候ニ付、郷中役人無何心參候処、一飯を相振舞、其上被申候儀、此度法印官御免許状頂載仕候、依之披露致旨被申候、依之郷中ノ申候者目出度義ニ存候、併先達而申達置候儀、用イなく郷方へ熟談も無之故、御地頭様江不届□□罷成御作法相立不申其旨申候処、自官之儀も候故、御届ケ不及申上

ニ与我儘被申候ニ付、福生院心腹之程郷中一統不寄依ニ罷成、且又御作法も相立不申候故、郷方熟談之上福生院へ申候儀、右之心底ニてハ、最初入寺之節証文之表も相濟不申候間、寄々相応之方聞膳被致、移□□候様申候処、此儀ニ付退寺可致事相成不申候と、我意を被申候ニ付、四条村久兵衛と申者、玄番方へ參申候者我者内々取喰致度候、福生院方此度官職之儀披露被致候を内証ニ致置、未官職不致候分ニ而取斗可致様ニ段々申候ニ付、其趣御上江御内意奉窺候処、其旨郷方一同ニ得心之儀も候ハ、右福生院官職致度旨之願、連印を以可差上由被仰付、其趣郷方へ相談仕候所、全ク官職之義ハ差構申儀ハ無御座候得共、何分福生院先格(名)□□無聞入、我儘を以強氣ニ被申候ニ付、此後とても心腹之程、猶以不寄依ニ罷成、郷方一同右願之儀得心不仕候、尤是迄無官之僧ニ而濟來候間、何分寄々寺聞膳、替寺被致候様ニ再三申候得共、少茂聞入レ無之、御掟を打破候のみならず、郷方相手取我儘被申候故、

不得止事奉願候、福生院退寺被致候様ニ、被仰付被下候ハ、難有奉存候、以上、

郷惣代箱本吉田村

儀兵衛 ㊦

神主

大谷玄番 ㊦

宝曆十三年

未ノ六月日

御奉行様

○ 畝傍山口社々宝開帳御願

寛政六年三月十三日

(天図近世文書)

乍恐御願奉申上候

一、畝傍山御土之縁起

巻卷

但諸人江説聞セ申度候事

一、□ (切りとり)

一、畝傍山御土諸人江請さセ候事

一、神功皇后三韓御退治之縁起

上下  
式巻

真菅地区

但御神絵入右之縁起者差出し候斗りニ而説聞セ候義ニ而者無御座候

一、右同断写御神絵

巻卷

ノ五ヶ条

右之通撰州住吉社内御統経所借用仕、来ル十八日より三十日之間諸人江拜見為致度奉存候、勿論大行成儀ニ而者

無御座候、建札等茂不仕、諸參詣江拜見為致候斗り御座候、尤住吉領分并大坂表所々江左之通張紙仕度奉願上候、右願之通御聞濟被為成下候ハ、難有可奉存候、以上、

和州畝傍山

神功皇后三韓御退治ニ付、御土之縁起講<sup>(釈)</sup>住吉於社内、来ル十八日より三十日之間相動候者也、

和州畝傍山社神主

大谷播磨正

寅三月

右之通相認申度奉存候

寛政六年

神保左京殿知行所

寅三月十三日

大谷播磨正 ㊦

右和州畝傍山社神主大谷播磨正、畝傍山之縁起致講<sup>(釈)</sup>候

ニ付、神宮寺支配所御統経所致借用度旨相頼候ニ付借シ  
遣度奉存候、御聞濟被為成下候様奉願上候、以上、

寅三月十三日

日光山直末

攝州住吉

神宮寺

惣中代

左京 ㊦

右之通相違無御座候ニ付、奥印仕候、以上、

津守上野介役人

坂井隼人 (印切り取り)

御奉行所

○雨乞願満なもて踊日延べ詫状

文政十三年十二月

(天図近世文書)

差入申一札之夏

峯山惣郷中

一、当年七月早魃ニ付当社大明神様江雨乞仕候処、御利  
生ニ依テ、同月十二日結構成雨頂戴仕、郷中一同大悦

不過之候、然ルニ右御礼としてなもて踊り献上可致筈  
之処、郷中彼是故障出来候ニ付、願満及延引恐多キ事  
ニ御座候、然ル処右故障之義も相濟候得共、当年ハ及  
月迫願満事難相成候故、来卯ノ年一同相談之上、日限  
相定急度踊り献上可致候間、延引之義者何卒其許様方  
御詫被成下候様、一入御願申上候、依之惣郷中差入申  
連印一札、依テ如件、

文政十三寅年

十二月

慈明寺村 ㊦

山本村 ㊦

小泉堂村 ㊦

四条村 ㊦

大窪村 ㊦

畝傍村 ㊦

吉田村 ㊦

大谷村 ㊦

神主

大谷播磨殿

」

○ 畝傍大明神高敷除地御尋返答

天保三年九月九日

(天圖近世文書)

乍恐奉申上候

神保礖三郎殿知行所

高市郡大谷村

畝傍大明神神主

大谷播磨

一、今般社社数并社者高付、在之除地ニ候哉与御尋ニ御座候、

境内拾丁余四方

畝傍大明神社

式反

右大明神之御旅所

式拾五歩

同断井戸

右之通除地ニ而無高ニ御座候、此外除地等無御座候付此段奉申上候、以上、

大谷村

畝傍大明神神主

大谷播磨 ㊦

天保三辰年九月九日

真菅地区

御奉行所

○ 神主、社僧、神子等任免規式言上一札

(天保頃と推定)

(天圖近世文書)

奉差上ケ一札之事

一、私家之儀從往古大谷宮内と申候而、無官ニ而代々神職相勤來り候、曾祖父ハ吉田家ニ而任官仕候、則免許状持知仕居申候、私居宅ニ向壺町四方ハ前々々明神社地ニ付候儀ニ而、御年貢差上ケ不申、則宝曆九年ニも御上様々寺社御改之節御吟味之上ニ而書付差上置申候、

一、社僧之儀者<sup>(舎)</sup>かん坊之儀ニ候、入寺退寺共郷方得心之上、師請<sup>(破損)</sup>吟味仕、神主方御上様へ願<sup>(破損)</sup>御<sup>(破損)</sup>しや免之上、神主方へ師請□□之一札取置入寺申付來り候、

一、神子之儀ハ大久保村伊兵衛方ニ代々相勤來り候得共、次メ之節<sup>(目)</sup>ハ後メゆずり之儀ヲ吟味仕、無滞品々御

座候得者、郷中得<sup>(破損)</sup>神主郷惣代方御上様<sup>(破損)</sup>御し

や免之上、跡役申付来り候、尤官職之儀ハ吉田家へ願

出候得共、役メ<sup>(目)</sup>之儀者右之通りニ取計<sup>(破損)</sup>畝傍山之社

法ニ而御座候故、<sup>(破損)</sup>郷方方少々余内請来り候、

一、たいこ役とひし役、是等兩人ハ神主方役人出し来り

候、右之役メ<sup>(目)</sup>ハ神前切ニ而外方へ少茂さし掛申儀無御

座候、勿論郷中<sup>(目)</sup>□□余内等も不請来<sup>(以下断簡)</sup>」

○当社勸請住吉社太々神楽勸進書

(江戸末期)

(天図近世文書)

一、抑当社の勸請し玉ふ住吉の太神と申奉るは、昔時神

功皇后三韓御征伐のとき、水中に白髪のお翁頭れ出、

御みちひきをなし、干珠満珠をもつて夷とも打亡し、

官軍格別の戦功あり、国豊ニ民等榮ふも、全住吉の太

神の御神徳なり、尤摂津国住吉社よりも、毎年二月朔

日十一月子の日の御神事ニは、当社境内なる埴土をと

り用る事古き例なり、かく遠く隔たる住吉社よりも由

緒深き当社御神なれハ、とし毎ニ三月十六日太々御神

楽ささげ奉り、国豊ニ五穀豊饒商売繁栄家の内安穩常

盤の守護あらせられ玉ふと祈るもの也、依之有位之御

方々ハ、永代太々御神楽講へ御加入被成下度候様、ふ

して奉願上候、以上、

一、永代太々御神楽

金三両

一、添 御神楽

同壹両

一、月次御膳

金貳百疋

右之通ニ御座候事

壬申二月

当社

神主<sup>印</sup>

世話人中<sup>印</sup>

永代太々御神楽

八木

一、金三両

谷孫平

永代太々御神楽

新堂村

一、同三両

牧野利右衛門

添御神楽

八木

一、同壹両

加持屋吉平

添御神樂

一、金巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

同断

一、同巻両

添太々

一、金巻両

同

一、同巻両

一、同三両

八木村

土庫屋庄三良

豊浦村

穂田喜平

岡村

米屋喜平

安部村

油屋佐右衛門

桜井村

池田吉平

今井町

高木弥十良

同町

総屋藤助

同町

粉谷新三良

新賀村

油屋佐平

吉野上組

住吉講中

芳野上組  
油屋中

〔慈明寺〕

○慈明寺村小物成場検地帳写

延宝十年八月八日

(天國近世文書)

延宝七<sub>巳</sub>年

大和国高市郡慈明寺村小物成場検地帳写

八月八日

本多平八郎内

吉岡新左衛門

延宝二寅敷新開

寺内

一、上畑 拾七間

三間式尺五寸

忝畝貳拾八步 善太郎

此分米忝斗五升忝合 但斗代忝石三斗

鳥菟荒二付雑木山二相成候

延宝元丑敷新開

寺内

一、上畑 貳拾四間

忝間三尺

忝畝六步

次郎三郎

此分米忝斗五升六合 但斗代忝石三斗

延宝三卯敷新開

北口

一、上畑 拾九間三尺

三間

忝畝貳拾九步

庄五郎



此分米式斗五升六合 但斗代壹石三斗

此取米壹斗壹勺九才 小夫方公儀

御上納之節請取申候

寛文十二子藪新開

まんくわんいん

一、中畑 拾五間三尺 三畝七步

五郎兵衛

此分米三斗五升六合 但斗代壹石壹斗

延宝三卯藪新開

大もん院

一、中畑 六間三尺 式拾三步

甚太郎

此分米八升四合 但斗代壹石壹斗

鳥兔等荒候ニ付当時雜木山ニ相成候

右之寄

上畑五畝三步

此分米六斗六升三合 但斗代壹石三斗

中畑四畝步

此分米四斗四升 但斗代壹石壹斗

畝合九畝三步

分米合壹石壹斗三合

右之外

峯山

一、小松山 百拾五間 三町六反四畝五步

此山手米七斗三升

一、藪壹反八畝九步

此竹役小竹三束 但壹尺八寸繩

内

かいと

小竹藪 拾間 式畝五步

彦市郎

此竹役三分七厘

かいと

小竹藪 式拾間 三畝拾五步

次郎三郎

此竹役五分七厘

かいと

小竹藪 四間三尺 九步

忠次郎

此竹役五厘

かいと

小竹藪 三拾壹間 式畝式拾八步

庄五郎

此竹役五分

かいと

小竹藪 三拾間 式畝拾五步

甚太郎

小竹藪 三拾間 式畝拾五步

孫太郎

此竹役三分七厘

檢地奉行

かいと

湯川兵太夫印

小竹藪

拾貳間四尺

四畝七步

善之介

同

石橋八太夫印

此竹役七分

同

かいと

花村平太夫印

小竹藪

拾老間三尺

壹畝拾六步

善之介

同

難波六郎兵衛印

此竹役貳分六厘

同

かいと

河本半左衛門印

小竹藪

拾七間  
貳間

壹畝四步

源十郎  
助左衛門

同

毛利源五兵衛印

此竹役壹分八厘

慈明寺村庄屋

右者大和国高市郡慈明寺村、御小物成場檢地依彼仰付

庄五郎印

候、六尺間竿を以壹反三百步也、町反畝歩員數斗代高

同村案内者

善太郎印

下分量委細書記、帳面相極置者也、

同

次郎三郎印

本多平八郎内

延宝七己未年八月八日

惣奉行

吉岡新左衛門印

同

喜市郎印

元

山田十郎右衛門印

墨付五枚之内落字付字削目なし

同

多羅尾源大夫印

真菅地区

六九七

└

○慈明寺村小物成地開場所書上帳

享和三年四月

(天図近世文書)

享和三年

大和国高市郡

小物成地開場所當時有姿書上帳

亥ノ四月

慈明寺村

延宝二寅藪新開

寺内

一、上畑

拾七間 三間式尺五寸

壹畝貳拾八步

此分米貳斗五升壹合 但斗代壹石三斗

右場所之儀山陰ニ而、立毛出来悪敷御座候故、中興以來雜木柴山ニ仕候、

延宝元丑藪新開

寺内

一、上畑

貳拾四間 壹間三尺

壹畝六步

此分米壹斗九升六合 但斗代壹石三斗

右場所之儀、右同様立毛出来悪敷御座候故、中興以來  
菊柴山ニ仕候、

延宝三卯藪新開

北口

一、上畑

拾九間三尺 三間

壹畝貳拾九步

此分米貳斗五升六合 但斗代壹石三斗

當時之姿右同断

寛文十二子藪新開

まんくわんいん

一、中畑

拾五間三尺 六間式尺五寸

三畝七步

此分米三斗五升六合 但斗代壹石壹斗

當時之姿同断

延宝三卯藪新開

大もん院

一、中畑

六間三尺 三間三尺

貳拾三步

此分米八升四合 但斗代壹石壹斗

當時之姿右同断

右之寄

上畑五畝三步

此分米六斗六升三合 但斗代壹石三斗

中畑四畝歩

此分米四斗四升 但斗代壹石壹斗

畝合九畝三步

分米合壹石壹斗三合

御免三ツ八歩御取米四斗壹升九合壹勺四才

慈明寺村

庄屋 八十郎

年寄 善太郎

右之通少し茂相違無御座候、以上

年号月日

小堀縫殿様

御役所

宮所善藏

所持

御請書

慈明寺村

一、近年米穀下直ニ付、諸事直下ケ之儀被仰付、承知奉

畏候ニ付、御触以後左の通りニ仕候

一、豆 腐 壹丁ニ付、下□拾六文ニ売候処、御触以

後拾四文ニ売申候

源兵衛

一、右同商売 売捌キ方右之通りニ御座候

孫右衛門

一、大工作料 是迄一人前式匆八分□受取候得共、以来

組合も御座候間、外並ニ相減シ申候

宗 吾

一、屋根葺 是迄一人前ニ式匆五分ツツ受取候へ共、

以来ハ組合も御座候間、外並ニ相減シ申

候

清兵衛

一、右同職 右同断

惣四郎

○諸事値下ゲ対処御請書

文政二年十一月

(天図近世文書)

真菅地区

右之通りニ仕候間、御請書奉差入候、以上

文政二卯年十一月

村御役人中

○慈明寺村小物成地持主控帳

天保三年八月

(天図近世文書)

<p>天保三辰年八月 御小物成地所并持主控帳</p> <p>慈明寺村 庄屋 善太郎</p>
---

上畑五畝三步 但斗代壺石三斗

此分米六斗六升三合

中畑四畝歩 但斗代壺石壺斗

此分米四斗四升

畝合九畝三步

分米合壺石壺斗三合

右御取米三ツ八歩九厘

分米四斗式升九合

峯山

一、小松山 百拾五間  
九拾五間 三町六反四畝五歩

此山手米七斗三升

内

四升七合八勺 御陵山御年貢元録十三庚辰年方  
御引被為成下候

残り六斗八升式合式勺

ノ壺石壺斗壺升壺合式勺

三升三合 右口米石ニ  
三升宛

合壺石壺斗四升四合式勺

此内

七斗式合七勺 御林御年貢殿様御目録差縫被成下候

壺斗壺勺九才 御公儀上納之後小遣方被下置候、尤  
御檢地字北口与申御高式斗五升六合分

残り三斗四升壺合三勺壺才

右式百拾四歩ニ割

但当時持主左今通

一、三拾九步七厘 嘉 造

右者辻之坊西道端

但同所畑地之内ニ有之

一、拾九步三厘 清 助

右者西福院西道端

但同所畑地之内有之

一、貳拾三步 藤 兵衛

右者字多門院八之坪堀方南之方

一、四拾八步 長 兵衛

右者地藏院東方上下共

一、三拾六步 善 太郎

右者脇室院西之方

今井町木綿屋

一、四拾八步 嘉 兵衛

右者観音堂地方南下通り

但観音堂長山請山之下也

一、藪壹反八畝九步

此竹役小竹三束

内

壹束壹步(ママ)三歩

御殿様御持右者先年持主不埒之筋ニ而茂有之候哉、竹役之内三檢地上り地ニ相成候分

残り壹束八步七厘

右三百四拾四步ニ割

但當時持主左之通

一、三拾六步 兵 次郎

一、拾五歩 同 人

一、拾壹歩 善 太郎

一、六拾五歩 同 人

一、拾三歩 同 人

一、拾五歩 同 人

一、拾五歩 同 人

一、拾五歩 同 人

一、六拾五歩 嘉 造

一、貳拾歩 同 人

右者字古屋敷川端小竹藪

真菅地区

一、式拾三步

清 助

右者藤室院畑北之道端

一、式拾歩

今井町久宝寺屋  
弥 七

右者前同断、字中室院北道場

一、式拾式歩

同木綿屋  
嘉兵衛

一、九歩

同 人

右者道之并戸北之方、但道端西畑地

御殿様定小物成

壹石七斗四升九合

右当時持主左之通

一、壹斗式升五合

惣次郎

但右者字札之辻道端南北式ヶ所、南北式拾間東西五間五尺、此有畝三畝廿六歩六厘四毛、当時者畑地相成、当村方方巳午間ニ相当ル

一、壹升五合

嘉 造

但字古屋敷川端藪之下畑地三間拾四間、此有畝壹畝拾式歩、当時者小竹藪并畑地ニ相成候、当村方方午未間ニ相当

ル

一、三斗壹升五合

久 助

右者字古屋敷東迄道端、南北式拾間東西三間、此有畝式畝尤当村方方巳午間ニ相当ル

右三口ノ四斗五升五合

一、四斗五升

観音堂

右者池方南長山東西式拾五間、南北拾七間此有畝壹反四畝五歩、当時者雜木柴山ニ相成候、尤当村方方辰巳之方ニ相当ル

元高式石壹斗壹升  
一、八斗四升四合

今井町  
□屋  
八 兵衛

右者難波場所ニ付六歩御免ニ而、四歩通御上納米八斗四升四合ニ成、字奥開キ山本村内宮之西之方地廻リ、式百拾六間、此有畝五反七畝四厘、当時者雜木柴山ニ相成、場所当村方方卯辰之方ニ相当ル、尤峯山之内小松山三町六反四畝五歩之内請山ニ御座候

合壹石七斗四升九合

宮所善蔵所持

┌

○慈明寺村租税録

明治七年六月

(細川弘光文書)

<p>申年租税録</p> <p>大和国高市郡 慈明寺村</p>
-------------------------------------

一、高四百六拾五石式斗六升壹合

大和国高市郡

慈明寺村

此訳

田高三百七拾五石四斗四升壹石八夕九才

此貢米百八拾六石三斗四升四合

畑高九拾九石八斗壹升九合壹夕九才

此貢米四拾壹石五斗四合

貢米合式百貳拾七石八斗四升八合

高壹石壹斗三合

一、米四斗貳升九合

一、米六斗八升貳合式夕

山税

右同断

真菅地区

掛米貳拾八石九斗五升九合式夕  
一、米六石八斗六升九合

口米

小以米貳百三拾五石八斗貳升八合式夕

納合永七百七拾壹貫百七拾九文

右者去ル申年租税書面之通致皆済候ニ付、小手形引替一紙目録相渡もの也、

明治七年六月

奈良県

奈良県

右村

戸長

副戸長

総百姓

○御料地畝傍山落柴下附願

明治二十六年十二月十四日

(細川弘光文書)

御料地畝傍山落柴御下附願

畝傍山之儀ハ維新以前神保家支配山ニシテ、我ガ六ヶ村ニ相跨リ平原ニ屹立スルモノニ候得バ、接続ノ耕田ハ或



取締規約相副此段奉懇願候也、

明治廿六年十二月十四日

高市郡白櫃村大字畝傍

吉村伊平 印

西嶋清六 印

西嶋喜三郎 印

植田忠司 印

全郡真菅村大字大谷

藤本嘉平 印

藤本新司 印

辻本定吉 印

辻本長蔵 印

全郡全村大字慈明寺

細川長三郎 印

松室久四郎 印

細川長平 印

中村庄九郎 印

全都白櫃村大字吉田

安田岩治 印

八日蔭湿地トナリ土砂流出ノ為水利ヲ防ケ、作物ハ鳥獸ノ害ヲ蒙ル等種々ノ障害ヲ償フニ、該山林ノ落柴ヲ所在六ヶ村ヘ貫ヒ受ケ来リ候処、去ル明治十二年堺県庁ヘ山林御買上ケニ相成、示後落柴ヲ掻採候事ヲ得ズ、然ルニ此ノ村落タル大和国ノ中央平原ニシテ他ノ山林ニ距絶シ、薪炭不自由ヲ極メタル地ナルヲ以テ、貧困ノ小民ニ到テハ殊更困難候為往々窃ニ立入逐ニ犯罪ニ陥リ候モノ有之、随テ立木ヲ伐リ荒スノ憂ヒヲ免レズ候処、去ル明治二十年御料ト御確定相成、猶接続地ヲモ御買上ケ一層御嚴重ノ御取締モ被為有候、然ルニ明治十二年堺県庁ヘ御買上ケ候后ト雖氏、或ハ地押調査山林境界取調等其都度々ニ所在村々<sup>(マ)</sup>矢費スルヲ殆ト十数度相償フノ道モ無御座候条、恐懼之至ニ御座候得共、何卒情実御憐察旧来ノ縁故ヲモ思召候テ、右山林落柴ノ儀将来六ヶ字人民中ヘ御下附被成下度願意御採用ノ上ハ、別紙取締規約ノ通り堅ク相守可申、然ル時ハ却テ立木生育ノ御為筋ニモ相成候間、特別ノ御詮議ヲ以テ願之通御聞届被成下度、別紙

安田好司 印  
松村秀松 印  
安田長平 印

全都全村大字山本

高岡与藏 印  
高岡善次郎 印  
若林甚次郎 印  
若林孫四郎 印

全都全村大字洞

楠原惣七 印  
辻本七次郎 印  
辻岡弥五郎 印  
河合武平 印

前書願出ニ付奥印候也

右村長代理

助役 福田 登 印

真菅村長

松田利一郎 印

奈良県知事小牧昌業殿

真菅地区

〔後略〕

〔寺田〕

○村方儉約令達請状

天保十三年八月十八日

〔天図近世文書〕

天保十三年八月十八日  
御儉約定奉差上候  
寺田村

今度御趣意ニ付、御上様方御趣意心得方之儀御書取被為成下、郷中一統庄屋年寄百姓惣代迄調印仕奉差上候、此以後御趣意村方小百姓共迄急度難有相守可申候、且又御趣意ニ付儉約左之通り相定メ申候、

一、男奉公人給銀、上之分百八拾目究、但し其余ハ次第相順可申事、

一、女奉公人給銀、上之分八拾目究、但し其余ハ次第相順可申事、

一、奉公人仕着花色（纏）鳴可相渡事、

一、下人菅笠代百文可相渡事、

一、下人日笠不相成候事、

一、男女履物之儀者身分相応之品相用、尤奉公人ハ別而

相慎可申事、

一、惣躰小紋嶋（總）こんはつち不相成事、

一、日雇賃男忝匆究、

但し秋ハ忝匆式分究、

一、女日雇一日六分究、

但し秋ハ八分究、

一、牛遣イ鋤賃忝反ニ付五分究、

但し牛遣イ日雇忝匆五分究、

一、田植草取り賃忝反ニ付拾匆究、

一、男日笠之儀ハ村役人組頭外ハ不相成、尤筋目之者

者不苦事、

一、女日笠之儀者不苦事、

一、鉄炮之儀者兼々被仰渡猥リニ打申間敷候、農荒し候

節ハ村役人之差図ヲ請可申事、

一、男女衣類之儀者身分相応之品着用可致候、決而奢ケ

間敷儀者相慎可申事、

一、御制札之趣毎年正月十日と相定メ村役人ハ可申渡事、

右者此度御趣意ニ付儉約被為仰付候ニ付、村中急度相守可申事、猶又此外婚礼葬礼男女出生之節、三月五月兩度節句始、盆躍神事仏事疱瘡見舞等、身分限ニ応し儉約可致旨去ル天保七申正月被為仰渡置候趣相守可申候御事、

天保十三寅年八月十八日

寺田村

忠兵衛 印

（他首姓二十六人略）

年寄 善右衛門 印

〃 藤 吉 印

庄屋 吉五郎 印

御役所様

○寺田村可納租税之事

明治三年十二月

（松村正喜文書）

午年可納租稅之事

大和高市郡寺田村

一、高式百拾九石六斗式升七合

此取

田高式百貳拾四石六斗貳升貳合

内高壹石八斗貳升三合

永荒引

殘高式百貳拾貳石九斗九升九合

此取米百六石八斗壹升四合

内米四拾三石三升九合

去已増

畑高式拾四石五斗五合

内高式石八斗八升七合三勺

永荒撮成道敷堀敷引

殘高式拾壹石六斗壹升七合七勺

此取米拾貳石貳斗三合

去已同

内訳

高八石三斗六升八合七勺

本免

此取米三石四斗三升貳合

高拾三石貳斗四升九合

屋敷

此取米八石七斗七升壹合

真菅地区

取米合百拾九石壹升七合

米四石

正米

内 米百拾五石壹升七合

石代

一、米三石五斗七升壹合

口米

壹斗四升九合

御伝馬宿入用

四斗九升八合

六尺給米

永六百貳拾貳文八分

御藏前入用

小以米百拾九石貳斗三升五合

此永七百五拾三貫五百五拾三文三分

納合 米 四石

金 七五拾四兩 永百七拾六文壹分

右者当年御年貢其外共書面通相極候条、村中大小之百姓入作之者迄不殘立会、無甲乙令割賦致皆済ニ付、小手形引替一紙遣候もの也

明治三年年十二月

奈良県租稅御役所

右村庄屋

年寄

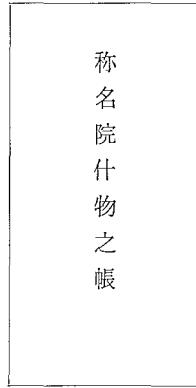
惣百姓

〔五井〕

○称名院什物之帳

(江戸期)

(称名院文書)



称名院什物之帳

一、本尊前花<sup>(瓶)</sup>燧燭立

軟誉代

施主今井町内膳屋妙寿寄進則志之<sup>(墨)</sup>灵魂法名ヲ切付  
テ有之

一、本尊前ノ金灯笼

壹対

是者往昔有来

一、来迎柱後之彩色

軟誉代

但シ

一、本者今井町樽屋妙延寄進

一、本者軟誉 寄進

一、唐幡式ツ

軟誉寄進

一、幡式拾流程

軟誉代出来候得共後年損<sup>(カ)</sup>申ニ付是ヲ不及載ルニ

也

一、天蓋

軟誉代

是者施主□宗哲内方子息為月窓夢覚菩提也

一、大円無鐘式了

軟誉代

此施主者川西村九右衛門寄進

一、立像三尺余本尊

但シ台座後光者軟誉代

内銀子百目内膳屋妙寿助力

一、脇立ノ觀音勢至立像式尺五寸

軟誉代

右造立ノ施主今井町牧村清右衛門之内室也

但シ志之法名ニ菩薩ノ肩書ニ有之

一、本尊前大机

軟誉代

施主今井町内膳屋吉兵衛也

但シ志ノ戒名ヲ切付有之

一、磬壺ツ

往昔有之

但シ台者内膳屋妙寿寄進

一、善導円光両大師影像

台座後光厨子等迄不殘施主今井町樽屋七兵衛寄進

之ヲ

一、神保氏御一家御位牌檀

軟誉代

但シ施主者御領地村方百姓衆也

一、喚鐘壺ツ

往昔有之

一、小仏檀ノかな灯籠式ツ

是者今井町牧村清右衛門清六寄進

一、<sup>(佛)</sup>倚子并前札

往昔有之

説相筥

同断

一、柄香炉

是者内膳屋妙寿寄進

一、さはり壺ツ

軟誉寄進

一、常香盤

往昔有之

真菅地区

一、本堂両側縁ヲ本堂江取込普請

右入用銀貳百目

軟誉寄進

一、右同所之畳拾六帖

一、鈴

是者御忌十夜之大念仏講衆中是ヲ寄進也

軟誉寄進

方丈分

一、座像壺尺計ノ阿弥陀

往昔有之

一、二十五ノ菩薩来迎絵

壺幅

一、称名院寺号山号ノ名号

壺幅

是者知恩院白誉秀道上人御筆也

軟誉奉願什物ニ付置ケ

一、同寺号山号ノ名号

壺幅

是者増上寺証誉雲師大和尚尊筆也

軟誉奉願為宝物ニ

一、齋講ノ黒椀五拾人前

軟誉代

但シ木椀計也

是者今井町牧村榮順寄進也

一、赤椀坪平揃テ式拾人前

軟誉寄進

一、うるし椀拾人前坪平共ニ

軟誉寄進

一、日光折敷拾人前

軟誉寄進

一、平折敷三拾人前

軟誉寄進

一、黒折敷拾人前

往昔有之

一、皿式拾人前

軟誉寄進

一、朱傘壹本

往昔有之

一、涅槃像ノ絵

壹幅

是者軟誉寄進絵裏ニ助力ノ施主付有

一、誕生ノ釈迦尊

軟誉寄進

但シ華堂者下田村秀清為林察寄進

一、円光大師行状ノ絵三幅

軟誉代

是者大垣村白雲寄進之

一、六尺ノ六枚屏風片シ

往昔有之

一、六尺ノ六枚屏風片シ

軟誉寄進

但シ鯉鳳凰之絵有之

一、鍋釜等往昔有来通り不及是ヲ記ニ

一、三間ニ九間ノ庫裏地震ニ付及大破候故、五間ニ拾一

間ニ軟誉代令再建之ヲ

但シ此普請ニ付式貫七拾目者惣且那ノ奉加之帳面

ニ有雖、然普請入用之払銀式貫七百目余相渡之各

請取之手形有之、故ニ残銀六百目余軟誉寄進之

一、右建立ニ付戸障子畳以下随相調品々多キ故ニ一言ニ

不及載之ヲ

一、大過去帳一ツ

前代方有之

但シ本堂祖師檀ノ載ニ見台ニ

一、同大過去帳一ツ

是ハ当寺十代軟誉廿年在住之間令引導<sup>(靈)</sup>灵魂不殘載

ニ此過去帳ニ

一、日光椀拾人前<sup>并取物椀ニノ膳</sup>壺平共揃

軟誉寄進

一、桑大机壹脚

軟誉寄進

〔曾我〕

○八幡宮徳用処置ニ付差入一札

文化二年正月

(中西利一郎文書)

差入申一札之事

曾我村産神八幡宮御徳用一式、田地山林船方田地藪山并其元先祖被付置候三冊之永代帳面迄、堀内喜右衛門殿方江御取上相成、勝手儘ニ九ヶ年ノ間支配被致、其上御宮付船付藪山林等一円相談も無御座、皆切ニ被致売払被申、其後京都吉田家様方御尋ニ付町座中ノ連印之願書奉差上候、然処飛鳥之神社土佐守殿御世話被下候ニ付、右喜右衛門殿方御地頭多賀左衛門様江御伺被成候而、支配御差戻シニ相成候ニ付、算勘出入少茂無御座候等之下書迄被遣、一札差入置候得とも、右帳面相尋出シ其節算勘ニも可及様被申候得共、今ニ帳面御戻し無御座、勘定等も無御座、支配斗を御差戻シ之支配之儀、当時座中ニ支配いたし罷居候、右支配中御年貢御未進等一切不仕

候、其元先祖願心之御建立之儀、亡失ニも可及所、御願出可被成段者御尤ニ存候、相違之儀無之候間座中連印書差入申一札、仍而如件、

八幡宮氏子

町座

又 助 印

清次郎 印

勘兵衛 印

利兵衛 印

清右衛門 印

小 助 印

喜 助 印

清 七 印

中西要助殿

○中西要助等御駕籠訴下書

文化二年三月

(中西利一郎文書)



文化二五年三月  
御駕籠訴下書

要助  
清次郎

乍恐以書付御直訴御歎奉願上候

多賀左衛門殿御知行所

大和国高市郡曾我村

天高市神社八幡宮并渡シ船施主家

願人中 西 要 助

多賀左衛門殿内

同村代官

相手 堀内喜右衛門

同村付添人

庄屋 助 治 郎

一、多賀左衛門殿御知行所大和国高市郡曾我村中西要助

奉願上候、曾我村内天高市之神社八幡宮と奉称徒往古

御座候、右八幡宮江私先祖<sup>方</sup>為御造管料松山一ヶ所、

小修覆料屋敷<sup>ケ</sup>所、御供料田地<sup>ケ</sup>所、宮守飯料田地<sup>ケ</sup>所、永代灯明料銀四貫七百目寄附仕、灯明料銀之儀者御地頭所へ差上置、右利足を以永代常夜灯相灯宮寺等附置、私先祖<sup>方</sup>代々宮殿鍵所持仕、社頭造管小修覆等迄万事取斗申来候、

一、廿ヶ年以前林武左衛門殿と申仁御召抱ニ相成、曾我

村陣屋へ罷越、庄屋堀内小八郎与申者代官役被申渡、

右武左衛門殿間<sup>(マ)</sup>栖ニ取繕罷在候<sup>(マ)</sup>処、武左衛門殿死後ニ

至、小八郎御用人役ニ相成、悴喜右衛門も大庄屋役相

勤、又候七ヶ年以前代官ニ罷成、小八郎病死後御用人

役相勤<sup>(只)</sup>唯今ニ至迄相勤罷在、右三人勤役中我意而已申

募、私欲を専ニ仕、村内惣百姓之難儀<sup>ヲ</sup>も不願、其上

私先祖寄附仕置候前書之田地山屋敷灯明料等不残取上

置、右作徳利銀等少しも相渡不申、一応之相<sup>(力)</sup>談<sup>(力)</sup>も無御

座山林伐取不残売払申候、且又神殿屋根腐損無御座候

ため、雨覆仕置候<sup>処</sup>、如何故歎權威を以右雨覆取払相

成、只今ニ至り候而者殊之外及大破、修覆可仕手段無

御座候、

一、左衛門殿御先祖了恵殿八幡宮御信仰ニ付、為御神拝料御膳料式百年以前、字小泉丸与申所にて田地式反歩御寄附御座候而、水帳面ニも相除有之候、右田地も取上ニ相成、毎年作徳米之内<sup>カ</sup>石宛御地頭所へ差上候由、残り米之儀者如何ニ相成候哉、是等も右役人中徳分致置候儀与奉推察候、

一、村内越知堂川之儀ハ大川ニ御座候而、出水之節ハ往來差支、諸人及難儀候ニ付、為救渡船補理置、無賃錢ニ而相渡申度之段、宝曆二年南都御奉行所様へ奉願上候処、御糺之上翌年春願之通被為仰付、其段植村駿河守様土砂御奉行所様へ以書付御願申上御吟味之上御聞届ケ被成下、則川両堤ニ建石を仕、永代無賃錢ニ而相渡候趣并中西氏与切付有之候、右船壳艘為破損料字桑山与申所にて松山壳ヶ所、船小道具料敷壳ヶ所、船守三人へ田地二反歩附置申候、是等者近在迄も相知レ候義ニ御座候、委細之義者永代帳面ニ相記し所持仕支配

仕來候、右地所も取上候而作徳等も如何仕候哉、渡し

船も破損仕三ヶ年以前<sup>カ</sup>相止、出水之節往來差支相成申候、右之形ニ成行候而者、往々八幡宮造管小修覆并御供物等備候儀も相成不申、歎敷奉存候、既に寛政八辰年子細有之、京都吉田様御役所へ御願申上候処、江戸表へ御差出可被下旨御沙汰御座候処、右を驚候而前書之田地山林屋敷敷等相返し、不殘算勘を以相済可申候間、勘定出入無之候旨書付出呉候様申之候ニ付、書付差出候処、田地山林屋敷敷等相返候得共、諸勘定不仕候之間、右相返し候地所之分町座中之者へ相預、連印之一札を取置、今以預置申候、右様筋違紛敷義申聞、一ツも明白之儀無御座候、

一、先祖為追善料銀壹貫三百目御地頭所へ差上置、右利足を以年回法事等相當可申候、是又一向相渡不申、追善相營兼歎敷奉存候、

一、宝曆年中明和年中両度急御用金被申付、私祖父他借を以両度ニ金七拾兩、無利足ニ而地頭所へ差上申候、

然ル処御勝手御不如意之由ニテ、今以御返濟不被下、甚以難儀至極仕候、

一、私家之儀も古来々相統候百姓に御座候得共、先祖より村役等も相勤、祖父清八儀庄屋役仕罷在候節迄ハ、御年貢未進等も無御座候処、二十二ヶ年以前願之儀ニ付江戸地頭屋敷へ罷下り病死仕候、林武左衛門殿堀内小八郎同忝喜右衛門申合取斗方可而不宜、凡村高千三百五拾石余百姓家百八拾軒程之内、未進有之候者茂多分御座候、然ル処私兄清八代不作ニ而御年貢未進御座候由、何程ニ御座候哉、忝ヶ月忝割三分利倍相加へ大銀ニ相成候由申聞、田畑家屋敷林等迄右役人立会之上、三度為売払候而未進之方ニ引取被申候、如何故私方斗者右様殿敷御取立御座候哉、只今ニ而者必至与困窮仕身上難立行、此上家断施(也)も仕候ハ、先祖へ対し申訳も無御座不本意之仕合敷敷奉存候、

一、先年村方百姓困窮之砌、村方他借多ニ而難儀之由、私分家平兵衛義道寿与改名仕大坂表ニ罷在候処、無抛

頼ニ付、故郷之好シミを以、明和年中村浮地五町忝反八畝歩半、畑拾五ヶ所引当ニ取之、拾四貫三百目相弁遣シ申候、其後死仕候、存生ニ申置候者右銀子不殘相濟候ハ、右地所相返し、若又銀子相滯地所流レニ相成候ハ、家出之儀ニも御座候間、永々所持仕、追善等相宮呉候様遺言ニテ一札を相認、私家ニ譲置申候、然ル処流レニ相成、右田畑堀内喜右衛門方へ取込支配仕候、此作徳米忝ヶ年式拾五六石ツ、も可有御座候処、一粹も相渡不申、全く押領筋之儀与奉存候、道寿遺言之通仕度奉存候、

一、村方困窮之者数多御座候処、頼母子講取立候様右役人三人々申勧メ、村内数口之頼母子講相企、既ニ兄清八儀も発人を相頼、八百目之落銀を以取続可申処、堀内喜右衛門方へ右銀子取込、剩当日入用等五拾目余も相懸り、却而損毛相懸申候、

一、南都春日之御宮、例年御神拝之節、掛鳥人馬御入金之儀、年々百五拾目ツ、村方々上納仕来候処、堀内

喜右衛門庄屋申合、三百目ツ、取之、百五拾目ツ、余慶ニ取立申候、去暮方明白ニ相分り村方之者も存罷在候、

一、毎年於八幡宮神前、正五九月御神湯相焚申候、右御神湯料ニ玄米三斗三升ツ、九ヶ年之間差出置候処、右米村方方受取候而も私へ相渡不申、堀内喜右衛門庄屋助次郎年々取込罷在候、

一、御宮方船方万事相記候永代帳面三冊、堀内小八郎悴喜右衛門方へ取上置、今以相渡不申候、此帳面御取寄御高覽被下置候ハ、諸事明白ニ相分申候、

一、私儀江戸表江発足之任意仕候処、未進不相濟候内者出立不相成趣私江沙汰不仕、南都御奉行所様へ堀内喜右衛門方村役人を以右之段相願、御奉行所様方私御呼出未進不相濟候而者出立不相成候旨被仰渡候ニ付、御請書差上罷歸家財等売払、上納仕呉候様私組中相頼置出立仕候、右未進相成候訳者前書ニ申上候通、追々困窮之私下田惡地之場所少々所持仕候得共、去八月中出

水ニ而作毛水損仕未進相成申候、

右之趣是迄度々御地頭所へ奉願候得共、御役人中馴合仕候哉御取上無御座、右様成行候而者先祖之心願も亡失仕、且者私身上も追々困窮罷成、日夜安心不仕候、何卒田畑山林金銀等迄不殘相返し、作徳米利銀等も勘定仕候様、相手堀内喜右衛門庄屋助次郎被召出、以御慈悲速ニ埒明候様、被仰付被下置候様偏ニ奉願上候、御地頭所へ御引渡相成候而者迎も御取捌も無覺束奉存候、依之不得止事奉願上候、則御宮寄附渡船料、其外共左ニ書付奉入御覽候、以上、

御地頭了惠様御寄附

一、御神拜料

田地二反歩

御膳料

先祖寄附

一、御造當料

松山壺ヶ所

一、御供料

田地壺ヶ所

一、小修覆料

屋敷壺ヶ所

一、宮守飯料

田地壹ヶ所

右八幡宮寄附之分

一、船破損料

松山老ヶ所

一、船小道具料

藪壹ヶ所

一、船守三人江

田地二反歩

右渡船料

一、八幡宮永代灯明料

銀四貫七百日

一、永代追善料

銀壹貫三百目

一、御用金兩度

金七拾兩

右地頭所へ差上分

一、頼母子講

八百目

一、春日掛鳥金

年々三百目ツ、

一、人馬入用

」

○御駕籠訴未解決ニ付重而願上書

文化三年四月二日

(中西利一郎文書)

乍恐以書付奉願上候

一、多賀左衛門知行所大和国高市郡曾我村百姓清治郎要助一同奉願上候、去ル丑年三月十九日牧野備前守様江御駕籠訴仕御願奉申上候処、御憐愍ヲ以御聞届ヶ被遊候趣被仰渡、誠ニ以難有仕合ニ奉存候、然ル処其後酒井但馬守様迄御引渡ニ相成、尚又地頭所江御引渡被遊候ニ付、地頭所役人中御糺ニ御座候ハ、此方ニ而委細不相分候間、一先国元江婦村可仕旨、尤出入相手外村役人共三人江急度取扱申遣候、万一於不相濟ニ者、双方共早々出府可致旨、迎も地頭所表ニ而者御捌ニ不相成候間、御差出被遊べく旨被仰渡候ニ付、婦村仕相待罷在候得共、外役人共義も一向取扱與不申、等閑ニ打延し置、剩地頭所役人并村役人共、權威ヲ以種々之義ヲ相巧為及難渋候ニ付、不得止事今般當御奉行所様江、先月廿七日駈込御訴訟奉申上候処、御呼出し之上重キ御利解被仰聞、難有奉存候得共、一躰右始末合之義者、地頭所役人并村役人共馴合ヲ以取捨候故、前条

之始末ニ相成候義与乍恐奉存候、尚又地頭所迄御下被成下置候而者、此上役人共如何様之義ヲ相巧、私共江為及難渋候儀も斗かたく奉存候間、右之段被為聞訳何卒格別之御慈悲以、御憐愍ヲ以、当御奉行所様ニ而相手者共逸々被召出、御吟味被成下置候ハ、一同相助誠ニ御慈悲之程難有仕合ニ奉存候、以上、

多賀左衛門知行所

文化三寅年四月二日

大和高市郡曾我村

百姓清治郎 ㊦

〃 要 助 ㊦

寺社

御奉行所様

○早損凶作ニ付御救米等下付願

文化四年二月

(中西利一郎文書)

乍恐書付を以御願奉申上候

一、御知行所和高市郡曾我村高持百姓共一統連印を以御願奉申上候、去寅之春方一統惣代之御願ニ、清治郎

真菅地区

要助外三人罷下り、願之趣御聞届被為成、去八月ニ御裁許之御書付被為下置、一統ニ難有奉存候、

一、近年來廻リ繁キ凶作ニ而、別而去寅之歲大早損ニ付、御救米并御手当米等被為下置一統難有奉存候得共、近年百姓とも困窮仕候ニ付、既ニ飯米配し手当等一向無之者多分ニ而御座候、当暮御上納之御差支茂不相成候様仕度、何分取続相続仕候様、偏ニ御慈悲之程奉願上候、以上、

文化四卯年一月

平五郎 ㊦

他七十七名

惣代長九郎 ㊦

年寄孫七 ㊦

同又七 ㊦

同喜八郎

同清治郎 ㊦

同市兵衛 ㊦

要助

庄屋太八郎

御地頭様

七二七

御役人中様

○妙法寺溜池魚取一件ニ付差入一札

天保五年九月

(天図近世文書)

差入申一札之事

一、此度私共義妙法寺村溜池へ利不尽ニ入込、魚を取候一件ニ付、妙法寺村役人并地頭神保様御役人方南都御番所様ニ被願出候ニ付、当村御役人中、村方之者共多人數ヲ被召出、追々御吟味ニ相成可申所、御陣屋表御願申上候ニ付、則村方組頭衆中一同、御陣屋ニ被召出、御糺之上連印書付御取被成ニ而、段々御取暖被下候所、右ニ付東川筋水式間半通、妙法寺村へ差下不申候ハ、濟方相調不申由ニ付、其元殿方一同へ御陣屋方御談被成候所御承知被下、其上以來御年貢是迄通無相違御納可被成段、書付迄御差上被成候ニ付、事濟仕候段忝奉存候、其元殿方御承知不被下候ハ、大變ニ相成候而、私共ハ勿論諸入用等多分相掛リ、村方一同

┌

大難波ニ相成可申上候所、右躰御迷惑之義御承知被下ニ付、事濟仕、村方一同之助ニ相成候忝奉存候、然ル上ハ私共義、以來急度相慎、何事ニよらず村方へ難波相掛リ候様之義ハ決而仕間敷候、依之連印一札差入申候所如件、

天保五年九月

曾我村

直八弟

利

八(筆印)

清六倅

藏(筆印)

清

藏(筆印)

甚兵衛倅

与平次(筆印)

清次郎倅

吉(筆印)

万

吉(筆印)

絲七倅

全七(筆印)

市兵衛倅

文吉(筆印)

宗路倅

八(筆印)

宗路倅 八(筆印)

清五郎倅

吉兵衛(筆印)

伊兵衛倅

常藏(筆印)

惣次郎

惣次郎(印)

助次郎倅

長三郎(筆印)

与八郎倅

佐兵衛(筆印)

八兵衛倅

友吉(筆印)

弥助家内一人

直松(筆印)

弥助家内一人 直松(筆印)

三四郎 印  
 半三 印  
 清市 印  
 伊八 印  
 久八 印  
 惣吉 倅  
 甚次郎 印  
 惣八 倅  
 龜次郎 印  
 佐助 印  
 仁助 倅  
 新ノ介 印  
 作平 倅  
 由松 印  
 九兵衛 倅  
 長蔵 印  
 平兵衛 印  
 源七 印  
 平五郎 弟  
 徳平 印  
 新六 印  
 真菅地区

かさ屋  
 吉兵衛 印  
 ひたか屋  
 小兵衛 印  
 善太郎 印  
 藤助 印  
 孫四郎 倅  
 庄五郎 印  
 伝二郎 倅  
 徳次郎 印  
 吉助 印  
 喜八郎 倅  
 勝次郎 印  
 甚六 倅  
 伝吉 印  
 義兵衛 倅  
 儀八 印  
 左平次 倅  
 周吉 印  
 儀兵衛 倅  
 万吉 印  
 安兵衛 倅  
 龜次郎 印

清吉 印  
 東川筋 引合樋  
 しようんてん井手 井懸り  
 惣代利助殿

○達書

弘化三年二月十六日 (曾我区講中文書)

一、蘇我社破損料、小槻村通井余内米七斗壹升五合、是迄曾我座中之者支配致来り候処、上納引去其余米壹斗六升、蘇我社神酒御膳料宮守江為差遣、且枯木出来之節ハ氏子共談事之上売払、右代銀半通宮守江為遣、残り半通前破損料、残り米五斗余曾我座中之者江預り置、蘇我社入用之節右預り銀高江日七朱之利足かへ差出、惣氏子立会地所ハ勿論、其筋江預之上破損可致候条、今般相改右之趣申達置候間、向年ニ至リ違背申者有之候ハハ、此書付を以可申出もの也、

弘化三丙午年二月十六日

曾我村蘇我社



真菅地区

惣氏子中

当役所

○曾我座新町座宮座祭礼約定書

明治二年九月

(米沢昌康文書)

約定書

一、例年神夏祭礼之儀ニ付、曾我座新町座両座者九月朔日  
 日以神職四郎三郎ヲ致御遷座、宮座之儀者以座年寄八月  
 晦日而致遷座来候処、今般北西山城神主ニ願立候ニ付  
 宮座ヨリ及憑談、向後者九月朔日順曾我座新町座ニ  
 宮座茂致遷座度旨申談ニ相成候処、種々入込候儀出来  
 候ニ付、大森伊右衛門殿ヲ以取唆ニ相成、已後故障無  
 之様御遷座之砌者、曾我座新町座宮座与次第<sup>(弟)</sup>ヲ相立、  
 其座々々之御興ヲ守護シ、前後順路勝手随意之振舞決  
 而無之定約和談行届候故、為後日取替証書仍而如件、

明治二己巳年九月

曾我座

年寄

茂平治 印

七二〇

利助 印

孫三郎 印

介三郎 印

伊三郎 印

新町座

年寄

清兵衛 印

嘉平治 印

儀兵衛 印

喜八郎 印

宮座

年寄

善四郎 印

甚七 印

宗兵衛 印

栄助 印

保証

光専寺伯神 印

大森猪右衛門 印

徳祐

┌

○ 鉄道線路水抜位置ニ付不服陳狀書

(明治、欠年)

(天國近世文書)

鉄道線路水抜位置ニ付不服陳請

一、抑モ鉄道ハ文明ノ利器ニシテ、国家必須ノ要具タル、今更贅弁ヲ要セズ、我等人民又之ヲ知レリ、此ニ大阪鉄道会社ノ高田桜井間鉄道線路本大字ヲ通過スルニ当リ、本大字ノ最上等ニ位スル耕地ヲ横断シ、一大堤塘ヲ築キ、水利耕耘上多少損害スルモ、我等人民ハ国家ノ公益ヲ重ンジ、私利ヲ顧ミズ、用地買上及設計ニ対シ会社ノ要求ヲ容レ、円滑ニ其局ヲ結ヒタリ、ソレ我等人民ノ会社ニ対スル所置如斯、然ルニ今同線路中大字五井及今井町ノ間ニ於ケル水抜設計ニ対シテハ、頗ル本大字ノ不利益ニ関係スルヲ以テ、之ヲ黙視スルニ忍ヒス、之レガ理事會及会社ニ向ツテ、更ニ要求セサルヲ得サルナリ、請フ左ニ其大要ヲ陳述セン、我大字曾我ハ別紙函面ノ如ク、四方曾我川真弓川飛鳥

川ヲ以テ圍繞シ、往昔ヨリ水害ヲ受クル事尤モ甚シ、就中飛鳥川堤防破壊ノ為メ流出スル水ハ略ネ村落ニ浸入シ被害尤モ甚シ、已ニ去ル明治廿二年度如キ、人家床上二三尺浸水シ、其被害ノ痕跡今猶瞭然タリ、

從來鉄道ノ設ケナキト雖モ、飛鳥川堤塘破壊ノ為メニ受クル水害如斯、然ルニ今会社ガ布設スル今井町及大字五井間ニ於ル水抜模様ヲ見ルニ、函面ノ如ク四ヶ所ニシテ、該水抜ヨリ流出スル水ハ、皆本大字ノ受クル所トナリ、少シモ他ニ水ヲ避クルノ便ナシ、

往昔ヨリノ經驗ニ依ルニ、飛鳥川ノ上流大字四分木殿ヨリ下流大字小綱ノ間ニ於テ、堤坊破潰ノタメ奔流スル水ハ今井町ニ浸入シ、其十分ノ四ハ今井町ノ西北ヨリ県道超へ、大字小綱地黄ニ进出シ、十分ノ六ハ本大字ニ受ケタリ、然ルニ本水抜設計ノ位置ハ、五井及今井町ノ西端ニノミ多クアルヲ以テ、堤坊破壊為メ流出スル水ハ鉄道線路ニ擁塞セラレ、諸方ニ散落スル水ハ一時ニ該水抜ニ集合シ、從來受ケシ六分ノ害ハ増シ

テ、全部ノ難ヲ受クルニ至ランハ理ノ將ニ然ラシムル所ナリ、之レ我等人民ハ本水抜設計ニ対シ頗ル不利益ヲ感ズル理由ニシテ、黙視スルニ忍ヒサル所ナリ、希クハ事情斟酌アツテ、水抜設計ヲ變更シ、更ニ大字小綱ノ領地ニ於テ水抜増設セラル、カ、果タ他ニ相当ノ所置ヲ施シテ、本大字ニ受クル水害ヲ救済スル利益ヲ与ヘラレシ事、我等人民連署ニテ事情開陳仕リ候也、

西川熊吉 印

(他 百一名連署連印省略) 一

〔地黄〕

○大久保、畝傍、山本村等村借り証文

延享貳年十月二十二日

(長村正裕文書)

借用申銀子之事

合三百貳拾目定 但シ丁銀也

右之銀子当丑ノ御年貢米ニ致借用差上ケ申候、然ル上者来ル寅ノ十月廿五日限ニ元利無相違急度返済可仕

候、為後日仍如件、

延享貳年

丑ノ十月廿二日

大久保村庄屋

三良次郎 印

同村年寄

安兵衛 印

同断

孫八郎 印

百姓惣代

又市郎 印

畝火村年寄

源四郎 印

同断

久兵衛 印

同村

彦六 印

百姓惣代

源七 印

山本村庄屋

甚兵衛 印

同村年寄

半右衛門 印

百姓惣代

惣兵衛 印

地黃村

甚兵衛殿

右之御年貢銀來ル寅ノ十月廿五日限無相違返濟可致候、  
為其奥印如件、

古川村大庄屋

清右衛門 ㊦

久米村大庄屋

清兵衛 ㊦

証人忌部村庄屋

七郎兵衛 ㊦

〔表書〕  
一、表書之通相違無之者也

桑原□右衛門 ㊦

小谷文右衛門 ㊦

○当村池込水ニ付内膳村へ約定書

延享三年九月二十五日

〔長村正裕文書〕

〔消裏書〕  
一、内膳村へ仕渡ひかへ

濟証文之事

一、飛鳥川筋当村溜池用水井堰有之、前々方砂井関ニ

真菅地区

御座候処、当春土木杭木を以井関立上候ニ付、其元兩  
村方段々取払候様ニと御断ニ候処、心得違有之被是申  
延候ニ付、右土木杭木兩村江御取払被成候、依之南都  
御番所様江御届申上、存之外兩村庄屋年寄組頭中御過  
怠被仰付迷惑千万ニ存候、然ル上高取川方御役人様方  
御吟味ニ罷成、当秋御見分被遊候処、地黃村井手所ニ  
不限、則川上内膳村小綱村、川下上品寺村豊田村井手  
所共、志ヶ所茂杭井手与申義者無御座候、然共田地江  
引取候与ハ違、溜池用水之義故、水引落不申候ニ付、  
私共難義仕、依之今井町順明寺殿、上田忠右衛門殿御  
挨拶を以、右用水相込候節土俵抱杭凡五本七本之義者  
其節之品ニより為打給、尤川水干川ニ罷成候而池水込  
リ不申候節者、幾度ニ而も杭木ハ早速抜取、勿論土俵  
等茂高ク積立候義ハ不仕筈にて御得心被下、互ニ申分  
無之内濟仕忝存候、然ル上ハ自今右定之通申合、少茂  
新規仕間敷候、此後ニ至候而も違乱之義有之候ハ、  
何時ニ而も御取払可被成候、其節少茂申分無御座候、

為後日証文仍如件、

延享三寅年九月廿五日

地黄村

庄屋

半兵衛 ㊦

年寄

新兵衛 ㊦

同

惣左衛門 ㊦

組頭

勘助 ㊦

内膳村

庄屋

年寄

右之通此方共及挨拶候処、双方得心有之候義相違無之候、以上、

今井町

興正寺御門主役僧故

無印形

順明寺

同 上田忠右衛門 ㊦

ひかへ

○飛鳥川井手ニ付争論濟証文

延享三年九月二十五日

(長村正裕文書)

濟証文之事

一、飛鳥川筋当村方川下其許溜池水込井手、前々方砂井手土俵斗ニ而有之候、当春新規ニ土木を入杭井堰ニ致候故、此方両村方土木杭木取払候ニ付、南都御番所様江被願上御吟味之上、高取川方御役人様方江御吟味筋被仰□、依之当秋御見分被遊候処、其村井手所ニ不限、川上内膳村小綱村川下上品寺村豊田村共、杭井手与申義無之段紛無之、依之京都江茂御訴訟可申上処、今井町順明寺殿、上田忠右衛門殿、兩人御挨拶を以先格之通土俵砂井手斗ニ可被致答、然共地黄村井手所之義ハ用水田地直懸リニ而無之、溜池込水之義故、自然土俵等押流候時者池水難込上、難義之旨右兩人衆江被申立候旨を以、此筋致了簡候様ニと有之候ニ付、右池水被相込候節、土俵抱杭凡五本方七本迄之義ハ致了簡、池水込被仕廻候上ハ勿論、仮令込方不足ニ候共川筋出水無之、溜池江水不込時節ハ幾度ニ而も杭木被取候答ニ而、其村方右定之筋委細証文取之、取扱之趣

を以互ニ申分無之内濟仕候、依之両村庄屋年寄組頭連  
判証文差遣候所仍而如件、

延享三丙寅年九月廿五日

小綱村庄屋

勘十郎 (印ナシ)

年寄

弥四郎 (印ナシ)

同断

孫助 (印ナシ)

組頭

吉助 (印ナシ)

内膳村庄屋

安兵衛 (印ナシ)

年寄

惣四郎 (印ナシ)

組頭

伊兵衛 (印ナシ)

地黄村

庄屋

年寄 中

右之通此方共及挨拶候所双方得心有之候義相違無之候、  
以上、

真菅地区

興正寺御門主役僧故無印形順明寺 (印ナシ)  
今井町

同所

上田忠右衛門 (印ナシ)

地黄村庄屋

半兵衛 ㊦

年寄

惣左衛門 ㊦

同断

新兵衛 ㊦

百姓代

勘助 (印ナシ)

内膳村

庄屋 中

年寄

右之通写仕奉差上候、以上

寅ノ

九月廿五日

十市郡内膳村庄屋

安兵衛 (印ナシ)

年寄

惣四郎 (印ナシ)

高市郡小綱村庄屋

勘十郎 (印ナシ)

七二五

年寄

弥四郎 (印ナシ)

築山 半平様  
内藤九郎兵衛様

午三月

地黄村庄屋

半兵衛

○川筋領境御普請所書上ゲ

寛延四年七月

(長村正裕文書)

神保右近殿御知行所

一、高四百拾四石五斗八升六勺

地黄村

右之通高取土砂役人中江書上候扣写差上申処、小茂相違無御座候、

一、川筋岡川之流水上小綱村領境々、川下上品寺豊田村

領境迄七町余地黄村領、

右河堤

一、九年以前戌年高水ニ、字はんノ木原与申川堤拾貳間

切レ申候、

一、四年以前卯ノ年高水ニ、字かなやけ与申河堤三拾貳

間切レ申候、

一、三年以前辰年字川向与申川堤三拾貳間切レ申候、

右三ヶ所御地頭方御普請被成下候、其上小竹植付申候、

申候、已上、

寛延四年七月日

地黄村庄屋

新兵衛

同村年寄

甚兵衛

同断

平三郎 ㊦

桑原時右衛門様

桑原南門様

差上申ひかへ

○飛鳥川筋川長川幅書上覚

天明三年四月

(長村正裕文書)

(表紙)

天明三年癸卯四月

高市郡

地黄村

川長界幅書上覚

植村右衛門佐様

御内土砂留御役人

瀬尾隼見様江上ルひかへ

神保主膳殿

知行所

高市郡

地黄村

土砂留

御奉行様江上ルひかへ

┌

一、高四百拾四石五斗八升六勺

一、飛鳥川之流曾武川筋、当村領内川長七町程川幅川上

川下ニ而三間半程御座候、

眞菅地区

川筋領内字たんと申所、用水引取之箱樋御座候、

同字ひのしりト申所、用水引取之箱樋御座候、

但シ川上同郡小綱村領境

同断十市郡内膳村領境

川下同郡上品寺村領境

同断同郡豊田村領境

一、字白髪ト申所、水当リ志ヶ所御座候、

一、惣名西川ト申小川筋字出合ト申所、東方片川志町程

当村領此所ニ用水引取之箱樋御座候、

但シ川上ハ同郡曾我村領境

川下同郡妙法寺村領境

右之通無相違無御座候、以上、

地黄町

天明三卯年

庄屋 甚兵衛

四月

年寄 庄九郎

土砂留

御奉行様江上ルひかへ

┌



○妙法寺村新池堀ニ付指入一札

天明四年十二月一日

(長村正裕文書)

指入申一札之支

一、当村領字出合申処、新溜池堀申度候ニ付、其御村へ御相談申処、其御村領養水差支無之様、一札指入申様之申聞致承知候、

一、当村領之儀者こふノ川筋ニ、先規方字正金堂ニ曾我村当村立会之養水引取之伏樋、并字出合養水引取之伏樋御座候へ共、用水難行届キ折々早損仕候ニ付此度新溜池堀申候、依之田地直掛リ候、是迄之通右新溜池者五月節方八月下旬迄、一切急水込申間敷、尤雨降り続候而、其御村養水不相当流水不足候ハ、新溜池江込方可致候、且又俄雨ニ而急水下リ候節、田地直掛ケ相濟候上、水指下シ、川下養水差支無之様可仕候、右之通急度相守違背申間敷、為後日之庄屋年寄百姓代連印証文、仍而如件、

天明四甲辰年十二月朔日

高市郡妙法寺村

庄屋 三郎兵衛 ㊦

年寄 勘兵衛 ㊦

同断 宗治 ㊦

惣代 弥兵衛 ㊦

地黄村

御役人中

○妙法寺村、曾我村込水和談覚書

天明五年三月十八日

(長村正裕文書)

乍恐御届ケ奉申上口上覚

一、当村字出合申所ニ今度新池堀普請仕候処、右池江こふ川通井方、込水堰差間之儀有之、同通井筋曾我村領之内、字林之内与申処ニ水込堰土俵ニ仕、同前ニ堤伏越樋致、同畑地当村支配ニ仕、新通井凡六拾間程之間、川通井堤外ト通シ、堀立新地江水込致候様仕度段、曾我村江及掛合ニ候処、余内米之儀双方掛合齟齬

迷惑仕罷在候段、先達而及言上候処、新池多分堀立候(高也)後、込水ニ難渋有之間敷儀ニ被思召下、曾我村光專寺白願僧江御伝言并曾我村孫七久兵衛等、右新通井込水余内米之儀ニ付、故障有之段為御内ニ与被申上候節、久兵衛江茂世話仕和談相整候様、取斗可申旨御申渡し之刻、当又光專寺江茂御世話御座候様、御伝声被成下候ニ付、光專寺白願僧重慮之御世話被下、新込通井土俵堰并字林之内畑支配新通井し(九)つき等、万端都合余内米三石九斗当村<sup>〆</sup>年々指遣シ候筈、全光專寺御世話故和談相調、曾我村役人中并惣百姓中江茂申分無之段、御蔭を以内濟仕、妙法寺村役人并ニ百姓共迄、畏悦仕候ニ付、為後日此段御届ケ奉申上候、以上、

天明五乙巳年三月十八日

妙法寺村

年寄 惣次郎 ㊦

同断 勘兵衛 ㊦

庄屋 三郎兵衛 ㊦

神保左京殿知行所大庄屋地黄村

真菅地区

高取土砂御奉行

瀬尾隼見様

甚兵衛 ㊦

前書之通從地黄村甚兵衛、妙法寺村役人中御届(ケカ)リ被申上候通、此度妙法寺村字出合新溜池水込、新通井余内米等一件、当村光專寺泊淳僧御世話并当村久兵衛挨拶を以和談内濟仕、申分無御座段、相違無之候御尋ニ付、為後証之私共連印御請奉申上候、以上、

曾我村百姓代

同村年寄 甚 七

〃 又 七

〃 金 六

同村庄屋 弥八郎

同村庄屋 新兵衛

高取土砂御奉行

瀬尾隼見様

○地黄村引水不法の件内濟ニ付差上状

天明五年九月十四日

(長村正裕文書)

七二九

真菅地区

奉差上済状

一、願方上品寺村、新口村、豊田村、用水樋者飛鳥川筋ニ有之、相手地黄村用水樋者、右三ヶ村川上ニ有之候、然ル処当夏(マヅ)白雨急水之節、地黄村用水樋砂閣場所ニ新規ニ夥敷杭木打之、土俵数多積上、地黄村江斗用水引取候ニ付、右三ヶ村へ水下り不申、用水差支申候、右川筋之儀者、先年絵図一札(マ)ニも土俵抱杭凡(マ)五七本と書記有之儀ニ付、願方三ヶ村も応対仕候得共、地黄村勝手我儘を申居候故、御訴訟奉申上候候処、当月二日双方対決被仰付、出入御聞懸ニ相成、追々御吟味可被成下旨被仰渡難有奉存候、然ル処自今地黄村心得違不仕、先年之絵図一札相守、新規不仕、先規守(ヲ脱カ)、用水相互ニ差支不申様可仕旨申ニ付内済申談シ、互ニ申分無御座候故、乍恐双方連判済状奉差上候、御慈悲ニ済状之趣御聞届被成下候ハ、難有可奉存候、以上、

天明五年巳九月十四日

和州十市郡上品寺村

庄 屋清次郎 ㊦

年 寄勘四郎

煩ニ付代 藤四郎 ㊦

同州同郡新口村

庄 屋兵太夫 ㊦

年 寄長三郎 ㊦

同州同郡豊田村

庄 屋彦右衛門 ㊦

年 寄文次郎

煩ニ付代 佐右衛門 ㊦

同州高市郡地黄村

庄 屋甚兵衛 ㊦

年 寄佐兵衛

病氣ニ付代 五兵衛 ㊦

同 庄九郎 印

百 姓甚次郎

煩ニ付代 又次郎 ㊦

同 仁兵衛

同 孫七

御奉行様

煩ニ付代 清五郎 ㊦

同 久三郎

煩ニ付代 善兵衛 ㊦

○通井筋ニテ隣村不埒ニ付御訴願書

天明八年三月十五日

(長村正裕文書)

乍恐書付を以御届奉申上候

高市郡地黄村役人

一、当村領字出合与申所用水樋通井筋方、領末字きひか  
まち迄先規之形を以通井浚仕候処、隣村豊田村方差支  
之由申越候ニ付、先達而口上書を以御届ケ奉申上候、  
然ル所豊田村隣村大垣村役人挨拶ニ罷出、取噉候得  
共、双方了簡行合不申候哉、右挨拶断被申候、依之又  
候隣村相頼挨拶人差出し可申与存候内、一昨十三日之  
夜豊田村一党申談、当村江一応之相对も不仕、人足差  
遣シ、右之通井筋一円ニかぢ埋、通井形も無御座候様

真菅地区

ニ仕、甚不埒之致方、殊ニ夜中申不届之仕形、心外ニ  
存候間、京都御番所様江御訴奉申上、御吟味之儀御願  
奉申上度奉存候、乍恐右之段被為聞召上、御慈悲御憐  
愍之以御聞届被為遊被下候ハ、村中一統千万難有可  
奉存候、以上、

天明八年申三月十五日

高市郡地黄村

年寄 又次郎 ㊦

同断 久兵衛 ㊦

庄屋 甚兵衛 ㊦

土砂留

御奉行様

○飛鳥川筋水論濟状写

明和九年二月廿一日・寛政三年二月

(長村正裕文書)

七三一

神保左京殿知行所 高市郡地黄村  
 和州高市郡飛鳥川筋水論濟状写  
 (破損)  
 守殿知行所 高市郡小綱村

明和九年辰二月廿一日

神保和泉守殿知行所

和州高市郡地黄村

庄屋 甚兵衛

年寄 又次郎

藤堂山城守殿知行所

和州高市郡小綱村

庄屋 勘十郎

年寄 弥四郎

一、去戌之七月被仰出候御触書之趣奉承知候、依之明和九辰年願方地黄村相手小綱村水論仕奉差上候濟状并為取替一札之扣、両村相改写奉差上候

奉差上濟状

一、相手小綱村ニ新規溜池を掘候ニ付、当村田地用水之差障リニ相成候ニ付、御願申上<sup>(候脱力)</sup>処、去年七月廿七日対決之上、御聞掛ケニ相成、其後地頭表江御下ケ被遊候、依之双方地頭表役人中<sup>方</sup>利害茂被申聞候上、猶又近村<sup>方</sup>挨拶人在之、別紙文中之通互ニ為取替証文仕、右出入下ニ而相濟申候、然上者自今以後互ニ何之申分等無御座候ニ付、連判濟状奉差上候、御聞被成下候ハ、難在可奉存候、以上、

御奉行様

一札

一、飛鳥川筋字春日用水伏樋<sup>方</sup>水引取、田地直掛ケニ取来候処、此後右伏樋<sup>方</sup>新溜池江五月節<sup>方</sup>八月下旬迄急水一切込申間敷候、勿論是迄之通り田地直掛ケハ格別、新溜池江急水堅ク込申間敷候、且又俄雨ニ而急水下リ候節、当村領内用水行届キ相濟候上者、互ニ申合水差下シ、川下用水差支無之様可仕候、

一、飛鳥川筋溝水之儀者格別、尤雨降り続キ其村用水不

相当余り候水ハ、互ニ難波無之様申合、右新溜池江水  
込申筈ニ御座候、

一、右春日用水樋伏替之節、先規之通丸瓦樋少々樋前者  
板樋共差置、其村へ前日ニ申談古規之通伏替普請可致  
候事、

右之通三ヶ条挨拶人任了簡、和談内済仕、双方少茂申分  
無御座候、仍而如件、

明和九年辰二月

和州高市郡地黄村

庄屋 甚兵衛

年寄 又次郎

同郡小綱村

庄屋 勘重郎

年寄 弥四郎

右之通少茂無相違此度相写、双方連判仕奉差上候、以上

寛政三年亥二月

神保左京殿知行所

高市郡地黄村

庄屋 甚兵衛

真菅地区

年寄 又次郎

藤堂肥後守殿知行所

同郡小綱村

庄屋 七右衛門

年寄 弥四郎

御奉行様

○豊田村、地黄村通井争論和済証文

寛政四年八月

為取替証文

佐藤兵庫殿知行所

大和国十市郡

訴訟方 豊田村

神保左京殿知行所

同国高市郡

相手方 地黄村

一、去ル四年以前、酉八月、豊田村方地黄村相手取、御

訴訟申上候趣意、当村用水取下シ候高木川筋、地黄村

領内字出合与申所、新規ニ板樋ニ替、去ル申二月上旬

右樋方畑通り掘割、同領字きひかまちと申所江引廻

七三三

シ、六日余リ幅式尺余之新通井溝を附、間毎ニ杭を打、用水引取筋取組候企と相見江候、依而當付差支ニ相成候ニ付、在来之通通井溝引埋吳候様ニ地黄村江相届候所、彼是申立引埋不申、等閑ニ相成用悪差支難差置、相手村役人江申届、同年三月十四日朝、人足を以右新通井溝不残相埋御訴訟可申上奉存候故、隣郷土橋村専念寺取唆被致候者、樋元方壱町新通井埋メ潰シ、六町すへきひかまち当村溜池堤下壱間分南江六七間付替、其余浚上ケ、両村立会挨拶人俱々重而申分無之様、差入一札請取申度旨専念寺江申入候付、相手方江懸ケ合給候得共、後々きまり一札を不承知ニ而相済不申、不得止事御願申上候義と訴訟方申之

去ル申三月十四日、豊田村より大勢罷越通井を理不長ニ引埋候躰ニ及見、早速相手村役人江申遣、其分ニ難差置、御訴訟可申上奉存候故、土橋村専念寺、右之様子被及承、取唆致見可申旨挨拶ニ候得共、拙も対談調問敷存候得共、<sup>(マ)</sup>任其意両村江懸ケ合取唆被致候者、用水樋通井在来之通りと申、領境字きひかまち通井六間程同領内江引込候て、相手村領へ悪水障も有之間敷由、勿論溜池水保差支無之様之<sup>(マ)</sup>斗ひニ而、当村ニ茂先規方在来候通井筋ニ而迷惑ニ存候得共、領末之事故、取唆任其意納得仕候付、相手方ニ茂得心之故埋候通井専念寺差図を以而村方人足差出浚直シ、得心論所一件相済、双方連印一札相調、専念寺へ預リ吳候答ニ、相手村方我儘之申破談ニ相成、既ニ及出入御聞懸ケ御吟味被為成下候処、丙十月双方地頭江御下ケ被成下、依之銘々支配地頭所方訴訟方中村甚太郎、相手方五井村彦助右両人江内済取唆被申付、是迄無油断情々<sup>(精々)</sup>申談候得共和談調兼、尤訴返種々ニ申立候儀、愚昧之取唆人

共何等之儀茂難相分、当惑仕候、并論所川表并堰等茂無之、此度兩人<sup>ノ</sup>精々取唆を以、以来左之通相談内濟仕候訳乍恐奉言上候

一、高木川流水筋地黄村<sup>ノ</sup>者西川と唱、同領字出合と申所ニ伏樋有之、東方内法深サ三寸明ケ、但恚間之堀留置、夫<sup>ノ</sup>東畑通り通井溝付其余九町分、溝形当時□□  
□相用ひ可申事

一、樋尻堀留、此端口土砂欠ケ不損様地黄村<sup>ノ</sup>急度相守可申筈、若致相違候ハハ、豊田村<sup>ノ</sup>此所端口堅被差留候共、地黄村<sup>ノ</sup>少茂申分無之事

一、用水入用之節者地黄村<sup>ノ</sup>豊田村へ及応対、豊田村領水行届候て、前書之堀留等茂弘取明ケ、并堰等被懸、地黄村領江水被入、其後堀留樋口堰等元之通り可致置事、尤急水之節自然ニ溢込杯と申、紛敷水引取申間敷、若不沙汰候て豊田村存念通り取斗ひ候共是又地黄村<sup>ノ</sup>申分無之事

右之通用水幾度ニ而茂勝手重頭取斗無之様、<sup>(申也)</sup>中陸敷被致、

真菅地区

此外ニ訴返より申之候趣意者、取唆人江厚一同貫之、双方得心之内濟仕、以後互ニ少茂申分無之和融下濟仕候段、偏御威光故と難在仕合ニ奉存候、勿論後々違失無之様ニ論所絵面調へ、樋寸法相改、為取替差添置候、以来両村共右取唆通り無違変相守リ、重而御願ケ間敷仕間敷候、依之双方并取唆人連印之濟状奉差上候処仍如件、  
寛政四年子八月

訴訟方 豊田村庄屋

彦右衛門 ㊦

同村年寄

彦三郎 ㊦

同断

孫左衛門 ㊦

百姓惣代

与平次 ㊦

相手方 地黄村庄屋

甚兵衛 ㊦

同村年寄

新兵衛 ㊦

同断

久兵衛 ㊦

七三五



百姓惣代

助 三郎 ㊦

取贖人

中村

甚太郎 ㊦

同 断

五井村

彦 助 ㊦

右者済状差上候通為取替候証文ニ候間、無違変相守可被  
申候事

地黃村江

┌

○神保左京様預り銀覚

寛政七年五月

(長村正裕文書)

預り申銀子之事

一、銀三貫三百七拾五匁

右者神保左京就要用、慎諭取預り申処実正也

当卯之十一月限月八朱之利足を加へ急度返済可申候、仮

内外何様之故障出来候共、聊無違変可及勘定候、為後証

仍如件、

寛政七乙卯年五月

長村甚兵衛殿

水谷新五左衛門  
桑原八左衛門  
高橋藤右衛門  
水谷藤左衛門  
平田平右衛門

┌

○神保氏の大庄屋へ申添状

寅八月

(長村正裕文書)

御用并村用ニ不限会所江罷出候節、向後者勝手江上  
り、其品申聞候様ニ可仕候、村方一同呼出候節者是迄  
之通り可相心得候、

一、支配之儀向後勘定方支配ニ被仰付候間、身分ニ附候  
諸願等者勘定方江可申出候、村方用事之義者何事ニ不  
寄代官共江可申聞候、尤當時者欠役ニ而候間勘定方被  
仰付候迄者諸事月番之代官差図ヲ可請候、

一、年始八朔五節句共麻上下着用可罷出候、毛見其外平  
日之儀者只今迄之通ニ而帶刀可仕候、

一、御役宅并代官共方江罷越候節以來者沓拔迄履物之儘  
罷越、床上江揚り用事相弁可申候、

右之通可相心得候、以上、

寅八月

○神保氏知行所大庄屋へ申渡状

寅八月

(長村正裕文書)

大庄屋

五井村 彦 助

久米村 武 兵衛

地黃村 甚 兵衛

其方共儀、村方願訴訟諸事取扱者不及申、向後御為筋之  
儀ニ付候而者、代官共者勿論、志岐弥次兵衛江直ニ内意  
等申達差図を請取斗、弥次兵衛方内々相尋候趣茂有之候  
者駭ニ申間、弥村方正路ニ指支無之様出精可相勤候、右

真菅地区

ニ付是迄御他之役前江罷出候節、或者旅行等之節斗古来  
方帶刀致来候得共、以来者常々茂帶刀可仕候、依之足輕  
目付同格と仰付候、

右其方共勤方之儀者古来方前書之通ニ而可有之処、近来  
者存違茂有之様相聞候付、此度格式等迄改被仰付候間、  
難有奉存、以来心得違無之様ニ仕、尤御威光を以權高ニ  
不仕、依怙最願無之様急度相守可申候、

寅八月

〔土橋〕

○土橋村御檢地帳写

文祿四年九月十六日

(山崎伊平文書)

文祿四年

和州高市郡土橋村御檢地帳(写)

九月十六日

御牧勘兵衛

七三七

(前略)

合六百貳拾三石九斗壹升貳合

内拾九石九斗壹升三合

当荒

此御帳畝違算用違何茂百姓方理申処悉改御帳百姓写させ申候ニ付重而申分在之間敷候者也

文禄四年九月十六日

御牧勘兵衛 ㊦

右本帳之写何茂立合申候、校合無相違者也

寛文十三年丑四月朔日

福田 長兵衛

色田与左衛門

古屋 忠兵衛

宮所弥五兵衛

志満弥次兵衛

○矢部村、土橋村丑之惣目録

寛永三年九月十九日

(天図近世文書)

秋元但馬様御知行矢部

土橋村丑之惣目録

一、高四百三拾五石貳升五合 ㊦

矢部村

此取三百六拾九石七斗七升貳合

八ツ五分

一、高六拾三石五斗六石 ㊦

土橋村

此取五拾三石三斗四升五合

八ツ四分

高合四百九拾八石五斗三升壹合

此取四百貳拾三石壹斗壹升七合

口米拾貳石六斗九升四合

め払壹石六斗九升三合

物成三口合四百三拾七石五斗四合 ㊦

此払方

一、貳石五斗八 ㊦

矢部村庄屋給

一、壹石五斗八

同村井出来

一、三斗七升五合

土橋村庄屋給

一、貳斗貳升五合

同村井出来

丑ノ十月十一日

一、拾貳石五斗一升八合

高山五兵衛手形

此銀三百三拾八匁 但、石ニ付貳拾七匁(なら之具足や渡ル)

八月

一、拾石ハ<sup>㊦</sup>奈良酒屋へ渡ル

右同人手形

同十月廿一日

一、七石四斗八升壹合<sup>㊦</sup>

右同人手形

此銀貳百貳匁 但、石ニ付貳拾七匁<sup>(カ)</sup> 綿式拾貫之代

同極月  
一、壹石六斗六升六合<sup>㊦</sup>

右同人手形

此銀四拾五匁

但、石ニ付廿七匁<sup>(カ)</sup>  
江戸へ矢部村ヨリつけ申候駄賃

木綿

渡小以三拾六石貳斗六升五合

残而四百壹石貳斗三升九合

内

百貳拾五石五斗

石ニ付貳拾七匁<sup>(カ)</sup>

此銀三貫三百八拾八匁五分

貳百七拾五石七斗三升九合

石ニ付參拾六匁<sup>(カ)</sup>

此銀九貫九百貳拾六匁六分

銀子貳口合拾三貫三百拾五匁壹分

内小判壹兩在、但壹兩ニ五拾八匁

真菅地区

弘方合四百三拾七石五斗四合<sup>㊦</sup>

寛永三年

丑九月十九日

矢部村

源 藏<sup>㊦</sup>

土橋村

彦 助<sup>㊦</sup>

<sup>(ウラ書)</sup>

右之表書之通御百姓衆引合候而、致勘定遣上申候、以

上、

丑ノ九月十九日

若林□左衛門(花押)<sup>㊦</sup>

山方藤左衛門(花押)<sup>㊦</sup>

稲垣与三左衛門(花押)<sup>㊦</sup>

高川五兵衛殿

○土橋村定午土免之事

寛永十九年三月

(岡橋久徳文書)

定午土免之事

一、元高二七ツ七分取

十市郡

土橋村

七三九

右相定候上者、当暮ニ急度可遂皆済、若水田干虫指風損於在之者、検見之上可申付申者也

皆済、夫口目払之外一切非分在間舖者也

寛永十九年

田 茂左 ㊦

正保二年

田 茂左 ㊦

飯 金太 ㊦

酉霜月十五日

飯 金太 ㊦

三月二日

高六郎左 ㊦

高六郎左 ㊦

庄屋百姓中

庄屋百姓中 ㊦

(ウラ書)

表書之内七分取立毛検見上ニテ加損差遣者也

○東土橋村定酉之免相之事

午霜月十一日

田 茂左 ㊦

正保二年十一月十五日

(岡橋久徳文書)

飯 金太 ㊦

定酉之免相之夏

高六郎左 ㊦

十市郡 東土橋村

○西土橋村定酉之免相之事

正保二年十一月十五日

(岡橋久徳文書)

定酉之免相之事

正保二年 酉霜月十五日

田 茂左 ㊦

一、高百拾壹石三斗三升

十市郡

西土橋村

免七ツ七分取

飯 金太 ㊦

庄屋百姓中 ㊦

右相定上者無甲乙令割符、来極月十五日以前急度可遂

右相定上者無甲乙令割符、来極月十五日以前急度可遂皆済、夫口目払之外一切非分在間敷者也

○土橋村寺社書上帳

延宝七年二月二十九日

(岡橋久徳文書)

延宝七年

寺社

未ノ二月廿九日

土橋村  
ひかへ

書上ケ申寺社之事

一、土橋村宮ハ春日ニ而、先年<sup>(マ)</sup>宮御座候而、宮そこね申ニ付、式拾八年以前ニ立かへ申候、往後<sup>(古カ)</sup>立替リ之時分ハ覚不申候、宮屋敷<sup>(カ)</sup>御座候、

南北八間、東西式拾三間、

宮池東西拾九間、南北五間、

ほ<sup>(宝殿カ)</sup>うてんハ四尺五分ニ八尺七寸、

若宮ほ<sup>(宝殿)</sup>うてん<sup>(カ)</sup>卷尺<sup>(カ)</sup>卷寸五分ニ卷尺五寸御座候、出雲

様方立会、

一、同村本堂福満寺御ほ<sup>(本尊カ)</sup>うそん大日堂そこね申ニ付、式

真菅地区

拾九年以前ニ立かへ申候堂式間ニ式間半、屋敷東西八

間、南北十六間御座候、出雲様方立会、

一、同村どうノ堂屋敷、南北拾四間、東西五間御座候、

出雲様方立会、

一、同村宮ノ西方、地藏屋敷<sup>(カ)</sup>卷間ニ<sup>(式間御座候)</sup>出雲様方立会

一、針路浄満寺本堂御ほ<sup>(本尊)</sup>うそん<sup>(觀音)</sup>くわんのん堂、東西堂丈

卷寸、堂屋敷南北七間四尺、東西五間五尺御座候、

一、同所宮ハ春日屋敷、東西七間式尺、南北五間半、ほ<sup>(宝殿)</sup>

うてん式尺寸ニ八寸、若宮卷尺ニ七寸五分御座候、

一、はつわうじ屋敷、卷間ニ卷間御座候<sup>(出雲様方立会)</sup>

一、丸<sup>(カ)</sup>籤野神屋敷、卷間ニ卷間半御座候<sup>(出雲様方立会)</sup>

一、卷町内地蔵屋敷、南北式間五尺、

東西式間四尺御座候<sup>(出雲様方立会)</sup>

一、ふじか町地藏屋敷、東西式間半、南北式間御座候、

出雲様方立会

一、はつか籤野神屋敷、東西九間、南北拾四間御座候

出雲様立会

真菅地区

延宝七年末ノ二月

土橋村庄屋

喜助

年寄 六兵衛

同 久助印

大藤源左衛門殿

宮所弥五兵衛殿

○御料所百姓江仰渡書付写

正徳三年四月二十三日

(岡橋久徳文書)

正徳三年癸巳四月廿三日

諸国御料所諸百姓江被 仰渡候御書付之写

条々

一、諸国御料所御仕置の次第、前々よりの御条目御定書

七四二

等有之候所に、近年に及ひ在々の法度ゆるび所々の風俗正しからず、其業とすへき耕作の事怠り、其職にあらざる芸能の事を翫うたふひ屋作衣類食物を始め、万事につきて其分限に過ぎ、或ハ五穀に宜しき地を費つひやし、衣食のたすけにならざる物を作り、或は持高拾石以下の百姓其心に任せて田畑を配分し、すへて此等の類古来の定法に背き候事共有之由相聞候、自今以後名主庄屋等はいふに及はず、末々の百姓共に至る迄前々の御条目御定書等之旨を相慎つとし守り、少も分限ニ過候事共無之、専ら農業に情を出すへき事、

一、近年に及び御代官中検見の時、御取毛付の次第御料の名主庄屋以下其手代役人共に相頼ミ、其礼物をは村中の者共出し合せ候て相贈り候につきて、御取毛年々に下免に成来り、古来の免相に引合せ候へハ、其半分にも及はざる所々有之候、然れとも其所々の村方も古来よりにきハひ候躰ハ相見えず候事ハ、此等の類私の事共申合せ候に就て、常々手代役人への音信付届等を

始て、種々の物入共多く有之故と相聞え候、御料の御百姓と申候て公儀の田地を耕作し、其妻子徒類をも心やすく養ひ候者共、当作相応の御年貢をは上納仕らす、御後闇き事共に其財宝を費し候事、冥加の程をかへりミす、尤以愚昧ぐまゐの致す所にて候、自今以後ハ御代官中諸事吟味之上、其手代役人等の仕置を相正され、御取毛の次第急度相改めらるべく候、御料大小の百姓共皆々此旨を存し農業に精を出し、収納の事に油断あるへからず候、御取毛の次第は相改り候といへとも、手代役人共の様子ハ相改らず候におゐてハ、百姓共のため難義の事に可有之候間、もし音信付届等相止候事に就て、手代役人等非道の事共申懸候て、迷惑に及はせ候ものも有之におゐてハ、其事の子細ありのまゝに御代官に訴へ申へし、若又手代役人共のために物入等の事ハ、只今迄のことくにして却而御取毛高免の訴訟等申出候輩有之ニおゐてハ、多年の罪過を糺明之上急度重科に行はるへき事、

真菅地区

附、名主庄屋等も其下の百姓共に対し、或ハ鼯肩わやうかにより或ハ賄賂まどろにつきて、無理非法の事共有之由相聞候、是又音信付届等之類一切にこれを制禁し候、若違犯輩有之におゐてハ、贈り候者も受候ものも其科同罪たるへき事、

一、毎年御代官様より相渡り候御取毛割付并村掛り諸事入用の帳面等、其村中の惣百姓立合ひ披見之上加判せしめ候事ハ、古来よりの定法に候処に、近年に及ひ末々の百姓ハ委細の事を存するに及はず、名主庄屋等私シの事共有之御年貢金納方并御城下御蔵納の次第にも村方物入の費多く、末々の百姓共難儀に及ひ候由相聞え候、自今以後ハ其名主庄屋等古来よりの法のことく、御取毛割付ハいふに及はず、村入用の事共一々帳面にしるしたて、村中惣百姓共に披見せしめ、皆々得心有之上おのゝ判断形仕置き毎年其村限りに指出し御代官の吟味を請へべき事、

一、公儀の山林はいふに及はず、百姓所持の山林といふとも竹木猥りに代採代へからさる事、是又古来の定法に有之処に、近年に及び村方の普請有之時、其普請の場

七四三



に相応せざる大木其入用の外の物数等猥りに伐採り候由相聞え候、自今以後たとひ其奉行役人以下申付候共、心得かたき事有之におゐてハ早速御代官に申届へき事、

附、前々竹木伐採り候跡にも、苗木等植立さる所々有之由相聞え候、是又古来よりの定法に違ひたる事に候間、公儀の山林はいふに及はず、百姓所持の山林に候とも、其時節を違へず苗木植付候様にすへき事、

一、御料所の堤川除井堰夙樋橋の類、すへて在々御普請の場所近年に及び、御普請請負に仕る事出来、前々百姓自分普請の場所も公儀御入用を以て仕候所も多く出来候処に、彼請負の輩ハ当分の利徳有之所を専らにし、無程破損可有事をかへりみす候故に、諸事の仕方粗略多く堅固ならず、これによりて年々所々の御普請絶る事無之候、自今以後ハ御普請請負の輩一切に停止せられ、其村々の百姓普請に申付、若百姓共の力に難及所々ハ、其支配の御代官吟味有之上に、公儀御物入の米金等百姓共に被下、御普請申付らるへく候、惣し

て普請有之場所、

公儀自分のわけへたてなく、其所の諸百姓力を合せ小破の時に取繕ひ、大破に及はしむへからず、若又御普請の奉行役人以下、諸事の仕方粗略にして堅固ならざる所有之はいふに及はず、或ハ公儀御物入の事みたりに多く、或ハ百姓共に被下候米金等をさへ留め、すべて此等の類私の事共有之におゐてハ、早速御代官に申届くへき事、

一、所により大庄屋割本惣代など、申す者有之、其外一村限の名主庄屋等も有之、此輩の給米も多くして、村入用に懸り来り、大勢の中宜しからざる者共有之、身の上を高ふり私の事をいとなく、御代官の手代役人等を申合せ、末々の百姓共難儀に及はせ候事共相聞え候、自今以後大庄屋割本惣代の類一切に停止せられ、一村限りの名主庄屋五人組共其村々の事を承るへく候間、其名主庄屋五人組等のおのゝ諸事を相慎し、其役儀を相勤むへく候、若大庄屋割本惣代の類なくして

難叶所も有之におゐてハ、其子細を以其御代官ニ訴申へき事、

一、御料の百性共公事訴訟<sup>(訟)</sup>の旨有之候時、御代官所の手代役人、其村の名主庄屋等指押へ置き、御代官ニ相違せざる事有之由相聞え候、若いはれもなき事によりて争論に及に及び、訴訟を企て候者共、有之におゐてハ、其理非のある所を以意見を申聞せ、和談をも取あつかひ候事ハ可有之候得共、此等の子細もなく一切に指押へ置き候におゐてハ、末々の百性共難儀の事も相止ミ難く、御仕置の支ゆきと、かざる所も可有之候、自今以後公事訴訟<sup>(訟)</sup>の者有之におゐてハ、名主庄屋の類私のはからひとして、みたりニ押へ置かす御代官に達し、て其裁断に任すへき事、

一、御年貢納方の事に就て御城下御蔵役人の方におゐて相滞候様にも有之、名主宰領等逗留の間も久しく、惣して御用事并公事訴訟<sup>(訟)</sup>之時御城下江罷出候にも、御代官の手代役人共の所縁有之、百性宿と申者定り候而、

過分の雑用をつかひ、此等の類無用の物入其数多く、村中百性共の難義に罷成候由相聞え候、自今以後此等難義の事共、たとひ何様の子細に候とも、其事の次第ありのまゝに御代官に訴申すへき事、

一、御料の百性共、或は公事訴訟の事有之時、御役人中迄内証を申入、本望相叶ひ候様に仕へき由を申、或は御加増所替等の事有之時、御勘定衆へ取成しを頼入り、私領に相渡らざる様に仕るへき由を申す輩有之候に就て、其礼物等の料として無益の事に材宝を費し候事有之由相聞え候、惣して公儀御沙汰の事、内証取成し相かなわざる事に候、宜しく其道理を分別し彼謀計<sup>(謀計)</sup>を察し知り候て、自今以後何者の申所といふとも、一切信用すへからざる事、

右条々去年中被仰付候、諸国御料巡檢の面々見及び聞及び候所に就て、急度御穿鑿を遂らるへき事共に候得とも、当御代始の時に候故、別義を以てまつ其事に及はれず候、自今以後御国目付、巡檢の御役人等度々に可被指

遣御事に候間、若其時に至ても、只今迄の様子相改らさ

る所有之におゐてハ、重犯の罪科のかるへからず候、御

料所諸百姓急度此旨相心得候て、相慎しミ守るへき事に

候、然る上は其村の名主庄屋等の事ハいふに及ばず、た

とひ御代官所手代役人等の事に候共、公儀御制条に違犯

の輩有之におゐてハ、其事の子細ありのまゝに御代官に

訴申すへし、御代官中宜しく裁許の上訴出候者のために

其怨を返し候輩無之様に其沙汰可有之候、若又訴申出へ

き事有之をも隠し置き候て、御仕置の事末々の所に至て

は行届かす、百姓共の難儀も不止相候様に仕なし候事有

之におゐてハ、年月を経候後に相頭れ候といふとも、隠

置き候輩もこれ又違犯の罪科に同じかるへく候者也、

正徳三年癸巳四月廿三日

諸国御料所諸百姓

是ハ江戸へ惣百姓方上り候おく書

右御条目之趣村中大小百姓水吞迄奉承知委細奉畏候ニ

付、判形仕指上ヶ申候、以上、

巳閏五月

同村年寄

太兵衛 ㊦

徳兵衛 ㊦

大和国高市郡

土橋村庄屋

仁兵衛(印ナシ)

四兵衛 ㊦

同村年寄

次郎兵衛 ㊦

七兵衛 ㊦

字兵衛 ㊦

正徳三巳年閏五月

大和国高市郡土橋村惣百姓判形帳

桜井孫兵衛御代官所

是ハ江戸へ上り候上書

与兵衛 ㊦

たつ ㊦

善太郎 ㊦

久兵衛 ㊦

伊兵衛 ㊦

かめ ㊦

忠兵衛 ㊦

清吉 ㊦

小介 ㊦

○水論為取替一札写

正徳五年正月

(岡橋久徳文書)

<p>和州高市郡土橋村 水論為取替一札(写) 同国同郡妙法寺村 同国同郡曾我村</p>
---

為取替申一札之事

一、曾我村南方川表之樋尻ニ井手ヲ上ケ、同村北之方字東出口清水横木あまらた深田、右五ヶ所ニ而三町六反之田地江水仕掛ケ申候ニ付、川下妙法寺村土橋村と曾我村と新規古規と相論出来、既御公儀御沙汰ニ罷成候処、今井町善十郎、新賀村佐右衛門罷出、喫被申候ハ、土橋村妙法寺村用水行届、水多キ時分右川表之樋尻ヨリ式拾四五間下方中橋迄之間場所及見当分土俵井手の簀井手を上、字南浦北之端之よこ田并北方藪縁<sup>(マダ)</sup>リ之つ

真菅地区

ゆ方右三町六反之田地へ、水廻し候様ニと喫被申候ニ付、双方得心仕下ニ而相済シ申候右之井手を上ケ水仕掛ケ候共、両村ニ用水入申候ハ、何時ニ而も水下シ可申候、右之趣双方致和談相済し申上ハ、以後互ニ違乱申儀無御座候、為後日取替証文、仍而如件、

正徳五未年正月

桜井孫兵衛殿御代官所

和州高市郡土橋村庄屋

仁兵衛

同村年寄

次郎兵衛

神保主膳殿御知行所

同村庄屋

喜助

同村年寄

嘉右衛門

神保主膳殿御知行所

同国同郡妙法寺村庄屋

勘三郎

同村年寄

次郎右衛門

七四七

多賀佐衛門殿御知行所

同国同郡曾我村庄屋

助七郎

同村年寄

又市郎

同村年寄

庄兵衛

桜井孫兵衛殿御代官所

取噺人

同国十市郡新賀村

佐右衛門

取噺人

同国高市郡今井町

善十郎

御奉行様

○土橋村々柄書上差出帳

享保五年九月

(岡橋久徳文書)

<p>享保五年</p> <p>大和高市郡土橋村差出帳</p> <p>子九月</p>
---

文祿四未年 御牧勤兵衛様御檢地

古高式百三拾八石三斗四升式合

一、高式百六拾六石壹斗七升五合

大和高市郡 土橋村

内式拾七石八斗三升三合 增高無地但シ

郡山御城主松平下総 守様御知行之節增高

残式百三拾八石三斗四升式合

田拾三町壹反六畝拾歩

上田石盛壹石六斗代  
中田石盛壹石四斗代  
下田石盛壹石壹斗代

畑式町七反拾四分

上畑石盛壹石式斗代  
屋敷石盛右同漸  
中畑石盛壹石代

一、当村旱損場所 但シ用水懸り御座候得共、少々照統候得者  
用水參不申候、早損仕候、

一、小物成敷役小竹壹束四分 但シ壹尺八寸繩ノ御代官所へ年々  
御上納仕候、

一、家數拾六軒 人数百六人 男四拾八人 牛式疋  
女五拾八人 馬八無御座候

- 一、男者耕作之間ニハ蒞繩 農道具仕候、
- 一、女者耕作之間ニハ木綿其外かセき少々仕候、
- 一、町場市場道中筋定助郷・大助郷右之類無御座候、
- 一、草苧場無御座候、
- 一、山林之類一切無御座候、
- 一、大川 無御座候、
- 一、御年貢津出 同断
- 一、海川漁獵 同断
- 一、川除御普請場所 同断
- 一、村中ニ大キ成普請場樋類共同断
- 一、大池大沼 同断
- 一、当村者里方ニ而年々不作仕候ニ付、困窮所ニ而御座候、但土者真土青ばね
- 一、寺社之大キ成類 無御座候
- 一、名高き山 同断
- 一、古き御殿跡 同断
- 一、古城跡其外名高き人之屋敷跡無御座候、

真菅地区

- 一、江戸と当国と暑寒の様子、江戸人参り不申候ニ付、其様子覚へ不申候、
- 右之通吟味仕相違無御座候、以上、

享保五年子九月日

和州高市郡土橋村庄屋

仁兵衛

同村年寄

次郎兵衛

同断

四兵衛

(落書)

文禄四年御検地

奉行石田全正殿と申伝候

大和国高市郡江戸迄道法

百廿里、

□預り御牧勤兵衛

分郷、

○土橋村高寄帳写

寛保三年八月

(岡橋久徳文書)

大和国高市郡土橋村高寄帳(写)

大和国高市郡土橋村

一、高式百六拾六石壹斗七升五合

此反別拾五町八反六畝貳拾四步

此記

上田拾貳町五反六畝拾六步

高式百貳拾貳石五斗三升貳合 壹石七斗七升壹合代

中田四反七畝八步

高七石三斗九升貳合 壹石五斗六升四合代

下田五反七畝拾步

高七石四升 壹石貳斗貳升八合代

上畑壹町六反三畝拾壹步

高式拾壹石四斗九升九合 壹石三斗壹升六合代

中畑貳反七畝四步

高三石貳升八合

屋敷三反五畝五步

高四石六斗八升四合

壹石三斗三升貳合代

右者今度大和国高市郡土橋村、有来增高を以村高相改二付、位石盛書面之通相極者也

寛保三癸亥年八月

奥谷半四郎 御判

菅沼久次郎 御判

吉田源之助 御判

遠藤七郎左衛門 御判

野村庄助 御判

神山三郎左衛門 御判

出井重四郎 御判

右之通相極者也

神尾若狭守 御判

○土橋村村明細帳

延享二年

(岡橋久徳文書)

延享貳丑年
村明細帳
大和国高市郡
土橋村

元高三百八拾五石五斗七升

神保左京様御知行入会

文禄四未年御牧勘兵衛様御檢地

去亥年御改帳之通

一、高貳百六拾六石壹斗七升五合

大和国高市郡

土橋村

此反別拾五町八反六畝貳拾四步

田方貳百三拾六石九斗貳升八合壹勺

田盛

上壹石七斗七升壹合  
中壹石五斗六升四合  
下壹石貳斗貳升八合

内 此反別拾三町六反壹畝四步

真营地

畑方貳拾九石貳斗壹升五合九勺

上壹石三斗壹升六合貳勺  
中壹石壹斗壹升六合  
屋敷壹石三斗三升貳合

此反別貳町貳反五畝貳拾步

一、人数七拾壹人

男三拾三人  
女三拾八人

一、家数拾六軒

一、牛三疋

馬無御座候

一、村内重坂川通枝川

当村領内川長七町  
川中平均五尺

是ハ川上水元重坂川同郡曾我領内にて水分レ当村迄川路

凡拾五町水下十市郡大網村領ニ而曾武川筋へ落合

一、村内真弓川通枝川

是ハ水上水元真弓川同郡曾我村領ニ而水分レ当村迄川路

凡貳拾町水下同村領ニ而重坂川へ落合申候

一、山林野原并秣場無御座候

一、小物成 藪役小竹壹束四分

一、他村江納候小物成他村に立立候小物成無御座候

一、用水伏樋壹ヶ所

中曾子村  
小槻村 立会  
土橋村

是ハ古来方立会御普請所にて御入用被下候



一、分水土木壱ヶ所 右三ヶ村立会

是ハ右同断

一、用水伏樋式ヶ所 三ヶ村立会

妙法寺村  
曾我村  
土橋村

是ハ右同断

一、用水堰壱ヶ所 三ヶ村立会

中曾子村  
小槻村  
土橋村

是ハ用水砂流之堰にて百姓自普請仕候

一、板橋拾三ヶ所

是ハ当村領内野道又ハ居村入口橋共百姓自普請ニ仕候

一、土橋五ヶ所

是ハ右同断

一、悪水落堀壱ヶ所

是ハ当村領にて悪水落堀居村外廻り御座候、百姓自普請仕候

一、悪水引伏樋壱ヶ所

是ハ当村斗普請所にて百姓自普請仕候

一、堰五ヶ所

是ハ当村領内所にて井手所百姓自普請仕候

一、御林無御座候

一、町場市場無御座候

一、金銀銅鉄鉛山無御座候

一、耕作間 男繩倭野道具仕候  
女木綿等かせき仕候

一、牢屋無御座候

一、田方四五分通木綿作仕候

一、水旱損場ニ御座候

一、小作直段凡壱反ニ付

田方 上壱石四五斗壱石六七斗迄  
中壱石三四斗壱石五六斗迄

畑方 下九斗壱石式三斗迄  
上壱石壱斗壱石式三斗迄

下六斗壱石八斗迄

右者此度村役人共立会吟味之上書上申所相違無御座候、已上

延享式年

大和国高市郡

土橋村庄屋

同村年寄

同断

勝 七 ㊦

次郎兵衛 ㊦

徳兵衛 ㊦

百姓代

源兵衛 ⑩

○古市代官所方通達請書

(金曆元年)  
未閏六月二十六日

(岡橋久徳文書)

御請書
高市郡
土橋村

(長領)

一、御預り所村々方

公儀御役所并私領方役所江願有之罷出候節ハ、其趣役所江訴出差図請候上願出候御定法ニ候、然ル処近年猥ニ相成無断罷出候族も有之候、自今右躰之者於有之ハ、其咎可申付候、併此方役人非分儀有之御奉行所等江願候義ハ格別ニ候、此旨心得違無之様末々小百姓女童迄も急度可申渡候、右之趣組合之村々入念申達候、

眞菅地区

庄屋年寄百姓代請印形取之可差出也、

古市役所

未閏六月廿三日

右之趣奉承知、乍恐惣百姓請印仕奉差上候、以上

未閏六月廿六日

高市郡土橋村

庄屋勝 七 ⑩

同断四兵衛 ⑩

孫三郎 ⑩

重兵衛 ⑩

藤 七 ⑩

嘉兵衛 ⑩

同村年寄  
百姓次郎兵衛 ⑩

七兵衛 ⑩

久兵衛 ⑩

御坊(印ナシ)

兵助 ⑩

同断徳兵衛 ⑩

太兵衛 ⑩

孫兵衛 ⑩

消兵衛 ⑩

善八 ⑩

組頭源兵衛 ⑩

善太郎 ⑩

源七 ⑩

彦六 ⑩

藤助 ⑩

古市  
御役所様

○土橋村明細帳

宝曆六年十月

(岡橋久徳文書)

<p>村明細帳</p> <p>大和国高市郡 土橋村</p>
-----------------------------------

元高三百八拾五石五斗七升  
 文禄四未年御牧勘兵衛様御檢地  
 去亥年御改帳之通

神保兵庫様御知行入会  
 大和国高市郡  
 土橋村

一、高式百六拾六石壹斗七升五合

此反別拾五町八反六畝廿四步 道法  
 江戸迄百三十六里  
 京都迄 十六里  
 大坂迄 九里

田高式百三拾六浴九斗六升四合

此反別拾三町六反壹畝四步 田石盛  
 上壹石七斗七升壹合  
 中壹石五斗六升四合  
 下壹石貳斗九升八合

畑高式拾九石貳斗壹升壹合

此反別貳町貳反五畝廿步 畑石盛  
 上壹石三斗壹升六合貳勺  
 中壹石壹斗壹升六合  
 屬數壹石三斗三升二合

一、人数八拾貳人

内 男 四拾壹人  
女 四拾壹人

一、家数

貳拾軒

一、牛貳疋

馬無御座候

一、村内重坂川通枝川当村領内

川長 七町  
川巾 二十四、五尺

是は川上水元重坂川、同郡曾我領ニ而水分れ、当村迄川路凡式拾丁、水下十市郡大綱村領ニ而重坂川へ落合申候

一、村内真弓川通枝川

是者川上水元真弓川、同郡曾我村領ニ而水分れ、当村迄、川路凡式拾丁、水下同村領ニ而重坂川へ落合申候

一、山林并秣場

無御座候

一、小物成藏役小竹壹束四分代銀壹匁六分八厘

一、他村江納候小物成他村方取立候小物成 無御座候

一、用水伏樋壹ヶ所

中曾司村  
小槻村 立会  
土橋村

是者古來より立会御普請所ニ而御入用罷下候

一、分水土木壹ヶ所

右三ヶ村立会

是ハ右同断

一、用水伏樋式ヶ所

妙法寺  
曾我村 三ヶ村立会  
土橋村

是ハ右同断

一、用水堰壹ヶ所

中曾司村  
小槻村 三ヶ村立会  
土橋村

一、板橋<sup>(拾九)</sup>三ヶ所

是者当村領内野道又ハ居村入口橋共百姓  
自普請ニ仕候

一、土橋五ヶ所

是ハ右同断

一、悪水落堀壹ヶ所

是ハ当村領ニ而悪水落堀居村外廻リ御座候  
百姓自普請ニ仕候

一、悪水引伏樋壹ヶ所

是者当村斗普請所ニ而百姓自普請ニ仕候

一、堰五ヶ所

是ハ当村領内所々井手所、百姓自普請ニ仕候

一、御林

無御座候

一、町場市場

無御座候

一、金銀銅鉄鉛山

無御座候

一、耕作

男 繩たわら野道具仕候  
女 木綿苧かせ仕候

真菅地区

一、牢屋

無御座候

一、田方四五通木綿作仕候

一、水旱損場

御座候

一、小作直段凡壹反ニ付

田方  
上、壹石三斗<sup>六</sup>壹石六斗<sup>迄</sup>  
中、壹石貳斗<sup>六</sup>壹石四斗<sup>迄</sup>  
下、九斗<sup>六</sup>壹石壹斗<sup>迄</sup>

畑方  
上、五斗<sup>六</sup>八斗<sup>迄</sup>  
中、四斗<sup>六</sup>五斗<sup>迄</sup>  
下、無御座候

右者此度村役人共立会吟味之上、書上申所相違無御座候、以上

宝曆六年子十月

大和国高市郡土橋村

庄屋 勘 介

年寄 次郎兵衛

〃 徳兵衛

百姓代 長三郎

「

○百姓強訴事件品に応じ処断申渡

明和七年四月

(山崎伊平文書)

申渡

和州高市郡敵火村

百姓

宗次郎

寅四拾六歳

同郡大谷村

庄屋

半兵衛

寅四拾歳

其方共儀百姓共強訴徒党致候を取鎮候躰ニ者いたし候共、一件引合吟味之上、其方共示合頭取相企、百姓共ニ為致強訴候段及白状、右始末不届至極ニ付、兩人共死罪被仰付候

過料錢貳貫文宛

寺田村

大久保村

敵火村

土橋村

川原村

百姓共

其方共儀、宗次郎、半兵衛任申旨、去々子十一月廿九日今井西蓮河原江村ニ方惣代之者罷出願之手段承、万一不罷出者共ハ、其家打毀或者罷出候もの、賄致させ可申旨申合、村方江も其段申達相殘者共、前後を不願<sup>(マア)</sup>願立、大庄屋共家作打潰し可申趣ニ而、地頭屋敷有之村方江押寄及強訴候段、一同不届ニ付銘々村高ニ応し過料被仰付候間、三ヶ<sup>(マア)</sup>之内可相納

右者於江戸表

公儀江御伺之上、御仕置被仰付候間、可得其意

寅四月

右之通被 仰付候間、以来村々一同相慎、農業可致出精

旨、被 仰渡奉畏候、若相背候ハハ重科可被 仰付候、

同郡

大谷村

吉田村

妙法寺村

高百石ニ付

依而如件、

明和七寅年四月

大谷村

百姓惣代

(左九)

助印

治兵衛印

慈明寺村

百姓惣代

善三郎印

清助印

庄兵衛印

吉田村

百姓惣代

九郎三郎印

茂兵衛印

武兵衛印

妙法寺村

百姓惣代

三郎兵衛印

伊兵衛印

寺田村

百姓惣代

忠兵衛印

伊兵衛印

源四郎印

畝火村

百姓惣代

宇兵衛印

清八印

七郎兵衛印

土橋村

百姓惣代

善七印

佐兵衛印

弥七郎印

川原村

百姓惣代

善兵衛印

小兵衛印

真菅地区

七五七

真菅地区

助 市印

七五八

年寄 九 助印

檀原次郎左衛門殿

志波弥次兵衛殿

妙法寺村 庄屋 五兵衛印

右被仰渡之趣、私共罷出奉承知候、且、私共儀者不埒之

筋茂無御座候ニ付、御構無之間、以来村方相納候様村用

出精可仕旨、被仰渡奉畏候、以上、

大谷村

年寄

嘉兵衛印

年寄代

弥太郎印

寺田村

庄屋 清兵衛印

慈明寺村

庄屋

清兵衛印

同 同治兵衛印

年寄

武 助印

大久保村

庄屋 又五郎印

同

伊右衛門印

年寄 弥三郎印

吉田村

庄屋

嘉兵衛印

同

佐平治印

畝傍村

庄屋

喜兵衛印

久米村大庄屋

武兵衛印

五井村大庄屋

彦助印

┌

年寄

忠兵衛印

同

孫七印

○土橋村享保以降御取箇書写

明和八年十月

(岡橋久徳文書)

土橋村

庄屋

茂兵衛印

年寄

吉兵衛印

明和八年

享保元申年乙 三拾四年分御取箇書写

寛延貳巳年迄

卯十月

高市郡  
土橋村

川原村

庄屋

彦七印

年寄

文六印

同

善次郎印

一、村高貳百六拾六石壹斗七升五合

和州高市郡  
土橋村

右年々毛付高御取米之写、乍恐左之通

遠山半十郎様

享保元申年 遠山半十郎様御代官所節

一、毛附高百五拾九石八斗四升貳合 毛付

毛附高二五ツ四厘九毛内

此御取米八拾石七斗四合

右被 仰渡之趣、私共罷出奉承知候、惣村方江茂申渡以

来村方相納候様取斗可申旨、被 仰渡奉畏候、以上、

地黄村大庄屋

甚兵衛印



遠山半十郎様

享保貳酉年

一、毛附高百九拾六石壹斗九升六合

毛附高五ツ壹分余

此御取米七拾七石七斗四升

遠山半十郎様

享保三戌年

一、毛附高百五拾貳石壹斗四升六合

毛附高五ツ壹分余

此御取米七拾七石七斗四升

遠山半十郎様

享保四亥年

一、毛附高百八拾壹石六斗三升

毛附高ニ五ツ貳分八厘内

此御取米九拾五石八斗六升三合

間宮三郎左衛門様

享保五子年

一、毛附高貳百貳石三斗貳升九合

毛附高ニ貳分七厘八毛

此御取米百六石七斗九升

桜井孫兵衛様

享保六丑年

一、毛附高百五拾石五升貳合

毛附高ニ五ツ七厘八毛

此御取米七拾六石壹斗九升六合

会(田)伊右衛門

享(保)七寅年

一、毛附高百七拾七石七斗六合

毛附高五ツ七厘八毛

夫米御伝馬宿入用御免許

此御取米九拾石貳斗三升九合

会(田)伊右衛門

享保八卯年

一、毛附高百四拾四石九斗壹合

毛附高四ツ九分六厘

此御取米七拾壹石八斗七升壹合

会(田)伊右衛門

享保九辰年

一、毛附高五拾貳石八斗四升五合

毛附高四ツ九分六厘

夫米御伝馬宿入用御免許

此御取米貳拾六石貳斗壹升壹合

会(田)伊右衛門

享保拾巳年

一、毛附高五拾七石貳斗七升九合

毛附高四ツ九分六厘

諸掛り物御口米共御免許

此御取米貳拾八石四斗壹升

会(田)伊右衛門

享保十一午年

一、毛附高貳百三拾八石三斗四升貳合

此年方夫米御免許

毛附高三ツ九分六厘内  
此御取米九拾四石三斗四合

幸田善太夫様  
享保拾貳未年

一、毛附高貳百三拾八石三斗四升貳合

毛附高三ツ九分五厘七毛内  
此御取米九拾四石三斗四合

幸田善太夫様  
享保十三申年

一、毛附高六拾九石五斗六合

毛附高四ツ貳分七厘五毛  
此御取米貳拾九石七斗壹升四合

幸田善太夫様

享保十四酉年

御伝馬宿六尺給御藏前(米)入用御免許  
一、毛附高貳百三拾八石三斗四升貳合

毛附高四ツ貳分七厘五毛内  
此御取米百壹石八斗九升

原新六郎様

享保十五戌年

一、毛附高貳百三拾八石三斗四升貳合

毛附高四ツ貳分七厘五毛  
此御取米百壹石八斗九升

享保十六亥年

一、毛附高貳百三拾八石三斗四升貳合

毛附高二四ツ貳分七厘五毛  
此御取米百壹石八斗九升

石原半右衛門  
享保十七子年

一、毛附高百三拾八石六斗三升

毛附高四ツ貳分七厘五毛  
此御取米五拾九石貳斗六升四合

石原半右衛門  
享保十八丑年

一、毛附高百八拾七石八斗三升貳合

毛附四ツ貳分七厘五毛  
此御取米八拾石貳斗九升八合

近山清右衛門

享保十九寅年

一、毛附高百五拾六石八斗四升七合

毛附高二四ツ貳分七厘五毛  
此御取米六拾七石五升壹合

石原清左衛門様

平岡彦兵衛様

享保二十卯年

一、毛附高百四拾壹石五斗壹升四合

毛附高四ツ貳分七厘五毛  
此御取米六拾石四斗九升七合

久下藤十郎様

元文元辰年

此御取米九拾六石五斗式合

毛附高四ツ壹分三毛内

一、毛附高九拾七石四斗六升壹合

毛附高四ツ式分七厘五毛

此御取米四拾壹石六斗六升五合

高取  
寛保元酉年

一、毛附高式百六拾六石壹斗七升五合

毛附高四ツ三分四厘四毛余

疋田庄九郎様

千種清右衛門様

元文式巳年

此御取米百拾五石六斗三升三合

高取  
寛保二戌年

一、毛附高式百六拾六石壹斗七升五合

毛附高四ツ四分五厘八毛内

此御取米百壹石八斗九升

毛附高四ツ式分七厘五毛

高取

元文三午年

植村三藏様御預り所之節

一、毛附高式百拾七石九斗三升式合

毛附高五ツ壹毛

此御取米百八石九斗八升八合

高取  
寛保三亥年

一、毛附高式百六拾六石壹斗七升五合

毛附高ニ四ツ五分五厘六毛余

高取

元文四未年

一、毛附高式百三拾八石三斗四升式合

毛附高四ツ八分七厘九毛内

此御取米百拾六石式斗八升五合

古市

延享元子年  
藤室和泉守様御預り所之節

一、毛附高式百六拾六石壹斗七升五合

毛附高ニ五ツ壹分七毛

高取

元文五申年

一、毛附高式百三拾五石式斗式合

此御取米百三拾九石九斗式升九合

古市

延享二五年

一、毛附高貳百六拾六石壹斗七升五合

毛附高ニ四ツ七分六厘貳毛余

此御取米百貳拾六石七斗六升三合

古市

延享三寅年

一、毛附高貳百六拾六石壹斗七升五合

毛附高ニ五ツ八厘八毛内

此御取米百三拾五石四斗貳升九合

古市

延享四卯年

一、毛附高貳百石九斗七升貳合

毛附高三ツ九分四厘余

此御取米七拾九石壹斗九升三合

古市

寛延元辰年

一、毛附高貳百六拾六石壹斗七升五合

毛附高ニ四ツ三分九毛内

此御取米百拾四石六斗九升

古市

寛延二巳年

一、毛附高貳百六拾六石壹斗七升五合

毛附高四ツ九分七厘壹毛余

此御取米百三拾貳石三斗貳升七合

真菅地区

右者享保元申年方寛延二日年迄、三拾四ヶ年分当村毛附  
高御取米、書面之通相違無御座候、以上、

明和八年卯十月

高市郡土橋村庄屋

勘 助

年寄 次郎兵衛

同断 長三郎

高取

御役所様

右三十四ヶ年御取米合三千九拾六石壹斗三升六合、壹  
ヶ年ニ九拾壹石六升貳合八夕当ル、

○博奕禁止触書

天明九年正月

(岡橋久徳文書)

御公儀様方御触書之写

先年方<sup>(博)</sup>転奕停止之義ハ度々相触候所、今以不相止、此節  
者專致博奕候旨相聞不届ニ候、其村ニ役人共義存間敷様

真菅地区

無之候処、其通り致置候段不埒ニ候、一村限り役人共致吟味、博突相携り候もの召連可罷出候、隠置相携り候者ハ御役所方召捕候ハ、本人ハ勿論村役人迄急度可申付事、

右御触書趣得と御申渡し被成委細致承知候、急度相守可申候、然ル上ハ村中見廻り候義ハ非人番ニ申被付、若相背博突相携り見付られ候ハ、為過料錢三ノ文本人物取之、其組頭方番人に遣し可申候、万一宿致候者も御座候ハ、其者之義ハ村役人中いか様にも思召次第ニ可被成、其時少もうら見申間敷候、右之通り村中一統申合印形致置申候、為後日連印如件、

天明九年酉之正月日

清	八	弥三郎
与平次	印	弥七郎
惣重郎	印	源助
藤八	印	孫三郎
喜八郎	印	藤兵衛
源太郎	印	利兵衛

右之通印形致候上ハ心得違之義ハ少シモ無御座候、以上、

酉之正月八日

おかん	印	善四郎	印
安兵衛	印	弥四郎	印
徳兵衛	印	組頭 九兵衛	印
久四郎	印	組頭 吉兵衛	印
喜助	印	組頭 嘉平次	印
彦五郎	印	庄右衛門	印
平兵衛	印	善五郎	印
源兵衛	印	伝兵衛(印ナシ)	
長兵衛	印	組頭 太助	印
おしげ	印	組頭 佐兵衛	印
おたつ	印	忠八	印
善助	印	新助	印
組頭 茂兵衛	印	幸助	印
組頭 彦次郎	印	組頭 彦三郎	印
惣兵衛	印	組頭 嘉兵衛	印
佐七(印ナシ)			

当村兩方

役人中

○神保氏役人並土橋村役人、人数書上帳

享和四年以降

(山崎伊平文書)

土橋村宗旨御改 各年の男女合計、村役人名、神保

役人名

享和四年 男女ノ百六拾五人 庄屋伊兵衛

男七拾八人 年寄喜八郎  
女八拾七人 年寄吉兵衛

神保役人 小林矢柄

井上丹右衛門

高橋藤右衛門

水谷新五左衛門

高橋市右衛門

文化二年 男七拾八人 庄屋伊兵衛

女八拾六人 年寄喜八郎

計百六拾四人 年寄吉兵衛

神保役人 岸上五左衛門

小林矢柄

文化三年

男八拾人  
女八拾三人

庄屋伊兵衛  
年寄喜八郎  
年寄吉兵衛

神保役人 小林矢柄

井上丹右衛門

伊東半蔵

高橋藤右衛門

水谷文右衛門

高橋市右衛門

文化四年

男八拾人  
女七拾九人  
計百五拾九人

庄屋伊兵衛  
年寄喜八郎  
年寄吉兵衛

神保役人 井上丹右衛門

伊東平蔵

水谷文右衛門

高橋藤右衛門

高橋市右衛門

文化五年

男七拾九人  
女七拾七人

庄屋伊兵衛  
年寄喜八郎

井上丹右衛門  
高橋藤右衛門  
水谷新五左衛門  
高橋市右衛門

計百五拾六人

年寄勘治郎

神保役人 小林 矢柄

井上丹右衛門

高橋市右衛門

年寄喜右衛門

年寄平治郎

庄屋伊兵衛

神保役人 内芝 勝藏

水谷文右衛門

吉川三右衛門

年寄喜八郎

年寄平治郎

庄屋伊兵衛

神保役人 山田 広平

水谷新吾

吉川定左衛門

年寄喜八郎

年寄平治郎

庄屋 山崎伊兵衛

神保役人 水谷 新吾

吉川定左衛門

年寄喜八郎

年寄平治郎

計

庄屋 山崎伊兵衛

神保役人 水谷 新吾

山田 鋏太郎

年寄喜八郎

年寄平治郎

庄屋伊兵衛

神保役人 水谷 新吾

内芝 鏝太郎

吉川定左衛門

年寄喜八郎

年寄平次郎

庄屋伊右衛門

神保役人 水谷 新吾

内芝 鏝太郎

高橋房之輔

吉川定左衛門

森本 順輔

年寄喜八郎

年寄平治郎

庄屋伊右衛門

神保役人 水谷 新吾

高橋房之助

安政三年

男七拾四人  
女七拾五人

年寄 喜八郎  
年寄 平次郎

計百四拾九人

庄屋 伊右衛門

神保役人

水谷 彦左衛門

吉川 嘉右衛門

森 本 順 輔

吉川 定左衛門  
森 本 順 輔

○村番勤方御糺ニ付書上帳

文化元年六月

(岡橋久徳文書)

文化元年

御糺ニ付書上帳

子ノ六月

高市郡

土橋村

一、当村番非人勤方之義、先規仕来り委敷書上候様被仰  
出候ニ付、左ニ奉申上候、

真菅地区

一、当村番非人之義ハ村方ニ召抱、小屋ニ差置、尤右之  
小屋修覆并ニ敷地御年貢等迄も年々村弁ニ仕来り候、  
且又扶持米之義ハ月々ニ家別ニ相渡、給米之義ハ七月  
十二月両度ニ相渡し申候、

一、番非人頭と唱候者奈良町長吏ニ而当村番非人若村方  
存寄ニ不叶抱替候節ハ、右長吏配下之小頭と唱候葛下  
郡高田村番非人江相違シ、出シ入レ為致候、其外不束  
之義有之哉、又ハ不奉公之義御座候ハ、右小頭江引  
渡候仕来りニ御座候、

一、番非人勤方之儀村方ハ日々相廻り候得共、農方相廻  
り候義ハ相見ヘ不申候、

一、盜賊悪党之者、或ハ無宿もの等捕縄を□く節ハ、村  
役人江ハ不申出、直様長吏配下之小頭方ヘ引連罷出  
候、猶又無宿もの并ニ非人等ハ番非人方ニ而吟味打擲  
等もいたし申候、

一、百姓方之ものを盜賊或ハ博奕之掛合有之旨不審申掛  
候節、当村番非人斗り家内江踏込捕縄をかけ、吟味打



擲等いたし候義ハ無之候得共、右様之節ハ何れ方哉、

又ハ番非人共より致内通候事哉、御番所様方同心差押

ニ相見ヘ候節、長吏小頭并ニ近郷平番人共大勢百姓家

ヘ踏込、捕縄をかけ置、夫方庄屋方ヘ参彼方ヘ参り彼

宅ヘ登り、飲食等被申付、夫方御番所様ヘ御召連ニ御

座候、其節村役人方御役所様ヘ早速御届ケ申上候得

共、番非人方其義村役人江相届ケ候義ハ一切無之候、

一、番非人長吏用向ニ而他出仕候節、村方ヘ相届ケ候義

ハ是迄無御座候、然レ共村方之申付之筋相用申候、

右御糺ニ付有躰奉書上候通り相違無御座候、以上、

文化元年子ノ六月

土橋村

庄屋 勝 七

年寄 次良兵衛

同断 長 三郎

高取

御役所様

○村方儉約申合定書

文化五年正月十二日

(山崎伊平文書)

儉約村申合定書

一、從御公儀様每々御法度被仰渡候并池尻猶御役所様、

毎年正月十二日ニ被仰渡候御条目之趣、末々小百姓ニ

至迄御申渡被成奉畏承知仕候、猶又去ル戌年八月ニ御

制法之趣箇条御書付ヲ以被仰渡候、弥以急度奉相守候

并村方一統申合箇条左之通、

一、正月祝餅斗ニ而余慶ニ餅搗不申候并筋もの随分事輕

ク取斗、男女共絹氣不相用木綿限り、絹氣之類決而無

用ニ候、

附リ、籠甲櫛笄并銀之髮(例カ)斬決而可為無用候事、

一、三月雛祭り致間敷候、并筋もの取遣リ決而無用之

事、

一、五月節句幟之儀繪幟決而可為無用事、并筋もの不

致、猶又取遣決而致間敷候事、

- 一、中元之儀式是迄ニ違事輕ク相宮候事、
- 一、村氏神祭之事他家不相招、親類斗ニ而宵宮相宮、魚類ハ決而不相用様仕候事、
- 一、聳取嫁取之儀者随分事輕ク俟約相守可申事、
- 一、婚礼諸振舞決而致ス間敷候、右振舞料ハ村方相談之上分限ニ応シ料物差出村用ニ相用ヒ可申事、
- 一、參宮酒迎并留主見廻決而致間敷候、宿本迎之儀者格別、其外他人向ニ迎決而無用可致事、
- 一、不幸之節事輕ク取賄、悔入江酒杯一切出し不申事、
- 一、博奕賭之諸勝負御法度者每々嚴敷被為仰付兼而承知仕候得共、心得違右博奕宿仕勝負事携候もの有之間々達御聞、甚不埒ニ被為思召上、博奕御制禁嚴敷被為仰渡候趣、村中へ御申聞せ被下、委細奉承知候、依之村中相互ニ申合、若博奕宿仕候敷、又ハ諸勝負携候もの猶有之者、縦他郷之者たり共見聞次第隣家方早速可訴出候約速ニ御座候、若外方露頭致し候ハ、組内ハ不及申、隣家之難儀ニ相成、御制禁之事ニ候間村中相互

真菅地区

ニ申合、急度相守可申候、万一相背宿致し右博奕携候而御公儀様江御召出御苦勞ニ相成候者有之候ハ、諸人用其人仕廻、若本人之諸入用不相濟候ハ、而隣并組内方急度仕立、村方へハ壹錢も相掛ケ申間敷候、為後日村中申合連印仍而如此ニ御座候、以上、

文化五年

平兵衛 ㊦

辰正月十二日

(外三十一人ノ人名、印ヲ略ス)

村役人中

「

○兼帯庄屋引受書類受取覚

文化十三年三月二十六日

(岡橋久徳文書)

覚

一、文録四未年九月

御牧勘兵衛様御改被成候御料私領打込御檢地写シ帳巻

冊、紙数四拾五枚

一、寛保三癸亥歳八月

神尾若狭守様御改高寄帳巻冊、但シ御印形帳面也、紙

七六九

真菅地区

数五枚

一、文化十二亥年改地並帳巻冊、紙数三拾八枚

一、文化十四年改田畑屋敷名寄帳巻冊、紙数四拾三枚

一、村絵図 巻一枚

一、文化十四年改池水掛リ田地畝步改帳巻冊、紙数拾枚

一、寛政十一未年曾我村領ニ有之候字浅樋御普請仕様帳

巻冊

一、文化六巳年曾我村領ニ有之候字南川樋御普請仕様帳

巻冊

一、文化二丑年東口新屋敷諸書物并ニ絵図共、

但シ帳面八冊絵図三枚并ニ右ニ付算用書諸書物半紙ニ

認九枚有之候

一、文化十三子年宗門御改帳巻冊

右者今般其村兼帯庄屋拙者江被仰付候ニ付、前書之通御引渡被成、慥ニ請取申候、以上、

但シ前書之外村用ニ付臨時入用之帳面書物類者其時々

七七〇

申入、当分預リ可申事、

文化十三年

子三月廿六日

土橋村

政右衛門殿

兼帯庄屋

常門村年預

專 治 印

○土橋村社堂寺院書上帳

文化十四年七月

(岡橋久徳文書)

文化十四年	社堂寺院書上帳扣	高市郡
丑七月		土橋村

植村駿河守殿御預所

入組

神保磯三郎殿知行所

和州高市郡

土橋村

延享三寅年書上置候寺院本末帳ニ相洩候分、得与取調

寺書上候様被仰渡、左之通御座候、

一、春日大明神社 梁行四尺五分  
桁行八尺七寸 除地

但屋根松皮葺

一、若宮社 梁行壹尺壹寸五分  
桁行壹尺五寸 除地

但屋根粉木葺

一、拝殿 梁行壹間半  
桁行三間五尺 除地

但屋根瓦葺

無本寺真言宗福満寺

一、開基開山権知不申候

一、本堂 梁行貳間 瓦葺  
桁行貳間

一、木尊 座像大日如来

一、庫裏 梁行 貳間 瓦葺  
桁行 四間半

但延享三寅年書上御座候者梁行壹間桁行三間と御座候処  
其後建替に而當時書面之通ニ御座候段御断奉申上候

一、境内 東西 五間  
南北 六間 除地

一、末寺無御座候

右之外社堂寺院等無御座候、以上、

文化十四丑年七月

真菅地区

土橋村

兼帯庄屋 専 治印

年寄 長三郎印

同断 勘兵衛印

高取

御役所様

○座頭祝儀取斗仕法書

文政十年八月

(岡橋久徳文書)

座頭祝儀取斗仕法書

覚

一、当国ニおゐて聳取嫁養子取組之節、座頭方へ為祝儀  
と往古々分限ニ応シ夫々差出し遣来候処、近年右祝儀  
施物分限相応ニ相進々、其方角之座頭江差出之節多少

ヲ論シ容易ニ祝儀受納不致、其上婚礼祝儀宴之当日至  
 リ座頭大勢申合掛掛ケ来リ、其席を妨酒飯ヲ乞候族も  
 有之、盲人ニ不似合之振舞、別而其当人之迷惑と相成  
 候段、村役人方江申出候儀も有之候ニ付、今般年寄之  
 方角申合、京都御職表江取ノリ之儀申出候処、和州郡  
 山吉本勾当京都江召登せ之上仕置座相勤候得共、不如  
 法之儀無之様嚴重ニ被申渡、往古之通只如法ニ祝儀施  
 物受納可致旨座頭仲間へ書下ケ等も有之候ニ付、尚ま  
 た年寄之方角申合、百姓之分限ニ応シ身上向秀達連続  
 之分限極上と定メ、夫々上中下と夫々見立候而段を付  
 程を定メ、其村役人又者慥成人柄之者方如法ニ祝儀施  
 物取斗可申之事、

見立分限

極上連続之分 鳥目五貫文

上之分之内 上三ノ文  
                  中式ノ文  
                  下七ノ文

上考ノ三百文

中之分之内 中考ノ八文

下ノ五百文

下之分之内 上五百文  
                  中三百文  
                  下百文  
                  又者五拾文

但シ遣方者右之分量八分、且又縁談及再三ニ候ハ、五  
 六分通りヲ以取斗、時之可応分限ニ事、

右之通り分限分量相極、祝儀之節取斗可遣、右取斗ニ寄  
 若自然施物多少之儀ニ付、彼是ニおよひ候而御公辺ニ相  
 成候節、諸入用銀申合之村々江惣掛リニ可致約束ニ御座  
 候、為其取替シ書惣代調印如斯ニ御座候、以上、

文政拾亥八月

小堀惣代

郡山領分大庄屋

○村方株持商売人諸職人書上帳

天保十三年四月

(山崎伊平文書)

天保十三年

御地頭様江村方株札請人

并商売人諸職人書上ケ覚帳

寅四月日

土橋村扣

乍恐書附を以奉言上候

土橋村役人

一、今般諸商売仲ヶ間組合并ニ株札を請候類、其外諸職  
質銀右ニ付売捌候直段嚴重ニ御取調被為仰付奉畏、依  
之村方得与取調仕候訳左ニ御座候、

一、質屋

土橋村茂右衛門 印

但シ質銀貸流候利足銀之義者、先年ノ銀百目ニ付壹ケ月ニ  
壹匁貳分ノ定ニ而貸渡申候、尤銀百目以上者銀百目ニ  
付壹ケ月ニ壹匁ノ定ニ而貸渡申候、且質屋株札請候ニ  
付、毎年御冥加御上納与して銀六匁宛、毎年年行葛本  
村利助殿へ相納申候、

一、三商賈

同村 弥 吉印

但シ三商賈之義者古手古鉄古道具売買仕候、尤此株札請候  
ニ付、御冥加御上納として毎年銀三匁二分宛年行葛本  
村利助殿江相納申候、

一、附米屋

同村 茂右衛門

但シ米直段之義ハ只今白上米壹升ニ付錢九十文亮、中米壹  
升ニ付八十八文亮、下米壹升ニ付八十五文亮、右之通  
リ御座候、

一、小売酒屋

同村 甚三郎 印

真菅地区

但シ作酒屋之儀ハ俵本大綱屋弥市郎殿ノ請売仕候、尤酒小  
売直段之儀、只今酒壹合ニ付錢拾四文亮ニ御座候、

一、煙草賃切職人

同村 清治郎 印

但シ切賃煙草壹ノ六百目ニ付札三匁御座候、

一、刻煙草小売

同 人

但シ刻小売直段之儀ハ只今上百目ニ付錢百三十二文亮、中  
百目ニ付錢百拾文亮御座候、

一、大工職人

同村 宇兵衛 印

但シ大工手間、當時自分造用ニ而壹匁歩代札三匁七分申受  
候、尤先造用ニ而者、壹日歩代札貳匁七分申受候、

一、綿打職人

同村 治兵衛 印

但シ綿打賃當時自分造用ニ而、操綿壹ノ目ニ付貳匁四分申  
請候、尤先造用ニ而者、壹ノ目ニ付錢貳匁申受候、

一、右同漸

同村 熊 吉印

一、土白はま入職人

同村 伊 八印

但シはま入賃壹日ニ付札六匁貳分申受候、

一、紺屋職人

同村 儀 助印

但シ紺屋之義ハ片時ニ御座候、尤染賃之義ハ上紺糸百目ニ  
付錢四匁、下紺糸百目ニ付錢貳匁ニ御座候、

七七三

一、焼酎小売 同村 伊兵衛印

但シ焼酎壹合ニ付代拾三文売御座候、

一、旅木綿商売 同村 善三郎印

但シ紀州熊野地江木綿売ニ参リ申候、

一、右同断 同村 佐兵衛印

右之者共百姓透聞ニ右商売仕居候ニ付、情々取調仕候処  
相違無御座候間、乍恐此段御断奉申上候、以上、

天保十三年寅四月廿一日

土橋村

年寄 喜八郎印

同断 平治郎印

庄屋 伊兵衛印

御役所様

○文字金銀並壹朱銀取調書

天保十三年八月

(山崎伊平文書)

天保十三年寅八月日  
文字金銀并壹朱銀員数取調書

土橋村扣

一、此度保字金銀、壹步銀、壹朱金之外、文字金銀、草  
字式歩判、式朱銀并壹朱銀等、此度不残通用御停止被  
仰出候ニ付、都而古金銀是迄御停止之品共致所持候者  
共、其品員数取調書上候様被仰付候ニ付、左ニ達申上  
候

一、銀壹朱壹ッ 武 八 ㊦

一、壹朱式両壹步 又三郎 ㊦

一、壹朱九両三朱 利兵衛 ㊦

一、壹朱三朱 郷右衛門 ㊦

一、壹朱一匁 吉五郎 ㊦

一、壹朱一步式朱 庄三郎 ㊦

一、壹朱壹匁 治兵衛 ㊦

一、壹朱壹步貳朱

孫 介 ㊦

一、壹朱壹步

弥 介 ㊦

一、壹朱貳兩壹步三朱

平兵衛 ㊦

一、壹朱五兩

喜八郎 ㊦

一、壹朱貳朱

平治郎 ㊦

一、壹朱貳步三朱

要治郎 ㊦

一、壹朱壹步三朱

(ハリ紙) 滝之市 ㊦

一、壹朱三朱

宇兵衛 ㊦

一、壹朱壹兩三分

善三郎 ㊦

一、壹朱三朱

茂右衛門 ㊦

一、貳朱銀壹步貳朱

同 人

一、銀壹朱貳拾五兩壹步

伊兵衛

右之通小前末々迄取調仕候処、前書之通仰相違無御座候、以上、

天保十三年寅八月日

土橋村

年寄 喜八郎

同断 平治郎

御役所様

庄屋 伊兵衛

○土橋村明細取調帳控

天保十四年九月

(山崎伊平文書)

村方明細取調帳 ひかへ  
大和国高市郡  
土橋村

一、高三百八拾五石六斗三升壹合五勺

大和国高市郡  
土橋村

引三百貳拾貳石五斗五升五合

内 田高三百六石壹斗貳升五合

引貳百五拾石八升九合四勺

畑高五拾六石四斗七升四合九勺

引五拾三石六斗七升三合六勺

真菅地区

七七五



池床高拾貳石四斗七升三合六夕

引八石四斗四升九合

屋敷高拾石五斗五升八合

引拾石三斗四升三合

荒高七升四合

一、稲毛苗代初伏之儀、年々三月中須ニ<sup>(領カ)</sup>初伏仕候、

但、初種耆反ニ付、早稲四升、中稲三升五合、  
晚稲三升五合程之割ヲ以初伏仕候

一、綿作蒔付之時節、年々春八十八夜ニ仕候

但、綿種田耆反ニ付耆ノ五百目、畑耆反ニ付  
式貫目蒔入申候

一、肥シ者稲毛ニ干粕遣ひ、綿作ニ者油粕遣ひ申候

一、出作高四拾四石三斗七升八合

但、当村御料方江出作高ニ御座候

一、出作高六石九斗貳升貳合

但、豊田村江出作高ニ御座候

一、村地高三拾八石九斗三升御座候

但、作付始末之儀ハ、惣入別江割付作方仕候

一、田地養水井手

三ヶ所

但、是ハ忌部村領并ニ曾我村領ニ御座候、  
尤用水掛リ之儀、当村領不殘相掛リ申候

一、田地養水井手

五ヶ所

但、是ハ当村領ニ御座候、尤用水掛リ之儀ハ  
拾七町五反相掛リ申候、御田地之儀御料私  
領入組ニ御座候

一、込池

但、込水之儀ハ重坂川筋方水込仕候、尤水込春八十八<sup>(夜カ)</sup>屋頃  
ニ水込申候、猶又御田地水掛リ之儀者、三拾三町五反四  
畝七步耆厘、相掛リ申候、尤私領御料入組ニ御座候

一、御高札

四 枚

一、氏神

貳 社

一、大日堂

壹ヶ所

一、針道明神

貳 社

一、針道<sup>(總)</sup>勧音堂

壹ヶ所

一、京都興正寺末社専念寺

<sup>(左採消シアリ)</sup>  
壹ヶ所

一、宮寺

一、墓 右之墓地、十市郡飯高村領在之、八ヶ村<sup>(郷カ)</sup>語墓ニ御座候

一、当村領境  
東八 豊田村  
西八 中曾司村  
南八 曾我村  
北八 大垣村

一、家数三拾六軒  
但、此内拾軒借家人ニ御座候  
内高持 三拾壹軒  
水吞 五軒

一、惣人数百五拾四人  
内男 七拾壹人  
内女 八拾三人

一、牛 三疋

一、馬 壹疋

一、小作之儀  
田壹反ニ付  
壹石貳參斗ニ為作申候  
作柴之外  
買上ケニ御座候

一、薪之儀  
買上ケニ御座候

一、男女稼之儀  
男ハ作間ニわ分畑  
女ハ糸稼仕候、尤男子ハ八  
九才頃方草刈仕候

一、井米壹石六斗九升

但、是八年々御地頭様方頂載仕候

一、米四石 庄屋給

但、此内壹石ハ御地頭様方頂載仕候

一、年寄給之儀ハ、壹目ニ付、米貳升夫代取ニ御座候

一、米壹石四斗 肝煎給

又ハ銀三匁也

一、米壹石五升 番人給

麥貳石三斗

実綿拾三斤

錢六百五拾文

一、村人足夫代米  
壹日ニ米貳升、尤郷人足ニ来リ候得  
者、貳升五合ニ相極メ申候

江戸江百貳拾里

京都江拾六里

大坂江拾里

南都江五里

一、当村方所々江里数

右之通ニ而、当村之儀ハ先前方明細書等無御座候、此度

取調書記差上申候、以上

天保十四卯年

壬九月

土橋村

年寄 喜八郎 印

同断 平次郎 印

庄屋 伊兵衛 印

○春日若宮祭礼懸物請取覚

天保十四年十一月廿二日

(山崎伊平文書)

春日若宮御祭礼懸物覚

一、貳拾羽 雉子

一、貳疋 兎

一、貳疋 狸

右請取所如件

天保十四癸卯年

十一月廿二日

神保三千次郎御家来衆

願主人衆 ㊦

羽田嘉蔵 ㊦

田中小左衛門 ㊦

○土橋村儉約取締書

弘化四年二月

(山崎伊平文書)

弘化四未年

村方儉約取締書

二月 日

土橋村

嘉永五年

子ノ正月八日辰年正月迄五年之間  
切添

村方申合規定之事

一、当村方之儀先年より儉約相守来候得共、更ニ驗も見  
江兼、近年追々難渋之者弥増ニ付、自然此儘差置候而  
村中必至之場所ニ至候而者致後悔候共無詮叟ニ付、此  
度一統申合五ヶ年之間諸向儉約方村役人組頭始相互ニ  
心付合せ、銘々手元取縮無益之費無之様、村為方第一  
ニ可相心得候、依之右年限中乱ニ不相成様取締方規定  
左之通、

一、正月元日時方年礼之義、未明之内名前人ニ而相納、  
其外年礼之儀可為無用叟、

一、同十四日富焼之事

但、東方人足押廻しニ而相建候、初西組も人足五人ツ、差出可申候、北方も右同様事、

一、右ニ付入用物差出方左之通

(貼紙)

高三拾石以上 萬壹束

わらぢ束ハ式敵四抱たる也

同拾五石以上 同半束

同五石以上 同小半束

同五石以下 同四己

無高 同式己

一、二之正月祝ひ有之節者、祝儀物錢五拾文限り可申候事、

一、右ニ付村方客相招候て諸事手輕ニ致し、膳分之義雜

煎酒飯一汁一菜限り、焼物鱈等無用之事、

但酒之義者各盡ニ而差出可申支、

肴かずの子午房煎豆重組之事、

膳分け之子魚類等無之事、

平ミ子赤(カ)ゑいの類ニ而作り草相用ひ、

山之芋椎茸可為無用事、

眞菅地区

一、三月五月前節句之義、村方へ重箱物等取遣無用之事、若被相招候ハ、何人ニ不限祝儀鳥目三拾文ツ、ニ限り可申事、

一、右ニ付村方家相招候ハ、酒肴作り草ニ而相仕舞、

素めん之汁二碗ニ限り可申事、

但むすび飯、すもし等決而致間敷候、

子供者きりこ之外可為無用支、

一、中元祝儀之義者名前人斗、村役人限りニ而相納、其

外礼廻リ之義者相止可申事、

一、産神祭之義、銘々仕来一通リニ致置、親類出会其外

他家相招候義可為無用支、

一、婚礼有之節者、樽入料是迄之通差出可申候、外ニ左

之通、

簞笥指ニ付 料五匁

長持壱指ニ付 同三匁

此外挾箱方以下 料式匁之事

一、右ニ付村方ハかき付飯之義左之通

七九九

高三拾石以上 白米五合

同拾五石以上 同 三合

同拾五石以下 同 貳合

但、借屋人村方ニ宗旨無之分者取遣無用之事、

一、右ニ付祝儀物之義、客来何人ニ不限、銀札壹匁可限

事、

一、右ニ付、勝手廻リ手伝衆前後仕度之義有合作草ニて

相濟し、家来ハ隣家限、酒肴等手輕ニ致、膳分者一汁

一菜ニ限り、吸物硯蓋焼物繪等決而可為無用事、

但、酒三献ニ限るへし、一献かます、二献午房、三

献蛸之類、盃者名盞ニ而取、盃者平ニ而相納候事、

平か為敷赤糸い之類作り草可用、山之芋椎茸不可用

事、

一、婚礼ニ付非人江差違し物左之通

高三拾石以上 白米五升

同拾五石以上 同 三升

同拾五石以下 同 貳升

一、嫁呼初之義、親類其外一切可為無用、三月五月土産

物并嫁引取之節、三日目土産物其外見舞、兩度之秋あ

げ見舞等為無用事、

一、再三之縁段婚礼有之節者、料物無之筈、かき飯之義

者前条之通、尤非人ニ者差遣し申間敷事、

一、初産之砌村方へ披露いたし候左之通、

上之分 白米三合

中之分 同 貳合

下之分 同 壹合

但し十一日目祝儀家来進物等堅可為無用事、

一、養子貰ひ請候ハ、足洗之節酒肴手輕可致支、

但、酒杯之義者婚礼之通可致、肴者かます、午房、

蛸之類其外硯蓋等無用事、

素麵之汁二碗ニ而可限事、

一、男女縁付之節、家来進物等堅無用之事、

一、元服祝之事、但元服祝ハ年限中無用ニ候、尤改名之

儀者是迄通ニ儉約ニ而可致事、

一、家普請上棟祝儀之儀、繩三把ニ可限候、大工手伝衆膳分之義、一汁一菜有合作草ニ而相仕舞、酒肴之義魚類等一切不可用支、

一、大工作料之義、是迄之通ニ而可相頼事、

一、家移リ之節、家来致し候共膳分酒肴等右ニ可順事、

一、諸支家来之節、座蒲団義堅無用支、

一、何事ニ不寄座頭祝儀之義、手輕ニ取斗可相頼事、

一、綿之打ちん是迄之通相頼可申候支、

一、時寄之義、別而儉約可致事、

一、参宮之節、留主見舞送り迎等堅可為無用、若拔参リ

之もの有之候共、右世話事いたし候義決而致間敷事、

一、伊勢講参宮之節、後見舞ハ無之筈、下向之節若被招

候ハ、為見舞錢五拾文ニ可限、出向酒肴之義者魚類

等不可用、むすび飯、にしめニ而惣弁当ニ可致事、

一、右ニ付土産之儀者講中々志軒前御祓井まんす十二可

限、外添物等無用之事、足休之義者親類之外決而可為

無用事、

一、此外諸方参詣等之節、留守見舞送り迎土産物等取遣一切無用之事、

一、伊勢講寄合之義、年々三度と相定、正月廿一日寄合

ハ講中ニ限り可申、三月十一月村方一統惣伊勢講ニ而

日限見合せ、半日相休可申、尤魚類等用候義、一切無

用之事、

但、勝手連座亥の子等堅無用之事、

一、花角力淨瑠璃等相催し候義者勿論、惣而花方之世話

等決而致間敷事、

一、頼母子講之義、五ヶ年之間決而致間敷事、

一、病氣見舞并ほうそ人有之節者、見舞取遣無用之事、

一、仏支有之節者都而膳分者一菜ニ可限支、

但、一菜之義者、のつへい之類ニ而可致、酒出し候

ハ、各盞ニ而壺盞ニ可限支、

一、葬式之節者、村方ニ而手伝中、且那寺人足たり共仕

上迄、酒無用之事、膳分一汁一菜ニ可限事、

但、香料等之儀者、札志匆ニ可限支、

一、葬式之節非人江施之義左之通

高三拾石以上 白米四升

同拾五石以上 同 貳升

同拾五石以下 同 壹升

一、此度規定取極候条目相認、村役人始組頭壹冊ツ、留置、毎年正月初寄いたし、相互ニ可改合事、

右之通仕法年限中規定取極候上者、村方吉凶其外寄合等有之候節、不洩様被相聞、諸向共致<sup>(應)</sup>勤略、惣而入用聊ツ、も相減し候様常々可心掛者勿論、右之条目無違背相守可申候、若規定相背候者有之候ハ、過料として烏目式貫文ツ、差出可申候、為後日連判如件、

弘化四未年

二月日

〔小槻〕

○小槻村村内取締覚

文政六年六月二十七日

(天図近世文書)

覚

一、当年格別之旱魃ニ而難洩之年柄ニ有之候所、米酒等之小売直段、割合ハ高直之旨申立、世間騒ケ敷趣、御上様江追々達御聞候間、可相成丈ケ直下ケ致、売出シ人氣相救リ候様可取斗旨、組合限村々早々取締リ仕候様被仰渡候趣、尤直段之儀者御上様ハ御沙汰難被成、所々ニより米之善悪も有之、直段甲乙可有之間、一樣ニハ難相定、其所々ニ而可成丈ケ直下ケ可仕様可取斗旨、猶又村々之内米貯有之候もの者、当時外方迄売出し候儀相止、村内又ハ隣村之米屋江売渡し、米屋ハ薄口錢にて売出し候へ者自売続キ出来可申間、是等之所勘弁を以村々程能ク取斗、何分人氣相治リ候様可仕旨被仰渡候趣、遂一承知仕候、  
右之通被仰渡候上ハ、組合村々之内米穀酒等小売致候もの者可成丈直下ケ致、百姓水吞困窮もの并其日過之もの共ニ至ル迄、人氣□等相成候様、当時勘弁為致候様取斗可申事、

一、一村限村役人ハ勿論、組頭江も得与申聞、五人組限リ取締リ、近郷又ハいづ方ニ而騒ケ敷最寄有之候共、村中之もの之内一人も右之場所江出会不申様、早々堅ク取締リ置可申候、若右様之場所迄出会候もの共有之候ハ、其もの之儀ハ不及申、村役人組頭五人組迄越度可相成義ニ候間、兼て相心得一村限銘々村方末々迄腕与取締リ、穩ニ相治リ候様可仕事、從御役所様被仰渡候趣、左之通

一、近郷隣在ニ而騒ケ敷儀有之、人寄り等仕候共、当御預所之者共、右様之場所江一人も出会候儀決而致間敷候、此段組合一村限小前末々迄急度申渡、請書印形取置可申候、万一心得違之もの有之、右様之場所江出会候儀相知レ候ハ、当人者勿論五人組頭村役人共迄不念之儀ニ付、急度可被仰付候、然ル上者村役人共ハ勿論、五人組限俱々吟味致、心得違無之様可致候、猶當時之所村人とも農業之外他引致間敷候、若無拋義ニて他出等致候ハ、其段五人組頭江相届、村役人之差図

を請可罷出候、夜ニ入候ハ、隣村たり共勝手往来致間敷候事、

一、御他領又者他所之もの共、御領所村内江入込、利不尽之儀致候風聞等有之候ハ、早速御役所江御注進可申上候、若臨時火急ニ多人数罷越利不尽之儀等致候ハ、兼而村内申合差押置、御訴可申上候、万一村人斗リニ而手向ひ致手余り候ハ、隣村又者組合村々之者共早々打寄差押候様、兼而手当之儀申合置可申事、

但、非人番共江者別段嚴敷相廻リ申付置、若隣村ニて人寄り等之儀聞出し候ハ、早々村役人共方へ申出候様急度申渡可置事、

右之通一村限早々取締リ仕候様可取斗旨被仰渡候段、御申聞被成、前書之趣、小前末々迄、一々篤与承知仕聊心得違之儀仕間敷候、依而一同請印仕候、以上、

小槻村  
久次郎 印

文政六年  
未六月廿七日  
村役人中

(求五十三名書略)



○小槻村、土橋村稻作凶作ニ付願上状案

文政九年十月二十七日

(天図近世文書)

乍恐御願奉申上候

高市郡

小槻村役人

土橋村役人

当村々稻作之儀ハ、植付後方照統

(旗標)(糞カ)

水無御座、

大旱魃ニ出合候得共、村中(一カ)同昼夜ニ不限丹精ヲ尽し、

井戸水等種々給揚稻作養ひ、専一ニ仕候得共、先達而御

毛見被為成、御苦勞重々難有(旗標)□恐入罷在候、然ル処右様

御見分被成下、御存知被為有候通り大旱損ニ而、当村之

義ハ至而難毛ニ而村役人共心痛ハ不及申上、小前一同途

方ニ暮候、何卒凶作之程御歎奉申上呉候様、村役人共方

江段々申出候ニ付、先達而方御見分被為成御苦勞候御儀

茂御座候ニ付、差扣居候様利解申聞取押候得共、稻作者

勿論、綿作迎も右ニ準シ、日痛ニ相成、尚又雜毛之義も

先達而御見分被為成候節ハ相応ニ生立候得共、此節ニ至

り御毛見被為成下候時節方ハ、俄ニ毛上悪敷相成、自然

取味等も無数様相見江、尚又心痛仕候ニ付、此段訳而御

歎奉願上候様、心痛之余リ押而村役人方へ段々相歎出候

ニ付、無余儀此段御歎奉申上候、何卒当年之儀ハ御毛見

御苦勞被為成下候通り、乍恐御賢察被成下、格別之厚御

憐愍ヲ以、御含置被為成下度、村役人共方御歎、縋而奉

願上候、

右之趣御聞届被為成下候ハ、御慈悲与千万難有奉存

文政九年

戊十月廿七日

小槻村

百姓惣代 庄 助 印

年寄 佐次兵衛 印

庄屋 藤兵衛 印

土橋村

百姓惣代 勘兵衛 印

年寄 源兵衛 印

庄屋 長四郎 印

高取

御役所様

○村組替被仰渡候所異議申立書

文化七年六月五日

(天図近世文書)

惣代との共

一、先月九日拾ヶ村組合之内、三人可罷出旨年預專治方被申渡候付、小槻村庄屋伊三郎、唐古村庄屋彦四郎、八田村年寄弥兵衛、惣代ニ罷出候処、左之通被仰渡、奉畏候而御受書、

一、是迄元小槻組、当分常門村年預專治江御預ケニ相成有之候処、此度御放免被成下、式下郡八ヶ村初瀬村年預利左衛門、本組江相増候様被仰渡、猶又高市郡式ヶ村年預專治へ相増候様被仰渡奉畏候、右之通村々江早々相達シ候様、惣代共へ被仰渡奉畏候、依之一同連印御受書奉差上候、

一、前書之通惣代もの共婦村仕、村々役人共申聞候処、此義御上様ニも厚キ嘗有之候而被仰渡候哉ニも奉存、村役人共方組合村々一同江披露仕候処、式下郡高市郡

真菅地区

十ヶ村之儀者先々方組合として陸敷相治り来候処、此度組合離れ〱ニ相成候而ハ、村役人共并村々一同敷ケ敷奉存候付、先月十一日前書之通御敷奉申上候処、厚キ御理解被成下候付、婦村仕村々一同へ御理解之趣申聞候処、御尤至極ニ奉存候へ共、乍併当組合小槻村清左衛門義者大恩有之、筆紙ニも難尽程之儀ニ而、小槻組年預ニ相離れ候義、幾重ニも村々一同敷ケ敷奉存候間、清左衛門子息盛人迄之所、小槻組と名目ニ而組合拾ヶ村之内ニ而当分代勤ニも被仰付被下度奉頼上候、左候へバ諸費(カネ)へ等も自然ニ有間敷哉と奉存候付、恐多御頼候へ共、御憐愍を以右代難ニ被仰付被下候様奉頼上候、何卒右之趣御聞届被成下候ハ、村方一同御慈悲と難有可奉存候、以上、

文化十年

西井上村

年六月五日

庄屋 八兵衛 ㊦

年寄 孫兵衛 ㊦

法貴寺村

庄屋 彦 六 ㊦

七八五

八田村  
年寄 清市郎 印

庄屋 嘉右衛門 印  
年寄 弥兵衛 印

西代村  
庄屋 又兵衛門 印  
年寄 清九郎 印

鍵村  
庄屋 勘三郎 印  
年寄 弥十郎 印

唐古村  
庄屋 彦四郎 印  
年寄 政八 印

小坂村  
庄屋 新七 印  
年寄 善二郎 印

武蔵村  
庄屋 平右衛門 印  
年寄 惣二郎 印

土橋村  
庄屋 庄七 印  
年寄 長三郎 印

小槻村

庄屋 伊三郎 印  
年寄 弥助 印

高取

高取御役所様

○二条城内外修覆金受取覚

(欠年) 巳二月

(天図近世文書)

覚

一、銀百四拾五匁八分五厘

右者京都二条御城内外御修復御入用掛、同二条御米蔵

御修復御入用、惣銀共書面之通慥ニ請取申処如件、

巳十一月

常門村

年預 専治 印

小槻村御役人中

○小槻村秤員数書

文化九年五月

(天図近世文書)

文化九年  
申五月  
秤員数書

高市郡  
小槻村

覚

一、廿三ノ

五挺

一、六貫ノ

十三挺

一、三ノ五百

壹挺

一、壹ノ匁

三挺

一、連てん

四挺

ノ 惣合卅六挺

右之通村方致所持候、尤改残壹挺茂無之差出申候、以  
上、

申五月

高市郡小槻村

庄屋伊三郎 印

神善四郎殿

真菅地区

多地区

〔大垣〕

○大垣村小入用明細書上ケ帳

明治六年三月日

(見門・河合正義文書)

明治六年三月日  
 小入用明細書上ケ帳  
 第八大区十市郡四小区  
 大垣村

- 一、 壹円五拾銭 穴師村方杭木□出ス駄賃
- 一、 壹円五拾銭 元郡山県永定金返納
- 一、 永五拾銭 今井木佐ニ而□十□□  
是者池水込□つ樋持入
- 一、 永五拾銭 池水込□つ樋普請人足  
五十人迄まつり、壹人前百文つゝ、

- 一、 同六銭貳厘五毛 郡山役所様方度々持廻り賃銭
- 一、 壹円 南口辻半別段頼ニ付取斗
- 一、 永七拾五銭 村彙ず書付賃
- 一、 同五拾銭 郡山ニ而ろそく二斤代
- 一、 貳円五拾銭 通井□□ニ付日
- 一、 永三拾七銭五厘 式斗、其外小豆、割木共
- 一、 永拾八銭七厘五毛 新堂井手土持人足夫代
- 一、 同七拾五銭 土佐出張所方度々持廻り賃銭
- 一、 同五拾銭 高反別書上ケニ付
- 一、 四円五拾銭 桜井ニ而□□宿料
- 一、 貳円四拾銭 俵本ニ而ろそく貳斤代
- 一、 壹円八拾七銭五厘 欠師吉平ニ而松六尺杭貳百本、  
壹本ニ付壹銭五厘かへ
- 一、 三円七拾五銭 同人ニ而八尺杭百本、  
壹本ニ付貳厘四毛かへ
- 一、 五拾銭 郡山郷宿多びや善五郎拾宿、  
壹宿ニ付拾八銭七厘五毛、  
南都郷宿米屋長平式拾宿、  
壹宿ニ付同断、
- 一、 貳円 願満ニ付氏神灯明油壹升  
并かわら代、千枚代、
- 一、 三拾壹銭貳厘五毛 八木村木原屋ニ而
- 一、 貳円四拾三銭七厘五毛 組合会談入用、  
元郡山県貳厘米上納入用、

- 一、永六錢貳厘五毛 (檢校) 壹枝橋寄進
- 一、同拾貳錢五厘 南都御役所様〆飛脚賃、
- 一、〆五拾錢 氏神様御明料
- 一、〆六錢貳厘五毛 高田村宮市雜用
- 一、永六錢貳厘五毛 南都御役所様〆度々持廻り賃錢、
- 一、七円七拾五錢 南郷元大庄屋組合掛り、
- 一、壹円 土橋村貫水ニ付、人足夫代雜用共、
- 一、壹円 村方年中会談敷料
- 一、五円六拾七錢 米川筋新堂村多村大垣村三ヶ村立合井手普請所、繩俵蓮其他諸事入用割合掛り、
- 一、貳円拾錢 右同断井手普請人足夫代、
- 一、永八拾五錢 貳拾壹工分、壹工ニ付拾錢つゝ、右井手ニ付壹文杭貳拾五本、
- 一、九円四拾三錢七厘五毛 葛本組合入用、右者郡中割並区内割合造用〆〆掛り、
- 一、貳円 今井木佐ニ而材木、右者池水込口つ樋さい敷、并関板共払、
- 一、壹円 村清六方ニ而紙貳拾五帖、壹丈ニ付四錢つゝ、
- 一、三円 俵本丹安ニ而紙ろそく、
- 一、五円 外色々共払、元郡山具米納ニ付、村方蔵敷料、

多 地 区

- 一、五円 副長年中夫代八拾工、壹工ニ付六錢貳厘五毛、三浦又治郎渡し
- 一、五円 右同断、三浦又四郎渡し
- 一、六円貳拾五錢 (マツ) 煎肝年中夫代百工、壹工同断、
- 一、貳拾八円八拾七錢三毛 堀さらへ人足四百六十工、
- 一、拾七円七拾五錢 池水かへ川水ばん外色々夫代、
- 一、貳円 貳百八十四工、壹工ニ付同断、
- 一、壹円 俵式百俵、壹俵ニ付壹錢つゝ、
- 一、壹円 蓮百枚、壹枚ニ付壹錢つゝ、
- 一、壹円 繩拾六〆目、壹〆目ニ付六錢貳厘五毛
- 一、五円七拾八錢八厘 南都宿米屋長平飯代
- 一、壹円 池水かへニ付車損料
- 一、壹円六拾錢 小算用拾度、壹度ニ付白米四升、
- 一、永七拾錢 〆四斗、壹升ニ付四百文つゝ、
- 一、拾六円貳拾八錢七厘五毛 右算用ニ付豆ふ七拾丁、
- 一、拾六円貳拾六錢五厘八毛 池床米五石四斗貳升九合貳勺、
- 一、百五拾六円貳拾六錢五厘八毛 壹石ニ付三円直段多村渡シ、
- 一、改百四拾六円七拾六錢五厘八毛

右之通相違無御座候、以上

右村百姓惣代

森本喜十郎 ㊦

副長 三浦又治郎 ㊦

同断 三浦又四郎 ㊦

戸長 三浦甚平 ㊦

奈良県令四条隆平殿

一、六円拾貳錢五厘

戸長三浦甚平  
給料米貳石代

一、永四拾五錢九厘貳毛

副長三浦又四郎  
給料米壹斗五升代

一、永四拾五錢九厘貳毛

同断三浦又治郎  
給料米壹斗五升代

〆七円四錢三厘四毛

右之通相違無御座候、以上

右村百姓惣代

森本喜重郎 ㊦

副長 三浦又治郎 ㊦

同断 三浦又四郎 ㊦

戸長 三浦甚平 ㊦

奈良県令四条隆平殿

〔豊田〕

○豊田新口間ノ事裁定者披露状

(文応元年) 六月十一日

(東大寺文書)

豊田新口間事、委細之旨定喜得業被仰候、定其之趣可有

御披露候敷、恐々謹言

(文應元)  
六月十一日

顯胤奉

○豊田庄ニ付東大寺衆徒申状

徳治二年八月

(東大寺文書)

東大寺衆徒等申

当寺西室旧領大和国豊田庄一代院主放券間、依度々訴

申、且任傍例、且為八幡大井御遷宮用途、被返附于当

寺間、殊仰善政貴処、就金峯山尊遍申状、可置所務於

中由被仰下条、失面目上者、当寺可管領旨、重欲成下

院宣子細事

副進

三通 院宣案 被返付于当寺由事

一通 院宣案 可置所務於中由事

右大和国豊田庄者、為西室旧領之上、惣寺之課役勤仕之地也、而一代院主放券之間、且任御徳政傍例、且為八幡宮御遷宮之料所可被返附于当寺之由就訴申（中略）

徳治二年八月 日

○豊田新口両庄ニ付満寺評定申達状

（欠年）六月十三日

（東大寺文書）

豊田新口両庄興行事、就先日牒送之趣、<sup>問答</sup>触本所候之處、以興隆之儀、雖有其沙汰、為満寺之評定令執申候之上者、可止其沙汰之旨、所返答候也、以此旨可令披露給候哉、恐々謹言、

六月十三日

（東大寺）  
年預五師定算

謹上 別会五師御房

「

○大和国十市郡豊田村御檢地帳写

文禄四年九月七日

（安達信正文書）

文禄乙未四年

大和国十市郡豊田村御檢地帳写

九月七日

（末尾集計ノミ）

一、上田合拾五丁四反五畝拾三步半

分米貳百四拾三石四斗八合四勺

一、中田合三町四反七畝拾步半

分米四拾六石三斗六升貳合九勺

一、下田壹町五畝廿貳步半

分米拾貳石貳斗壹升四合七勺

一、荒田壹反五畝拾步

分米壹石七斗七升壹合

一、上畑六町四反五畝六步半

分米八拾壹石貳斗九升七合三勺



一、中畑式町七畝八步

分米貳拾壹石七斗六升三合

一、下畑六反四畝拾八步半

分米五石四斗五合四勺

一、荒畑五反五畝廿四步半

分米四石四斗五升

高合四百拾六石六斗七升八合六勺

紙數四十四枚 但うは紙共但穿旗面紙數不足  
紙數三十九枚

石田治部少輔打口

┌

○野荒之禁斷一札

元文五年七月廿六日

(天図近世文書)

一札之事

一、当村野荒シ在所内ニおゐて少シ物も□申間敷候、勿

論村之内ニ而左様之事仕候者御座候ハ、御上様江御

改御吟味之上如何共村中之御了簡ニ被成可被下候、其

時一言申間敷候事

一、若野荒之盗人とらへ候者有之候ハ、為褒美鳥目壹

貫文ツ、惣中、可被下候極メ也、為其堅メ印形仍而如  
件

元文五申七月廿六日

小助<sup>㊦</sup> 伊助<sup>㊦</sup>

(他七十八人略)

┌

○和州十市郡豊田村宗旨御改帳

宝曆十二年二月

(天図近世文書)

宝曆十二年 和州十市郡豊田村宗旨御改帳 午ノ二月
--------------------------------

(前略)

惣家數合四拾九軒

憩人數合貳百廿五人 内 百壹人男 百廿四人女

右之者当村宗旨御改ニ付、家内召仕之男女迄相改帳面指

上ケ申候、少も相違無御座候、以上

宝曆十二年

豊田村年寄 又次郎

午二月

同断 源五郎

同断 清兵衛

同村庄屋 孫左衛門

細井郡治殿

(以下略)

○問屋組合再開ニ付口上書

嘉永四年六月

(安達信安文書)

乍恐口上書

一、此度於江戸表問屋組合等、都而文化以前之通り被仰付候而者、御当地ニ而茂追而御沙汰可有御座候ニ付、前々問屋仲ケ間等被遊御立置候渡世筋ヲ以、当時渡世致居候者とも、都而前々ニ不抱現在之盜(盗カ)ヲ以、名前相認可差出旨御触流ニ付当時相調候処、左之通りニ御座候

多地区

安永年中名渡世仕候

一、人力絞リ油持

佐藤金之丞知行所

和州十市郡豊田村

午年寄油屋新治郎

右之通り御座候 以上

嘉永四辛 亥六月日

庄屋 与平治

組頭 小兵衛

御奉行様

○豊田村儉約承知連印帳

天保拾五年正月

(天図近世文書)

天保拾五歳  
儉約承知連印帳  
辰正月吉日

村方儉約定之事

一、聳取嫁取婚礼(扱カ)被露之儀者庄屋年寄之分者赤飯壺升余

七九三

リ宛名前書入賦可申候、同断組頭之分者壺升斗ツ、右  
 之通、末之分者七八合ツ、同断之御事ニ候、至而末之  
 分者五合ツ、石を見積リ可賦候、其節呼衆之儀茂一家  
 親類実<sup>(悪)</sup>恕之間柄者別段ニ候得共、費ニ不相成様赤飯ニ  
 而、屋茶之儀者手作物ニ而軽く相當可申候、附リ、女  
 衣類之儀者、袖迄ニ而軽く可致候、并ニ嫁入荷物之儀  
 茂随分限<sup>カ</sup>軽く取遣可致事、其節隣家ニかきらず手  
 伝人大勢呼寄申間敷候、猶又余リ膳杯決<sup>(非)</sup>而無用ニ而  
 候、其節役人江届ケ可申候、附リ下役呼寄悲人之処庄  
 屋呼寄之分者、白米三升余リ□組頭之分者式升五合ツ  
 ヲ、末之分者右見積リ取斗可為致候、儉約料として高  
 石ニ付五升ツ、棟役壺升宛当人より出来可致候、但  
 直段六拾匁かへ之定也、

(以下略)

天保拾五歳

辰正月 日

和州豊田村

百姓惣代 利兵衛

年寄 新治郎

同断 宇兵衛

○豊田村小入用明細帳

明治六年三月

(見門・河合正義文書)

明治六年 十市郡 豊田村  
 去申村小入用明細書上ヶ帳  
 酉ノ三月

第八大区十市郡第四小区

一、金三円六十銭

一、金式円五十銭

一、金式円五十銭

一、金五十銭

今井木徳<sup>カ</sup>松<sup>カ</sup>壺寸板<sup>カ</sup>壺尺巾三十枚、  
 志<sup>カ</sup>枚<sup>カ</sup>ニ付<sup>カ</sup>壺<sup>カ</sup>式<sup>カ</sup>百<sup>カ</sup>匁<sup>カ</sup>ツ、中露通  
 西池込樋<sup>カ</sup>関<sup>カ</sup>板、

右同人<sup>カ</sup><sup>カ</sup>坪<sup>カ</sup>板<sup>カ</sup>式<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>ニ披<sup>カ</sup>挽<sup>カ</sup>ニ付、  
 入用<sup>カ</sup>壺<sup>カ</sup>ツ<sup>カ</sup>ニ付<sup>カ</sup>壺<sup>カ</sup>円<sup>カ</sup>廿<sup>カ</sup>五<sup>カ</sup>銭<sup>カ</sup>ツ、  
 右同人<sup>カ</sup><sup>カ</sup>西<sup>カ</sup>池<sup>カ</sup>込<sup>カ</sup>樋<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>披<sup>カ</sup>挽<sup>カ</sup>ニ付、  
 右<sup>カ</sup>壺<sup>カ</sup>間<sup>カ</sup>四<sup>カ</sup>寸<sup>カ</sup>五<sup>カ</sup>分<sup>カ</sup>角<sup>カ</sup>拾<sup>カ</sup>丁<sup>カ</sup>、<sup>カ</sup>壺<sup>カ</sup>丁<sup>カ</sup>ニ付<sup>カ</sup>廿  
 五<sup>カ</sup>銭<sup>カ</sup>ツ、

右同断披挽<sup>カ</sup>ニ付<sup>カ</sup>針<sup>カ</sup>拾<sup>カ</sup>わ、  
 壺<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>ニ付<sup>カ</sup>五<sup>カ</sup>銭<sup>カ</sup>ツ、

見習庄屋 与平治  
 (兼帶力)  
 見躰庄屋 藤兵衛

- 一、金壹円五十銭 右同断大工手百五工、造用共、手間賃土橋大工幸三郎へ渡ス
- 一、金五円 飯森塚村木屋佐治平 壹丈桧杭百本、壹本ニ付五銭
- 一、金六円 飯森塚村木屋佐治平〔一〇〇〕 桧八尺杭式百本、壹本ニ付三銭づゝ、右同人ノ六尺杭桧百五十本、壹本ニ付壹銭五厘ツ、
- 一、金貳円貳拾五銭 土俵三百五十俵、壹俵ニ付百五十文づゝ、供水之節飛鳥川筋へ入用
- 一、金五円貳拾五銭 繩五十ノ目、壹ノ目ニ付 六百文ツ、
- 一、金三拾円 飛鳥川筋堤笠置両池水口土砂出し人足三百人、壹人ニ付壹ノ文づゝ、外人足共
- 一、金五円 両池水出し入、田地へ入渡し共、年中人足渡し切賃
- 一、金三拾四銭六厘四毛 墓道年貢米壹斗壹升代 飯高村戸長へ年々渡ス
- 一、金六円貳十九銭八厘 肝煎年中夫米貳石代渡ス
- 一、金五円 郡中割、組合割 算用小入用共
- 一、金貳拾八円拾七銭 中露通り余内外ニ堤裏附西池敷地共 米八石九斗四升四合九夕代夫々持主へ渡ス
- 一、金五円 村会所披挽入用
- 一、金七十五銭 多社掛り
- 一、金百拾貳円六拾六銭四厘四毛

多地区

右之通り相違無御座候、以上

右村  
百姓代 森 嶋 小平 ㊦  
副戸長 山 本 利 平 ㊦  
同 安達新治郎 ㊦  
戸長 安達与平治 ㊦

奈良県令四条隆平殿

〔西新堂〕

○米川筋井堰取替書

安政五年七月

(藤本政隆文書)

為取替書之事

一、米川筋新堂村地内字地蔵前与申処、同村多村大垣村与三ヶ村立会、<sup>(虫損)</sup>葉井手ト申井堰在之、同所ノ養水引取村々百姓相統罷在候処、右用水引取通井筋、新堂村地内字地蔵前与申処、通井端ノ東手江五尺八寸離シ、三尺五寸四方之井戸壹ヶ所、并字銚子通井南側通端

右、三步通り通井筋江掛ケ、三尺五寸四方之井戸巻ケ所、右弐ケ所新堂村ノ新規ニ掘立湯水之節濼取候ニ付、多村大垣村養水ニ相抱候旨申立、彼是入縄、既ニ御公訴ニも可相成之処、任仲人取唆和談穩濟之訳左之通、

一、新堂村地内字地藏前并銚子弐ケ所、掘立候井戸通井筋流水絶切候上、漂水可致筈、自然多村大垣村ニ差支之内日柄在之候者、其日者漂水相止可申筈、尤立会養水通井筋新規之儀、決而致間敷候事、

右之通ニ而双方無申分和談相整申候、然ル上者前書約定通、急度相守違変無之筈、其余者何事も先規仕来通り取斗可申筈、為後証双方并取唆人連判為取替証文仍而如件

安政五年

午七月日

十市郡新堂村

庄屋 善治郎

年寄 善兵衛

同断 宇兵衛

組頭惣代 善右衛門

百姓惣代 伊右衛門

同郡多村

庄屋 与平治

年寄 新兵衛

同断 甚三郎

組頭惣代 長九郎

百姓惣代 又三郎

同郡大垣村

庄屋 又四郎

年寄 忠五郎

同断 又左衛門

組頭惣代 甚右衛門

百姓惣代 喜兵衛

前書面之通無相違、依而印形可加候

十市郡常盤村

取唆人 重治郎 ㊦

同郡葛木村

取唆人 仙助 ㊦

同断 丈助 ㊦

〔新口〕

○新口村御検地帳写

文禄四年、寛永八年写

(天図近世文書)

新口村文禄四年検地帳写

(末尾ノ集計ノミ)

上田拾三町六反五畝廿六歩

分米貳百拾八石五斗三升一合

中田七町七反九畝廿四歩

分米百九石壹斗七升

下田九町壹段七畝廿二歩

分米百石九斗四升三合

上畠四町壹段八畝三歩

分米五拾石壹斗七升二合

多地区

中畠貳町九反四畝拾三歩

分米貳拾九石四斗四升七合

下畠貳町壹段二畝拾八歩

分米拾七石七合

下、畠荒四畝五歩

分米三斗三升三合

居屋敷壹町四反貳畝四歩

分米拾八石四斗七升

田畠合四拾壹町五段九畝五歩

分米合五百四拾四石八升

(アトフデ) 内貳斗壹升七合タラス

文禄四年九月九日

右ノヲモテホンノコトクコレヲウツス

一、本帳之表少も不相違うつし了、若本帳うしない於申  
テハ、此長のおもてにてけさん用あるべし、右之長ね  
んの入うつし申候、うたかい之□在間敷候、仍状如件  
(許算) (候)

(ツカカモ) 松尾氏 (花押)

(花押)

寛永八年辛未正月吉日

正清 (花押)

七七七

(アトフデ)

- 一、本長と三べんよくあわせ申候事
- 一、さん辺も三べん置合申候事

」

○新口村庄屋役内諸書物引渡目録

(嘉永頃)

(天図近世文書)

新口村庄屋役内諸書物引渡目録

大福組

目録

- 一、水帳 文禄年中  
元禄年中
- 一、水帳 天明年中
- 一、領内反別絵図 并領内道幅  
絵図共
- 一、村居屋舗絵図
- 一、御免札 天明元丑年方寛政  
五丑年迄拾三ヶ年分

- 三冊
- 壹冊
- 壹袋
- 壹枚
- 壹括

- 一、御免札 寛政七卯年方午  
年迄四ヶ年分
- 一、皆済状
- 一、式拾壹ヶ条御法度書
- 一、御役所様方相渡り候御法度書
- 一、米川筋山之坊村一札并書物共
- 一、飛鳥川筋高殿村方為取替一札  
并四分村四條村方為取替一札共
- 一、飛鳥川筋下郷九ヶ村大絵図壹枚  
但小絵図三枚添
- 一、上品寺村方取置候深溝寸法一札  
水引年貢証文外二一札四通ノ六通
- 一、飛鳥川筋地黄村方差入候一札  
并水論済証文
- 一、新堂村溜池ニ付取置候一札
- 一、米川筋葛本村方川中境目絵図  
但、此絵図、弘化四未年引渡之節相見不見、  
乍去大庄屋三人之一札
- 一、同葛本村方郷会橋普請願帳
- 一、新堂村方出入書物

- 壹括
- 壹括
- 壹通
- 壹冊
- 壹袋
- 式通
- 壹括
- 壹通
- 式通
- 壹袋
- 四冊
- 壹袋

- 一、御巡見諸書物 壹袋
- 一、郷宮踊書物 壹括
- 一、池浚書物 三冊
- 一、<sup>(青丸)</sup>光寺什物帳 貳冊
- 一、兩川并領内御普請所御願帳控 壹括
- 一、綿方并稲作見立帳面控 三冊
- 一、宗旨帳 拾七冊  
寛政六寅年方  
文政三辰年迄之内
- 一、村方定式人足賃定帳 貳冊
- 一、村付道具并帳面目錄帳 貳冊
- 一、諸願書控帳 壹冊
- 一、御年貢并小入用帳 八冊  
寛政八辰年方  
午年迄三ヶ年分
- 一、御免割帳 貳冊
- 一、御藏道具 壹通リ
- 一、杭ぬき 壹ツ
- 一、鉄ふしぬき 壹本
- 一、綿秤 貳挺
- 一、式拾三貫秤 壹挺
- 一、大まとひ提灯箱入 貳張
- 一、中提灯 三張
- 一、古のほり 右貳品箱入
- 一、天秤并分銅共 壹挺
- 一、銀箱 壹ツ
- 一、押切印 壹ツ
- 一、青光寺印類 壹ツ
- 一、用要 □一札御普請帳面入箱 壹ツ  
<sup>(水丸)</sup>  
寛政十一未申享和元酉戌同亥  
文化元子同二丑同三寅同四卯
- 一、御免札 九通
- 一、御皆済状 九通
- 一、御藏米かよひ 壹通
- 一、宗旨帳 六冊
- 一、御免割帳并水論方 六冊  
御赦米支払帳三ヶ年分
- 一、御年貢帳 拾冊  
丑寅卯三ヶ年半分  
小入用銀差引帳共
- 一、御納所帳直段算用帳其他諸帳面 壹括
- 一、公儀御触書控 壹冊  
寛政十一未年方  
十ヶ年分
- 一、米川筋新賀村水論為取替一札 壹通



- 一、米川筋新賀村与水論訴状返答 壹袋
- 一、米川筋水論入用借用仕払帳 六冊  
享和二戌年  
文化四年迄
- 一、米川筋水論入用 五冊  
寛政九巳年  
五ヶ年分明細帳扣  
和二戌年迄
- 一、米川筋水論借入銀主帳 壹冊
- 一、聖護院三宝院遊行上人書物 壹袋
- 一、分銅改并秤改書物 壹袋
- 一、池波願之控 壹括
- 一、吞水とゆ普請書物 壹括
- 一、博奕受印帳 壹冊
- 一、義倉方書物 壹袋
- 一、春日御殿木書物 壹括
- 一、御免札 四冊  
文化五辰年  
未年迄四ヶ年分
- 一、御皆濟状 拾通  
文政九甲年  
巳年迄拾ヶ年分
- 一、御蔵かよひ 拾三通  
文化五辰年  
三辰年迄十三ヶ年分
- 一、宗旨帳 拾式冊
- 一、御年貢帳 拾三通  
文化五辰年  
迄拾三ヶ年分
- 一、御触書控 三冊

一、御免割帳并小入用帳 拾冊  
文化五辰年  
三辰年迄十三ヶ年分

一、東西并大井手領内損所其他普請所願帳 拾三冊

一、五人組帳 六冊

一、積米御調帳 貳冊

一、氏神拝殿普請書物 三冊

一、郷宮踊書物 四冊

一、南都御奉行御巡見書物 壹括

一、新義倉帳并取立帳共 壹袋

一、喜之助一件書物 壹括

一、村駕籠 壹挺

右ハ文禄四年(迄九)文政三辰年(迄九)百九拾六ヶ年分之間諸書物  
先帳面之通此度引渡申候

(\*本帳ハ嘉永年間ノモノト思考セラル)

○公儀御陵改御通行ニ付歎願書

文久三年六月

(天國近世文書)

文久三亥年

徳大寺様

少路様  
戸田大和守様

六月

新口村

一、拾壹匁七分

年寄太蔵南都御番所様行  
二日分、日役雜用共

一、四匁

南都吉野屋書付  
ちん四通筆工代

一、三拾匁

右者大庄屋様御出役中飯代貳拾匁、  
但し壹飯壹匁五分宛、二月十九日方  
廿五日迄、日數七日間

一、貳拾七匁

右同断ニ付喜多氏様御出役中十八飯代、  
但し二月十九日方廿五日迄日數七ヶ之間

一、拾貳匁

右同断ニ付萩村氏様、八飯代

一、貳拾壹匁

右同断ニ付松吉二郎様、十四飯代

一、六匁

右同断ニ付味間村作二郎、四飯代

一、四匁五分

右同断ニ付広吉甚右衛門様、三飯代

一、十貳匁

和尔方人足八人分飯代、八飯分

一、百四拾四匁

右同断ニ付村役人四人、十八日方廿五日  
迄、日數八日之間、飯數九拾六飯代

一、九拾四匁五分

右同断ニ付肝煎内働三人分、六拾三飯代  
十九日方廿五日迄日數七日之間

一、拾八匁

右同断ニ付味間村方人足四人  
相履候飯代、但し十貳飯分

一、三匁貳分

大工定動作事料一日分

一、壹匁五分

右同断ニ付同人壹飯代

一、廿八匁

右同断ニ付御出役中酒肴代、  
壹升ニ付貳匁五分宛

一、三拾七匁五分

右同断ニ付大道作り砂持  
人足へ酒壹斗五升遣又

一、貳拾四匁

右同断ニ付村役人内働  
人足、味間人足共酒代

一、廿五匁

右同断ニ付宿余内

一、八拾七匁

御上下六人様分、定次郎宿、五拾九飯代  
但し二月廿二日方廿五日昼迄

一、貳拾七匁

右同断ニ付味間村幾三郎儀平兩人、  
拾八飯代、但し二月廿二日方廿五日迄

一、五拾四匁

右同断ニ付内働三人、三拾六飯代、  
但し二月廿二日方廿五日迄

一、廿五匁

御上下六人様分酒代、  
但し廿二日方廿五日迄

一、拾五匁八分

右ニ付内働村役人  
酒代

一、拾五匁

右ニ付御宿余内

一、貳百八十匁五分

右者大道作り砂持人足并差人足共  
百八十九人、但し十八日方廿一日迄歩代

一、百三匁五分

右同断ニ付田原本行人足、廿二日夜方  
廿三日暮迄六十九人、弁当持雨具持共

一、八拾九匁七分

右同断夜中増人足六十九人、  
但し壹日ニ壹匁三分宛

一、百廿四匁貳分

右同断ニ付人足へ昼夜弁当貳度分遣ス、但し壹度ニ五合ツ、壹匁五分がへ、六拾九人分

一、六拾匁

右者役人代杖突箒引、遠目用意人足、橋番人足、村出口人足、村内打廻人足共四拾人

一、五拾四匁

今井行人足廿三日夜より廿四日暮迄弁当持雨具持共三拾六人

一、貳十七匁

右同所行、夜七ツ時頃參候ニ付半まし、但し三拾六人の内十八人

一、四十八匁六分

右同断人足弁当米、壹人前ニ七合五夕宛但し三十六人分貳斗七升代

一、四十五匁

右者役人代其外杖突箒引人足共三拾人

一、貳匁八分

田原本夫人足五人

一、貳匁

八木今井夫人足五人

一、十四匁

御代官所様御引取之節人足七人

一、八匁

越知様御引取之節、人足四人

一、廿四匁

太藏安兵衛夫代、但十六日分

一、貳拾四匁

定次之方ニ而内働人足共拾六人、但し廿二日及廿五日迄

一、三十七匁五分

安兵衛方内働肝煎人足共十九日及廿五日迄

御代官所様送り人足和尔郷宿飯代

文久三亥年  
菊亭様御通行ニ付出入足諸入用歎御願帳  
六月

一、拾六匁五分

菊亭様御通行ニ付、越知御氏喜多氏御出役中、飯代十壹飯代、但し壹度ニ付壹匁五分宛

一、七拾八匁

右同断ニ付、村役人貳人内働共、飯数五十二飯代

一、拾貳匁

宿余内

一、十四匁

右之節酒代、但し壹度ニ付貳匁五分がへ

一、四拾三匁五分

右同断御用ニ付、御代官所様御出役之節御上下六人様分、但し廿七日及廿八日迄廿九飯代

一、五拾貳匁五分

右同断役人内働肝煎人足共、飯数三拾五飯代

一、貳拾匁七分

右之節酒代

一、拾五匁

宿余内

一、百三十匁五合

右者大道作り人足八十七人分、但し壹人前之代、壹匁五分宛

一、十三匁五分

右者平人足田原本行、雨具持弁当持廿九人

- 一、六匁七分五厘 右同断まし人足四人半
- 一、拾式匁壹分五厘 右同断人足九人分弁当、老人前七合五夕宛、但し壹升ニ付壹匁八分がへ
- 一、三拾三匁 御通行之節、役人代杖突、御引、外人足共式拾式人□
- 一、貳匁壹分 田原本夫人足三ヶ度分
- 一、壹匁四分 今井行人足貳ヶ度分
- 一、拾四匁 御代官所様御歸り之節、送り人足七人分
- 一、貳匁 越知御氏御歸り之節、送り人足
- 一、廿四匁 御通行之節今井行、人足十六人分夫代
- 一、拾式匁 右同断人足へ半まし、八人分夫代
- 一、廿壹匁六分 右同断人足江弁当料壹斗貳升、但老人前ニ付七合五夕宛、壹升ニ付壹匁八分がへ
- 一、四十式匁 御歸京之節役人代り其代、諸人足貳十八人
- 一、拾貳匁 太藏安兵衛八日分日役、但し廿五日が廿八日迄
- 一、拾匁五分 年寄安兵衛南都和尔相兼二日分、但難用共
- 一、七匁四分 茂兵衛龜吉和尔表へ、人足夫代飯代共
- 一、拾匁五分 御代官所様送り、其節七人分飯代

多 地 区

- 一、貳匁五分 越知御氏送り人足 壹人分飯代二度分泊り 両度ろうそく代
  - 一、貳拾五匁 半紙壹束代
  - 一、拾貳匁 筆工料
  - 一、拾匁 筆工料、但し雨具共
  - 一、七匁五分 筆工料
  - 一、十三匁五分 才助宿内働三人分 三日之間人足共九人
  - 一、十三匁五分 太藏宿内働式人分 外と人足共
  - 一、六百九拾壹匁六分
  - 二、貳匁貳匁三百七拾七匁六分
- 右之通多分之諸入用相掛申候処、近年諸式高直ニ而難波仕居罷有候、然ニ此度臨時御用之儀多分之銀高ニ而、役人共甚心痛仕居候ニ付、御時節柄をも不顧奉願入候得共、此段奉願上候、何卒御聞届被成下候様奉願申上候、以上、

文久三亥年六月

新口村年寄  
安 兵 衛 印

同村同断

太 藏 ㊦

同村庄屋

長 九 郎 ㊦

同村同断

藤 本 才 助 ㊦

越知範十郎殿

┌

一、御取米去辰年貳百四拾壹石壹斗六升  
高石二四ツ四分三厘貳毛四糸之弘

一、惣畝數三拾八町八反壹畝貳拾九步  
分米五百石三斗四升八合

内

三拾七町七反壹畝拾九步

分米四百八拾五石八斗四升三合

壹町壹反拾步

分米拾四石五斗五合

但田畑共上中下之差別相分り不申候

一、米四石八斗九升六合

御種貸米利

一、同五斗

作食米利

一、同五石五斗四升

千石夫米

一、同五石四斗四升

庄屋給

一、同壹石五斗

年寄給

一、同壹石斗三斗

小使給

一、銀百五拾匁

池守賃

一、同三拾四匁七分壹厘

隔年納伐竹代

一、家數八拾壹軒 内貳軒寺

○新口村段取帳

明治二年

(天図近世文書)

「明治二年大和十市郡之内段取帳 大福組」

一、本高五百四拾四石八升

新口村

内

荒無地高

六石九斗三升九合

〔三〕毛附高

五百石三斗四升八合

池敷地高

拾三石三斗六升

宮地高

六斗六升六合

屋敷高

貳拾貳石七斗六升七合

一、人数四百五拾三人 内男 貳百三拾壹人  
貳百貳拾貳人

一、牛数 貳疋

一、組頭 拾五人

無足人 藤本庄治

同断 藤本喜太夫

一代限無足人格 橘三右衛門

社

氏神 素齋鳴社

寺

一、無本寺  
真言宗

青光寺 金亀

善福寺 了錫

一、当村人家中<sub>右</sub>東之方隣村葛本村人家中迄凡八町半、  
西之方豊田村人家中迄凡九町、南之方上品寺村人家中  
迄凡八町半、北之方新堂村人家中迄凡貳町半

一、池 字菴町田 菴ヶ所 ㄥ

多地区

○新口村小入用明細帳

明治六年三月

(見門・河合正義文書)

去申年小入用明細帳  
十市郡第四小区  
新口村

七拾五貫五百八拾文

肝煎夫米伝蔵江  
米貳石四斗代遣ス

百七拾貫文

元久居巢ヨリ御国割掛リ

百六拾貫文

米川筋堤除ケ八尺杭  
四百本、菴本ニ付四百文かへ

三百五拾貳貫文

四拾貫文

用水井手前田并飛鳥川筋堤除ケ  
菴文杭四百四十本、菴本ニ付八百かへ  
米川筋堤除ケ六尺杭貳百本、  
菴本ニ付貳百文かへ

拾八貫貳百文

井手普請并杭打人足之節、酒貳斗八  
升遣ス、但し菴升ニ付六百五十文かへ

五拾五貫文

年中蠟燭代八木釜忠方へ払

五貫文

杭打ニ付入用当村字藏方払

拾五貫文 葛本村惣治郎方へ蠟燭代払

貳拾貫文 年中村方へ繩俵仕替置候分出又

八貫三百貳拾文 内檢長差上候節、仮代南都吉谷方江仕、申三月前払

百八拾三貫三百文 水論并諸事用向ニ付、仮代南都吉善方へ右同断

六貫八百文 八十辻嘉方ニ付、組合集會ニ付仮代払

三拾三貫文 水論并諸事用向ニ付仮代土佐佐田治并小間治兩人掛

拾五貫文 元久居瀨江諸事用向ニ付仮代和尔ヤ宿久六方江払

五拾五貫文 田原本丹安方江年中紙代払

貳拾八貫三百文 元久(居脱力)県江用向ニ付罷出候節樅本奥又方江仮代払

拾九貫三百文 昨申六月高反別御調之節三嶋村江雜用払

拾三貫百文 組内井手ヶ所修履ニ付今井木佐方へ材木代払

三百七拾貫文 村方人足仗代

貳百四拾七貫九百貳十文 池床ニ而拾三石三斗六升、昨申年此年貢凡七石八斗七升三合代出又

八貫文 昨申七月高反別御調之節、田原本土橋方江仮代払

合錢千八百九拾八貫八百貳拾文

右村副戸長

西沢利三郎 ㊦

同断

吉川安五郎 ㊦

戸長

森川新三郎 ㊦

百七拾壹貫三百文

戸長給米、森川新三郎江米五石四斗四升代遣又

拾五貫七百四拾五文

副戸長給米、西沢利三郎江米五斗代遣又

拾五貫七百四拾五文

副戸長給米、吉川安五郎江米五斗代遣又

## 耳成地区

〔太田市〕

### ○落切シ伏樋ニ付五ヶ村取替書

文化六年

〔寫本・藤本政隆文書〕

為取替申一札之事

一、十市村太田市村用水御普請所分水之義ハ、竹田村領字大坂部ニ御座候、右ヶ所カ少上方北側ニ竹田村領字落切シ与申所ニ伏樋（式カ）□ヶ所在之候所、右伏樋之義竹田村ニ者先前より字大坂部分水、水越胴木カ三歩下ヶニ伏来リ、猶又右落切シ御田地之儀者地面高ク、其上下郷式ヶ村御普譜度毎ニ隔年ニ伏方在之、依之前年之有形ニ而水試致、古キ分水ヲ消リ、自然水越胴木低ク相成候段申立、下郷十市村太田市村ニ者石分水与落切樋方ニ同様ニ而、少も高下無之段申立、無処違却ニ相成

八ヶ年以前出入ニ罷成、京都於御奉行所ニ御吟味御聞掛ヶニ相成候処、纒之儀ニ付御上様之御苦勞ニ奉成段奉恐入、殊ニ困窮之時節柄双方失却相懸ヶ候儀も歎ヶ敷候、依之双方カ葛本村小左衛門殿相頼候処、右小左衛門情々取暖挨拶被致呉候ニ付、双方納得之上右樋伏方之義、挨拶人へ相任目濟仕、則御上様へ右之趣ヲ以濟状差上候義ニ御座候、然ル処此度十市村太田市村立会御普請打損シ伏替被仰付候ニ付、右伏樋高下改ニ相成候ニ付、先達而挨拶人葛本村小左衛門江双方カ相頼候処、伏樋高下右分水胴木与見合水越カ樋方カ分五厘下ヶニ被致呉、尚又伏替度毎ニ右水越胴木先例カ低ク相成不申候様、下郷兩村カ心付致シ可申約束ニ而、双方得心之義ニ御座候、然ル上者向後右分水伏替之御り、高下改之節者水越胴木カ分五厘下ヶニ而竹田村カ伏方可致申合ニ御座候、誠ニ後々ニ至迄違乱無之様、双方為取替置申候処仍而如件、

文化六巳年

十市郡十市村御料方



庄屋代 徳兵衛

年寄 栄次郎

同断 清蔵

同村私領方

庄屋代 善八郎

年寄 利兵衛

同断 重次郎

同断 七郎兵衛

同郡太田市村

庄屋代 孫右衛門

年寄代 源兵衛

同断 藤助

同郡中村

庄屋 長次郎

年寄 孫八郎

同断 佐平治

同郡竹田村

庄屋 為右衛門

年寄 又兵衛

同断 勘兵衛

同郡葛本村

取贖人 小左衛門

右之名前ニ印形在之候

〔十市〕

○十市庄東大寺雜役免柴垣之事

平治元年八月

〔東大寺文書〕

東大寺雜役免所当柴垣支配事

合

(中略)

十市庄 四尺三寸

(中略)

已上 十一丈六尺一寸

右依宣旨支配如件

平治元年八月 日

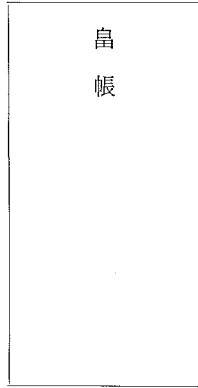
〔\*伊勢齋王遷座料野宮柴垣の所課。東大寺雜役免庄

「については東大寺要録・同統要録參看。」

○十市村文祿檢地帳写

寛永七年三月二十五日写

(今沢為男文書)



畠 帳

(追表紙)

「大和国十市村御檢地帳

畠方」

(表紙)

一、上田合五拾九町七反六畝拾歩

但壹石六斗だい

九百五拾六石貳斗壹升三合

一、中田合拾五町壹反貳拾三歩

但壹石四斗だい

貳百拾壹石五斗七合

一、下田合貳町四反四畝四歩

耳成地区

但壹石貳斗だい

貳拾九石貳斗九升六合

一、下々田合壹反貳畝

但石だい

壹石貳斗

一、アレ田合壹町六反四歩

但石だい

拾六石壹升四合

一、上畠合拾四町貳反拾歩

但壹石斗だい

百八拾四石六斗六升

一、中畠合四町壹反拾貳歩

但壹石壹斗だい

四拾五石壹斗四升四合

一、下畠合貳町壹反壹畝七歩

但九斗だい

拾九石壹升壹合

一、下々畠合貳反六畝貳拾三歩

但六斗だい

壹石六斗壹升

一、アレ畠合五反六畝拾壹歩

但六斗だい

三石三斗八升貳合

一、屋敷合貳町壹反貳畝拾貳步

但壹石三斗だい

貳拾七石六斗三升

田畠屋敷合百貳町四反壹畝貳步

合千四百七拾八石六斗七升八合

田分米合千四百九拾五石六斗三升

印

紙數八拾六枚

寛永七年

カノエ午三月廿五日ニうつし申候

印

印

帳面アラく

さん用仕

有り高也

ふそく共ニ

高辻

文禄五年丙申卯月二日  
和州拾市郡御さいしよ村の  
なよせ帳

兵こ多方

(前略)

以上惣合四百九拾八石五斗六升三合三勺

(中略)

三百四拾六石五斗九升七合

具ち人米

五拾九石四斗壹升七合

はうこう人米  
むそく人米

七拾八石六斗九升四合

入作分米

九石八斗四升七合

主なし  
より合米

三石六斗八升三合

たし申候米

荒三斗貳升五合三勺

荒

五反田三斗八升三合

孫九郎

一斗

猪兵衛

以上惣合四百九拾八石五斗六升三合三勺

○和州十市郡御さいしよ村名寄帳写

文禄五年二月

(今沢為男文書)

兵ご多方也

帳ニたり申さゝる米 以上壹石四斗三升六合七勺

○十市村元和元年物成算用済覚

元和元年十二月二日

一、慶長拾八年分、物成合六百八拾四石五斗九升五合、

夫米三拾五石也、右何も算用仕相済候也仍如件、

元和元年 村越三十郎 (花押)

十二月二日

庄屋

新右衛門旨

○十市村御物成払御算用帳

寛永二十年十一月

(今沢為男文書)

寛永貳拾年分御物成払御算用帳

次申ノ十一月吉日

跡書

耳成地区

一、七拾壹石ハ

寛永拾九年分御残米

但御奉公人御未進米

此利 貳拾八石四斗

但四わり也

未ノ暮ニ

元利共ノ九拾九石四斗

元利共入テ

九拾九石四斗ハ

寛永拾九年分御残米

御奉公人御未進米

口米共入テ

一、七百石ハ

寛永貳拾年分

内三拾貳石ハ大豆也御物成

一、五拾壹石ハ

同年夫米

三口以上合八百五拾石四斗

此払方

丑十月五日

一、拾四石ハ

寛永貳拾年分  
御給米ニ渡申候

同日

一、八拾四石貳斗貳升四合五勺

寛永貳拾年分  
御給金子小判ニ渡申候也

此代銀貳貫六百四拾四匁六分五厘

但石ニ付三拾壹匁半ツ、

此金小判四拾兩貳分 但壹兩ニ付六拾五匁三分ツ、

同日

一、拾壹石

寛永貳拾壹年分  
御取替米ニ渡申候

同日

一、百三拾七石式斗五升四合七勺 寛永式拾壹年分 御取替金小判渡申候

此代銀四貫三百九匁八分

但石ニ付三拾壹匁四分ツ、

此金小判六拾六兩也 但壹兩ニ付六拾五匁三分ツ、

未ノ十二月一日

一、式石ハ

南都□様へ  
知足院上申候

なら彌宜  
市介帯刀渡シ申候

同日

一、壹石ハ

十市御宮御之田御かくらの  
ふせ神子ニ渡申候

一、壹石五合

寛永廿年分  
御祈進十市御宮  
道淨南坊

一、三石六斗

寛永廿壹年分  
林三郎右衛門殿  
御内儀殿上下御扶持  
方米渡シ申候

未ノ正月ノ十二月まで十二月分

一、三斗六升

おこやとの母儀渡シ申候  
御扶持方

未十二月四日

一、三斗壹升八合四勺 御こやとの母儀ニ渡シ申候

此銀拾匁 但石ニ付三拾壹匁四分ツ、

一、五石九升三勺

寛永式拾壹年分  
井手米

一、式石五斗

寛永廿年分  
庄屋肝煎給米

一、九石七斗壹升八合四勺

御小遣方  
但小日記上申候

申六月十五日

一、壹石壹斗三升式合

道銭□藏又介  
左介三人渡申候

未十一月十一日

一、三拾石ハ

此代銀三百式拾六匁

うり上

但石ニ付三拾式匁七分ツ、

右十六日

一、拾石ハ

うり上

此代銀三百式拾八匁

但石ニ付三拾式匁八分ツ、

右十四日

一、拾石ハ

うり上

此代銀三百式拾六匁

但石ニ付三拾式匁六分ツ、

一、百五拾五石八斗九升壹合七勺

此代銀四貫八百九拾五匁 但石ニ付三拾壹匁四分ツ、

四口ノ式百五石八斗九升壹合七勺

此代銀子六貫五百三拾目

此金子小判百両也 但壹両ニ付六拾五匁三分ツ、  
此金子小判織田佐衛門佐様へ指上言伝江戸へ下シ申  
候

未ノ十一月廿八日  
一、貳拾貳石三斗五升五合八勺 うり上

此代銀七百壹匁九分七厘五毛  
但シ石ニ付三拾壹匁四分ツ、

此金小判拾両三分 但壹両ニ付六拾五匁三分ツ、

此金小判織田佐衛門佐様へ指上江戸へ下シ申候

但御取替金子内方上り申候

申五月五日  
一、三拾石 うり上

此代銀九百目 但石ニ付三拾匁ツ、

同十四日  
一、貳拾石 うり上

此代銀五百九拾目

但石ニ付貳拾九匁五分ツ、

申六月十八日  
一、貳拾石 うり上

此代銀五百八拾目

但石ニ付貳拾九匁ツ、

申六月廿四日  
一、拾三石 もろ米 うり上

此代銀四百四拾貳匁  
但石ニ付三拾四匁ツ、  
申六月廿四日  
一、三拾貳石 大豆 うり上

此代銀九百四拾四匁

但石ニ付貳拾九匁五分ツ、

申六月廿四日  
一、拾五石 うり上

此代銀四百四拾貳匁五分

但石ニ付貳拾九匁五分ツ、

同日  
一、拾石 うり上

此代銀貳百八拾目

但石ニ付貳拾八匁ツ、

申六月廿四日  
一、拾石五斗 うり上

此代銀貳百九拾四匁

但石ニ付貳拾八匁ツ、

申六月廿三日  
一、貳拾石 うり上

此代銀五百九拾目

但石ニ付貳拾九匁五分ツ、

同日  
一、拾石 うり上

此代銀貳百八拾目

但石ニ付貳拾八匁ツ、

申七月五日

一、三拾八石

うり上

此代銀壹貫九百目六分

但石ニ付貳拾八匁七分ツ、

同日

一、六拾七石八斗貳升八合三勺

うり上

此代銀壹貫七百九拾七匁四分五厘

但石ニ付貳拾六匁五分ツ、

売上米大豆もろ米

十貳口ノ貳百八拾六石三斗貳升八合三勺

代銀子ノ八貫貳百三拾目五分五厘

此金子小判兩貳拾五兩壹分 但壹兩ニ付六拾五匁七分ツ、

又たり 壹匁六分貳厘五毛

此金子小判林三郎右衛門殿ニ相渡し申候、江戸へ下シ

申候

申ノ十一月

右払分

以上合七百八拾七石九斗七升九合壹勺

指引残而六拾貳石四斗貳升九勺

御奉公人御未進米

次申十一月

右ノ外ニ

一、銀子七百五拾壹匁

駄賃銀子

内壹匁五毛ハ御祈進米方ニ引分

申ノ十一月

残而七百五拾目

林三郎右衛門殿ニ相渡し申候

但御物成七百五拾壹石

但石ニ付銀子壹匁ツ、也

寛永貳拾年分

御座候

次申ノ十一月

十市村 御座候

進上

村越七郎左衛門様

○安楽寺宗旨請状

寛文十一年二月十一日

(今沢為男文書)

宗旨請状之事

一、十市村一場之久左衛門と申仁、代々浄土宗にて我等

之旦那にて御座候者、御法度之吉利支丹与申候訴人於在之者、拙僧罷出御公儀ニ而急度申わけ可仕候為後日証文如件、

寛文拾壹年戌二月十一日

葛本

安楽寺 ㊦

十市村

与右衛門殿

○從江戸申來檢地執行条々控

延宝五年三月

(今沢為男文書)

一、式步卒を以檢地可仕、勿論巷反步者三百坪事、

附、百姓居屋敷囲之藪四壁者可除之、但大林ニ仕立候分者檢地之内へ可入之、若存寄之儀有之者覺書ニ記可得下知事、

一、田畑位付之義上中下と大方三段ニ有之候、此度者吟味之上、地面能所ニ而八上々と下々と一段立之下ニ志

ツも式ツ茂見斗次第二位□下相極、上々、上、中、下、下々と五段ニ相定可然、居屋敷者古来より上畑並ニ候

間、今度者上々ニ定候而も可然哉ニ候へ共、上之位ニ可差置候、但、位付之義ハ其所之百姓ニ堅誓紙申付、

耳成地区

為致色付檢地仕候者之見分と引合、僉議之上可相極事、

一、畑方檢地之儀、除桑楮茶蓬等有之所者、其分檢地除

□別ニ年貢申付可然候、但古来方弥重年貢出来候処者其通ニ而可差置事、

一、寺社領入組之村檢地高之儀、御蔵入と寺社領と多少有之候共、有来通ニ而可差置事、

一、永荒場并川關山崩有之所者、其場所見分之上、委細遂吟味ヲ、可立掃所者早々畑ニ成候様ニ可仕事、

一、見取場之義□高ニ結び、可然所者檢地可仕哀、

一、小作百姓永帳ニ名付候儀者、地主ニ遂僉議、証文を取、肩書ニ可致分付事、

一、家抱地水帳名付候儀者地主ニ遂僉議、誰家かへとかたか□等可仕事、  
(き)

一、致檢地候帳毎日百姓ニ借渡シ、相違有之哉可致吟味事、

一、檢地之者村掃候儀、檢地惣奉行之者可任差図事、

八一五



附、勘定仕候節者役人之外其場へ出入一切停止之事、

- 一、檢地仕廻候以後、檢地之者并召仕下々等迄、百姓ニ対シ非義有之候哉、檢地惣奉行之者村々惣百姓ニ可遂吟味事、

- 一、相究候水帳檢地奉行竿取案内之者與中判形仕置、御代官ニ相達、村々之名主方へ相渡シ置、其写御勘定所へ可納置事、

- 一、除地之儀三拾年以前に於除來候所者、縦証文無之候共除之、檢地帳之與ニ外書ニ可仕、三拾年以來之除地ハ致檢地高ニ結可申候、但所により品ニよるべし、委細書付記可得下知事、

- 一、百姓林之儀少分之所者其通ニ候而大分之所者かろき年貢可申付事、

- 一、田畑之内ニ有之大石、大木其外作毛仕付難成所之分者、能々吟味之上其分檢地可除之、池沼等之儀、一両日中ニテ新開ニ成候所者、百姓相對之上致檢地、高ニ入可申候、五七年中ニモ新開に不成所者、致檢地能々

與外書ニ可記置事、

附、田畑之遵付替度と百姓願申所者、見分之上吟味有之候而、障無之所者百姓願之通ニモ仕替可申候、

- 一、檢地之村間数手帳ニ記候後、其場所間違竿之延縮有之哉、為念折々置竿仕、又者くた繩を以可相改、勿論相定竿取之外不可相更事、

- 一、檢地役人正路にいたすへきの旨堅誓紙可仕事、

附、致案内人名主年寄百姓地面引落間敷旨并檢地之者召付等迄非義有之者、早速可訴之旨誓紙前書ニ可書載事、

- 一、田畑石盛位付之儀、隣村之盛相考、甲乙無之様尤ニ候、山方野方之村者名別ニ候間、可有心得儀ニ候、尤用水悪水□引日損水損場、藪林之日影日向等迄相考位付可致、并田畑所付明細ニ書付、重而地詰メ之節相違無之様ニ水帳可記之、雖然地面ニ不限善惡或者田方畑方多少或者、農桑之余慶有之村相考、石盛可相究事、

- 一、御料并ニ私領寺社領入組之所者、双方之百姓立會檢地可仕、私領方へも此旨申聞せ、家來可罷出と申候而

立会檢地尤ニ候、相改候上立会候者、於無之者不可及  
其儀候事、

一、地面入組候場所者自印ニ立豎横十文字之曲尺不違様  
ニ明細ニ可相□事、

一、先高之内ニ而も隣村と入組境目不正所有之者、双方  
之村僉儀之上、申分無之旨手形取之可相究、若不落着  
之所者檢地仕舞候以後、能勢日向守、前田安芸守方  
へ、双方之名主百姓召連及裁許、落着之上水帳可相究  
事、

一、引方起返新田新畑改出内書ニ可記之事、

一、新檢之肩書ニ古檢可記之事、

一、御朱印地之外寺社領又ハ跡々除來候場所之儀慎成  
証文於在之者、水帳ニ末外書ニ可書載之、其外除地之  
分者同前帳面ニ可記之、雖然古水帳外書ニも不相見  
へ、御代官給人証文も無之除來由申場所者、致檢地置  
由諸覚書ニ記、御勘定所へ可得下知事、

一、御年貢米詰置候蔵屋敷之儀、跡々高ニ結ひ候所者

不及申、縦高之外たりといふとも致檢地、帳面之内可  
載之、雖然御蔵有之内者御年貢可除候事、

一、野手山手之場并山林有之所ニ致檢地、委細ニ可記  
之、雖然或高山或險阻又ハ場広山ニ而境目不分明之所  
者不可及檢地事、

一、御料小物成之所之檢地仕可然所、私領寺社領ニ入組  
候場所たりとも檢地可仕事、

右之書面之通只今從江戸申來候、此通之者在之は申出候  
様ニ御知行所に可被相觸候、此申付順ニ相廻留リ方より  
此方へ可被返候、以上、

三月九日

大関勘右衛門判

赤井五郎作殿

佐藤勘右衛門殿

村越三十郎殿

多賀文四郎殿

右家來衆中

同 庄屋中

一、百姓屋敷立山竹木林跡々を除来候分、前ニ檢地仕除候子細書付可取立事、

右之条々得其意、檢地以前於京都能勢日向守、前田安芸守江相違可仕差図、此外ニても在寄之儀在之候者、是又右両人江可相窺候、以上、

延宝五年巳三月

○十市村村越方免状

元禄十六年十月

(今沢為男文書)

元禄拾六年未ノ免状之事

一、高九百九拾八石五斗四升

本高辻也但七ツ之免

此物成六百九拾八石九斗七升八合

口米貳拾石九斗六升九合三勺

右込米拾四石三斗九升八合九勺

夫米三拾壹石六斗七升三合八勺

御取米惣合七百六拾六石貳升也

右之通未之年免定者也来ル極月十五日限ニ皆済可令者也

元禄拾六年

未ノ十月日

和州十市村庄屋

今沢久左衛門殿へ

年寄中

惣百姓旨

○十市村村越領方宗門改帳集計

寛延四年

(天図近世文書)

(浄土宗)

家数合拾貳軒

人数合五拾六人

男貳十四人  
女三十式人

(融通大念仏宗)

家数合拾七軒

人数合四拾七人

男貳十四人  
女廿三人

(浄土真宗)

家数合拾三軒

人数合六拾三人

男廿八人  
女三十五人

高取御役所様

年寄 栄治郎  
同断 弥八  
庄屋 清兵衛

○十市村小入用帳

嘉永五年十二月

(天國近世文書)

十市郡十市村小入用帳

覚

- 一、四百五匁 庄屋取立給半五石代
- 一、七百五拾匁 年寄給米、夫代とも
- 一、六拾五匁 年分紙代
- 一、百六拾五匁 字仏生井手杭木繩□代

耳成地区

- 一、五拾八匁 同所普請木代人足賃
- 一、百六拾五匁 多社諸入用懸り
- 一、貳百八拾五匁 肝煎給米夫御状遣代
- 一、三拾目 葛本村定式水礼
- 一、六拾四匁八分 非人番給米八斗代
- 一、六拾五匁 年分所々普請米代
- 一、百拾五匁 寺川<sup>(力)</sup>通り杭木代
- 一、貳拾五匁 宗門帳、検見帳筆料
- 一、八拾五匁 露堀人足賃<sup>(力)</sup>
- 一、百八拾五匁 池水込出し請負賃
- 一、六拾五匁 氏神諸入用灯明料代
- 一、四<sup>(力)</sup>百三<sup>(力)</sup>目 村借地漬未進利足
- 一、拾三匁 年分勸化取斗
- 一、七百八拾匁 年中小前夫代人足料
- 一、拾五匁 惣堂破損入用
- 一、六拾五匁 御役所行夫代造用
- 一、貳拾匁 京都御役所行夫代

耳成地区

一、五拾目 新屋敷村大福村水礼

一、四拾貳匁叁分三厘 春日若宮御祭礼懸り

一、百四拾九匁六分九厘 検見休泊国割懸り

一、九拾八匁叁分貳厘 大川筋入用懸り

一、貳百八拾八匁 郷藏米売払(カ)直今様

一、五百七拾四匁五分五厘 去子小入用不足

八貫九百廿三匁貳分八厘

此割高

四百四拾五石九斗九升六合叁夕五才

此銀ハ九百拾九匁九分貳リ  
石ニ付廿匁掛

差引三匁三分叁厘過 村役人預り置申候

右之通り庄屋年寄組頭立会、割賦仕候処、書面之通り相

違無御座候、以上、

嘉永五年子十二月

十市村

作兵衛 ④

彦三郎 ④

と

太

善

よ ④

七 ④

助 ④

又右衛門 ④

猶 ④

房 ④  
吉 ④

平四郎 ④	利市 ④	弥助 ④	栄治郎 ④	かね ④	るい ④	甚兵衛 ④	いか ④	きみ ④	ゆき ④
彦右衛門 ④	しな ④	久吉 ④	治助 ④	忠次良 ④	甚三郎 ④	善四郎 ④	与兵衛 ④	善吉 ④	弥右衛門 ④
庄太郎 ④	よし ④	正軒 ④	多助 ④	久三郎 ④	又三良 ④	長藏 ④	太助 ④	栄助 ④	正三 ④

高取御役所様

○十市村村越領方宗門改惣寄帳

嘉永七年二月

(天図近世文書)

嘉永七歳  
 宗門御改帳三冊分惣寄帳  
 丑二月  
 十市郡  
 十市村

一、宮寺 無住

一、家数四拾貳軒

人数合百六拾六人 内七拾六人男  
 内九拾一人女

一、浄土宗家数十貳軒

人数合五拾六人 内貳拾四人男  
 内三拾貳人女

一、大念仏宗家数十七軒

人数合四拾七人 内貳拾四人男  
 内貳拾三人女

一、浄土真宗家数拾三軒

人数合六拾三人 内貳拾八人男  
 内三十五人女

去御改後出生之者壹人男

同 他所を参り候者十人 内五人男  
 内五人女

同 他所へ参り候者壹人 男

耳成地区

(計算違いママ)  
 差引拾貳人まし

当村ニ牛馬無御座候

非人番先年より藤八と申者壹人居申候

右之通り宗門御改帳三冊分惣寄書面之通り相違無御座

候、以上

年寄 栄治郎

同断 弥八

庄屋 清兵衛

高取御役所様

〔中〕

○十市郡中村檢地帳

文祿四年九月

(中村区有文書)

文禄四年 九月  
 大和国十市郡中村御檢地帳  
 長東大蔵太輔  
 打口

〔表紙裏〕

〔大和国十市郡中村御檢地帳〕

〔中扉〕 文禄四年九月

大和国十市郡中村御檢地帳

長東大蔵太輔 打口

〔\*末尾集計のみ〕

一、上田式町七反六畝九歩 壹石五斗七升代 貳百壹石貳升五合

一、中田壹町八畝六歩 壹石四斗代 拾五石壹斗四升八合

一、荒田三反貳畝八歩 貳石壹升

一、上畑三町七反壹畝十七歩 壹石貳斗代 四拾貳石七斗三升

一、中畑壹町壹反九畝拾八歩 拾壹石九斗六升

一、下畑貳反五畝拾八歩 貳石三斗四合

一、荒畑五段三畝廿四歩 七石壹斗  
 一、屋敷九段五畝貳拾四歩 拾壹石四斗貳合

貳拾町八反三畝貳歩  
 分米合貳百九拾三石六斗七升九合

長東大蔵太輔奉行

文禄四年九月十五日

青木金左衛門

中村十右衛門

〔葛本〕

○大乗院庄楠本(葛本)庄分米公事覚

(欠年)

(内閣文庫文書)

楠本庄 弥七名七石三斗五升 藤次郎名川 惣領名六石二斗  
 大乗院 四升 下司名五石 新賀名六石六斗 西殿名十九石  
 一斗四升

十二町 十二名也、延文元年注進二名荒云々、一名新  
 公方御給、一名新給主御給、半名小南十市給  
 主御給、七名半給主方等、

七名半分米  
 五十六石一斗八升 分米

十四石西殿御給分米 二石二斗五升定引物 一名下司  
五斗カリヤン

一石三斗三升荒云々、卅七石一斗給主、此内損免反錢  
白布・雨コイ名別五升定引之、  
此外番条之御分米在之、

大乘院御供米七石在之、今大乘院ト云所在之云々

此地歟、

公事等

二石七斗 前節米 御後見 一貫二百文 御疊用途 但給主  
役也

一石二斗 大乘院宿直米 千菊丸  
給云々 五反 定使用

(米三箇院家抄ヨリ抄出)

### ○竹田村取水横暴ニ付乍恐申上状

慶長十六年

(藤本政隆文書)

乍恐申上候

一、和州十市郡之内(常陸)ときわ村葛本村之井水ハ、多武峯川  
年々大さうを仕、井手ヨとりくわし申候、水ヨばうが  
辻と申所ニ三町七反、ときわ領之井かゝり御座候、此

耳成地区

内少竹田領も御座候、

右之外すこしも竹田村へ水やり申事無御座候、然処ニ  
むかしより無御座よこ木を新儀ニ二本までかけ申候ニ  
付、ときわ村くす本村ヨりとのけに參候処ニ、竹田  
之衆神名(水カ)ヲいたし御郷をかたらひ、思之外弓鏑を出  
し、則竹田村之庄屋□吉六と申者、弓ニて此方之者一  
人いころし申候、其外てをいもあまた御座候て迷惑仕  
候御事、

一、竹田村へ水ヤリ不申候志るしにハ、年々大さうを  
仕、井手を上申候処へ、人ヨ壱人出し申事無御座候、  
其上大ふくと申所ハ水上ニて御座候へハ、水を入申候  
へは、井普請に人ヨ出し申候御事、

一、大納言様御代ニ竹田ノ者水をぬすミ申候を見付、か  
らめをき申候て、則大納言様御奉行衆へ申上候へハ、  
御成敗ニ相究申候処ニ、小堀新介殿色々御詫立ニて命  
を御もらひ被成候事其かくれ無御座候、右之通被聞召  
分、如先(規カ)□之被仰付下候ハハ可忝候、以上



耳成地区

慶長拾六年

□月九日

片桐市正様御内

日比半右衛門殿

田村助右衛門殿

河村角右衛門殿

御披露

ときわ村

藤二郎

助九郎

葛本村

弥兵衛

大介

勝九郎

又右衛門

○葛本村免相之事

慶安四年十月二十七日

(藤本政隆文書)

定卯免相之事

一、元高千貳百拾壹石九斗貳升

免七ツ七分取

十市郡

葛本村

右相定上者無甲乙令割符、来霜月中急度可遂皆濟、夫口

目払之外一切作分有間敷者也

八二四

慶安四年

卯十月廿七日

上三右

矢武左

高六郎左

庄屋百姓中

○葛本村酉免相事

明曆三年十一月一日

(藤本政隆文書)

定酉免相事

一、元高千貳百拾壹石九斗貳升

免八ツ四分取

十市郡

葛本村

右相定上者、無甲乙令割符、当霜月廿日急度可遂皆濟、

夫口目払外一切非分有間敷者也

明曆三年

上田三右衛門 ㊦

霜月朔日

吉田伝左衛門 ㊦

庄屋百姓中

○葛本村定免相之事

万治三年十一月二十二日

(藤本政隆文書)

定子免相之事

一、元高千貳百拾壹石九斗貳升

免七ツ八分取

十市郡葛本村

右相定上者無甲乙令割符、来ル極月廿日以前、急度可遂  
皆濟、夫口目払之外一切作分有間敷者也

万治三年

上田三右衛門 ㊦

子霜月廿二日

水野四方助 ㊦

庄屋百姓中

○葛本村寅免相事

寛文二年十一月十日

(藤本政隆文書)

定寅免相事

一、元高千貳百拾壹石九斗貳升

免九ツ貳分取

十市郡

葛本村

右相定上者、無甲乙令割符、来ル極月十五日以前急度可  
遂皆濟、夫口目払之外一切非分有間舖者也

寛文貳年十一月十日

生駒兵太夫 ㊦

水野四方助 ㊦

(宛名ナシ)

耳成地区

○葛本新口両村立合川切の件一札

延宝四年十月十二日

(藤本政隆文書)

相究申葛本村と新口村と

立合川切仕候一札之叟

一、新口村井手と同茶屋之前橋迄四町分ハ川幅四間、但  
双方ニはさみ杭打置申候也、

一、同茶屋ノ橋下下式町分ハ川幅五間同断、

右ノ川筋両村之庄屋年寄川切被致候、其上ニ而我々三人見及、川之曲直ニ仕候、然所ニ新口村方竹木有是所  
を致川切、葛本村方ハ荒地ニ而相渡し申候ニ付、替地  
之上打ニ銀子貳百八拾目、葛本村方新口村へ相渡し、  
川切相濟申候、右打置申概々川ノ方へ川除壹寸ニ而も  
仕出シ被申間敷候、自然川之内へ双方共仰付申候ハ  
、杭方粒迄繩を引御切流シ可有之、杭打置申上ハ重  
而之川切ハ双方立合不申候共、杭方外へ郷付申分ハ御  
切流シ可有之候、後々末々迄互ニ申分無之候様ニ、右

之通証文武通認、三人之致判形、葛本村へ一通、新口村へ一通、両市へ相渡し置申候、為後日同証文如件、

延宝四年

辰ノ十月十二日

新口村大庄屋

佐右衛門 ㊦

大福村大庄屋

喜右衛門 ㊦

谷村大庄屋

六右衛門 ㊦

○宝永二年免定

宝永二年十一月

(藤本政隆文書)

和州十市郡葛本村酉年免定之事

一、高千五百拾五石七斗四升

田畑屋敷

五斗五升九合

郷藏屋敷

拾三石七斗三升三合

永荒川成堤敷井路成

内三百貳石九斗八升

增高無地

百拾七石七斗貳升七合

当酉年旱損皆無

引ノ四百三拾四石九斗九升九合  
残千八拾石七斗四升壹合

此取五百貳拾五石壹斗六升貳合

当三ツ四分五厘八毛余  
毛付四ツ八分五厘内

内壹石三合 無高定成新開米入厘付除之

五拾貳石五斗壹升六合

拾分一大豆銀納

内百七拾五石五升四合

三分一銀納

貳百九拾七厘五斗九升貳合

米銀納

外

一、米四拾五石四斗七升貳合

夫米但 当壹石二付  
三升ツ、

右之通、当御成箇相極候条、庄屋年寄惣百姓出作之者迄

不殘立会、無高下致免割、来ル極月廿日以前急度可皆済

者也

宝永貳酉年十一月

金丸又左衛門 ㊦

右 庄屋  
年寄 中

惣百姓

○未年免定之事

正德五年十一月

(藤本政隆文書)

大和国十市郡

葛本村未年免定之事

一、高千五百拾五石七斗四升

五斗五升九合

郷藏屋敷

田畑屋敷

内拾三石七斗三升三合

永荒川成堤敷井路成

八拾三石三斗壹升貳合

当旱損付荒

小以四百石五斗八升四合

残千百拾五石壹斗五升六合

毛附

此取五百拾七石四斗八升七合 高三ツ四分壹厘四毛

外

一、米壹石三合

無高定成新開  
見取

取米ノ五百拾八石四斗九升

納訳

五拾壹石八斗四升九合

十分一大豆銀納

百七拾貳石八斗三升

三分一銀納

貳百九拾三石八斗壹升壹合

米銀納

外

耳成地区

一、米四拾五石四斗七升貳合

夫米 高壹石  
三升宛

右之通、当未御成箇相究之条、村中大小百姓出作之者迄

高会無高下致、免割来ル極月廿日以前急度可令皆济者也

正徳五年未十一月

平岡彦兵衛 印

葛本村

庄屋  
惣百姓

○葛本村卯年貢割付状

享保八年十月

(藤本政隆文書)

卯御年貢可納割付之事

一、高千五百拾五石七斗四升

五斗五升九合

郷藏敷引

拾貳石八斗九升三合

永荒引

内三百三石八斗貳升

增高無地引

内八斗四升当卯改永荒籠候增高無地入

百三拾八石九斗壹升五合

当旱損檢見引

残千五拾九石五斗五升三合 毛附

此取四百八拾貳石九升七合 免四ツ五分五厘

一、米壹石三合 見取

取合四百八拾三石壹斗

四拾八石三斗九合 十分一大豆銀納

百六拾壹石三升三合 三分一米銀納

貳百七拾三石七斗五升八合 米銀納

外

一、米四拾五石四斗七升貳合 夫米

一、米九斗九合 御伝馬宿入用

ノ米四拾六石三斗八升壹合

右之通、当御成箇相定之間、村中大小之百姓出作之者迄  
不殘立会、無甲乙割合、来ル極月十日限急度可皆濟者也

享保八年卯十月

会伊右衛門 ㊦

右村庄屋

惣百姓

」

○葛本村亥年免状

享保四年十一月

(藤本政隆文書)

大和国十市郡

葛本村当亥年免定ノ事

元高千貳百拾六石九斗貳升  
一、高千五百拾五石七斗四升

田畑屋敷

五斗五升九合

郷藏屋敷

拾三石七斗三升三合

永荒川成堤敷并路成

三百貳石九斗八升

增高無地

貳百八拾八石貳斗六合

当亥年早損虫入腐皆無

残九百拾石貳斗六升貳合

毛附

此取四百貳拾五石九升貳合

高貳ツ八分五毛  
毛附四ツ六分七厘

外

一、米壹石三合

無高宜成新開  
見取

取米ノ四百貳拾六石九升五合

納訳

四拾貳石六斗九合

十分一大豆銀納

百四拾貳石三升壹合 三分一銀納

貳百四拾壹石四斗五升五合 米銀納

外

一、米四拾五石四斗七升貳合 夫米<sup>高壹石</sup>三升<sup>ツ</sup>、

右之通、当亥年御成箇相究之条、村中大小百姓出作之者迄立会、無高下致免割、来ル極月廿日以前急度可令皆濟者也

享保四年亥十一月

平岡彦兵衛 ㊤

葛本村

庄屋

惣百姓

○葛本村免札之事

寛保二年十一月

(藤本政隆文書)

寛保二戌年免札之事

一、高千五百拾五石七斗四升

十市郡

葛本村

耳成地区

拾貳石八斗九升三合 永荒引

内五斗五升九合 郷藏舖引

五拾九石八斗壹升七合 当戌檢見引

残而千四百四拾貳石四斗七升壹合 毛附

此取米七百四拾四石三斗壹升五合

高四ツ九分壹厘壹毛内  
毛附五ツ壹分六厘

外

米壹石三合 見取

納合米七百四拾五石三斗壹升八合

内七拾四石五斗三升貳合 大定

外 六尺給御伝馬宿入用御藏前掛□□  
大川筋御入用多分当戌御免条

右者御願故、当戌年令檢見御成箇相極候間、村中大小之百姓不殘立会、無甲乙致免割、来ル極月廿日以前急度可皆濟者也

十一月

河原善大夫 ㊤

嶋田佐野右衛門 ㊤

第十伝左衛門 ㊤

八二九

榑崎七左衛門 ㊦

森新右衛門 ㊦

渡辺正太夫 ㊦

吉田専左衛門 ㊦

葛本村

庄屋  
年寄  
惣百姓

外

一、米九斗九合

此銀五拾三匁八分

御伝馬宿入用

但右同断

一、米三石三升壹合

此銀百七拾七匁三分八厘

六尺給米

但右同断

一、銀貳百貳拾七匁三分六厘

御蔵前入用

一、米貳拾四石壹斗六升貳合

此銀壹貫四百貳拾九匁九分八厘 但右同断

御口米

納合銀四拾八貫七百貳拾八匁四分壹厘

右之通文化十一戌年御年貢上納皆濟仕候、以上

○葛本村戌年御年貢皆濟目錄

文化十二年三月

(常盤・森源治郎文書)

文化十二亥年三月

和州十市郡葛本村

戌年御年貢皆濟目錄

高千五百拾五石七斗四升  
一、御取米八百五石三斗九升貳合

十市郡  
葛本村

百姓惣代 彦四郎 ㊦

内

小堀中務様  
御役所

八拾石五斗四升

大豆銀納

此銀三貫九百三拾八匁九分七厘 但卷石二付 四十八匁九分七厘

七百貳拾四石八斗五升貳合

此銀四拾貳貫八石九拾八匁九分貳厘 但卷石二付 五十九匁八分七厘

(ウラ書)

表書之銀四拾八貫七百貳拾八匁四分壹厘

上納皆濟相違無之候、以上

小堀中務御役所

室 猪惣次 ㊦

田原兵之進 ㊦

佐藤丹右衛門 ㊦

中村太郎右衛門 ㊦

### ○葛本村儉約取締狀

(欠年) 寅十一月

(藤本政隆文書)

#### 儉約取締之事

一、近年質素儉約被仰出候処、近頃相弛ミ折柄、当寅古今稀成凶作ニ付、村方申合当寅方未迄中五ヶ年之間、諸事儉約取締左之通、

一、正月規式之儀鏡餅斗ニ而祝儀取遣無用事、

一、嫁取之儀其垣内限女中老入宛呼迎へ赤飯煎菜<sup>(?)</sup>ニ而近附可致事、

但祝言与唱買物其外嵩高成物入致間敷事、

一、聳取之儀前同断、名前人老入宛呼迎へ素麵汁ニ而近附可致事、

耳成地区

但前同断

一、參宮其外旅行致候迎土産物相互ニ取遣無用之事、

一、上棟之祝、元服之祝、□徒之祝、厨之祝、儉約年限中相止可申事、

一、相撲其外興行事決而不相成候、他村方書状等参り候ハ、申断、世話等一切致間敷事、

一、近年日雇綿打諸職人賃銀相増候得共、是者世上一躰ニ可順、乍去儉約年限中酒相止可申事、

一、当節柄於御上様ニ茂度々御苦勞御心痛被為在可恐入候、下々之者安居手を束ね候而者無勿躰次第、一同申合男者藁等稼、女者糸績夜分稼増致、上金無差支出全可致様兼而可被相心得事、

一、仏事祭礼之儀者手輕可相當事、  
但禁□之事、

一、葬式之儀旦那寺計ニ而諷經僧者申断、村内者相互ニ家毎ニ老入宛見送り可申事、

但禁酒之事、



一、当節柄を茂不願奉公人若輩之者共夜遊致、中ニ者不法之働夜喰等致之者も及承不埒之至、其主人親々方堅ク申聞セ、若不法之働致之者ハ誰彼ニ不抱呼附次第可申出事、

一、近来諸家様并從宮門跡方數多銀札流行ニ付、村方ニ而引替小請致度もの者御地頭表迄相届可申候、若不沙汰ニ而承御差当物入候迎其者仕舞可致事、

右之通取締勿論、五人組御箇条書之趣堅相守、右之年限中、銘々身之応分限、鹿服鹿喰ニ而、家毎ニ情一倍一際相立候様儉約致、花奢ケ間敷儀決而致間鋪候、為其無違失様組頭家毎ニ張置可申事、

寅霜月

村役人 ㄥ

○葛本村村小入用帳

文政八年三月

(天図近世文書)

文政八年  
申年村小入用帳  
三月  
大和国十市郡  
葛本村

(表儀裏ニ記入、左リニ行アリ)

- 一、銀五百三拾五匁 杭木代外山村茂七抔 去西庄屋給米拾石代
- 一、銀拾八匁九分 大井手殿請負渡ス
- 一、銀百九拾四匁 郡中割五条渡ス
- 一、銀式拾壹匁貳分 御造栄金引直合銀欠共(マ)
- 一、銀三拾三匁四分 杭木代外山村茂七抔
- 一、銀七拾三匁六分 杭木代同村助七抔
- 一、銀五百五拾壹匁貳分 今井木屋清三郎抔
- 一、銀式百拾八匁八分 八木木屋幸平治抔
- 一、銀八拾方三分五厘 平兵衛忠治郎野貫 米壹石麦六斗代渡ス

- 一、銀三十拾壹匁五分 杭木代高殿村久兵衛払
- 一、銀百四拾壹匁五分 桜井木屋源内払
- 一、銀八拾壹匁四分 穴師村要助杭木代払
- 一、銀四拾八匁五分一厘八木木原屋嘉右衛門払
- 一、銀七拾五匁九分一厘 大井手普請用水二付  
酒代大福平右衛門払
- 一、銀七拾壹匁八分 郷宮多社入用
- 一、銀五拾七匁五分 同断天神山入用
- 一、銀百拾五匁四分 八木辰巳屋源助払
- 一、銀六拾九匁貳分五厘田原本大平払
- 一、銀貳匁八分 八木丹波屋払
- 一、銀壹貫五百四拾五匁七分三厘 申年組割入用
- 一、銀四百四拾八匁六分三ヶ割入用
- 一、銀百目四厘 五条御役宅入用  
但し六月迄八月迄懸り
- 一、銀百九拾四匁 同行入用  
但し六月迄之懸り
- 一、銀貳百九拾四匁八分六厘 午ノ大川入用  
但し納入用共
- 一、銀百三匁五分三厘 御祭礼御入用
- 一、銀七匁八分三厘 八木清兵衛払

- 一、銀拾八匁四分五厘 小房木屋徳兵衛払
- 一、銀拾五匁五分 年中蠟燭代
- 一、銀三十拾五匁 年中紙代
- 一、銀百七匁 肝煎給米式石代
- 一、銀八拾匁 野番賃渡ス
- 一、銀三十拾匁 非人番賃渡ス
- 一、銀貳百五拾九匁壹分堂道場入用
- 一、銀拾七匁七分 川上粟殿村定礼
- 一、銀八拾五匁壹厘 井路成水通シ米代
- 一、銀百七拾壹匁五分 御上納金引直合銀欠共
- 一、銀三十拾貳匁四分五厘 五条御拝借返銀  
入用金直合銀欠共
- 一、銀四拾五匁三分 諸勸化浪人者取斗
- 一、銀三匁五合 年中墨筆代
- 一、銀六百八拾四匁五分村地差引不足
- 一、銀四拾七匁 大井手杭木代
- 一、銀貳拾六匁 年中人足帳認メ  
買板世話料共
- 一、銀壹貫九百七拾貳匁六分七厘 年中小前日役働  
細儀諸事仕替惣代

耳成地区

銀八貫七百五拾貳匁三分

内

銀三拾四匁五分九リ 儉約懸り不足引

残り八貫七百拾七匁七分壹厘

此割

出作高四拾石八斗三升八合五夕

此銀百貳拾貳匁五分式厘 高壹石ニ付三匁かけ

残り銀八貫五百九拾五匁壹分九厘

此割高壹石ニ付七匁貳分かけ

一、高千百九拾五石四斗四升

此銀八貫六百七匁壹分七厘

引残り拾壹匁九分八厘割過

右過銀庄屋与七郎江預り置、来ル酉極月村算用ニ付出し

可申約束ニ御座候、

右之通去申ノ村諸入用之儀、庄屋年寄頭百姓立会及算用

申候処、書面之通割賦仕、少茂申分無御座候ニ付、村中

連判仕候、仍而如件、

文政八年酉三月

八三四

(＊以下人名ニ段書きの所、四段書きとする)

与七郎	源次郎	喜八郎	甚藏
利助	清三郎	重兵衛	伊兵衛
嘉助	喜重郎	利七郎	みよ
佐兵衛	佐平治	伊三郎	新兵衛
長太郎	清藏	伊右衛門	彦兵衛
とみ	庄五郎	久兵衛	嘉兵衛
孫兵衛	平兵衛	重藏	彦四郎
良助	乃ふ	久七	佐助
長重郎	安兵衛	弥助	平吉
宗市郎	安五郎	新助	庄八
清治郎	又市郎	善助	清助
新助	喜平治	源八	新三郎
しも	源四郎	弥市郎	仙次郎
仙太郎	仙助	忠助	弥兵衛
九兵衛	小八郎	忠五郎	与市郎
庄右衛門	新五郎	惣八	作兵衛
六治郎	義兵衛	藤七郎	勘兵衛

庄次郎	忠五郎	忠助	武助	忠蔵	善三郎	いち	わさ
惣助	久蔵	安楽寺	利兵衛	与八郎	武兵衛	く	彦三郎
門蔵	太四郎	忠八郎	忠八郎	惣八郎	平兵衛	ら	み
よ	新五郎	久治郎	久治郎	新五郎	新五郎	み	よ

右之通相違無御座候、以上、

十市郡葛本村

年寄利助

同断九兵衛

庄屋与七郎

川口御役所

前書之通相違無之もの也

(割印)

西三月

川口

御役所

〔見門〕

○竹田村と立会分水ニ付訴状

元禄七年五月

(河合正義文書)

乍恐口上書を以御訴訟申上候

一、葛本村常盤村立会井関用水之内、竹田村ト立合之分水、十市郡大福村領内ニ御座候竹田村へ遣候分水幅壹尺五寸、葛本村常盤村へ取申候分水幅七尺五寸ニ往古方相究、分水木普請之義ハ三ヶ村立合仕来候、右定之外水行少も無御座候、然所ニ竹田村方両村へ断も無之、普請被致、分水定之外両方堤三尺余広ケ被申候而、此方之用水取被申候ニ付、壹尺五寸之外ニ此方方打添仕候得者、我儘ニ取破、此方之用水を妨被申候段、迷惑仕候、乍恐御慈悲之上竹田村庄屋百姓被為召出、先規之通被為仰付被下候者、難有可奉存候、以上

元禄七年戊五月

葛本村庄屋

次郎兵衛

同村年寄

平兵衛 ㊦

同

長三郎 ㊦

同

伊兵衛 ㊦

金丸又左衛門様

○大福村と水論裁許取替証文

元禄八年十一月三日

(河合正義文書)

取替シ申証文之事

一、今度水論ニ付、京都御奉行様ニ而度々御僉儀之上御見分御下シ被為成、当五月七日ニ御裁許被為仰付、御書付双方江被下頂戴仕候御書付之趣、向後互ニ相守可申候、

一、北川南川水わかれ之所北川口幅八尺五寸南川幅五尺五寸之分木を川底ニ伏せ分水ニ被為仰付候、御上意之通分木伏せ可申所、葛本常盤村方申候ハ、胴木川底ニ伏せ候而者、大福村村領字おんば六反四畝地高ニ而、

此田地へ水入候節分木江水つかへ候間、高ク伏せ可申と申候、大福村方申候ハ、胴木高ク伏せ候へハ此田地其外村中迄水つきニ罷成候ニ付下ニ而埒明不申候故、葛本常盤方御願申上候ニ付七月六日御公儀様江双方被為成御召出、重而被為仰付候ハ、胴木川底方壹寸五分上ケ成共、又ハ式寸上ケ而胴木之中式尺ツ、水除ケ切り滞リ水を払、水入用之内ハ埋木仕候様ニ成共、双方相談次第ニ仕、其上大福村高キ地江水入候節ハ、右之胴木ニ上板をはめ水を入高キ地江水入候ハ、双方壹度ニ上ケ板取可申旨被為仰付候ニ付、双方御請ケ申罷帰り、三ヶ村相談之上胴木川底方壹寸五分上ケ、上板七寸五分ニ相究、八月十三四日ニ三ヶ村立会、胴木を伏せ申候得共、又々胴木ひきく南川水落す少なく候故、胴木を上ケ申度由、葛本常盤方御訴訟申上ケ候へハ、十月廿一日御前江双方被為成御召出、今少大福村ニ了簡仕、胴木を上ケ胴木之中を切ぬき水除可仕由被為仰付候ニ付、七月六日御上意之通、川底方式寸上

ケ 桐木之中式尺ツ、切りぬき可申と大福村ノ申候へ  
 ハ、葛本常盤ノ申候ハ 桐木之中切ぬき候事難儀ニ候、  
 其上川底より式寸上ケ候分にてハ、水落不足ニ候間、  
 南川底ノ三寸上ケ 桐木之中水除ケ切ぬき不申、并此分  
 木ノ毫町斗川下三ヶ所ノ門樋を三寸ツ、川底江伏せ込  
 くれ候様ニと有之候故、其通ニ和談いたし十月廿七日  
 ニ右之段御前江申上、上板幅六寸ニ相究柅置申候、向  
 後上板損失いたし候ハ、右之寸法ヲ以定之通ニ可致  
 候、右分木之入用ハ三ヶ村水掛り候田地之高割ニ被為  
 仰付候、

一、此用水掛リ之田地、大福村高四百五拾三石九斗八  
 升、常盤村高八百六拾三石六斗、葛本村高千四百五拾  
 貳石毫斗九升ノ場所江水入候分者、相互ニ構申間敷  
 候、尤植付水之節ハ、川上ニ而植田江くいへ水をや  
 め、随分末々まで毛付申様ニ可致候、然共旱続、植田  
 之水旱付、立毛そだちかたく相見江候ハ、くハへ水  
 可致候、湯水之節此用水掛り強ク、立毛痛候かたへ水

耳成地区

入下シ、相互よく水少茂致間敷候、

一、右之用水葛本常盤両村として、大福村へ無断他領へ  
 水遣シ、礼物取申間敷候、猶又大福村ニ茂葛本常盤両  
 村へ無断他領水遣シ、礼物取申間敷候、

一、大福村領内両川筋三ヶ村立会相改可、書付之帳面別  
 紙ニ柅双方江取替シ置申候、相違之儀有之候ハ、右  
 取替シ之帳面并此証文双方ヲ持出吟味いたし、互ニ親  
 規致間敷候、為後日双方連判取替シ証文如件、  
 元禄八年亥十一月三日

十市郡葛本村庄屋

次郎兵衛 ㊤

同村年寄

伊兵衛 ㊤

同

五兵衛 ㊤

同

平兵衛 ㊤

同郡常盤村庄屋

孫右衛門 ㊤

同年寄

源三郎 ㊤

八三七

○大福村領内川筋改帳

元禄八年十一月三日

(河合正義文書)

<p>元禄八年 大福村領内両川筋改之帳 亥十一月三日</p>
--

(帳)

- 同 太郎兵衛 印
- 同 久次郎 印
- 同 彦次郎 印
- 同郡大福村庄屋 茂右衛門 印
- 同村庄屋 喜右衛門 印
- 同村庄年寄 左太郎 印
- 同 小三郎 印
- 同 彦三郎 印
- 同 甚次郎 印
- 同 忠五郎 印
- 同 善藏 印
- 同 治右衛門 印
- 同 与兵衛 印

南川筋常盤村領境之上へ落合迄川幅八尺

字コシハ西方一

一、杭井手数六本 高サ式尺六寸 北ノ方へ入

同二 一、門樋幅八尺 高サ式尺七寸五分 北南ノ方へ入

同三 一、杭井手数六本 高サ式尺六寸 北ノ方へ入

同四 一、杭井手数六本 高サ式尺式寸 同

同五 一、杭井手数六本 高サ式尺七寸 同

同六 一、簾井手 同

同六 一、簾井手 同

- 同七 一、門樋幅八尺 高サ壹尺九寸 同
- 同八 一、簾井手 壹ツ 北ノ方へ入
- 同小南九 一、門樋幅八尺 高サ三尺五寸 南へ式町三反入  
但シ此門樋之下へ伏越シ樋有り
- 是方上分木迄川幅五尺五寸
- 字タツミタ十 一、簾井手 壹ツ 北ノ方へ入
- 字ユキ十一 一、門樋幅五尺五寸 高サ貳尺五寸 南北ノ方へ入
- 字タツミタ十二 一、門樋幅五尺五寸 高サ壹尺五寸 北之方へ入
- 同十三 一、門樋幅五尺五寸 高サ壹尺六寸 北ノ方へ入
- 字ユキ十四 一、簾井手 壹ツ 南ノ方三反へ入
- 字タツミタ十五 一、門樋五尺五寸 高サ壹尺貳寸 北ノ方へ入板樋  
右北川へ入
- 同十六 一、杭井手数三本 高サ壹尺貳寸 北ノ方へ入
- 字ユキ十七 一、門樋幅五尺五寸 高壹尺八寸 南ノ方へ入

耳成地区

- 字中西十八 一、門樋幅五尺五寸 高サ壹尺八寸五分 北ノ方へ入
- 同十九 一、門樋幅五尺五寸 高サ壹尺六寸 北ノ方へ入
- 同廿 一、簾井手 壹ツ 北ノ方へ入
- 同廿一 一、門樋幅五尺五寸 高サ壹尺七寸五分 北ノ方へ入
- 同廿二 一、簾井手 壹ツ 北ノ方へ入
- 同ヨノモト廿三 一、門樋幅五尺五寸 高サ貳尺壹寸 南之方へ入
- 字カナイタ廿四 一、簾井手 壹ツ 北之方へ入
- 字南カナイタ廿五 一、門樋幅五尺五寸 高サ貳尺壹寸五分 北南ノ方へ入
- 同所廿六 一、簾井手 壹ツ 南ノ方式反へ入
- 同所廿七 一、簾井手 壹ツ 南ノ方式反へ入
- 字カナイタ廿八 一、砂井手 壹ツ 北ノ方へ入但竹伏  
越樋有り
- 字イマツミ廿九 一、簾井手 壹ツ 南ノ方式反へ入  
北之方へ入

八三九



同所三十

一、簾井手

壹ッ

南ノ方式反へ入  
北ノ方へ入但竹伏越  
樋有り

字シハラタ三十一

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺三寸

北ノ方へ入

同所三十二

一、簾井手

壹ッ

南ノ方式反へ入  
北ノ方へ入

同所三十三

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺式寸五分

南ノ方へ入  
北ノ方へ入

字イマツミ三十四

一、簾井手

壹ッ

南ノ方壹反三畝へ入  
北ノ方へ入

字八反田三十五

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺三寸

北ノ方へ入

同所三十六

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺四寸

北ノ方へ入

字シヤウジ三十七

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺六寸

北ノ方へ入

同所三十八

一、門樋幅五尺五寸

高サ壹尺六寸

北ノ方へ入

字シヤウジ三十九

一、杭井手数三本

壹ッ

南ノ方四畝へ入  
北ノ方へ入

東シヤウジ四十

一、竹杭井手

壹ッ

北ノ方へ入

井手数ノ四拾ヶ所

北川筋常盤村領境分木ノ三間上ニ而川幅九尺

右三間目ノ上拾式間目ニ而川幅六尺五寸

右拾式間目ノ上きとら井手迄川幅六尺五寸

字松ノ下西ノ一

一、簾井手

壹ッ

北ノ方へ入

字同所二

一、門樋幅六尺五寸

高サ式尺五分

北ノ方へ入

同所三

一、門樋幅六尺五寸

高サ式尺五分

北ノ方へ入

ハツコマエ四

一、門樋幅六尺五寸

高サ式尺五寸

北ノ方へ入

同所五

一、門樋幅六尺五寸

高サ式尺五寸五分

北ノ方へ入

字イマクボ六

一、杭井手数四本

高サ壹尺

北ノ方へ入

字クラノカイト七

一、砂井手

壹ッ

北ノ方へ入

字トウト八

一、簾井手

壹ッ

北ノ方へ入

字キトラ九

一、杭井手幅六尺五寸ニ杭九本高サ壹尺四寸

同所立も、長壹丈式尺ニ杭拾式本高サ式尺五寸

但シ板樋九寸五分ニ卷尺式寸此井手 $\delta$ 上三間目ニ而川

幅六尺五寸

右三間目 $\delta$ 上おんは井手三間下迄川幅六尺五寸

字東シヤウジ十

一、簾井手

卷ッ

南方式反へ入

字ランハ十一

一、杭井手幅九尺ニ杭九本高サ式尺

同所立も、卷丈ニ杭八本高サ式尺三寸

此井手 $\delta$ 上五間目ニ而川幅六尺五寸

右五間目 $\delta$ 上分木 $\delta$ 下へ五間目迄川幅六尺五寸

井手数 $\delta$ 拾卷ヶ所

一、分木幅八尺五寸北之方 但上板幅六寸

一、分木幅五尺五寸南之方 但上板幅六寸

一、右兩方分木之間ニ六寸土樋有リ 東シヤウジニ反へ入 但此高南川北ノ方掛リへ入

字北口西 $\delta$ 一

一、簾井手

卷ッ

南ノ方五畝へ入

同所一

一、簾井手

卷ッ

南之方卷反へ入

字北口

一、伏セ越樋

卷ッ

見たれ引

字古寺三

一、杭井手幅卷丈式尺ニ数拾本高サ卷尺卷寸南ノ方へ入

井手数 $\delta$ 三ッ

字古寺

一、悪水留門樋幅六尺 高サ四尺五寸 大福村普請

一、横井手拾式間

一、腕堤拾卷間

葛本常盤両村之普請

右横井手 $\delta$ 西へ水留門樋迄拾卷間之腕堤ニ杭式通り、但

拾卷間之内表九間式尺五寸ニ杭数五拾七本裏八間式尺杭

数四拾七本、此所者年々普請多少有之、亥年間数杭数相

改如此ニ候、但拾卷間悉ク破損致候節ハ右亥年相改申間

数杭数積リを以其儘杭打、用水之構ニ成不申候様ニ可致

候、右拾卷間之外破損致候ハ、大福村 $\delta$ 其儘普請いた

し用水構ニ成不申候様ニ可致候、右拾卷間之内横関之き

わ式間ハ面斗ニ杭打、尤大福村除ケ堤之構ニ成不申候様

ニ可致候、

分水胴木入用割高之覺

一、高拾八石四斗 分水胴木 $\delta$ 上南ノ方水掛リ

一、高七石七斗 分水胴木 $\delta$ 上北ノ方水掛リ

見立畝卷町卷反五畝分

一、高七石七斗 分水胴木 $\delta$ 上北ノ方水掛リ

見立畝七反分

此内ニ增高込但当分有畑有屋敷高不入

一、高百五拾貳石四升 分水胴木<sub>右</sub>下北川水掛リ

一、高千貳百七拾貳石壹斗九升 北川分水掛リ

北之方大川限

一、高百八拾石 南川分水掛リ

一、高百七拾貳石六斗四升 分水胴木<sub>右</sub>下南川水掛リ

右二口高<sub>ノ</sub>千四百五拾貳石壹斗九升 葛本村

北之方北川限

此内ニ增高込但当分有畑有屋敷高不入

一、高六拾石八斗 分水胴木<sub>右</sub>下南川南方

三ヶ村高合貳千七百四拾三石六斗八升

水掛リ見立畝三町八反分

右之高を以分水胴木入用割附可致之事

一、高三拾六石八斗 分水胴木<sub>右</sub>下南川落合<sub>右</sub>

右之帳面ハ只今相見ヘ候通改申候、此上洪水又ハ如何様

南ヘ水掛リ畝貳町三反分

之儀御座候而井溝田地ヘ水とれ申間敷茂知れ不申儀ニ候

一、高五石六斗 分水胴木<sub>右</sub>下南川南之方

ヘハ、其節ハ三ヶ村之迷惑ニ成不申候様ニ、互了簡可致

字コセ水掛リ見立之畝三反半分

候、此帳面之外ニ取替シ之証文尅通相添、双方江取替シ

右七口高<sub>ノ</sub>四百五拾三石九斗八升 大福村

置申候、向後相違之儀有之候ハ、此帳面并証文持出吟

内式拾六石壹斗ハ 分水胴木<sub>右</sub>上ニ而南方北ノ方田地  
壹町八反五畝ヘ水入候故胴木入用割高除之

味可致候、為後日証文取替シ帳面双方連判如件、

残テ四百貳拾七石八斗八升但当分有畑有屋敷ノ高不入

元禄八年亥ノ十一月三日

一、高五百三拾貳石三斗 南川分水北南ノ方掛リ

十市郡葛本村庄屋

一、高三百三拾壹石三斗壹升 北川分水かかり

次郎兵衛 ㊤

右二口高<sub>ノ</sub>八百六拾三石六斗壹升 常盤村

同村年寄

伊兵衛 ㊤

同	同	同	同村年寄	同村庄や	同郡大福村庄や	同	同	同	同	同村年寄	同郡常盤村庄屋	同	同
甚次郎	彦三郎	小三郎	左太郎	喜右衛門	茂右衛門	彦次郎	久次郎	太郎兵衛	源三郎	孫右衛門	平兵衛	五兵衛	
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	

○浄教寺修覆添状写

寛政九年二月

添簡写

興正寺御門跡末寺、和劬十市郡葛本村浄教寺大鼓部屋并  
 台所同門屋及破損候ニ付、此度組替普請仕度、大鼓部屋  
 等之儀者門屋之方江引直し仕度願上候間、右浄教寺願之  
 通御聞濟被下候、以上、

寛政九年

巳二月

御奉行所

興正寺御門跡内

黒田伊賀守

同	同	同	同
忠五郎	善藏	治右衛門	与兵衛
㊦	㊦	㊦	㊦

(河合正義文書)

南都江願書写

新発意 了順  
組頭 源四郎

乍恐御願奉申上候

御番所様

小堀縫殿御代官所

十市郡葛本村興正寺末寺  
浄土真宗 浄教寺

一、当寺庫裏并門及破損候ニ付、別紙絵図之通新木ニ古

○新堂村野井戸一件和熟下濟証文  
文化十三年六月

(河合正義文書)

木を用、古来有来リ之通組替仕度、尤門之儀者格別ニ損し有之貧寺之儀故、取締難出来候ニ付、右之門者

奉差上濟証文之事

取除ケ候而、跡地江大鼓部屋を其儘ニ引直し、有来リ

一、新堂村領字しりえと申所野井戸かへ水之儀、川下常

之通組替申度、右大鼓部屋者本堂之続ニ有之大鼓を釣上ケ、下を通ひ候様ニ致有之候ニ付、右を門ニ兼申度

盤村葛本村右両村が故障申立候儀ニ付、新堂村が右両村相手取、去ル十八年以前寛政十一年未年八月御訴訟

奉存候、右奉申上候通ニ而新規簿様等之儀者、不仕組

奉申上候処、相手方御召出之御裏判被下置、相手方方

替普請之儀、本寺并御代官所江相願申候処、当御番所

も返答書奉差上候而、双方被召出御吟味之上、訴返違

様江願申上候様与申仕候、則本寺が添簡御渡有之候ニ

却之処段々御理解被成下、郷宿対談被仰付候得共行届

付奉差上候、右之趣御願奉申上候間、御許容被成下候ニ

不申候故、御猶予御願奉申上候而帰国対談仕、度々日

ハ、難有可奉存候、以上、

延御願奉申上候得共、相片付不申候ニ付、其段御断奉

巳二月十五日

葛本村浄教寺

申上候処、右一件双方御地頭江御渡ニ相成、双方村方

病氣ニ付代

が追々取噉人相頼候而、段々及懸合候得共、何分相濟

不申候故、此度御返上ニ可相成処、猶又当御役所様ニ而厚御理解被成下、依之取噺人共於当地誠情申談候上、和熟下濟仕候訳左ニ奉申上候、

一、新堂村訴訟ニ字しりえ野井戸者、在来之儀ニ而年歴不知、かへ水仕来候段申之、常盤葛本両村を返答ニ者、新規ニ掘候儀ニ而、両村用水川之水右野井戸江引取候様申立、猶又新堂村ニ者野井戸江水引取候儀無之旨申之、双方違論有之候処、元来右論所井戸辺川中とも新堂村領ニ而有之、川水井戸江引、不引之儀者相分り不申候得共、此度和談相調、下郷疑惑も解候様、常盤葛本両村を右堤際を川中迄、幅三尺深サ底土迄砂之分掘除、上之庄村領境を下迄、長サ三間半土を入、堤根を敷式尺高サ定水際を四寸上へ附土いたし可申筈、自然堤根附土流失いたし候ハ、下郷両村を新堂村役人迄相断立会及見候上、此度右留方通以来共、先月四日為取替一札通、双方相心得仕立之儀者、常盤葛本両村を可致筈、尤以来新堂村野井戸かへ水者勝手次第之

耳成地区

事、

右之外、先月四日写奉差上候相規シ<sup>(マツ)</sup>為取替一札通、此度留方仕候付、此外年来双方違却之爭論有之候得共、諸事取噺人江相任せ、以後互ニ聊無申分和濟仕候、ケ様下濟仕候儀、全以厚御憐愍之御理解故と、難有仕合ニ奉存候、依之双方連印濟証文奉差上候、右之趣々恐御聞届被為成下候ハ、一統難有可奉存候、以上、

文化十三年六月

藤堂和泉守殿領分

和州市郡新堂村

百姓惣代 捨 松 ㊦

年寄 長 兵衛 ㊦

庄屋 七 兵衛 ㊦

同郡池之内村

取噺人 善 六 ㊦

同郡桜井村

取噺人 伝 三 郎 ㊦

小堀中務殿御代官所

同郡常盤村

百姓惣代 甚 次 郎 ㊦

八四五

年寄 源次郎 ㊦  
庄屋 儀右衛門 ㊦

右同断

同郡 葛木村

百姓 惣代 彦四郎 ㊦

年寄 九兵衛 ㊦

庄屋 嘉助 ㊦

同郡 八条村

取唆人 新右衛門 ㊦

山辺郡 東井戸堂村

取唆人 卯右衛門 ㊦

御奉行様

(虫損)

右之通連印□洛状奉差上候処、御洛有之候付同文言ニ而

双方江為取替置申候事

○飢人書上帳

文政四年十二月

(河合正義文書)

七十六之内式冊

文政四年

飢人書上帳

巳

十二月

大和国十市郡  
葛本村

高千五百拾五石七斗四升

惣人数四百五拾式人之内

一、飢人数百四拾式人

内

男八拾壹人

拾人 六十以上

内 六十三人 拾五以下

八人 三才以下

女六拾壹人

内 五拾三人 十五才以下

八人 三才以下

右之通飢人相改書上候、相違無御座候、何卒貯夫喰御下渡シ被下成御願奉申上候、以上

文政四巳年

葛本村

十二月

庄屋 庄右衛門 ㊦

年寄 利 助 ㊦

百姓惣代 仙 助 ㊦

小堀中務様

御役所

○清水領代官仰付ニ付御申渡書

文政七年九月

(河合正義文書)

七十七
文政七年
御申渡書
申
九月
和州十市郡
葛本村

御申渡

其村之今度清水御領知相成自分御代官所被仰付候間、

耳成地区

奉得其意、従前々公儀被仰出候御条目御定書之趣ハ勿論、惣而御法度之趣堅相守、不可有違犯候、五人組帳前書年々無懈怠小前者江為読聞、印形取之、可差出夏、

一、大小之百姓専々農業ニ精を出し、田畑不荒様心掛ケ、前々々荒作有之所者無油断手入いたし起返し可申候、尤起廻り之場所、其外切添切開立し亦ハ先親より無謂高外紛敷地所惣而作付可相成、空地等有之候得者早々訴出改を請地所相当之御年貢可相納候、若隠置、後日相知れ候ハ、村役人共可為越度夏、

一、百姓共身持風俗不宜者、怪鋪仕業有之者、又者博奕賭之諸勝負致候者、或者出所不慥成男女等村内ニ差置候もの於有之者、早々可訴出夏、

一、定免年季中之分并諸運を小物成年季中之分者、先当年者是迄之通可相心得、尤御領知相成候上ハ、追而取調之上、別段沙汰および候儀も可有之事、

一、御年貢銀納方之儀者、相触候日限通り急度上納可致



候、若納方於遲滯者吟味之上急度可申附事、

但右上納儀者大切之亼ニ候条郷宿等を以相納申儀可

為無用候、尤猥り惣代杯与喟、御年貢納者勿論、御

用向引請取斗候義者不相成事ニ候、併惣代ニ不致候

而者難相成儀者、其趣別段可申立事、

一、御廻米有之村々者米証精々相撰、上中下三段之手本

米差上改ヲ請、入念斗立丈夫ニ俵拵并指札いたし、触

出日限通り河岸可致亼、

一、年々皆済目録割附相渡し候ハ、小前之者迄得く与

為致披見、皆済目録者写ニいたし、銘々披見いたし候

趣、小前迄亼人別印形取之、可差出事、

一、村入用之儀、村役人者常々実意ニ心附、可成丈費ヲ

少目キ、聊不正之儀無之様、正路ニ勘定相立、帳面ニ

記、是又小前之者迄披見いたさせ、亼人別承知之印形

取之、式冊宛毎年差出、改ヲ請、御役所之割判請置可

申事、

一、惣而百姓共公亼出入之儀者、村方困窮之基候間、村

役人共常々心附、右体之儀有之候ハ、実意ヲ以双方  
申究、為致和熟、事済候様可取斗候、然共実々無抛子  
細有之候ハ、村役人差添可訴出事、

一、村内神事祭礼義者、作物虫送風祭与名附、哥舞妓淨  
瑠璃見せ物之類、惣而人集儀堅致間敷事、

一、堤川除用惡水樋橋堰と普請所之儀、御料者御代官、  
私領者領主地頭入用を以、普請仕来候、証拠分明之分  
者、吟味之上実法を以、御普請可被仰付候得共、一村

江不拘持主一分之場所者仕来有之候共、自普請可致事  
ニ候、勿論右御普請所自普請所共常々村役人共無油断  
見廻り、大破不相成様心附、手入取繕いたし年数相保  
候様可致事、

一、百姓共出穀貯夫食之儀、村役人共者不及申、小前も  
の迄無油断手当いたし、年々貯穀員数相増候様、村役  
人共心得取斗其旨可申出事、

一、御用ニ付自分并地方掛り御役人廻村之節、先触入馬  
之外余斗之人馬差出シ申間敷候、尤付泊之村方ニ而ハ

御定之木賃米代相払候間取有合之所を以相賄、一汁一菜之外馳走ケ間鋪儀者勿論、旅宿取繕等一切致間鋪、水夫ニ至迄余斗之人足差出申間鋪事、

但村役人共大勢旅宿之勝手江相集、酒食等相催候儀可為無用事、

一、地方掛り御役人ハ不及申、自分家来小者ニ至ル迄、金銀米錢衣類諸道具其外輕キ品たり共、一切音物致間敷候、尤心得違之もの有之、無心ケ間敷義申掛ケ候共、急度相断其旨自分迄申達可置候、若不正之儀有之、後日相知れ候ハ、吟味之上可申付事、  
右之条々得其意、村役人共ハ不及申、小前末々迄不洩様急度申附、銘々一村限小前請印いたし早々差出可申候、以上、

右之趣村中大小之百姓不洩様請書印形取置候様被仰付候ニ付、村中一統相守承知奉畏、依之請書連印仕候、以上、  
名津  
御役所

文政七申年

耳成地区

壬八月

○葛本新口両村米川筋ニ付取替状

天保八年六月

(河合正義文書)

為取替一札

一、米川筋川下其御村当村立会、川中ニ際目杭有之、此度申談候左之通、  
一、右川中際目通り、少しニ而も街に行倒又者変死等出来候節、檢使等之有無ニ不相抱諸入用式ッ割ニ可致事、  
一、川中際目杭々東ノ方ニ出来候得者葛本村之引受、西

庄屋与七郎 ㊦

年寄伊兵衛 ㊦

同断利助 ㊦

同断九兵衛 ㊦

同断嘉助 ㊦

同断六治郎 ㊦

同断佐兵衛 ㊦

(以下八十八名ノ人名、印ヲ略ス)

ノ方ニ出来候得者新口村方引請可申候、尤川中之儀ニ  
候得者御互ニ銀札四拾目ツ、余内可致事、

一、右川堤ニ出来候事者其村仕舞ニ引請可申事、

右之通後日御互ニ彼是争論無之様、此度双方申談候之上  
為取替書いたし置候、為後日仍而如件、

天保八丁酉年六月

新口村庄屋

才次郎 ㊦

同村年寄

太藏 ㊦

同村百姓惣代組頭

弁治 ㊦

葛本村

御役人中

○鎮守年中行事定書

天保八年八月

(河合正義文書)

鎮守定書

正月 御酒御膳御鏡餅、

但シ<sup>(マ)</sup>鮎四枚時之青物壹菜、

二月

三月三日 御酒御膳、

但シ前同断、

四月

五月五日 御酒御膳、

但シ前同断、

但シ□湯之儀ハ御膳右同断、神舞人足夕飯干魚式拾枚

胡瓜式拾本并村役人中江にしめ巻組可出事、

六月

七月七日 御酒御膳、

但シかます四枚時之青物一菜、

八月神事 御酒御膳、

但シ前同断、

外神舞夕飯可出事、

九月九日 御酒御膳、

但シ右同断、

十月

十一月

十二月大晦日 門松竹、穂だれ藁、だいぐ、かうじ

橘、串柿、伊勢海老、

右先例之通相記候間無滞り相勤可申答也、

右之通月行事壹月替り相廻り候間、五節句ハ不申及、毎月朔日十五日廿八日掃除仕、歳末少も是有間敷事、

天保八年酉八月写置

月行事名前左ニ

惣市郎

他二十三名連署

○日光社参御用金差上請書控

天保十三年四月

(河合正義文書)

天保十三年

御用金御請書 扣

寅四月

和州市市郡

葛本村

耳成地区

差上申御請書

和州市市郡

葛本村

一、金四拾兩

庄右衛門 ㊦

一、金貳拾五兩

利 助 ㊦

一、金拾五兩

九兵衛 ㊦

一、金拾兩

与七郎 ㊦

一、金拾兩

嘉 助 ㊦

一、金拾兩

六次郎 ㊦

一、金拾兩

利七郎 ㊦

一、金拾兩

嘉兵衛 ㊦

助 ㊦

右者来卯四月、日光御宮御参詣被為遊候ニ附、御武役御用金之内書面之金高、私共方出金被仰附承知奉畏候、然ル上者来卯三月迄之内半通宛兩度ニ御触、日限急度調達差上可申候、依而御請印形差上申所如件、

天保十三年寅年

右村

四月

差出人

庄右衛門 ㊦

同断 利 助 印

同断 九兵衛 印

差出人 与七郎 印

同断 嘉 助 印

同断 六治郎 印

同断 利七郎 印

同断 専 助 印

同断 嘉兵衛 印

右村 百姓代 惣市郎 印

年寄 六治郎 印

〃 嘉 助 印

〃 嘉 助 印

〃 与七郎 印

〃 利 助 印

〃 九兵衛 印

庄屋 庄右衛門 印

御取締役衆中

川口 御役所

○風水害損害臨時入費割帳

嘉永元年十二月

(河合正義文書)

嘉永元年

当申年風雨水押損毛ニ附臨時入用割賦連判帳

十二月

庄屋庄右衛門

覚

一、銀三貫拾貳匁四リ

右者当申風雨水押違作ニ附、披見御檢見入用三郡割当村掛リ

但し引高壹石ニ附銀八匁懸リ

一、銀三貫貳百八拾九匁

右同断、常盤村ニ而休泊賄諸入用跡村割銀

但し前同断之所銀八匁七分三厘八毛掛リ

一、銀壹貫六百目

右者同郡木原村御檢見入ニ相成候故、穩ニ相納リ候様

示談之上融通いたし、右銀子同村へ遣し候分

夫組頭

治右衛門

一、銀壹貫目

右者水押ニ而別段欠作之者并難決人江示談之上余内遣

し候分

一、銀四百九十貳匁七分貳厘

右ハ村借財元三<sup>(カ)</sup>貳百四十日之内返銀之分

九貫三百九拾四匁六分貳厘

但し高壹石ニ附銀七匁八分六リツゝ

右者当申風雨水押違作ニ附、臨時入用出来候ニ附、村役人組頭相談之上、当申惣銀割江組入、一同得心之上割賦仕候処、少も相違無之候間、後日右臨時入用銀之儀ニ附、御願ケ間敷儀、毛頭無御座候、依之庄屋年寄組頭惣代重百姓連判致置候、以上、

嘉永元申年

十一月

庄屋

庄右衛門 印

年寄

利 助 印

同断

与十郎 印

同断

九兵衛 印

同断

嘉 助 印

同断

六右衛門 印

重百姓組頭

仙 助 印

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

利七郎 ㊦

治三郎 ㊦

治右衛門 ㊦

嘉兵衛 ㊦

良助 ㊦

惣市郎 ㊦

善助 ㊦

藤五郎 (印ナシ)

忠治郎 ㊦

与八郎 ㊦

卯兵衛 ㊦

庄兵衛 ㊦

武兵衛 ㊦

組頭重百姓

○米穀高直ニ付溺人へ施米覚帳

嘉永三年十二月

(河合正義文書)

嘉永三戌年

米穀高直ニ付溺人之者へ施米覚帳

十二月

村役人

一、米貳石

庄右衛門

一、々五斗

与十郎

一、々四斗

治三郎

猪惣治

治右衛門

喜八郎

小三郎

藤五郎

仙助

一、々三斗

一、々壹斗

一、々貳斗

一、々四斗

- 一、〓壹斗五升 甚 藏
- 一、〓五斗 六右衛門
- 一、〓壹斗 良 助
- 一、〓壹斗 和 介
- 一、〓五升 宗市郎
- 一、〓貳斗 久四郎
- 一、〓三斗 か ね
- 一、〓四斗 利七郎
- 一、米壹石五斗 利 助
- 一、〓五斗 嘉 介
- 一、〓三斗 嘉兵衛
- 一、〓五斗 九兵衛
- 一、〓壹斗 善 介
- 一、〓壹斗 藤兵衛
- 一、〓壹斗 彦四郎
- 一、〓壹斗五升 武 介
- 一、〓四斗 忠四郎

耳成地区

- 一、〓壹斗 武兵衛
  - 一、〓壹斗 新五郎
  - 一、〓壹斗 庄兵衛
  - 一、〓壹斗 与八郎
  - 一、〓壹斗 宇兵衛
- ノ三十人

○夫食拝借請証文

嘉永四年三月

(河合正義文書)

嘉永四亥年  
夫食拝借御請証文 扣  
和州十市郡  
葛本村

(帳)

一、 紐三拾石  
差上申拝借証文之事  
和州十市郡  
社倉穀之内拝借  
但し当亥月卯迄五ヶ年置居辰月申迄五ヶ年賦壹ヶ



年ニ靱六石宛返納詰戻シ仕候積

右者去戌年、稻木綿存外違作ニ附、夫食拝借奉願上候  
処、御伺之上前書之通拝借被仰附、則靱御渡被成下奉請  
取候、返納之儀ハ書面割合之通相心得、其年ニ社倉江可  
詰戻旨被仰渡、一同難有承知奉長候、依之小前連印拝借  
証文差上申所如件、

嘉永四亥年三月

右村

良 助 ㊦

(他八十二名連署連印)

年寄

六右衛門 ㊦

嘉 助 ㊦

九兵衛 ㊦

利 助 ㊦

与 十郎 ㊦

庄屋

庄右衛門 ㊦

川口

御役所

前書之通相違無御座候ニ附奥書印形仕奉差上候

取締役

嶋岡助左衛門

同断

上田作次郎

○常盤葛本両村車井手ニ付規定一札

文久元年八月

(河合正義文書)

規定一札之事

一、粟原谷川筋に有之候処ハ、藤堂和泉守様御領分川合  
村耕地字かうがくじ車々、川下筋葛本常盤両村往古よ  
り支配仕養水取来り、旱水之節ハ度々瀬張等致来り候  
処、右川合村領ニ車ニケ所有之、同所車井手往古々兩  
村落し来り候処、右車主治郎兵衛殿々川治ト印ス木札  
三枚葛本村へ被相渡、同木札ヲ以車井手相落し可申  
様、葛本村江及頼談ニ、夫故常盤邑と彼是入継有之候  
ニ付、両村及熟談ニ、濟方之儀者以来右木札ヲ以車井  
手不相落さ様申合せ、則前件之木札三枚之内、葛本村

へ二枚納メ、常盤村迄壹枚納メ、先規在來之通り両村  
 之もの水入用之節者可相落ス筈、右約定之通り急度相  
 守可申候、若木札入用之節両村談し之上持扱ひ可致  
 筈、尤両村之儀ハ往古々同水場ニ御座候間、右井筋之  
 儀ニ付何事も先規通り陸間敷可致筈、為後証之相規一  
 札連印依而如件、

文久元年

植村駿河守様御預所

西八月日

十市郡常盤村

庄屋

六兵衛 ㊦

年寄

藤兵衛 ㊦

同断

又三郎 ㊦

同断

重治郎 ㊦

組頭惣代

伊兵衛 ㊦

百姓代

久三郎 ㊦

御預所

同

同 郡葛本村

耳成地区

○葛本村御請書

明治二年正月十一日

(河台正義文書)

明治二巳年  
 御請書  
 正月  
 葛本村

庄屋

利助 ㊦

年寄

広三郎 ㊦

同断

与右衛門 ㊦

同断

六右衛門 ㊦

同断

嘉助 ㊦

組頭惣代

治右衛門 (印ナシ)

百姓代

重兵衛 (印ナシ) ㊦

御請書

一、村々取締り方之儀、例年宗門御改之節可差上候五人組前書掟之通、弥々相守可申事、

一、百姓農業専ら可致者勿論之処、心得違之もの有之、兎角等閑ニ相心得、如何之度ニ候哉、以来屹度出情可致事、

一、其身分限不相応花美奢ケ間敷儀相聞、以来質素儉約相守可申事、

一、近来風儀不宜、兎角多人數寄集り、中ニも聊之度ニ大勢相集り、不宜工ミ致シ人ヲ為困候儀も有之候而已ならず、御法度之博奕諸勝負度相催候趣も相聞、不埒之事ニ而、其儘差置候而者行々村治り方ニも聞キ候間、以来右ニ携候もの有之候ハ、早速可申出、此上心得違無之様可致事、

一、平日喧嘩口論ヲいたし候もの有之趣相聞、不埒之至ニ候、右様之儀無之様嚴重ニ相心得可申事、  
一、宗門帳ニ書上候外、無人別之もの指置候義者不相成

処、心得違之もの有之候間、兼而御触面之通相心得、無人別之もの一切差置申間敷事、

一、何事ニ不依人之腰押等致候もの折ニ者有之趣ニ相聞、以之外不埒之儀ニ附、以後右様之もの有之者急度吟味之上嚴重可及沙汰候間、心得違無之様可致事、

一、道筋ハ格別、在方ニおゐて煎売ぐだもの等商致間敷候、右等之場所へ人集り、自然悪事増長ニ成行候基ニ候間、右煎売ぐだもの店等ハ在方ニおゐて相止可申事、

一、御一新ニ付而者、下女下男小供ニ至迄、悪事ニ不携候様其主人親々急度可申附度、

一、近比風義不宜、村方に寄小作年貢米壹反ニ附米五斗就壹石なし而者不相納候申合致し候村方も有之、実事ニ候ハ、容易不成義ニ附、聞付次第早速可申出事、

一、近来村方ニ寄、庄屋年寄相手取不見当儀ヲ箱訴等致候村方も有之、此御時節不顧御上様御苦勞奉掛候心得違之もの間々有之、右等之儀聞附次第御注進可申上候

夏、

右之通被仰渡、一同承知仕以來急度相心得、聊ニ而茂以何之所業致候もの有之候ハ、其組合隣家之もの夕早速申出、御注進可申上旨被仰渡承知奉畏、依之村方一同追判御請印仕候、以上、

明治二巳年

正月十一日

葛本村

良助 ㊦

(以下八十七人ノ人名、印ヲ略ス)

年寄

嘉重郎 ㊦

同断

重兵衛 ㊦

同断

与右衛門 ㊦

庄屋

庄右衛門 (印ナシ) ㊦

○金札十二ヶ年賦御貸下取調帳

明治二年四月

(河合正義文書)

耳成地区

明治貳巳年  
金札拾貳ヶ年賦御貸下取調帳  
四月 郡政下用掛リ  
川合庄右衛門

一、金拾八兩

十市郡

内拾兩 金札

葛本村

八兩

常盤村 (アトフデカ)

此錢七拾六貫八百文

内 金拾貳兩

葛本村分

之六兩也

常盤村分

六月三日庄屋又五郎渡ス

一、金百三拾五兩

竹田村

内八拾兩 金札

五拾五兩

此錢五百貳拾八貫文

右之通榷ニ請取申候、以上、

八五九

耳成地区

一、金百三拾九兩

庄屋 忠兵衛 ㊦

内八拾兩 金札

新賀村

五拾九兩

此錢五百六拾六貫四百文

右之通

惣代 又五郎渡ス

一、金百三拾六兩

石原田村

内八拾兩 金札

五拾六兩

此錢五百三拾七貫六百文

渡錢卷 ㊦ 札四百七 ㊦

庄屋 佐兵衛 ㊦

五百札式百壹枚

源 七 ㊦ 渡ス

百文札式百枚

五月二日 (アトフデ)

五拾札式百式枚

一、金六拾六兩

十市村

内四拾兩 金札

式拾六兩

八六〇

此錢式百四拾九貫六百文

右之通儲ニ受取申候以上

一、金八拾兩

惣代 忠兵衛 ㊦

内四拾兩 金札

新木村

四拾兩

此錢三百八拾四貫文

渡し札卷 ㊦ 札式百四枚

五百札式百枚

百文札八百枚

四月廿八日

渡ス (アトフデ)

一、金百五拾六兩

八条村

内九拾兩 金札渡ス

六拾六兩

此錢六百三拾三貫六百文

渡し卷 ㊦ 札五百三枚

五百札式百枚

百文札三百枚

五拾文札拾式枚

四月廿八日 (アトフデ)

庄屋

宗次郎へ渡ス

(マ)

一、金貳百五拾兩

内百五拾兩 金札

百兩

此錢九百六拾貫

右之通

一、金百八拾兩

内百兩 金札

八拾兩

此錢七百六拾八貫

右之通

一、金貳百六拾八兩

内百九拾兩 金札

七拾八兩

此錢七百七拾八貫八百文

一、金百兩

内六拾兩 金札

四拾兩

木原村

此錢三百八拾四貫文

右之通

一、金拾貳兩

一、百五拾兩

惣代 又五郎渡ス

内膳村

一、貳百兩

一、拾五兩

小以千九百五兩

内千百四拾兩 金札

七百六拾五兩

代錢七千三百四拾四貫文

四千四百

貳千貳百

五百四拾

貳百四貫

此内

庄屋 又五郎渡ス

土橋村

同 村

中曾司村

小槻村

今井町

忌部村

壹札四千四百枚

五百札四千四百枚

百札五千四百枚

五拾札四千八拾枚

耳成地区

三百七拾七両 高市郡之分

内貳百貳拾両 金札

百五拾七両

此錢千五百七拾貳百文

渡錢九百四貫文 壹文札九百四枚

四百五拾貳文 五百文札九百四枚

百貫文 百文札千枚

五拾壹文 五拾文札 千貳拾四枚

千五百七貫貳百文

弥右衛門

治郎兵衛 渡ス

常盤組四ヶ村

札 貳千六百七拾八貫四百文

壹札千貳百貳拾貳枚

五百文札貳千貳百拾枚

内 百文札貳千五百拾四枚

五拾札貳千枚

八六二

四月廿八日錢札又金札三百九拾両也

常盤村

右之通受取可申候以上

惣代又五郎

○新口村車髮結名前取調帳

明治五年七月八日

(河合正義文書)

明治五年壬申七月八日 車髮結名前取調帳 十市郡新口村
----------------------------------

荷車名前

松尾伊三郎

藤井与吉

乾甚四郎

仲井善三郎

西沢栄三郎

西沢利市郎

野口 莊五郎

辻 忠五郎

松尾 太藏

松尾 市次郎

松井 庄九郎

ノ 拾六輪 此冥加金永三百三拾文

宿賃式戸 此冥加金一ヶ月ニ永六拾文

小車名前

森川 新三郎

西沢 利三郎

竹森 佐平次

岩井 彦五郎

ノ 四輪 此冥加金式錢

髮結名前

北口 嘉七

平井 平七

耳成地区

ノ 此冥加金壹ヶ月金壹朱宛

合永四百五拾四文五分

右之通御座候此段奉申上候

新口村副戸長

西沢利三郎 ㊦

明治五年壬申七月

同断 吉川安五郎 ㊦

戸長 森川新三郎 ㊦

○葛本村戸籍職分惣計

明治七年一月

(河合正義文書)

明治七歲

奈良県第四大区十三小区戸籍職分惣計

十市郡

戊一月 葛本村

戸數百拾壹軒

内 家持百五軒  
借家六軒

八六三



社武社

寺武ヶ寺

僧二人 同家族十壹人 内男七人 女六人

平民百九人 同家族四百五十二人 内男百八十五人 女二百八十七人

人員總計五百七十四人

内男二百八十壹人

十四以下百三人 十五以上三十三人

二十一以上八十九人 四十以上四十八人

六十以上八人 八十以上 無し

女二百九十三人

十四以下百五人 十五以上百三十三人

四十以上五十五人

内

廢疾 女壹人

農 男百七十四人 女百八十五人

雜業 男五人 女七人

雇人 男七人 女六人

人員總計三百八十四人

男百八十六人

女百九十八人

右之通相違無之候、以上

第四大区十三小区

十市郡葛本村

明治七年 副戸長 河合庄作 ㊦

戌一月

○一村限産物表控

明治六年三月

(河合正義文書)

明治六年三月

一村限産物表 扣

八大区十市郡四小区

葛本村

八大区十市郡四小区

葛本村

一、米千貳百拾石 但現石

内 八百貳石五斗 自用費消  
四百七石五斗 自国売物

一、麦百五拾石 自用費消

一、木綿壹万貳千斤

内 三千斤 自用費消  
九千斤 自国売物

雜穀類

一、菜種百三拾九石 自国売物

一、空大豆百貳拾石

内 三拾石 自用費消  
九十石 自国売物

一、白大豆三拾五石

内 貳拾石 自用費消  
十五石 自国売物

一、小豆三石五斗 自用費消

一、小麦三拾石

耳成地区

内 拾五石 自用費消  
拾五石 自国売物

一、粟五斗 自用費消

一、胡麻六斗 自用費消

一、園蔬拾五石 自用費消

内 拾石 自用費消  
五石 自国売物

一、酒三拾石 自国売物

一、醬油拾五石 自用費消

一、味噌貳拾五石 自用費消

一、油貳拾駄 自用費消  
十四駄 自国売物

内 六駄 自用費消

一、蠟燭四百斤 自国売物

一、藍七貫目 自国売物

一、刻煙草拾駄 自用費消  
四駄 自国売物

内 六駄 自国売物

一、地黄五拾貫 自国売物

一、蕈筴七駄 自国売物

一、茄四拾五駄 自用費消

一、里芋六拾駄

内 五拾駄 自用費消

十駄 自国売物

一、大根五拾八駄

一、胡瓜拾駄 自用費消

一、柿五拾貫 自用費消

一、南京拾九駄 自用費消

一、西瓜三拾駄

内 拾駄 自用費消

式十駄 自国売物

一、葱四百貫目 自用費消

一、鶏八拾三羽

一、猫七疋

一、犬五疋

一、樽桶式石 自国売物

但老升 $\delta$ 五升迄ノ小桶

一、鍋蓋五拾石 自国売物

一、竹五駄 自用費消

但二三寸 $\delta$ 四五寸迄

一、割木式拾駄 自用費消

右之通一村限壬申一ヶ年取調書面之通相違無御座候也

十市郡四小区

明治六酉年

葛本邨

三月

副戸長 西岡嘉十郎

同 西岡重治郎

同 川合与十郎

戸長 川合庄作

奈良県令四条隆平殿

○葛本村各種量計秤御調覚

(欠年) 五月十九日

(河合正義文書)

㊦四百式番 葛本村

合正銀百拾六匁九分三厘

印 内訳

千木式挺 一、千木 廿式挺

修覆料 式匁九分七リ 大小

此処へ 右修覆改料

札三匁九リ 受取済 銀卅九匁壹分七厘

棹なしニ付新棹合 一、壹貫目掛千木 印 ⊕ 庄印

代銀式匁式分九リ 鍵代也

緒穴損しニ付棹かへ 一、同 千木拾式挺

代銀壹挺ニ付式匁六リツ、

此代 銀七拾七匁七分式厘

印 新 作 印 紮 ⊙ 印 印 惣 一 郎

印 出 出 キ 印 勘 兵 衛 印 甚 助

印 川 与 印 彦 四 郎 印 武 兵 衛

印 小 印 見 久 印 利 七 郎

銀十式挺

耳成地区

けか損し棹まとい 一、六貫目掛千木

代銀壹匁八分壹リ

印 新 利

修覆料

目消ゆかみ等ニ付棹かへ 一、同 千木式挺

代銀壹挺ニ付七匁分九リツ、

印 出 キ 印 六 右 衛 門

此代 銀十四匁三分八リ

目消紛敷ニ付棹かへ 一、廿三貫目掛千木式挺

印 ⊕ 庄 印

代銀壹挺ニ付拾七匁分八リツ、

印 西 嘉

此代 銀卅四匁五分六リ

棹かへ料

銀七拾七匁七分六厘

右難用ニ付棹かへニ相成候間出来之上此書附を以可相

渡候、い上、

五月十九日 御秤改役所 印

「

〔常盤〕

○常盤村定書

延宝九年八月

(森源治郎文書)

覚

一、此以前同公儀被仰出候御法度之趣注、別紙差出之候間、弥以堅可相守之事、

一、在々所々不依何事、結徒党一味仕者有之者遂穿鑿、科之依輕重急度可被行罪科事、

一、御領分之百姓訴訟并公事出入之儀、於有之者、先達御代官所自然取上無之候者、平岡三郎兵衛に訴之、一

□裁許其上にても存念不相叶、迷惑仕儀有之而、江戸江訴訟に參とも、三郎兵衛并御代官之無副状而不可參、若なにとか子細有之而副状不出節、自分としてなりとも江戸へ參訴訟不申而不叶儀有之者、其所之名主長百姓等兩三人可參、それより江戸江參、訴訟申候者可為曲事事、

一、百姓田地持高拾石より内者、一切田地分申間敷候、拾石より上之百姓田地を分候共、高拾石より内に不成様に分可申、惣而田地分候儀有之者、御代官并名主五人組も、右之旨相断可申事、

付百姓新屋敷停心之事、

一、百姓夫錢之事、先年御代官中江被仰渡候通、毎年帳を拵とちめことに手致判形、年中之入用書付御代官方一冊、名主方に一冊差置、夫錢出入無紛に可仕、

帳面之儀ハ、村中雖為入用名主弁にて申付之候、右之帳面見分に被遣候衆江毎年見せ可申事、

一、不審なるものに宿かすへからず、自然不□□□之あやしき事あらハ、縦親類縁者たりといふとも、早々其所之名主五人組まで在様に可申届事、

一、御領分中、或新田或郷中江、自他所引越もの有之節者、其者出所を能々相改、慥なるもの於無構者可置之事、

一、御領分之者奉公に出、又者商売に行候とも、先々落

着所を名主五人組にしらせ可被出事、

一、堂塔建立に付、百姓中奉加金出候者、人別に□□書

立、御代官江差出可申事、

一、御年貢皆濟無之以前、諸勸進之者御領内江一切入申

間敷候、但所に有来ものハ前々之通可差置事、

右之条々堅可相守、此旨若違背於有之者、堂人之儀ハ不

為申、名主五人組まで急度可被仰付者也

延宝九年六月

右之御条目書被仰渡、村中惣百姓によミ為聞、急度相守

可申候、若背仕候者如何様曲事ニも可被仰付候、為其判

形仕指上ケ申候、以上、

酉八月

御代官所

○常盤村御成ケ御勘定目録

延宝九年十月

(森源治郎文書)

和州十市郡常盤村申ノ御成ケ御勘定目録

耳成地区

一、高九百四拾六石八斗四升四合

此取五百四拾六石四斗壹升六合

一、米四石九升八合

納合五百五拾石五斗壹升四合

納次第

五拾四石六斗四升貳合

此銀四貫貳百七匁四分三厘

百八拾貳石壹斗三升九合

此銀拾四貫貳拾四匁七分

貳百七拾石五斗五升八合

此銀貳拾壹貫三百七拾四匁八厘

四拾三石壹斗七升五合

外

一、米三拾石五斗九升壹合

此銀貳貫三百五拾五匁五分壹厘

一、銀七百九拾四匁四分七厘

一、銀貳百拾三匁七分九厘

御口米四分一

十分一大豆

石二七拾七匁かへ

三分一銀納

石二七拾七匁かへ

六分米

石二七拾九匁かへ

米払

夫米

目払 石二七拾七匁かへ

小役

入歩箱代

耳成地区

納銀高四拾貳貫七百三拾九匁銀壹百ニ付五匁ヲ、分四厘

在甲府加判無之

村田与右衛門

庄や

右之通申御成ケ御勘定仕上ケ申候、若相違之義御座候ハ

源 介殿

、重而仕直シ上ケ可申候、以上、

又十郎殿

延宝九年酉ノ十月

常盤村庄や

源 介

○十市郡常盤村御成ケ割付事

元禄元年十一月

(森源治郎文書)

和州十市郡常盤村辰御成ケ割付事

元高七百五拾七石四斗七升五合

一、高九百四拾六石八斗四升四合

御繩辻

村田与右衛門殿  
上田宇右衛門殿  
河野武兵衛殿  
辻村政右衛門殿

内 百八拾八石貳斗五升三合

增高地なし

五石五斗七升九合

永 荒

残七百五拾三石壹升貳合

有 高

(表書)  
「表書之通申御成ケ勘定相済埒明候、若相違之儀有之ニ  
おゐてハ可為反故者也、

此取四百三拾六石四斗七升八合

一、米九石五斗五升五合

新開定成

取米合四百四拾六石三升三合

外

河野武兵衛 ㊦

辻村政右衛門 ㊧

上田宇右衛門 ㊨

米貳拾八石四斗五合

夫米

右之通当辰年御成ヶ相極候、本郷入作百姓立会順路致免割、来ル極月十五日以前急度可皆済者也

元禄元辰年十一月

平岡三郎兵衛<sup>㊟</sup>

常盤村

庄屋  
百姓

○寺川筋入用ニ付言上書

元禄七年四月

(森源治郎文書)

乍恐謹而言上

御蔵入金丸又左衛門様御代官所

訴訟人和州十市郡葛本村

甲府様御領

訴訟人同国同郡常盤村

織田監物様御知行所

相手同国式上郡上之庄村

一、大和国十市郡葛本村、同郡常盤村立合井関寺川筋

耳成地区

藤堂和泉守様御知行所、十市郡大福村領内ニ御座候右多賀又四郎様井関入用之義、葛本村三分二常盤村三分一ニ割符仕、前々々両村共從御地頭様被下、御普請仕来り候、此水掛り申田地、大福村領内ニも御座候御事、

一、此井関表へ多武峯川粟原川二筋戒重村川合村領内ニ而落合、葛本村常盤村用水ニ而御座候、此川戒重村川合村上之庄村新堂村領内ヨ通り申候へ共、右四ヶ村ニ此水一滴も入申田地無御座候、然所ニ井関表、上之庄村領内ニ此川之北堤ニ新かへ井戸壱つ、同南之堤際ニ新かへ井戸壱つ、去ル西五月下旬ニ堀水かへ取被申候、此川砂石川ニ而御座候処ニ、川端ニかへ井堀、水かへ被申候故、かへ江水悉ぬけ川筋之水下り不申候ニ付、段々改申遣候へ共承引無之、爾今埋不被申迷惑仕候、此川筋之義往古々川上戒重村井関迄、砂はり等支配ニ仕候御事、

一、右井関々葛本村迄貳拾三町、常盤村迄拾七町川筋違御座候、所々右之通用水ヲ妨被申候而へ、少之旱ニも



水下り不申、日損仕迷惑ニ奉存候、乍恐御慈悲を以、  
上之庄村庄屋百性被為召出、新規之かへ井埋、用水を  
妨不被申候様ニ被為仰付、被下者難有可奉存候、以  
上、

元禄七年 戊四月

御藏入金丸又左衛門様御代官所

葛木村庄屋

二郎兵衛

同 村年寄

平兵衛

同

長三郎

同

伊兵衛

惣百性代

甚二郎

甲府様御領常盤村庄屋

源 介

同村年寄

源三郎

同

二郎兵衛

御奉行様

同

久二郎

惣百性代

彦二郎

○大福村との水論一件覚

元禄八年五月七日

(森源治郎文書)

覚

一、和州十市郡葛本村常盤村与、同国同郡大福村水論度  
々僉議之上、此度為檢使平岡吉左衛門手代小木儀太夫  
小野浅丞手代山路政右衛門差遣之、遂糺明裁許申渡候  
事、

一、葛本常盤両村之井関寺川筋に有之横井手拾貳間腕堤  
拾壹間、年々御代官より見分を請、普請仕立候段、帳  
面有之無紛候処、大福村よりハ右井関、元来大福村持  
来候得共、先年葛本常盤之井関洪水に流候付、当村井  
関江相加候、依之横井手之普請ハ両村より勤之、腕堤

拾毫間ハ大福村より普請致候之由雖申、証拠無之申分難立候条、古来之通、横井手腕堤之普請并川上砂堀等、葛本常盤両村より可相勤候事、

一、横井手川口より下大福領に数ヶ所杭関有之、此内式ヶ所去年新規に杭打候由、葛本常盤雖申之、此度見分之趣、古杭等有之、新規とハ不相見候条、只今在来杭関杭数并門樋等之高下、双方立会極置之、向後無相違様に可致候事、

一、右井手筋北川南川水分之所にて、去年大福村より北川口に土俵を入、南川へ水多取候由、葛本常盤より申之、此度令見分之処、両村申通り無紛候条、土俵取除之北川南川水分之所にて、北川口八尺五寸、南川口五尺五寸に相定之、両方之川底に無高下、胴木を伏置、向後可致分水候事、

一、南川筋南之方、大福村田地江ハ、桜井領に大福井手有之、其井手筋より用水取之、南川より水入候事無之、北之方江斗入来候之由、葛本常盤雖申、伏樋門樋

等も有之、溝口茂相見候之故、水入来候之段無紛候条、南之方地底成田<sup>(也)</sup>地、水行届候所までハ南川之用水取之、地高成田地かへ水一切無用たるへき事、

一、南川と大福井手筋落合之所に、大福村より高三尺五寸幅七尺九寸之門樋をふせ、南方大福村田地式町三反之場へ水入候由申之、此度見分之体、大福村より申通無紛相見候条、是又有来通りたるへき事、

一、北川ハ葛本常盤より溝浚致し、南川ハ両村隔年にさらへ候由申之候、大福村よりハ一村としてさらへ候由申候へ共、双方証拠無之候、溝筋之儀ハ、常盤葛本両村として支配致し、井手口より南川常盤領境迄、向後双方立会溝さらへ可致候事、

右之通双方相守之不可違背候、此外当分諍論無之、所々可為有来通候、相互新規仕問敷者也

元禄八亥年五月七日

」

○天神之宮ニ付返答書

元禄十六年十月十二日

(森源治郎文書)

乍恐返答謹而言上

甲府様御下十市郡

常盤村

新賀村

石原田村

木原村

北八木村

金丸又左衛門御代官所

葛本村

一、藤堂大学頭様御下山之坊村<sup>ノ</sup>訴状被差上候ニ付、御裏判謹而拜上仕候、然ハ七ヶ村之氏神天神之宮を山之坊村村氏神ニ而相殘ル六ヶ村ハ寄郷と被申上候、并山之坊村ハ宮本ニ而御座候と被申上候段、扱々莫大成偽りを被申上候、右天神之宮ハ往古<sup>ノ</sup>七ヶ村之惣氏神ニ而、宮本と申義も勿論寄郷と申義も全以無御座候、尤

いつれ之村ニ神主有之と申定も無御座、往古<sup>ノ</sup>七ヶ村として諸事営來候事、毛頭無紛御座候御事、

一、耳成山之東之原ニ天神之宮御座候而、其境内山ハ七ヶ村之支配ニ而御座候所ニ、山之坊村之支配ニ可仕巧

ニ而、山之坊村ハ宮本ニ而六ヶ村ハ寄郷などと、御公儀様ヲ被奉掠候段、不敵千万成偽りを被申上候御事、

一、雨乞之廻状なども山之坊村<sup>ノ</sup>廻し申なると被申候故、申上候通七ヶ村之氏神ニ而御座候故、雨乞などの

義も存寄たる村<sup>ノ</sup>廻状を廻し寄合相談仕義ニ御座候、

山之坊村ニ限り申義ニ而ハ努々無御座候御事、

一、天神之宮、去年閏八月廿二日之夜焼失仕候節、山之坊村<sup>ノ</sup>欠着懸キ、天神之御正躰ヲ取出し、翌日六ヶ村へ告知らせ申候と御書上候、是以大キ成偽リヲ被申候、

山之坊村之儀ハ近辺故、尤早速欠着キ可被申、六ヶ村も其夜早々欠着キ候而、火も無之上ハ焼失致候事不審

成義と、七ヶ村評定仕たる義ニ御座候、然ルを翌日六ヶ村へ知らせ申などと跡なき偽りを被申候御事、

一、右天神之社ヲ大坂ニ而誂らへ候、心安出来候間費無之処ニ誂ニ而可然と申、其相談可仕ため、木原村方廻状廻し、皆々寄合申候ニ、山之坊村ニ而庄屋も年寄も出合不被申、漸々小百姓ヲ差越被申候故、相談相究不申候ニ付、社之相談埒明不申候故、又々寄合ヲ触遣し候得共、寄合不被申ニ付、社出来不仕、何共難義仕候、如此ニ御座候処ニ懸而、山之坊村方廻状廻し候へ共、六ヶ村寄合不申、造営調不申候などと以之外成偽リを被申上候、兎角七ヶ村支配之天神境内山ヲ、山之坊村へ集取申度との物巧ニ而、種々之偽リヲ被申上候段、恣成理不尽と奉存候、乍恐御慈悲之上、被為聞召上、被為遂御僉議重而加様之謀斗ヲ不被申候様ニ、山之坊村被為仰付被下候者難有可奉存候、以上、

元禄十六年未十月十二日

常盤村庄屋 孫右衛門

年寄 忠 助

石原田村庄屋 甚次郎

耳成地区

年寄 源 助

新賀村庄屋 佐右衛門

年寄 彦 九郎

木原村庄屋 藤 四郎

年寄 又 五郎

北八木村庄屋 五 兵衛

年寄 小右衛門

葛本村庄屋 二郎四郎

年寄 猪 兵衛

御奉行様

〇十市郡百姓肥代高騰ニ付嘆願書

宝永七年四月

(森源治郎文書)

乍恐以書付御訴訟申上候

御代官所

和州十市郡村々惣百姓共

一、和州百姓共困窮仕候者、前々方国中人多田畑志へた

八七五

け耕作仕来候ニ付、古檢之時節、御竿洩レ茂無之上、先年郡山御城主松平下総守様御知行所之節、高石ニ式拾五石之增高被仰付、其後本多内記様御代、夫米增高、高辻石ニ三舛宛被仰付、旁以迷惑仕候処、御代官所ニ被成候与も右之御引付を以夫米被為召上、猶又御代官所之御儀者、江戸御藏御入用、京都二条御藏御修覆御入用、道中筋御入用、或者禁裏様御造宮千石夫竹繩等之御役銀被為仰付、百姓迷惑仕候、古来、之御代官所之分ハ、夫米一切無御座候、中頃近年御代官所ニ罷成候村々之内ニも、給所之節夫米無御座候、村ハ只今茂上納不仕候、古来ハ和州御料私領共ニ、夫米無御座候処、御地頭ニ儀ニ被仰付候夫米御引付ニ罷成百姓迷惑仕候処、御慈悲之古来、之御代官所同様ニ、夫米御救免被為遊被下候様奉願上御事、

一、和州御代官所之儀、先年給所之節ハ、御年貢米取払ニ而御座候処、御代官所之御儀者高御直段被為召上百姓迷惑仕候、三十年以前迄ハ御藏入御直段弁一切無御

座候、其後段々御直段弁御座候而、近年ハ石ニ付廿五匁、三拾匁迄御成ケニ仕候而ハ、御直段相斗四匁方五匁迄御座候、其上夫米御役銀等相積リ、大分之御高免ニ罷成、百姓困窮迷惑仕候、以御慈悲を御米納和州取払ニ被為仰付被下候様ニ奉願上候御事、

一、和州百姓之義、古来木綿作始候節、肥シ少分ニ而宜出来仕候ニ付、御成ケ茂御高免ニ御座候所、木綿作年久敷仕候ニ付、段々弥地ニ罷成、肥シ大分ニ入増候而、年々之様ニ不熟仕候得共、和劬之義旱魃之国ニ而御座候故、稲方一片ニ可仕様も無御座難儀仕候、和州耕作余国ニ勝れ肥シ大分之義、大坂ニ而買調申候分、凡三拾万駄、此儀者河劬大和川筋御川違之節、大坂御番所様江運賃之御願申上候ニ付吟味候、其外和州之内ニ而出来仕候油粕、惣而隣国、和州江肥シ不參所ハ無御座候、和劬余国江肥シ出候儀毛頭無御座候、右之通肥シ大分ニ而、和州百姓、困窮仕候、然上河劬御川違以來運賃駄賃三増倍ニ罷成、殊ニ耕作肥シ間ニ難合旁

以百姓迷惑仕候御事、

右之通ニ御座候ニ付、百姓段々困窮仕候、御慈悲之上、  
上夫米御直段弁御赦免被為下候様ニ奉願上候、以

宝永七寅年四月

桜井孫兵衛殿御代官所十市郡北八木村庄屋

五兵衛 ㊦

同村年寄

庄左衛門 ㊦

同郡新賀村庄屋

佐右衛門 ㊦

同村年寄

長兵衛 ㊦

同郡木原村庄屋

忠右衛門 ㊦

同村年寄

弥三郎 ㊦

同郡内膳村庄屋

源兵衛 ㊦

同村年寄

久右衛門 ㊦

同郡常盤村庄屋

源助 ㊦

同村年寄

彦次郎 ㊦

同郡太田市村庄屋

助右衛門 ㊦

同村年寄

与平次 ㊦

同郡石原田村庄屋

甚次郎 ㊦

同村年寄

源助 ㊦

同郡出合村庄屋

惣助 ㊦

同村年寄

又助 ㊦

同郡下八釣村庄屋

庄兵衛 ㊦

同村年寄

甚七郎 ㊦

同郡膳夫村庄屋

善七 ㊦

同村年寄

源 藏 ㊦

同郡出垣内村庄屋

小兵衛 ㊦

同村年寄

五 助 ㊦

同郡吉備村庄屋

半兵衛 ㊦

同村年寄

又次郎 ㊦

同郡倉橋村庄屋

勘兵衛 ㊦

同村年寄

源 三郎 ㊦

同郡百市村庄屋

清兵衛 ㊦

同村年寄

喜三郎 ㊦

同郡高家村庄屋

源兵衛 ㊦

同村年寄

太兵衛 ㊦

同郡大綱村庄屋

次郎右衛門 ㊦

同村年寄

弥兵衛 ㊦

平岡彦兵衛殿御代官所十市郡葛本村庄屋

次郎兵衛 ㊦

同村年寄

平兵衛 ㊦

同郡竹田村庄屋

平兵衛 ㊦

同村年寄

助次郎 ㊦

同郡八条村庄屋

藤 内 ㊦

同郡同村庄屋

嘉右衛門 ㊦

同村年寄

六兵衛 ㊦

京都御郡代所御預り地同郡安部田村庄屋

勘兵衛 ㊦

同村年寄

次郎兵衛 ㊦

○肥シ代高騰ニ付願上書

正徳四年四月

(森源治郎文書)

乍恐以書付奉願上候

和州御料

百姓共

一、和州耕作之義余国ニ勝れ、前々方肥シ大分ニ仕来、大坂ニ而買調候分凡四拾万駄、其外和州之内ニ而出来之油粕、泉州堺紀州山城伊賀伊勢隣国方和州へ肥参たる所ハ一ヶ国も無御座候、和州方余国へ肥出候義一切無御座、耕作肥大分入用之國ニ而御座候所、近年肥シ段々高直ニ成来リ、耕作手弱ニ罷成百姓迷惑仕候上、当年別而肥高直之段何共難申上義ニ御座候、只今肥シ之第一ニ仕候油取干鰯、前々米直段四拾目之時節、干鰯壹駄ニ付代銀貳拾目、其方式拾年以來米肥共ニ高直ニ罷成候段、目録仕差上ケ申候、右式拾年之内前五五年ハ、干鰯壹駄之代銀米ニ積リ五斗方五斗六升迄、平均五斗三升余、次之五年ハ干鰯壹駄之代米五斗五六升方

耳成地区

八斗九升迄、平均六斗七升余、其次五年ハ代米七斗方壹石壹斗五升迄、平均九斗余、其方去已之年迄五年ハ代米九斗方壹石三斗五升迄、平均壹石貳升余、右之通段々肥代高直ニ相附候上、当春油取干鰯壹駄ニ付大坂ニ而之直段貳百拾匁方式百貳拾目余仕候、外ニ運賃駄賃商売人方借り請之利相掛候得ハ、式百九拾目余ニ相附申候、肥壹駄之代銀去已之作米直段唯今高直ニ成詰候、百四拾目を以米式石余ニ相当リ申候、然者米直段之義ハ前々四拾目之時節と、去已作米和州直段旧冬九拾目方唯今百四拾目迄相均シ、凡三増倍之上リニ而御座候、肥之義ハ十四増倍程之直段ニ罷成申候、和州へ入込申候肥類上中下之駄數直段相考、壹駄ニ付百三拾五七匁ニ相均れ申候、和州耕作肥前々方田地壹反ニ付、上地壹駄中地壹駄半、下地式駄余迄仕来候所、当年肥銀夥數相積リ、何共才覚難仕、手詰迷惑仕候御事、

一、和州百姓之義肥シ自分ニ買調候ものハ、一ヶ村ニ壹

八七九



人式人、其外ハ肥商売人方ニ而借り請耕作仕来候所、右之通高直ニ罷成候故、例年借来候肥商売人方ニ而も銀高夥敷相積り候ニ付、入用程之肥シ中々得借シくれ

不申、兼而肥代銀無悉相濟候百姓ニハ銀高ニ而ハ例年之通借くれ候得共、肥シニ仕候而ハ三分一ニも難及御座候、肥代銀少ニ而も不埒ニ御座候ものハ、当年ハ不通ニ見拾候様ニ罷成、必至と迷惑仕候、百姓も多御座候、尤預り地小作なと仕候者ハ猶以肥シ得相調不申、

何とそ才覚仕候ものも当年之高直成肥仕候而ハ、立毛満作ニ御座候而も算用難合御座候故、預り地持主方へ相戻シ申候、依之田地所持之百姓弥以肥シ銀ニ指詰迷惑仕候、此分ニ御座候而ハ耆年ニ御座候共立毛不作ニ罷成、百姓困窮可仕義不及申上、国土之痛ニも罷成可申義共奉存候、御慈悲を以肥シ銀御拝借被為仰付、耕作相勤候様ニ奉願上候御事、

一、去巳之年和州麦作以外不作ニ御座候ニ付、百姓農行相勤候夫食ニ差詰り、及飢候ものも御座候所、助合相

勤来り申候得共、麦作出来迄今少ニ罷成迷惑仕候、御慈悲を以夫食被為仰付、耕作相勤候様ニ奉願上候御事、

右之通ニ御座候ニ付、御支配御代官様方へ当春々奉願上候得共、難被為及御了簡ニ被仰迷惑仕候ニ付、乍恐御願奉申上候、以御慈悲を夫食肥代銀少々宛ニ而も御拝借被為仰付、耕作相勤候様ニ奉願上候、乍恐被為聞召分、願之通被為仰付被下候者難有可奉存候、以上、

建部内匠頭様御預り地惣代

和州葛下郡弁庄村庄や

与次兵衛

正徳四年午四月

同断

同国平群郡東福寺村庄や

甚三郎

辻弥五左衛門様御代官所惣代

同国葛下郡高田村庄や

茂右衛門

同断

同国平群郡法隆寺庄や

平助

平岡彦兵衛様御代官所惣代

同国十市郡葛本村庄や

次郎兵衛

同断

同国同郡竹田村庄屋

平兵衛

同断

同国同郡八条村庄屋

嘉右衛門

桜井孫兵衛様御代官所惣代

同国同郡木原村庄や

忠右衛門

同断

同国同郡太田市村庄や

助右衛門

同断

同国高市郡奥田村庄屋

孫右衛門

竹田喜左衛門様御代官所惣代

同国葛下郡良福寺村庄や

庄左衛門

同断

同国十市郡新木村庄や

八兵衛門

耳成地区

町野惣右衛門様御代官所惣代

同国葛上郡池之内村庄や

善五郎

同断

同国同郡柏原村庄や

利兵衛

京御奉行所御預り地惣代

同国葛下郡田井村庄や

宇兵衛

同断

同国十市郡阿部田村庄や

佐左衛門

同断

同国添上郡蔵之庄村庄や

八右衛門

御奉行様

○耳成山天神宮立木盗ミ取締定書

享保十一年五月

(森源治郎文書)

定書之事

一、天神宮御境内立木何方之者ニ候哉近年折々伐取、頃

日ニ至夥敷盜取候、以後村々ニ而急度申渡シ不盜取様ニ可仕候事、

□<sup>〇</sup> (殿様)

□<sup>〇</sup> ハ不及申、枝葉木ニ至迄盜取候者見届ケ皆

々随分捕置、其年之年預村方江可申届候、立木伐取候者捕江候ハ、為褒美銀子百目、枝葉盜取候者銀五拾目

ツ、年預方方早速取替相渡シ置、郷内割賦ニ出シ可申候、若とらへかたく候ハ、其者之跡を慕落着所ニ

早速可相断置候、是又褒美同事ニ可遣事、

一、右盗人郷内之者ニ候ハ、其者之身上一式取上郷内へ差出ニ可申候、縦身上宜敷右之褒美ニ余リ候共不殘

指出ニ可申候、若身上輕キ者ニ而右之褒美ニ不足之者ハ其村方相償ひ早速出シ可申候、借宅地借リ等之者ニ

候共村方ニ而如何様共はからい、右褒美銀早速出シ可申事、

一、天神社廻リ石垣崩取リ、又ハ御境内ニ而石堀取候者捕へ候共褒美同事ニ可遣候、若右之類不依何ニ盜取候

族郷内之者見届、被見遁シ候義後日ニ露頭候ハ、過

料之儀者右同前可為候、若右之族捕へ候節、手ニ余リ怪我等有之候ハ、褒美之義ハ右定ニ不可限候事、右定書為可相守、郷内庄屋年寄連判仍如件、

享保十一年午五月

常盤村庄屋 源 助

同村年寄

孫右衛門

右同断

(後欠)

○常盤村宗門改帳寄帳

享和三年三月

(森源治郎文書)

享和三年

当亥宗門三冊之寄帳

亥三月

大和国十市郡

常盤村

宗門帳四冊之寄

一、高九百四拾六石七斗式升五合

内

百八拾九石三斗六升九合

增高無地

五石五斗七升九合

永荒川成堤敷引

残而七百五拾菘石七斗七升七合

村役高

内

式拾四石六斗六升七合九夕

出作高有之候

百拾三石六升八合

村惣作地高

式拾八石八斗式升六合八夕

講田  
教田  
常光寺  
藥師堂

家數七拾式軒

外ニ菘人株無

高持六拾八軒  
水吞五軒  
道場式ヶ寺

外ニ

堂菘ヶ寺

人數合三百式拾式人内

男百六拾六人  
女百五拾六人

内

拾九人内

男拾式人  
女八人

六拾以上

九拾式人内

男四拾三人  
女五拾人

拾五以下

耳成地区

八人内

男四人  
女四人

出生仕候

拾三人内

男八人  
女五人

当村々他所へ  
奉公稼ニ参リ申候

女菘人

男菘人  
女五人

他所より縁付ニ参リ申候

六人内

男四人  
女二人

他所江縁付仕候

七人内

男三人  
女四人

病死仕候

三拾式人内

男十八人  
女十四人

他所方奉公召抱申候

牛五疋

馬無御座候

右者当亥年宗門御改帳面三冊之寄帳、書面之通り少シも

相違無御座候、以上

享和三亥年

三月

大和国十市郡常盤村

百性代 義右衛門 ㊦

加役年寄 六兵衛 ㊦

同断 藤兵衛 ㊦

同断 久三郎 ㊦

年寄 又五郎 ㊦

八八三

小堀縫殿様

御役所

同 藤五郎 ㊦

同 三郎兵衛 ㊦

庄屋 源次郎 ㊦

此銀貳貫三百八拾七匁

四百貳石七斗 九分米銀納

右二付六拾七匁九分六厘六毛

此銀貳拾七貫三百六拾九匁九分壹厘

八拾九石壹斗 春日御造管料引当

此銀六貫五拾五匁七分七厘

外二

五斗六升八合 御伝馬箱入用  
右二付六十七匁九分六厘六毛

此銀三拾八匁六分

壹石八斗九升 六尺給入用  
但し右同直段

此銀百貳拾八匁六分六厘

銀百四拾貳匁壹厘 御蔵米入用

拾六石三斗九升三合貳匁 御口米  
但し右同直段

此銀壹貫百拾四匁分八厘

銀六匁五分 酒造冥加銀

銀貳分 御口銀

○常盤村免割目録

享和三年三月

(森源治郎文書)

享和三年	酉御免割目録
亥三月	大和国十市郡 常盤村

酉年御物成免割

一、御物成五百四拾六石四斗四升

内

五拾四石六斗四升 拾分一大豆銀納

右二付四拾三匁六分八厘六毛

納合銀

三拾七貫貳百四拾貳匁八分貳厘

此免割

一、元高七百五拾壹石七斗七升七合

此銀三拾七貫五百五拾九匁八分

右ニ付四拾九匁九分六厘壹毛三五(マ)

内

銀三百拾六匁九分八厘 欠掛ケ賃小玉買上ケ賃

銀六匁七分

酒造冥加銀

右差引出入なし

右之通、村中大小之百姓立会、去ル酉御免状并御皆済目録ヲ以、書面之通り無甲乙免割仕、割方ニ少も申分無御座候、然ル上者一統申分無之、依之村役人惣百姓連判仕差上申候、以上、

大和国十市郡常盤村

小八郎印

(以下六十四名ノ人名、印ヲ略ス)

耳成地区

○耳成山天神ニ付御願上状

文化二年二月

(森源治郎文書)

乍恐奉御願上候

和州十市郡常盤村

一、木原村領耳成山天神宮之儀者、常盤村木原村新賀村葛本村北八木村石原田村六ヶ村之氏神ニ御座候処、右氏神之鳥居横幅式間立三丈五寸在之、近年鳥居及大破

小堀縫殿様

御役所

- 年寄 六兵衛印
- 同断 久三郎印
- 同断 藤兵衛印
- 同断 藤五郎印
- 同断 又五郎印
- 同断 三郎兵衛印
- 庄屋 儀右衛門印
- 同 源次郎印

候ニ付、有来之通建直シ仕度候ニ付、右氏神支配之儀

者郷中六ヶ村年廻リ支配ニいたし来候処、去子年支配

村之儀者、木村宗右衛門様御支配所石原田村ニ御座候

処、去子ノ七月ニ南都御番所様江右建直之儀御願奉申

上候処、御許容之上普請出来仕候、夫ニ付拝殿手すり

少々□腐仕候間、右手すり白ヶ直シ仕候処、大工仲間

場所之争ひニ付彼是及違変ニ、大工仲間と而同仲間を

相手取、中井藤三郎殿江御願□糺□相成□奉□存候、

万一当御役所様江御引合ニ相成而者、甚迷惑至極奉存

候、依之御含被為成下候様奉願上候、尤当丑年之儀者

常盤村葛本村之氏神支配廻リニ御座候故、延引之段乍

恐御届ヶ奉申上候、尤南都御番所様江奉差上候通リ別

紙ニ絵圖書付等奉差上候、何卒右之趣御間届ヶ被為成

下候ハ、難有奉存候、以上、

文化二丑年二月

十市郡常盤村

百姓代 権右衛門 ㊦

年 寄又九郎 ㊦

小堀中務様

御役所

庄 屋源次郎 ㊦

○早損ニ付夫食困米御赦免願書付

文化四年三月

(森源治郎文書)

乍恐以書付御願奉申上候

和州十市郡

十市村

葛本村

常盤村

木原村

下八釣村

橋本村

一、右村々去寅年貯夫食困方之儀、奉申上候様被為仰付  
奉畏候、然ル処、去寅年之儀者未年ニ相統稀成早損之  
年柄ニ御座候ニ付、先達而作夫食等之御拝借御願帳面

等差上候程之儀ニ御座候故、去寅年開方之儀ハ、何卒御赦免被為成下度奉願上候、此段御慈悲を以御聞届ケ被為成下候ハ、村々一同千万難有可奉存候、以上、

文化四卯年

十市郡橋本村

三月

庄屋代 吉右衛門 ㊦

年寄 常右衛門 ㊦

百姓代 勘兵衛 ㊦

下八釣村

庄屋 宗兵衛 ㊦

年寄 清兵衛 ㊦

百姓代 庄助 ㊦

木原村

庄屋 利右衛門 ㊦

年寄 忠右衛門 ㊦

百姓代 又七 ㊦

常盤村

庄屋 源次郎 ㊦

年寄 三郎兵衛 ㊦

耳成地区

百姓代 甚次郎 ㊦

葛本村

庄屋 嘉助 ㊦

年寄 九兵衛 ㊦

百姓代 彦四郎 ㊦

十市村

庄屋兼帯

常盤村

源次郎 ㊦

年寄 弥七郎 ㊦

百姓代 清蔵 ㊦

小堀中務様

御役所

○嘉永七年十一月大地震記録覚写

嘉永七年十一月写

(森源治郎文書)

嘉永七寅年十一月五日昼七ツ半時大地震、同暮六ツ時震ふ、同時に大坂天保山沖安治川尻なし辺大津なみして、

八八七



沖の大船二千石積以下三百石位ニ至る迄委く川口へ打登シ、又者海岸へ打上るも有、川岸などの家を舟にて打碎く船頭加古夥しく溺死ニ及ぶ其数しれず、其外上荷茶船小舟等者大船の下敷となり溺死のもの数しれず、尚又町内より舟にて地震を<sup>(のが)</sup>退んと沖へこぎ出、又者内川につなぎ居るも有、然ルに流失よりも早くして退く事能者須、終に数多込、入舟におそはれ舟くだけ人死する事夥し、又橋々を帆はしら大船のために打くたく、其騒動混乱なる事目も当られぬ有様ハ、七難三災もかくやあらん、誠ニ古今稀代の珍事也、其外新田天保山大あれにて筆紙ニ尽難し

落橋

あし分橋 安治川橋 □津橋 高橋 水分橋  
長堀  
 わろかね橋 住吉橋 金屋橋 大黒橋ニ而止る

その他

座摩宮絵馬堂崩る 稻荷石灯籠 同おたびの座敷 新町 東扇屋ざしき 願教寺前七八軒 難波安如寺釣鐘

堂 天満妙見絵馬堂 南御堂そんじ 天王寺釣鐘堂二つ堂前花立石 諸堂大そん 梅田近辺くつる、岡御屋敷土蔵そんいる、御池橋西詰西裏高堀 町々釜屋 其外豆腐屋大そんじ 下寺町浄国寺本堂くつれ 寺々墓所石碑こける 柏はら村家くつれ出火す 堺つなみにて築地橋落死人有 佐野つなみして大さわぎ 兵庫七八軒家くつる 西ノ宮 灘 大坂同断 右之通ニ御座候、

○井路川筋劔先船通用願人共江申渡覚

(江戸中期頃)

(森源治郎文書)

井路川筋劔先船通用願人共江申渡覚

一、大和川違之以後、劔先船通路差支、和州国中耕作肥運送滞候ニ付、古大和川跡之井路川筋劔先船通用仕度旨、和州御料私料之百姓共数年願出、其上和州御代官中より連判之書状を以、被申越ニ付及吟味之処、百姓共申立候ハ、古大和川筋劔先船通用之節者、大坂之荷物

不殘銀先船ニ積、河州国分龜瀬江其日ニ着船、此所ノ和州人馬ニ而引取候処、川違以後大坂ノ国分龜瀬迄日數四日五日目ニ着船、若天氣悪敷候得者、日數十日茂懸リ候故、田畑肥え匂ぬけ候、依之凡壹ヶ年之肥荷物四拾万駄ニ積リ、式拾万駄程銀先船ニ積殘、式拾万駄者城州木津川淀川紀州紀伊川筋江大廻シいたし、又者大坂ノ駄賃馬ニ而付ヶ送候ニ付、壹ヶ年ニ金六千兩程和州百姓臨時之出金有之、剩肥荷物十分ニ難相調故、田地不熟及困窮候間、古大和川跡井路川筋河州船橋村築留迄、銀先船通用仕度候由、然ル時ハ古大和川之通、大坂ノ積荷物其日ニ着船、運賃茂古来之通ニ罷成候旨願之候得共、右之井路川者河州村々之用水、又者川端式拾五ヶ村要用之ため、百姓船働申迄にて候故、井路幅四間余有之、尤堤等も無之、其上大和川築留ノ伏樋を以水を通候得ハ、銀先船之通用自由ニ成候程、水を引落候時者次第川床堀れ水強落候ニ付、大和川筋河州村方之用水差支之旨ニ而、右村々之百姓共願

耳成地区

申立候、且又大坂平野之馬借所、大和川違以後南方之荷物減少及困窮候処、井路川船通用有之候得者、大和川平野川以上三筋之川船働ニ成候ニ付、馬借所不相立候旨願之候、旁以井路川筋銀先船通用障有之候、然処河州川辺村権左衛門大和川通用之次第考候旨訴出ニ付、重々詮儀之上銀先船ためし乗申付候処、大坂ニ而荷物積候日ノ三日目ニ龜瀬国分迄令着船候、依之銀先船荷物運賃向後減之可相働之旨、惣船持共願出此度運賃相定之次第

一、龜瀬 登リ荷物船賃壹駄ニ付壹匁八分

一、藤井 但只今迄壹駄ニ式匁式分八厘ニ候処四分八厘減

一、国分 登リ荷物船賃壹駄ニ付壹匁六分

一、青谷 但只今迄壹駄ニ付式匁五厘ニ候処四分五厘減

一、古市 登リ荷物船賃壹駄ニ付壹匁八分  
 一、駒谷 但只今迄壹駄ニ付式匁壹分八厘ニ候処三分八厘減

一、貴志 登リ荷物船賃壹駄ニ付式匁式分

但只今迄壹駄ニ付式匁七分五厘ニ候処五分五厘減

右之通向後運賃相極、大坂ノ日數三日ニ因分龜瀬之間屋江着船可申候、縦風雨ニ而着船之日數延引候とも、右運賃之外増銀不取之、荷物無滯運送可申之旨堅申付候、然上者和州荷物壹ヶ年凡四拾万駄ニ積、運賃金三千百兩余令減少、肥荷物之運送茂差支申間敷候条可存其旨候、但所々間屋之口錢ハ有来通たるへく候、若違背之族有之者、可申出候急度可令沙汰者也

午正月廿九日

○諸上納他旧高割ニ取究メ規定連印証

(明治初期)

(森源治郎文書)

規定証之事

一、今般実地御検査御改正ニ付、旧高御座シニ相成、然ル上者、向後租稅御上納ハ勿論並諸上納其他諸掛リ金

共地価ニ相割掛ケ可致者本意ニ候得共、当村之儀者上

高ヨリ下高江越米相渡シ来リ、猶又川田根切米并古瀬崩米等、田毎ニ出入數多有之候、是全ク水旱兩難之為

致来リ候ニ付、今更取消シ候而者立毛相統出来兼候

間、村方小前末々まで一統打寄、色々示談致候得共、

地価割ニ致候而者、不都合之廉茂有之、村方一統相治

リ兼候間、他村之儀者如何体ニ相成候とも、当村之儀

者元旧高割ニ致候而茂、格別之齟齬者無之左候ハ、

高割ニ致候而者御規則ニ相戻リ恐多義ニ御座候得共、

当村之儀者何分ニ茂前書之通り村方相治リ不申候間、

一統熟談之上今後も諸上納向並諸掛リ金共元旧高割ニ

可致規定取究メ候上者、於後日一切苦情申出候儀者決

而無御座候、依之一統連印規定証如件、

(以下村人氏名、印五十四名略)

○小堀中務ノ役宅修覆入用割付廻状

(欠年) 辰八月

(森源治郎文書)

(袖書)

廻状 (小堀氏) 中務

十市郡 新木村始

(本文)

覚

十市郡

一、銀六匁六分七リ

新木村

一、銀三拾壹匁三分八リ

下之庄村

一、銀八拾目九分

八条村

一、銀六拾壹匁三分

阿部田村

一、銀三拾九匁八分壹リ

十市村

一、銀百九匁壹分

葛本村

一、銀六拾八匁壹分四厘

常盤村

一、銀三拾八匁三厘

木原村

一、銀拾八匁四分八厘

下八釣村

一、銀拾八匁六分三リ

橋本村

右者去卯年風損ニ付、両御役宅修復入用銀貳拾七貫貳百

七拾目四分三分、<sup>(マヤ)</sup>從公儀御取替渡相成有之処、御代官取

拾万石高へ平均郡中割被仰付、当辰年<sup>カ</sup>四ヶ年賦、壹ヶ

年銀六匁八百拾七匁六分取立被致、返納旨被仰渡書物之  
通令割賦候条、右銀当月晦日限京地懸屋へ被致持参候、  
此廻状無遲滞順達、留リ村<sup>カ</sup>被返者也、

辰八月

中務

専長

㊦

右村

庄屋  
年寄

〔山之坊〕

○和州十市郡山ノ坊村御檢地帳写

元禄十年三月十三日

(吉川禎一文書)

元禄十年

和州十市郡山ノ坊村御檢地帳写

丑ノ三月十三日

(末尾集計ノミ)

上田九町五反八畝九分

一石六斗代  
百五拾三石二升八合

中田三町八反七畝廿二分 一石四斗代  
五拾四石二斗八升三合

下田七反六畝八分 一石二斗代  
九石一斗五升二合

下々田一反三畝十分 九斗代  
一石二斗

荒田一反二畝十九分 七斗代  
八斗八升六合

上畠五町三反六畝廿分 一石二斗代  
六拾四石四斗

中畠一町四反五畝十七分 一石代  
拾四石五斗六升

下畠七反四畝十八分 九斗代  
六石七斗一升六合

荒畠六畝廿分 五斗代  
三斗三升四合

居屋敷四反一畝十九分 一石二斗代  
五石

合式拾貳町五反三畝十二分

分米三百七石七斗

元禄十丑年三月十三日写之候

内

二石三斗五升九合 出作方

五石六斗七升八合 村田高

二石九斗七升 荒高

村中残り高

貳百九拾六石六斗九升三合

○出作礼米江新規被申候ニ付御願

宝永四年三月四日

(依岡榮太郎文書)

乍恐書付を申上候

和州十市郡山之坊村庄屋年寄

一、木原村領田地之内を山之坊村ニ往古々出作持ニ所持致、年々御年貢米三拾石余木原村へ上納仕、則庄屋方方年々之手形取置申候、然処ニ去ル戌ノ御年貢米前々之通ニ木原村へ御年貢米持セ出シ候処ニ、木原村庄屋被申候ハ、右御年貢米古来方すくミ米と申米を取来候得ハ、当年茂すくミ米を上納被致候へと新法成儀を被申迷惑ニ奉存候、右御年貢米之儀右之通ニ被申請取不被申ニ付、木原村支配御代官桜井孫兵衛様江茂、去冬方当春迄数度ニ右之御願申上候へ共、彼是と御延引ニ

罷成、無是非先此方之蔵ニ納置申候、御大切成御年貢米之儀ニ御座候へ者、早速ニ御上納申度奉存候へ共、右之仕合致其儀無御座候、若又可様之儀茂山論之申立ニ茂可被致候工ミニ而も可有之哉と奉存、気毒千万ニ奉存候故、此段乍恐御訴申上置候、以上、

宝永四年

亥ノ三月四日

山之坊庄屋	五兵衛	㊦
同村年寄	甚太郎	㊦
右同断	五介	㊦
同	清次郎	㊦
	惣百姓	

○木原村他との山論出入ニ付口上書

宝永四年三月四日

(吉川禎一文書)

乍恐口上書

耳成地区

一、和州市郡木原村常盤村石原田村新賀村北八木村葛本村百姓共ニ而御座候、然者同郡山之坊村と山論出入之儀、重而御檢使可被為下之御上意にて、旧冬双方罷下候以後、相手山ノ坊村之儀論山之内ニ而、昼夜を不限鉄鉋を打申候ニ付、如何様之工仕ル茂不奉存候故、天神御境内へ当月二日、郷内庄屋年寄見守リ参候処、山ノ坊村之者共罷出、論所之儀ニ候間、御境内へも登せ申間敷与申ニ付退キ申候而、木原村支配之山内へ参り、少時罷有、暮方ニ六ヶ村之者共罷歸候ヲ、跡方参、葛本村年寄四郎右衛門ニ山之坊村五助頭取ニ而、大勢取り掛リ散々打擲仕、其上脇指(差)を五助奪取り申候、四郎右衛門義節死仕候ヲつれ帰、養生仕候処、右之足骨をれ申候哉、殊外痛申候御事

一、木原村庄屋又五郎ニ山之坊村加右衛門与申者頭取ニ而、理不尽ニ取掛リ、脇差ヲ拔キ取申候付、あわて左之手ニ而とめ申候得者、手之内くり廻シ取り候を、常盤村長四郎はせ寄り、又五郎脇差ハ取戻シ申候、又五

郎義手之内之疵々大分のり出節死仕をつれ帰、養生為致置申候御事

一、相手山之坊村如何様之儀ニ御座候哉、右狼藉千万之儀、御詮儀被為成被下候ハ、難有可奉存候、以上、

宝永四年亥三月四日

木原村年寄

弥三郎

〃

平三郎

常盤村

長四郎

同年寄

庄兵へ

石原田村庄や代

五兵衛

同年寄

源介

新賀村庄や

左右衛門

同年寄

七郎兵衛

北八木村庄や

五兵衛

御奉行様

○山ノ坊村領耳成山天神宮之

樹木伐取ニ付口上書

宝曆六年十一月十四日

(吉川禎一文書)

乍恐奉差上口上書

藤堂和泉守殿下

十市郡山ノ坊村

庄屋

年寄

一、山ノ坊村領統耳成山天神宮之樹木、其村方へ伐取候哉、将又右山ノ内木原村支配場所ニ先達而從御公儀様、御闕所被為仰付候者共之林伐取候識、隣在及能存

┌

知候哉、季細申上候様被為仰付、奉畏乍恐左ニ奉言上候、

一、当村領統耳成山天神宮社地辰巳(虫損)百八拾間之場

所、下草落葉者、木原村山ノ坊村両村立会所ニ而、先

年ノ落葉下草かき茹取申候へ共、樹木ニおゐて一向伐

(虫損)儀ハ決而無御座候、併去ル九月十六日夜大風雨ニ

而、右百八拾間之場ニ而、松ノ木二木倒レ申候処、宮

守仕候重兵衛と申候もの右之枝并ニ末等伐取候義見及

候、右元木三間斗ツ、只今ニ相残り御座候御事、

一、耳成山内ニ木原村家別ニ所持仕候訳一向不奉存、且

又御窺所場之立木、木原村ノ伐取候哉と御尋被遊候、

耳成山東通り当村領内百姓佳居仕候故、東通り木ハ伐

取候を見請候義、曾而無御座候、勿論西之方之事ハ一

向不奉存候御事、

右之通、少も相違之儀不奉申上候、以御慈悲ヲ、此段

御聞届(カ)ケ被為成下候ハ、難有可奉存候、依之乍恐口

上書奉差上候、以上、

耳成地区

十市郡山ノ坊村(虫損)

宝曆六子

庄屋五兵衛

霜月

病氣不參

閏十四日

年寄甚二郎(虫、カ)

御番所様

十三郎

○小入用定式ニ而難儀ニ付取替一札

宝曆七年十二月

(吉川領一文書)

一札之支

一、当村領之田地其元方古来方持作被成候ニ付、前々方

為小入用、高叢石ニ付米式斗九升ツ、毎年請取来リ

候処、右小入用定式ニ而難儀之由ニ付、少々了簡致呉

候様、村役人へ御頼被成候得共、村方一統不得心ニ

付、其段申達候処、其方ノ出合村源助殿御頼被成候旨

ヲ以、右源助殿当村へ御立越、何卒式斗九升之掛物少

々了簡致シ遣呉候様、段々御頼被成候ニ付、右式斗九

升之内四升五合ツ、当丑年ノ相除キ遣シ申候間、然

八九五



ル上ハ毎年高尙石ニ付米式斗四升五合ツ、御納可被成候、勿論年々之御年貢ハ不及申ニ、例年欠割并小入用之儀ハ定之通、毎年以日限相触候節、無滞御納可被成候、自今以後右小入用之儀ニ付、如何様之儀被申立候共、聞届不申候、為後日取替証文、依而如件、

宝曆七丑年

十市郡石原田村

十二月

庄屋 忠三郎 ㊦  
年寄 六兵衛 ㊧

同郡山之坊村

甚太郎 殿

同断

孫 七殿

○山之坊甚太郎一代記(抜抄)

明和四年之項

(吉川禎一文書)

明和年中

古記録

甚太郎一代記

(前略)

天明四辰年閏正月有之諸国大キニ不作仕、去卯極月々米穀諸事直上リ、米九拾目位綿式百目位ニ而有之候ゆへ、殊之外非人多ク、則川合村ニも極月之内両度迄うへ死仕候、諸国より集り候餓非人うんかのこことく、大和ハ豊年と聞へ候故哉、皆大和へくへと相集リ、村々ニ而行倒候非人数しれず、南都御番所へ毎日毎日行倒之届大和中方三十人方六十人迄有之候由ニ御座候、則辰三月川合村領字谷□と申所之川ニ、式才斗之女之捨子有之、古市南都へ御届申上候処、御番所様方御見使被遣、則役人同心池田文治、小竹源左衛門兩人相見へ川上桜井外山粟殿三ヶ村御呼被成、口書御取被成、勇次郎儀も三日之内相詰甚難儀仕候、別而大庄屋谷氏目附高瀬氏兩人共、甚八郎所ニ相詰被申候、

(中略)

一、此節諸色相場之覚

一、米百目より廿目迄高下、一、麦七拾目位、白麦百

目位

一、白大豆九十目位、一、小豆四拾目位、一、白麦七拾目くらい、

一、□□大豆七十目位、一、餅米百五匁位、一、胡麻貳百目位、一、種粕八十目位、一、干粕六拾目位、

其外諸色高直ニ有之候

一、実綿貳百貳拾位、一、錢ハ九匁五六分立、<sup>(位力)</sup>金ハ六拾

目位

右之通相場にて、中以下きゝんにて御座候、所々方々薪志□子ニ相成申候、十津川辺松之皮だんごにして食物仕候、去卯ノ七月信州浅間山焼、近国十里大石土砂ふり申候、三日之間くらやみ、当国迄昼夜無差別戸障子くわたくゝなり渡り、諸人不思議ニ申候、前代未聞之大変ニ有之候、

天明四辰年四月々南八木村領<sup>(墓)</sup>はか所ニ非人行倒候而、入用三十九匁五分之儀ニ付、南都公事に相成、相手醍醐村墓替願相叶、猶御前ニ被仰付相濟、就夫当村領之墓借申

耳成地区

度由段之相頼被申、地頭表江色々と勇次郎数度来リ御伺申上、御聞届之上村役人一札取置、借墓之約束仕候、然ル上ハ山之坊村木原村醍醐村三ヶ村立会之墓ニ相成申事、此時より始而之儀ニ御座候、醍醐村墓道木原村へ向ケ耳無山へ西之麓を通申候、

(以下略)

○山ノ坊村阿弥陀寺ニ付御尋御答書

天明九年二月七日

(吉川禎一文書)

御尋ニ付御答書之覚

和州山ノ坊村

阿弥陀寺

一、当寺由跡之儀者、当酉年迄年曆凡四百五拾卷ヶ年前、人王九十代之帝光明院之御宇、曆応二己卯年五月二日、耳成山北ノ麓ニ一字建立、本尊弥陀之御長ヶ卷尺七寸五歩之座像、背ニ阿弥陀寺与御銘有之木仏奉安置、宗旨者律宗ニ而御座候由、今ニ此所大堂ノ芝と申

八九七

伝古跡有之候御事

水論一件下濟ニ付兩村為取替一札

一、当御宗門江婦依仕候義ハ、当酉年迄年曆凡貳百壹ヶ年以前、人王百八代之帝後陽成院之御宇、天正拾六戊子年六月、耳成山北ノ麓なる伽藍焼失、此年則浄土真宗ニ改宗仕候、何等之訳ニ而婦依仕候哉、其由者相分不申、且興正寺様末寺と相成候年曆、相知不申候御事

一、山之坊村新賀村米川筋水論出入、新規古規之申分  
一統取暖入江貫取、此度相改候訳左之通

一、新賀村方山之坊村江瀬はり之事  
山之坊村領土橋迄上り下り瀬はり之年四度ニ相定メ、尤水抱砂留等も有之候得者、川まん中通瀬はりいたし水引取可申事

一、寺号之訳、当酉年迄年曆凡百貳拾九年以前、寛文拾壹辛亥年本尊御背之御銘、阿弥陀寺之号御本山へ言上仕、其以来御公儀様御訴筋も有之節者、寺号書上ケ無滞相濟候御事

右之通相違無御座候故、乍恐御答申上候、以上、

但、新賀村瀬はり人足休□無用之事、尤瀬はり人数田掛り之事

一、瀬はり之節ハ、新賀村方山之坊村江木札相渡シ可申候、其時山之坊村方人足式人相添、互ニ申分ノ無之様可致事

天明九酉年 和州十市郡山之坊村

二月七日 阿弥陀寺 一

○水論一件下濟ニ付新賀村と取替一札

文化元年四月

(吉川楨一文書)

一、新賀村瀬はり之節ハ、山之坊村水かへ場右瀬はり之間、相見合可申事、瀬はり仕舞次第水かへ可申事

一、山之坊水かへ場、在来通り式拾式ヶ所之事

一、極渴水之節、新賀村方山之坊村江瀬はり之節ハ、互ニ人力精々之水故、山之坊村水かへ場、岸根溜メ水ハ

其儘さし置、新賀村人力瀬はり水はがり川まん中通り  
引取可申事

右之通与兵衛安右衛門、兩人取暖を以、此度相定メ、兩  
村末々小百姓ニ至迄一同得心之上、右条々向後互ニ無  
違失急度相守、重御上様江御苦勞不奉掛候、仍之下濟  
仕、以來中睦敷御田地相続可仕候、然ル上者右米川筋  
水論一件ニ付、自今互ニ聊申分シ無之候ニ付、双方為  
取替一札、仍而如件、

新賀村

先庄屋

佐右衛門 印

文化元甲子年四月

岡村兼帯庄屋内膳村

吉兵衛 印

同村年寄

甚九郎 印

同断

新三郎 印

百姓惣代組頭

彦惣 印

耳成地区

山之坊村江

取暖人池尻村  
与兵衛 印  
同断桜井村  
安右衛門 印

○水論ニ付借銀御請書扣

文化二年十二月

(吉川禎一文書)

〔辨書丑十二月水論借銀御請書扣〕

一札

一、当村御内分新口村并御他領新賀村と水論ニ付、毎々  
上京仕、右出入中諸入用銀貳拾貳貫百毫匁三分七厘出  
来仕候、然ル所難波之村方ニ御座候得共、自力ニ濟入  
候義も難仕、御憐愍筋別紙帳面を以奉願上候処、御聞  
届被成下、右銀高之内□六ノ四百廿式匁三分七リハ御  
憐愍を以、御上様方御濟入被成下候段被仰渡、重々難  
有仕合ニ奉存候、残テ五貫六百七拾九匁ハ村方自力濟  
入候様被仰付、奉長村方□□(虫損)為申聞候所難有承知仕、

来寅暮〆拾ヶ年之内ニ者、急度元利皆済可仕候、水論借銀ニ付、此後聊茂奉掛御苦勞間敷候、依而御請一札奉差上候処如件

文化二丑年十二月

山之坊惣代百姓  
喜右衛門

同村同断

弥兵衛

同村年寄

利右衛門

同断

宗平次

同村庄屋

清右衛門

同断

勇次郎

郡御奉行様

右村方〆御請奉申上候通、右水論借銀ニ付、此後少茂御憐愍筋御願不申上候様為仕可申候、依而奥印差上申候、以上、

目付庄屋

安右衛門

組合目付

高瀬周助

谷六右衛門

郡御奉行様

〇小入用銀難波ニ付為取替一札

文政十三年十二月

(吉川禎一文書)

為取替一札之夏

一、石原田村御田地山之坊村古来〆出作仕来リ候処、宝曆七丑年十二月迄諸小入用銀として、定式高石ニ附米式斗九升相納来リ候処難波ニ付、山之坊村〆出合村源助ヲ相頼申候而、右源助石原田村江引合取暖ニ而、定式米式斗九升之内四升五合了簡引致来リ候、然ル所御普請所并手入用、尚亦此度宿送り病死いたし右諸費是迄別割之儀者相掛ケ、山之坊村ニ□□掛リ来リ候得共、右諸小入用米式斗四升五合直切致有之候上ハ、則入用弥増相掛リ候儀ハ難波之由、山之坊村出作人〆出、彼是与双方故障申立、遅々申争び抗ニ出入ニ可相

成候所、新賀村佐右衛門取噺右出入ニ相成候而者日間取、諸費相掛リ候而者殊ニ困窮之百姓難波ニ相成リ申候付、双方睦敷不仕候半而者不相治、双方村為ニ不相成、和談仕候様ニ精々利解被申聞候付、取噺人江相任世遅々申争び者、取噺人江申請、則取噺人ニ而和談内濟左之通リ

一、高壺石ニ附米貳斗四升五合

右者山之坊村出作人々、定式毎年日限ニ早々相納可申  
夏

一、御普請所宗方之庄井手、凡拾ヶ年ニ伏替之節者、高壺石ニ附式匆八分宛日限ニ相納可申、其外臨時之諸費相掛ケ申間敷候、

右之通り熟談仕候上者、御年貢者勿論、諸小入用米日限通り早々相納可申候、以来双方共我意不申立、睦敷可仕候、向後少茂申分不仕候間、為後証為取替証文、依而如件、

文政十三寅年

十市郡石原田村

耳成地区

十二月

百姓代 忠兵衛 ㊦

年寄 善右衛門 ㊦

庄屋 藤右衛門 ㊦

同郡新賀村

取噺人 佐右衛門 ㊦

同郡山之坊村

嘉 七殿

吉右衛門 殿

利右衛門 殿

○儉約御取締承知請印帳

天保十三年六月

(吉川禎一文書)

天保十三寅年  
御取締筋人別承知請印帳  
山之坊村  
六月

(帳)

二十一条之御掟、其外慎方之御触達、毎々有之可奉守儀

者勿論之事ニ候得共、時世ニつれ奢侈ニ流れ候義も有之候ニ付、尚又此度嚴敷御取締之筋被仰出候趣、一々承知仕節俟并此頃之不風俗取直し可申条々

一、分限相応と申所江心を用ひ尚内場ニ暮し可申事

一、男女衣服自宅并村内ハ勿論神事婚礼之席江参り候共

布木綿ニ限候事

一、女之髪飾リニ銀物絹切絹糸等相用ひ申間敷事

一、女之髪自分ニ結他之ものニ結せ申間敷事

一、女之はきものニ天鷲織其外絹類并ぬり下駄用ひ申間

敷事

一、男女傘紺蛇目指申間敷事

一、男日傘差申間敷女ニ而紺天日笠杯ハ過分之事ニ付遠

慮可仕支

一、重き祝ひ事ニ而も一汁ニ菜酒三献ニ限り可申事

一、不幸之節又ハ中陰年回ニ非時濟出候共一汁三菜酒出

し申間敷事

一、料理向ニ時ならぬ物を用ひ申間敷尚又作り出し申間

敷事

一、御役人様方御出郷之節馳走ケ間敷儀ハ勿論酒出し不申一汁一菜之御支度上ケ可申事

一、村役人并組頭村用ニ而寄合候節酒相用ひ申間敷、無  
搥支度いたし候共一菜ニ限り候事

但し飲喰ニ不限年中之小入用減之候様厚心掛ケ不申事

一、居宅并稻小屋蔵普請いたし度候ハ、前ニ村役人江相  
断差図ニまかせ尤内場ニ造作不仕事

一、家具其外諸道具向御法度之品聊相用ひ申間敷事

一、博奕諸々諸勝負弥相慎可申事

一、神(事脱カ)之節神輿太鼓ハ勿論道中江掛あんと掛ちゅうち  
ん杯出し不申家々肝下(軒)限り建灯燈之事

一、若きもの寄合事ニ寄酒料(理脱カ)杯被申間敷勿論若連中と唱  
仲間ケ間敷儀仕間敷事

一、子供并年若成ものつれ立鉦を打念仏等ニ出申間敷候  
若他領方右之類参り候とも村内へ入申間敷事

一、盆中おとり候共十五日を十九日迄ニ限り可申尚異形

之拵并其場ニ而酒吞申間敷事

一、婚礼葬礼之節質素を守見聞之取結決而仕間敷事

一、他村之親類不幸之節隣家又ハ懇意之もの葬送リニ参  
リ候得共爾来ハ参リ申間敷当方不幸之節他領右之類  
候ハ、堅相断親類村人之外見立申間敷事

一、御高も所持致居候者職人ハ格別其外ハ百姓専一ニ仕  
若商内仕候共作間ニ致し無高之ものたり共此旨相心得  
稼筋出精可仕事

一、オロシ子仕間敷旨屹度相守可申支

一、右ヶ条之内紛敷品を用唱を替候様之儀仕間敷尚又点  
敷之外節儉を厚心掛費ヶ間敷儀を相省き村方之仕来ニ  
候共此度相改不風儀取直し可申相互ニ異見合若違背之  
者有之候ハ、可申上事

右ハ厚以御仁恵ヲ、御取締被下条々難有、爾来ハ急度相  
守可申、家内之もの共へも呉々申聞置ス、若不守之者有  
之見捨置候而、御察当之場ニ相成候而ハ、自分ハ勿論村  
役人中始各々様迄御迷惑相掛ヶ候儀ニ付、夫々能会得仕

候、依之人別印形仕差上申所如件、

天保十三寅年六月

山之坊村

与八郎 印

その 印

彦三郎 印

弥三郎 印

右組頭 弥市郎 印

徳兵衛 印

伊助 印

甚七 印

右組頭 源右衛門 印

善四郎 印

八郎兵衛 印

三平 印

右組頭 清五郎 印

重三郎 印

仁兵衛 印

五兵衛 印

嘉兵衛 印



嘉右衛門 ㊦

甚三郎 ㊦

右組頭 宗平治 ㊦

清次郎 ㊦

(清右衛門)(後筆)

金兵衛 ㊦

善兵衛 ㊦

佐兵衛 ㊦

右組頭 善右衛門 ㊦

治郎兵衛 ㊦

良助 ㊦

弥十太 ㊦

伊八 ㊦

佐助 ㊦

右組頭 喜三郎 ㊦

重次郎 ㊦

佐次兵衛 ㊦

源次郎 ㊦

利兵衛 ㊦

右組頭 勇次郎 ㊦

さき ㊦

嘉七 ㊦

吉右衛門 ㊦

弥次郎 ㊦

右組頭 喜兵衛 ㊦

源五郎 ㊦

弥平治 ㊦

利助 ㊦

(甚右衛門)(後筆)

右組頭 兵三郎 ㊦

右之通私共ハ□□慎守御主意之趣厚せわ可仕候以上

年寄 甚四郎 ㊦

同断 仙助 ㊦

庄屋 利右衛門 ㊦

高瀬 文作殿

谷 文六殿

○取締御口達請書

天保十四年五月

(吉川鎮一文書)

天保十四卯年
御取締ニ付御口達請書写
五月
山之坊村

(帳)

口達

去年六月於役所申渡有之候御法令之儀、精誠取締有之儀者勿論之事ニ候、其後如何敷儀も不相聞候得共、城和御領下之儀者格別之入会故、自ら他方之風儀も移り安土柄(地説)ニ付、若心得違之者も有之候而ハ、何分恐入候事ニ候、別而今度御取締之儀者申迄も無之候得共、御内限之儀も無、公儀御改正之御趣意を元として被仰出候御儀故、誠ニ以不容易事ニ候得ハ、猶も其段相意得、去夏申渡之趣、猶又爾来春秋両度ツ、村々小前之者共庄屋宅へ呼

耳成地区

寄、右被仰出之条々重々申渡、急度相守らせ候様可致候、將又亭主分之者共ハ、村役人共方承候而も帰宅之上、家内之者共江其段不申聞候而ハ、取締筋行届不申訊ニ候間、右春秋申渡候、度々右等之儀も分而申聞、家内之者共江も重々為相心得候処可申達候、御領下之儀ハ是迄取締風儀も宜、他方ニ而茂見習可申旨申之候趣ニも承居候儀、今度公儀御改正ニ付而ハ是迄取締方仮成之場所トハ格別際立候様為在度候事ニ候、既ニ去年来御料所村役人共方取締方之儀談を受候得共、御領下ニおいてハ他方之力ヲ相頼候訳ニハ無之、程能及挨拶置候儀ゆへ、右之趣厚ク相立候様、取締可申儀肝要之事ニ候間、此段重々村役人共江申聞、格別ニ取締可申候、猶又此度改而申渡候ケ条無之事故、目附庄屋共之儀ハ別段呼寄不申渡候、乍併右役柄ニハ第一心得も可有之事ニ候間、右趣意示合格別心を用候様可申通候事

寅三月廿七日

今度御口達則前書御書取を以御取締筋御達被下、夫々敬

承仕御趣意之通、爾来春秋両度ツ、小前之者共庄屋宅江  
呼寄、無懈怠申諭し、為相守候様可仕候、依之御受書差  
出申所如件、

天保十四卯年四月

山之坊村年寄

久兵衛

同 断

仙 助

同 村 庄屋

利右衛門

高瀬文殿

兼々御法令筋之義、御触達有之上、去夏別而嚴重ニ被  
仰、就而ハ申触、尚又委敷申談置候儀ニ候、此辺之土地  
ハ自然入組之事故被仰出候通參リ兼候、尤近頃御領下  
当組内之内ニ而も、不埒之者有之哉ニ、御重役様江御聞  
迄も被成候趣ニ御内々承候、誠ニ以恐入候事ニ御座候  
間、いづれも深く心を用ひ、不埒之者出来不申様、一村  
限り取締為被成、若不用もの存之候ハ、少々之事ニ而

も早速御申出可被成御役所江、不念無之様いたし度ト此  
段御意置候、来春初寄せ合之節小前之者共江も呉々御申諭  
し為被成候、以上、

十二月廿六日

高瀬文作 印

村々

庄屋中

年寄

○取締筋小前承知請印帳

天保十五年二月

(吉川禎一文書)

天保拾五辰年  
御取締筋小前承知請印帳  
二月  
山之坊村控

(帳)

覚

山之坊村

役人共

一、村方取締方之儀ニ付、今度私共御呼寄被成、去々々  
 六月被仰出候御取締御ケ条之御書附、猶又去暮も被仰  
 渡候御書附共、夫々御統渡<sup>(統)</sup>之上御趣意委敷御諭し被  
 下候、且又六ヶ年已前亥年七月被仰出候役人共心得方  
 御書附共、訳而被仰聞候義共、少シ茂無間違様小前末  
 々之者ニ至迄、与得申諭し候様、若不会得之者有之再  
 応申諭し候而も、会得難出来もの有之候ハ、可申出  
 旨直ニ御諭し可被下趣、万一愚味<sup>(愚)</sup>ニ而会得致兼、御法  
 令ヲ不守者有之嚴科ニ可仰付之儀、御不便ニ思召候  
 故、毎々御書附ヲ以被仰渡候段、厚御憐愍之程承知仕  
 候様、重々被仰渡委細奉畏、則小前之者共呼寄不洩様  
 申聞候所、遂一承伏仕様ニ、此後急度御法令筋相守、  
 他方之ハ御領下之者共ハ際立相分り候様可仕旨、何も  
 申立候、依之左之通小前一統請印形為仕、書附差出し  
 申候、

覚

耳成地区

山之坊村小前之者共  
 一、今度村方取締之儀ニ付、前段之趣委細被申聞夫々承  
 畏仕候、此後御法令筋者勿論之儀、御取締之儀共少シ  
 も相背申聞敷候、万一御法令ヲ不相守心得違之者有  
 之、嚴重之御沙汰ニ相成候共、少も御恨不申候、依之  
 人別印形仕候、以上、

天保十五辰年二月

山之坊村

甚三郎	嘉七	さき	八十松	治郎兵衛	徳兵衛	弥三郎	吉右衛門	八郎兵衛	源五郎	嘉兵衛	五兵衛	弥平次	嘉右衛門	重次郎	重三郎	清五郎	善太郎	良助	源治郎	金兵衛
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

耳成地区

与市郎	与八郎
◎	◎
その	彦三郎
◎	◎
伊助	佐次兵衛
◎	◎
佐助	甚七
◎	◎
源右衛門	弥次郎
◎	◎
善兵衛	利兵衛
◎	◎
利助	伊八
◎	◎

庄屋

年寄 衆中

組頭

右之通此度御諭し之趣、小前一統江申聞請印形為仕置候  
ニ付、御法令筋吃度相守可申候、万一不相守者有之候ハ  
、早速可申上候、以上、  
天保十五辰年二月

山之坊村惣代組頭

喜三郎 ◎

同 断

兵三郎 ◎

同村 年寄

久兵衛 ◎

九〇八

同 断

仙 助 ◎

同村 庄屋

利右衛門 ◎

勝田重太郎殿

高瀬文作殿

目附庄屋

谷 文 六殿

同常加役

中嶋安右衛門殿

○山之坊村小入用書上ヶ帳

明治五年正月

(吉川禎一文書)

明治五年

正月廿二月迄

村小入用明細書上ヶ帳

十市郡六小区

山之坊村

(帳)

十市郡六小区

山之坊村

一、金貳円四拾六錢

区内入用戸長取扱役夫代并小取替  
金ノ高大西又五郎渡ス

一、同拾五円

年中米川水生収杭水かへ場井堰入  
用杭并ニ通井入用共外山村弥七善  
八江渡ス

一、同三円

但シ八尺七百五十本代壹本ニ付式  
錢ツ、  
字小月田橋并南川橋破損材木代石  
原田村塩川善六江渡ス

一、同六円八拾九錢八厘五毛

年中村方人足夫百九工半  
壹工ニ付式升ツ、此米貳石壹斗九  
升小前口々江渡ス直段三円拾五錢  
がへ

一、金壹円三拾三錢七厘五毛

米貳斗五升酒壹斗川上石  
原田村へ定式并手米ニ遣ス米石ニ  
三円拾五錢がへ酒五百五十文がへ

一、同六拾錢

醍醐村江定式通井敷余内遣ス

一、同壹円

年中入用蠟燭五斤代八木利平江渡  
ス壹斤ニ付式拾錢ツ、

一、同三円六拾錢

年中副戸長式人并小使共雜用拾五  
ケ度九拾飯料壹飯ニ付四錢宛ノ高  
戸長吉川利市郎江渡ス

一、同四円三拾六錢

天神入用割木原村平田忠九郎江渡  
ス

一、同壹円五拾壹錢貳厘

年中定使夫代式拾四工壹工ニ  
付六錢三厘宛ノ高西岡清三郎江渡  
ス

一、同五円四錢

米壹石六斗年中小夫村方用前々方  
取締定渡ス米代西岡清三郎江渡ス  
但シ石ニ付三円拾五錢がへ

一、同壹円四拾錢

元津具組割桜井村元大庄屋中嶋良  
作江渡ス

一、同壹円八拾錢

年中村方入用半紙式拾帖并美濃紙  
五帖代ノ高八木寺田源吾江渡ス

一、同壹円貳拾五錢

御仮御免状頂戴ニ奈良行并御上納  
上寺庫裏普請御願共ノ六ケ度壹飯  
六錢宛式拾飯并筆工ちん共奈良吉  
野屋善一郎江渡ス

一、同三円式拾銭

一区内一統地券其外参会雜費八木

平田嘉重郎江渡ス壹飯八錢宛四拾

飯

合金五拾貳円四拾五錢八厘

右之通明治五正月方十二月迄村入費、戸長副戸長組頭惣

百姓立会勘定仕候処、書面之通相違無御座候、以上、

明治六年

三月

十市郡山之坊村

百姓代 佐伯久平 ㊦

副戸長 佐伯喜平 ㊦

同断 西谷源五郎 ㊦

戸長 吉川利市郎 ㊦

奈良県令四条隆平殿

〔木原〕

○木原村文禄檢地帳（本帳）

文禄四年九月七日

（平田喬祐文書）

文禄四年 東玉 ㊦  
 和州十市郡木原村御檢地帳  
 九月七日 門兵衛 大介

（前略）

上田 拾三町六反七畝三步 貳百拾九石四斗貳升

中田 六町六反四畝十五步 九拾貳石四斗三升貳合

下田 七反二畝十五步 七石九斗七升五合

上畠 六町七反五畝貳拾七步 八拾壹石壹斗壹升貳合

中畠 九反貳拾七步 九石九升

下畠 壹町三反貳拾七步 拾石四斗七升貳合

屋敷 壹反七畝貳拾壹步 貳石壹斗貳升四合

惣合 四百四拾貳石壹斗三升内

三拾三石四斗四升六合 荒

文禄四年九月廿一日

東玉 ㊦

○天神社山木切荒シ御止め願

慶安五年九月四日

(平田喬祐文書)

乍恐謹而言上

一、天神山社七ヶ村之氏神ニ而御座候、先年八神木は悉しげり申候処ニ、此頃山之坊村中としてきりあらし、当年者社之廻り大木をもきりと其上根迄ほりおとし、相残ル小松之分ハ不残枝をうち、さきをとめ被申候ゆへ、天神之かさりも無御座候間、先年之通は悉申様ニ山之坊村衆へ被為仰付被下候者忝可奉存候、以上、

新賀村庄屋

佐右衛門 ㊦

葛本村庄屋

四郎兵衛 ㊦

慶安五年  
辰ノ

常盤村庄屋

久兵衛 ㊦

九月四日

石原田村庄屋

六兵衛 ㊦

進上

北八木村庄屋

甚兵衛 ㊦

御奉行様

耳成地区

木原村庄屋

忠右衛門 ㊦

○木原村山之坊村耳成山界控

天和二年七月九日

(平田喬祐文書)

戊<sup>(天和二年)</sup>  
七月九日

一、山論

藤堂 山之坊村

出入ニ障候村々

葛本村 北八木

新賀 石原田村

常盤

木原村<sup>方</sup>ハ論所耳無山之儀、不残木原村支配山ニ而辰巳之方下へ見透之麓ニ横百八拾間<sup>(通九)</sup>分天神社有之候、是ハ新賀村北八木石原田常盤葛本木原山之坊七ヶ村氏神領之由申候得共、証拠証文無之申分難立候、山之坊申通り耳無山之儀、峯<sup>方</sup>西ハ木原村支配東ハ山之坊支配ニ而、南



ニハ境内立石、峯ニハ堀切、北ニハ山尾崎くほミ堀切有とし而繪図之□無紛相見へ候条、此境内之通峯切、西ハ木原村東ハ山坊支配可致候、且又天神山之儀者南東方ニ而式千坪程可附置也、自今以後右之通急度可相守者也」

○耳成山々論ニ付御願

元禄十五年十一月

(平田喬祐文書)

乍恐口上書を以奉願候

甲府様御領分和州十市郡訴訟人木原村

藤堂和泉守様御知行所同郡相手山之坊村

一、木原村領御年貢山耳無山之儀、先年山之坊村方押領仕掛候ニ付、式拾壹年以前戌之年京都御奉行前田安芸守様へ御訴訟申上候処、其節御殿様御領御初入之砌ニ而御座候ニ付、御威光を以申上候様ニ被思召、委細之御僉儀も被為成不被下、山半分山之坊村支配ニ被仰付候、且又右之山之内ニ木原村高内荒場御座候を、山之

坊村方致押領開発仕候ニ付、是又御訴訟之一ヶ条ニ而御座候得共、此義も曾而御僉議無御座候ニ付得御請不仕、達而御僉義之御願可申上と奉存、其節平岡三郎兵衛様御支配御役人中様迄其段々御断申上候得ハ、御役人中様被仰候ハ御殿様御領分之儀外之御請所ニ替リ、物毎別而相慎候様ニとて御仕置ニ候間、先一往ニ而も御奉行所方被仰出候義早速御願申上候様ニと被仰付候ニ付、延引仕罷在候、右之通ニ御座候故、御裁判書も不被為出、落着之書物など曾而無御座相滞御座候御事、

一、耳無山東之原ニ天神之社御座候、是ハ御領分木原村新賀村常盤村石原田村北八木村、御本丸入金丸又左衛門様御支配所葛本村、藤堂和泉守様御下山之坊村、右七ヶ村之氏神ニ而御座候、右之山辰巳之方下へ見通シ麓ニ而百八拾間天神領ニ而右七ヶ村之支配ニ而御座候所を、是も以前出入之節漸々式千坪天神御境内ニ致候様ニと之義ニ付、郷内も得心不仕罷在候、右之通出入

落着不仕候ニ付、山之坊村者共物毎例ニ成候様ニ連々相工ミ申候、然処当国八月廿二日之夜天神之社炎焼被成候、依之御造宮可仕相談ニ付山之坊村ハ古例支配致来候様ニ申掛、山之坊村取持を以御造宮可取営工ミ仕候、此存念ハ先年相論之節落着御書付等も無之出入滞御座候ニ付、ケ様之義共古例支配之様ニ致成シ、末々之証拠ニ可仕様ニ工候義何共難義奉存候、此度京都御奉行様迄先規之通御僉義奉願度奉存候、委細之義絵図并証拠共御覽被為遊、此度遂実言候様ニ被為仰付被下候者有難可奉存候、以上、

元禄十五年

午ノ霜月

木原村庄屋

藤四郎 ㊦

同村年寄

弥三郎 ㊦

同断

惣兵衛 ㊦

○耳成山保安絵図裏書状

宝永五年三月

(平田喬祐文書)

耳成地区

和州十市郡木原村常盤村石原田村新賀村葛本村北八木村、同国同郡山之坊村山論之儀、武拾七年以前一往裁許有之候処、木原村此外五ヶ村数年出訴ニ付、此度為御檢使小嶋孫右衛門、古川茂兵衛被差遣令糺明之処、木原村申趣者耳なし山之儀山年貢三斗五升宛木原村ハ相立来候、其上山内并麓廻り論山之内山之芝之荒場三ヶ所有之、全木原村領之由申之、山之坊村答候者耳なし山之儀南ハ境目右峯者堀切、北者尾崎之窪を見通し、西者木原村領、東者山之坊村領山ニ相分り、右山之北之麓ニ三百年余以前阿弥陀寺与申寺有之武百年余以前山之坊村江引移、依之山之坊与唱え為寺跡之由申之、且又常盤村石原田村新賀村葛本村北八木村木原村六ヶ村申候者、耳無山天神ハ右六ヶ村并山之坊村共七ヶ村之氏神ニ而、境内之義ハ南之麓者木原村領限り、西者古城跡東之台を限り、東者木原村領南北百八拾間を限り、北者境目限り無之候得共各別ニ木立茂リ有之候処、往古ハ天神境内ニ守来候由申之、山之坊村申候ハ相手方申候通天神之義者七ヶ村

氏神ニ而、武拾七年以前四拾間ニ五拾間ハ天神境内ニ可付置之旨裁許有之候由申候、右見分之趣遂吟味候処耳なし山之義年貢米三斗五升宛木原村ハ相立、年々免状有之檢地高内字山之芝田畑耳なし山を取廻シ、其上山内ニ茂山之芝之内荒場三ヶ所有之、上ハ天神境内之外木原村可進退候論山之内山之坊村ハ開發之畑不殘可潰之、天神境内之儀者前田安芸守申付置候通四拾間ニ五拾間、傍木塚可筑之、右境内之外六ヶ村ハ相立候傍木之内、立木之分七ヶ村として相守、天神修造之節立会可伐之、下草者木原山之坊入会可蒔之是又所々傍木塚筑之、境内不可混乱、仍為後証繪図表墨引印判をかへ、双方江下置之条不可違失者也、

宝永五戊子年三月 撰津

駿河

紀伊

十市郡

木原村

常盤村

右之通四月六日御裁許被為仰付候ニ付、繪図之裏書写置者也

宝永五戊子年

四月六日

○耳成天神宮造營妨ニ付御訴書

欠年十二月十三日

(平田喬祐文書)

乍恐謹而御訴訟申上候

天神

神主又四郎

藤堂大学頭知行所十市郡山之坊村

庄屋平三郎

同国同郡

山之坊村

庄屋

百姓

石原田村

新賀村

葛本村

北八木村

年寄甚太郎

村中惣百姓代

又兵衛

相手方寄郷六ヶ村

常盤村

甲府様御知行所十市郡

石原田村

新賀村

木原村

北八木村

金丸又左衛門様支配所同郡

葛本村

一、山之坊鎮守天神宮去秋焼失仕候ニ付、御神躰仮屋ニ

奉移置、神事其外祈禱立願等難勤御座候ニ付、宮本山

之坊村方寄郷右六ヶ村へ廻状を以呼寄、天神宮造営之

相談仕候処ニ、弥造宮仕候筈ニ相談相究、宮本山之坊

村方人ヲ仕立、大坂へ遣シ宮一式大坂ニ而仕立取寄、

造立仕筈ニ評議相済候処、寄郷六ヶ村之者公事工宮之

造宮押留新規成義ヲ申掛、山之坊村宮本ヲ寄郷六ヶ村

へ以後廻リ持ニ可仕なと、弥敷非道ヲ申掛、造営相止

申ニ付難ケ鋪奉存、去ル十月九日ニ山之坊村方御訴訟

申上候処被為聞召届同月十二日ニ六ヶ村之者共山之坊  
村双方被為召出、御僉之上郷中寄合右相談之通宮相立  
候様ニと被為仰付被下、難有奉存候、

一、天神之宮御威光を以造立仕候、就夫上遷宮之義神主  
又四郎被行被申候様ニと申渡シ、又四郎承相勤ル筈ニ  
御座候処、寄郷六ヶ村者共神主又四郎ニ遷宮させ可申  
旨上遷宮ヲ押へ、又々我儘ヲ申相妨迷惑仕候御事、

一、右天神宮之儀ハ従往古山之坊村鎮主ニ御座候ニ付、

当村宮本ニ紛無御座候、然処六ヶ村者共族ヲ申掛ケ、

自今以後山之坊村ヲ宮本ニ用ひ不申、六ヶ村方廻リ持

ニ宮本相勤可申なと、不謂新規之義ヲ申、村方強勸さ

せ勿論天神上遷宮をも押へ、非道ヲ申掛巧ヲ以申分之

仕掛ケ迷惑仕候御事、

一、当村宮本之義往古方他村柄相勤させたる例簡ヲ以無

御座候、勿論神主又四郎義ハ往昔方代々神主職、又四

郎家ニ持来リ天神之神主ニ隱無御座、尤神主無紛証拠

御座候処、非道之考を以何角と相妨難義至極ニ奉存

候、乍憚御訴訟申上候御事、

右之趣乍恐被為聞召上、右六ヶ村者共被為召出被為遂御  
僉義ヲ、宮本之義ハ不及申上ニ神主職ヲ茂相妨不申、先  
規之通ニ相守候様ニ被為仰付被下候者難有可奉存候、以  
上、

山之坊村天神之神主

又四郎

同村庄屋

平三郎

同村年寄

甚太郎

村中惣百姓代

五兵衛

元禄十六未年十二月

御奉行様

(裏書)

「表書之通訴状差出候、内証ニ而於不埒明ニ者致返答書  
来共二日罷出可対決、於不參ニ者可為越度者也、

未十二月十三日 彦右御印

十市郡

常盤村

石原田村

新賀村

木原村

北八木村

葛本村

右村々庄屋

年寄共

〔新賀〕

○新賀村新池造成替地相渡状

慶安二年十一月十七日

(森村繁文書)

新賀村池床田畑

田方畝數合壹町壹反四畝貳步

壹石六斗代

分米合 拾八石貳斗四升四合

畑方畝數合壹反貳拾四步

壹石貳斗代

分米合 壹石貳斗九升六合

田畑數合 壹町貳反四畝廿六步

分米合 拾九石五斗四升

右者醍醐村木原村兩所田畠之内、新賀村新池ニつかせ申候、其替地ニ新賀村領之内、田畠にて右面村へ相渡者也、為後日仍如件、

慶安貳年

石野三右衛門 ㊦

丑十一月十七日

佐部与惣兵衛 ㊦

右之池床高合拾九石五斗四升

内 九石七斗七升 百姓出ス分

同 九石七斗七升 新賀村高之内ニ而可引也

高田六郎衛門 ㊦

矢野武左衛門 ㊦

上田三右衛門 ㊦

○新賀村明細帳

寛保四年二月

(蘇村繁文書)

寛保四年子二月

村明細帳

大和国十市郡新賀村

文禄四年長東太藏大輔様御檢地

一、高六百四拾三石壹斗壹升五合

大和国十市郡  
新賀村

此反別三拾七町七反壹步

内

田高五百九拾四石

上田石盛二石一升六合  
中田石盛一石五斗二升五合

七斗八升七合

下田石盛一石三斗七升五合

此反別三拾四町四反五步

上畑石盛一石五斗

畑高四拾石三斗式升八合

中畑石盛一石二斗五升

屋敷石盛一石五斗

此反別三町式反九畝式拾六步

一、御水帳壹冊 文禄四未年長東太藏様御檢地

一、式割半御增高帳一冊 寛保三亥年

一、家数五拾七軒 内 四拾貳軒 本家  
拾五軒 水呑

一、人数三百四拾人 内 百七拾五人 男女  
百六拾五人

一、牛三疋

一、馬 無御座候

一、当村領 東西平均七町半 南北五町

一、当村々四方 東八常盤村江拾壹間(町カ) 南八八木村江八町  
西八上品寺村江六町 北八葛本村へ十二町

一、領内米川 長六百五拾間 前々御入用を以竹木被為下  
置川除御普請仕候、亥年方  
定式ニ御入用被為下候

但 川上多武峯西谷高家村々流出、凡式里半川下十市郡  
十市村領寺川筋江落合申候、凡壹里

一、南川 長四百間 右同斷

但 川上飛鳥川枝高市郡上飛彈村々流凡壹里

川下八当村領末ニ而米川筋江落合申候

一、竜川 長五百間 右同斷

但 川上寺川之枝十市郡桜井村々流凡貳里

川下八十市郡葛本村領末ニ而米川筋へ落申候、凡拾町

一、溜池壹ヶ所 長六拾九間 横五拾六間  
字こも池

是ハ織田幸次郎様御預り所、高市郡靛餉村領内ニ御座候、  
水込之儀ハ同村堰方引込申候、御入用を以御普請もの仰付  
候

一、新溜池 壹ヶ所 長七拾七間 横四拾五間  
字下明寺

是ハ享保十六亥年、原新六郎様御代官所之節御普請被仰付  
候、藤堂和泉守様御知行所十市郡山之坊村領并織田幸次郎  
様御預り所同郡葛本村領境ニ御座候

一、堰 壹ヶ所 長六間 上品寺村 立会  
新賀村

是ハ植村三藏様御知行所高市郡繩手村小房村領内在之  
百姓役ニ仕来候

一、堰 壹ヶ所 長壹丈  
石川筋字中之坪

是ハ織田幸次郎様御預り所十市郡木原村領内ニ御座候  
百姓役ニ仕来候

一、石堰 壹ヶ所 長壹丈  
竜川筋字下明寺

是ハ藤堂和泉守様御知行所、十市郡山之坊村領并織田幸二  
郎様御預り所

一、砂堰 壹ヶ所 長五間 横五尺 百姓役仕来候  
同郡葛本村領境ニ御座候 右同斷

一、用水溜堀 長七町 前々御入用を以御普請被仰付  
候

米川筋字志ろ

一、埋樋三拾式ヶ所 御普請所種類別紙帳面ニ  
寸法委細書上ヶ置申候

一、門樋拾壹ヶ所 右同断

一、窠 壹ヶ所 右同断

一、板橋式ヶ所 右同断

一、土橋八ヶ所 百姓役ニ仕来候

一、郷藏壹ヶ所 長五間 横式間

是ハ鎮守境内ニ建申候ニ付、年貢米四斗宛百姓弁当村神主  
方へ相渡シ小入用ニ成申候

一、鎮守弁才天 堀内 東西拾式間 南北拾壹間

一、氏神 天神宮木原村領耳成山ニ御座候

一、水上醍醐村江酒式斗かます壹連先規方遣来候

一、田方拾町歩之内 五町程木綿作、五町程稲作

一、畑方壹町之内 四反歩程木綿作、六反歩程雜毛

一、田畑質物直段 田方壹反ニ付式百匁方三百匁迄  
畠方壹反ニ付百匁方百五拾匁迄

一、小作直段 田方壹反ニ付壹石六斗方式石壹斗迄  
畑方壹反ニ付壹石壹斗方壹石六斗迄

一、水旱損之儀当村額 六歩通旱損場 四分通水損場

一、当村御年貢米皆銀御座候処、三年以前亥年方米納銀

納兩様相成申候

一、御高札 郷藏前ニ立置申候

一、八木村方当村江入作高六拾石七斗八升七合御座候

一、当村方他村江入作

一、耕作間には 男ハむしろ 女ハもめん糸  
繩 俵 木綿織 稼仕候

一、肥シ稲作壹反ニ付四拾匁方 木綿作壹反ニ付七拾匁方  
六拾匁迄 百匁方 付百匁迄

一、召遣之男給銀 百匁方 女給銀八拾匁方  
百廿匁迄 六拾匁迄

一、山林野原秣場 無御座候

一、藪年貢小物成 無御座候

一、町場市場ニ而は 無御座候

一、金銀銅鉄鉛山 無御座候

一、米津出し 無御座候

一、牢 無御座候

一、医師浪人山伏 無御座候

一、諸職入旅籠屋 無御座候

一、渡シ船川筏等 無御座候



一、御殿跡御屋敷跡

無御座候

一、名所旧跡類

無御座候

一、薬種ニ相成候草木

無御座候

一、同商売人

無御座候

一、獵師鉄砲

無御座候

一、酒造り人

無御座候

一、船積仕候商売

無御座候

一、材木薪稼

無御座候

一、石釜石焔硫磺火打石白土石灰類

無御座候

一、当村国境ニ而は

無御座候

右者此度村役人共立会吟味之上、書上申所相違無御座

候 以上、

大和国十市新賀村

寛保四年子二月

庄屋 助左衛門 ㊦

年寄 久四郎 ㊦

同断 甚兵衛 ㊦

組頭 彦之助 ㊦

同断 九兵衛 ㊦

〔上品寺〕

○上品寺村檢地帳

文祿四年九月五日

〔上田長守文書〕

文祿四年九月五日

大和国十市郡之内上品寺村御檢地帳 (本帳)

増田右衛門尉打口佐治彦左衛門

(末尾集計ノミ)

上田 九町九反六畝廿四步 百五拾六石九斗九升六合

中田 四町四反貳拾五步 六拾石壹斗七升三合

下田 六反四畝貳拾六步 七石四斗九升五合

荒田 八反壹畝五步 拾石四斗壹升九合

上畠 七町八反四畝拾九步 九拾石八斗六升四合

中畠 三反五畝拾六步 三石七斗三升

下畠 壹反八畝四步 壹石五斗貳升三合

荒畠 壹町四反八畝貳步 拾貳石四斗三升七合

屋敷 壹反九畝八步 貳石四斗貳升七合

合 貳拾五町七反壹畝拾七步

三百五拾貳石貳斗四升

うち 貳拾壹石九斗貳升壹合

田畠之荒

文祿四年九月五日 佐治彦左衛門〔花押〕

○上品寺村定免相之事

寛永十八年十一月八日 (上田長守文書)

定巳之免相之事

一、高四百四拾石三斗 十市郡 上品寺村

物成米三百四拾五石壹斗九升五合

右相定ノ上者無甲乙令割符来極月十五日以前急度可遂皆

濟夫口米目払之外一切非分有間敷者也

寛永十八年 田茂左 印

耳成地区

十一月八日 飯金太 印

高六郎左 印

庄屋百姓中 〱

○上品寺村定子免之事

慶安元年十月十六日 (上田長守文書)

定子免相事

一、元高三百五拾貳石貳斗四升 十市郡 上品寺村

免八ツ四リン取

右相定上者無甲乙令割符、来霜月中ニ急度可遂皆濟、夫口目払之外一切非分有間敷旨也、

慶安元年

十月十六日 田茂兵衛 印

高六郎兵衛 印

矢武兵衛 印

庄屋百姓中 〱

○上品寺村定免相之事

寛文元年十月二十二日

(上田長守文書)

定丑免相事

一、元高三百五拾貳石貳斗四升

十市郡  
上品寺村

土免八ツ四分取

右相定上者無甲乙令割符来ル霜月中急度可遂皆濟夫口目  
払之外一切非分有間鋪者也、

寛文元

丑十月廿二日

上田三右衛門尉 ㊦

水野 四方助 ㊦

庄屋百姓中 ㊦

○上品寺村免相之事

寛文二年十一月十日

(上田長守文書)

定寅免相事

一、元高三百五拾貳石貳斗四升

十市郡  
上品寺村

免九ツ三分取

右相定上者無甲乙令割符来ル極月十五日以前急度可遂皆  
濟夫口目払之外一切非分有間敷者也、

寛文元年

十一月十日

生駒兵太夫 ㊦

水野 四方助 ㊦

庄屋百姓中 ㊦

○上品寺村免定之事

元禄元年十月

(上田長守文書)

辰年免定事

一、高四百四拾石三斗

十市郡  
上品寺村

取米三百三拾石貳斗貳升五合免七ツ五分

右之通村中出作等迄立会無甲乙令免割来極月十五日以前  
急度可致皆濟者也、

元禄元 戊辰年十月

岡 本 甚 介 ㊦

坪 内 久 兵 衛 ㊦

松 本 伊 左 衛 門 ㊦

松 本 善 左 衛 門 ㊦

○五人組高附帳

享保二十年正月

⑩ 十市郡上品寺村 五人組并高附帳扣 卯正月
---------------------------------

大井田十郎兵衛 ⑩  
 勝野次郎兵衛 ⑩  
 村沢藤左衛門 ⑩  
 大西三郎兵衛 ⑩

上品寺村  
 庄屋  
 惣百姓

(上田長守文書)

残三百九拾七石七斗六升五合 毛付

内

一、拾式石八斗壹升 組頭 勘四郎 ⑩  
 一、八石四斗五合 惣次郎 ⑩  
 一、式石七斗五升四合 忠兵衛 ⑩  
 一、無高 甚兵衛 ⑩  
 一、無高 源八 ⑩

五人

一、拾七石八斗九升八合 組頭 吉兵衛 ⑩  
 一、七石八斗四合 太兵衛 ⑩  
 一、式石三斗四升六合 源三郎 ⑩  
 一、無高 甚介 ⑩  
 一、無高 権四郎 ⑩

五人

一、高四百四拾石三斗 上品寺村  
 内  
 四拾式石五斗三升五合 永荒池床 川成道附  
 一、拾六石七斗五升五合 組頭 平七 ⑩  
 一、五斗九升三合 勘介 ⑩  
 一、三斗五升六合 善次郎 ⑩

耳成地区

九二三

耳成地区

一、七斗八合 甚五郎 印  
一、無高 六助 印

一、拾四石六斗六升 組頭 四兵衛 印  
一、八斗六升五合 左兵衛 印

一、四石四斗四升九合 庄九郎 印  
一、壹石四斗九升 久五郎 印

一、無高 市兵衛 印  
一、無高 組頭 甚三郎 印

一、七石七斗貳升貳合 嘉兵衛 印  
一、貳石九斗八升貳合 清吉 印

一、無高 善助 印  
一、無高 善助 印

一、無高 長九郎 印  
一、無高 後九郎 印

一、貳拾石貳斗壹合 組頭 仁兵衛 印  
一、拾石七斗五升三合 半四郎 印

九二四

一、三石三斗貳升 平兵衛 印  
一、九斗七升八合 三助 印

一、無高 新六 印  
一、五石六斗七升九合 組頭 彦兵衛 印

一、拾貳石六斗貳升四合 彦四郎 印  
一、壹石七斗壹升 助三郎 印

一、貳斗壹升 九兵衛 印  
一、無高 禪門了学 印

一、八石六斗貳升貳合 組頭 伊兵衛 印  
一、五石四斗三升六合 庄兵衛 印

一、四斗貳合 長四郎 印  
一、無高 吉助 印

一、無高 吉助 印  
一、無高 久介 印

一、三石四斗九升 組頭 市郎兵衛 印  
一、無高 久介 印

- 一、四斗七升三合 善 六 ④
- 一、三斗壹升四合 源 七 ④
- 一、無高 新兵衛 ④
- 一、無高 久三郎 ④

五人

- 一、三石壹斗六升 惣作高 ④
- 一、拾五石九斗貳升九合 年寄利兵衛 ④
- 一、七石九斗四升貳合 同断又四郎 ④
- 一、三拾六石七斗八升六合 庄屋高 ④
- 一、貳百四拾石六斗貳升六合 村持高

出作方

- 一、貳石壹斗五升貳合 近山清右衛門様御代官所  
十市郡北八木村 長九郎
- 一、貳石壹斗七升 近山清右衛門様御代官所  
同郡同村 正左衛門
- 一、七斗六升壹合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同村 与助

耳成地区

- 一、壹石九升五合 同郡同村 忠 七
- 一、三斗壹升五合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同村 儀兵衛
- 一、拾七石八斗貳升壹合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同村 碓 十 介

- 一、七斗 近山清右衛門様御代官所  
高市郡今井 惣十郎
- 一、八斗六升貳合 近山清右衛門様御代官所  
高市郡今井 甚介

- 一、壹石九斗壹升八合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同所 小十郎
- 一、三斗七升五合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同所 忠兵衛
- 一、貳拾貳石三斗三升九合 近山清右衛門様御代官所  
同郡同所 八右衛門
- 一、九拾六石五斗三升 近山清右衛門様御代官所  
同郡同所 藤堂大膳亮様御下 佐右衛門

一、四石五斗壹升五合

同郡新口村

又市郎

村越三十郎様御下

同郡十市村

久左衛門

一、五石五斗八升六合

〆百五拾七石壹斗三升九合

出作高

惣合三百九拾七石七斗六升五合

右之通五人組并持高相違無御座候

以上

庄屋 上田清次郎 ㊤

享保二十乙卯年

年寄 又四郎 ㊤

正月

同断利 兵衛 ㊤

(以下張り紙)

享保二十年卯正月廿一日此帳面之通ニ相認差上ケ候様

ニと多村七兵衛殿庄屋中へ多村へ呼寄被申渡候ニ付正

月廿六日ニ認二月三日ニ村中印形取二月四日ニ多村千

二郎持参申候但出作方ハ印形入不申候由ニテ取不申候

○上品寺村御成箇免定之事

元文元年十一月

(上田長守文書)

和州十市郡上品寺村辰御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

六石式斗四升

已砂入当引

内 八拾式石壹斗八升四合

当辰田方檢見引

式拾三石七斗式升四合

同田木綿水損引

三石

同畑木綿水損引

残三百式拾五石壹斗五升式合

取米貳百七拾九石六斗三升壹合

外

一、米拾三石式斗九合

夫米

一、米八石三斗八升九合

口米

納合米三百壹石式斗式升九合

右之通当辰御成箇相極之間、惣百姓并入作之者迄立会、

無高下令割符、来ル極月十日以前可皆済者也、

元文元年十一月

高橋次郎右衛門 ㊤

関根弥一左衛門 ㊦

戸倉徳之進 ㊦

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

○十市郡上品寺村反別指出帳

元文二年四月

(上田長守文書)

<p>元文二年</p> <p>和州十市郡上品寺村反別指出帳</p> <p>巳四月</p>
--

十市郡上品寺村 方角東向

文祿四年九月五日増田右衛門尉様打口佐治彦左衛門様御檢地  
一、高四百四拾石三斗 本途

内 八拾八石六升

小細ク 貳割半增高

此反別貳拾五町九反三畝拾壹步

耳成地区

訳

高貳百拾壹石八斗四升三合

上田拾町七反六畝

内

高貳拾五石六斗九升三合

壹町三反拾五步

高百八拾六石壹斗五升壹勺

残九町四反五畝拾九步

高七拾八石九斗壹升六合四勺

中田四町六反貳畝拾五步

内

高拾石五斗七升九合

六反貳畝

高六拾八石三斗三升七合四勺

残四町拾五步

高四拾四石五斗四升八合

下田三町九畝廿七步

内

高拾四石貳斗貳升

九反八畝廿九步

高三拾石三斗貳升八合

残貳町壹反廿八步

石盛  
壹石九斗六升八合八勺

池床川成道附  
永荒村弁

石盛  
壹石七斗六合三勺

池床川成道附  
永荒村弁

石盛  
壹石四斗三升七合五勺

池床川成道附  
永荒村弁



高三百三拾五石三斗七合四勺  
田方小以拾八町四反八畝拾貳步

内 高五拾石四斗九升貳合  
貳町九反壹畝拾四步

池床川成道附  
永荒村弁

高貳百八拾四石八斗壹升五合四勺  
殘拾五町五反六畝廿八步

此反別ヲ以御檢  
見請申候

高六拾七石八斗五合壹勺  
上畑四町三反八畝拾五步

石盛  
壺石五斗四升六合三勺

内

高拾石七斗六升五合三勺  
六反九畝廿步

池床川成道附  
永荒村弁

高五拾七石三升九合八勺  
殘三町六反八畝廿五步

高貳拾壹石三斗五升四合三勺  
中畑壹町六反貳畝廿壹步

石盛  
壺石三斗壹升貳合五勺

内

高九石三斗五升九合四勺  
七反壹畝拾步

池床川成道附  
永荒村弁

高拾壹石九斗九升四合九勺  
殘九反壹畝拾壹步

高拾三石六斗壹升八合四勺  
下畑壹町貳反九畝廿壹步

石盛  
壺石五升

内

高壺石八斗貳升九合壹勺  
壺反七畝拾四步

池床川成道附  
永荒村弁

高拾壹石七斗八升九合三勺  
殘壹町壹反貳畝七步

高貳石貳斗壹升四合八勺  
畑屋敷壺反四畝貳步

石盛  
壺石五斗七升五合

高百四石九斗九升貳合六勺  
畑方屋敷小以七町四反四畝廿九步

内

高貳拾壹石九斗五升三合八勺  
壺町五反八畝拾四步

池床川成道附  
永荒村弁

高八拾三石三升八合八勺  
殘五町八反六畝拾五步

畑方毛付  
但屋敷共

寄

田畑屋鋪合貳拾五町九反三畝拾壹步

内

高七拾貳石四斗四升五合八勺  
四町四反九畝廿八步

池床川成道附  
永荒村弁

高三百六拾七石八斗五升四合貳勺  
殘貳拾壹町四反三畝拾三步

外

一、沓反三畝

庄屋所持仕候  
除屋鋪

右之通少茂相違無御座候、此外何ニ而茂納リ来リ候物  
無御座候、若隱置後日ニ頭候ハ、何様之曲事ニ茂可被  
仰付候、以上、

元文二丁巳年四月

和州十市郡上品寺村庄屋

上田清次郎 ㊦

同村年寄

又四郎 ㊦

同断

利兵衛 ㊦

○御巡見使通行駕籠入用書上帳

延享三年四月

(上田長守文書)

御巡見様御通之節 十市郡上品寺村

御駕籠立場入用書上帳

扣

延享三寅年四月

耳成地区

御巡見様御通りニ付御駕籠立場入用覚

一、御立場地 幅貳間半 長拾間

比麦年貢三斗

代銀拾匁五分

一、杉沓丈丸太 拾七本

代拾匁貳分

一、杉皮 拾八坪

代拾四匁四分

一、松沓間貫 六丁

代四匁八分

一、同割物 三本

代貳匁五分

一、松貳間廿割 五本

代三匁五分

一、杉坪板 四枚

代四匁八分

一、壺 壹ツ

代耆刃七分

一、はりがね 七拾五刃

代耆刃九分

一、釘

代七刃式分

一、竹 三把

代七刃五分

一、ひちかけかね(マコ) 三口

代九分

一、小麦藁 式拾式束

代拾六刃五分

一、杭 四拾七本

代拾六刃四分五リソ

一、ふじ かけ目七百刃

代式刃三分耆リソ

一、竹 四把

代八刃

一、繩 式束

代三刃

一、すみ 耆ノ五百刃

代八分

一、大工 八日

作料式拾四刃 但飯料共

合百四拾目五分六リソ

内

拾九刃五分有敵引

残テ百式拾耆刃六リソ

外ニ

人足 百式拾七人

是者御立場ノ仕立人足并土持砂持御通り後右土砂拾人足

右者御巡見様御通りニ付、御駕籠立場入用并人足書付奉

差上候、以上、

寅四月

同断

利兵衛 ㊦

同村

年寄又四郎 ㊦

上品寺村庄屋 上田千次郎

右四月十九日朝六<sup>(九)</sup>而千次郎相認、御代官堀江□五右衛門様へ  
差上候

合七拾目八分五厘

内

拾四匁二分有畝引

残テ六拾六匁六分五厘

又

上品寺村出屋敷四軒屋禰并壁ぬり入用

一、藁 四拾六束

代拾七匁二分五リソ

一、竹 八把

代拾六匁

一、繩 三束

代四匁五分

一、すざ 五貫目

代式匁五分

有畝引残り  
四拾匁二分五リソ

合銀百六匁九分

延享三年 扣  
御巡見様御通ニ付入用并人足書上帳  
寅四月 十市郡 上品寺村

御巡見様御通りニ付入用人足覚

但見苦敷所小麦藁垣ニテ三拾間余かこひ候入用

一、小麦藁 三拾七束

代式拾七匁七分五リソ

一、竹 七把

代拾四匁

一、松巻間杭 六拾六本

代式拾三匁卷分

一、繩 四束

代六匁

耳成地区

一、人足 九拾四人

但道作り人足

一、同 百五拾七人

但往還土持砂持人足

一、同 五拾八人

但出屋敷土持壁ぬり屋禰ふき垣ゆい人足

一、人足 八拾六人

但二月九日と三月廿六日迄御役人様方御迎送り

人足

合三百九拾五人

但芘人ニ米貳升宛

右者御巡見様御通ニ付、入用并人足書付奉差上候通相違

無御座候、以上、

寅四月

上品寺村庄屋 上田千次郎

” 年寄利 兵衛 ㊦

” 同断又 四郎 ㊦

右四月廿二日御代官江差上候

□千次郎

┌

○上品寺村御成箇免定之事

宝曆二年十一月

(上田長守文書)

和州十市郡上品寺村申御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

取米三百七拾八石六斗五升八合

定厘八ツ六分

内五拾五石七斗 当申了簡引

内貳拾石 村救

残三百貳拾貳石九斗五升八合

外

一、米拾三石貳斗九合

夫米

一、米九石六斗八升九合

口米

納合米三百四拾五石八斗五升六合

右之通当申御成箇相極之間、惣百姓并入作之者迄立会、

無高下令割賦、来ル極月十日以前可皆済者也、

宝曆二申年十一月

竹尾吉左衛門 ㊦

雨宮嘉右衛門 ㊦

小宮山内左衛門 ㊦

戸倉徳之進 ㊦

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

」

○上品寺村へ  
大垣村へ 儉約仰出御請書

宝曆九年閏七月

(上田長守文書)

宝曆九年	上品寺村
儉約被	
仰出候ニ付	御請書帳
卯閏十月	大垣村

覚

御領分近年不作打続、御成箇少く、御物入之事共多  
く、御勝手御不如意ニ付、此度御儉約厳敷被仰出、御  
家中諸士末々ニ至迄、其身者不及申、妻子等ニ至迄、  
向後綿服被仰付候、依之町在中共右ニ准、儉約之旨被

仰出候趣左之通、

一、兼而被仰出候通、村々大小之百姓共、常々身持輕ク  
仕、奢ケ間敷儀決、而無之儉約を相守、農業大切ニ可仕  
旨、五人組帳前書ニも有之、年々諺聞セ印形取之候  
処、右五人組帳之儀何与心得候哉、式ヶ条ニ相背候儀  
茂相聞江、又小百姓ニ至而者不得心之者茂有之様相聞  
江、甚以不埒之至有之候、向後者組頭之者乃組下之も  
の江ヶ条毎ニ得与相心得候様可申聞候、右不吞込より  
事発リ、近年百姓之身持悪敷成行候様相聞江候、村内  
ニして身上宜敷者農業成兼候杯と申小商ひ等いたし、  
京都大坂南都辺ニ折々罷越、身上宜敷町人と出会、其  
風俗を見習、着服或者居宅を取繕ひ、物好を致し、器  
財等無益之品を貯、風雅ニ遊ぶ之輩有之故、其所之若  
キもの共聞および、宜敷事とおもひ、民の掟を失ひ、  
百姓の業をうとみ、農具之心掛薄く、町人之風を学  
び、其身之不心懸より妻子并召仕等迄持をゆるやかに  
成り行、無益之費有之故、右躰之者共いつとなく身上

耳成地区

不如意ニ相成、年貢納方ニ指詰リ、又ハ田畑肥代手支、漸借銀を以其季々を取繕ひ、利害の難儀をいとハズ、身扮不宜族茂有之様相聞江、不届至極ニ候、向後者被仰出之趣堅相守、平日百姓之掟を不忘、其身ハ不及申、妻子或者召仕之下々迄身持を輕クいたし、掛を大切ニ儉約を守り、農業專ニ可致出精事、

一、郷中男女之衣類前々被仰出候通、絹袖以上令停止、麻布木綿を着用可仕候、尤帯或者腰帶襟袖口頭巾帽子笠当笠鎮等ニ至迄、絹類堅可為停止事、

但出家神主医師者着服可為制外、妻子之儀者可為綿服候、附たばこ道具其外櫛かうかいかんさし等、籠甲蒔絵付之類、或者京大坂雪駄塗下駄重ね草履等、堅無用可致候、

一、大庄屋共并帯刀人其之内、御用向ニ而京都大坂南都御番所江罷出候歟、又者公儀御役人中御通行之御道筋江為御馳走罷出候節者、絹袖着用勝手次第可仕候、

附リ、大庄屋帯刀人并重立候百姓之父母妻子等、無

抛子細ニ而他所江罷越、外聞ニ茂抱リ候程之儀茂有之砌者、其訳御代官所江相届ケ候上、絹袖迄之類下着ニ可改候、上着者決而木綿可為着用候、

一、於郷中聳嫁取之事、近年其身之不応分限取筋リ有之、居宅并諸道具衣類等我勝ニ花麗を尽し、双方出会之砌料理等珍珠を用、物入を不厭、上を不恐致方共有之旨粗相聞候、緞身上之宜敷者たりといふとも、過分之儀有之間敷筈之処、其躰を見および不身上之輩者婚禮之祝儀分限不相応ニ取筋リ、世上之繕を專ニ心掛、所持之田畑山林を質物ニ差入金銀を令調達、末々其家之衰をかへり見ず、当座之外見を思ひ、無益之費多故、自然と難儀ニおよび、田畑肥等茂不足ニ相成候得者、立毛もおくれ、弥困窮相募、後々者其身之不所存を忘、難儀廻リ、先祖之旧宅讓請候器財等迄売却、本意を失ふの輩甚不埒之事ニ候、向後者聳嫁取之祝儀其外年賀或者子孫出生之祝ひ事ニ至迄相互ニ輕ク申合、身上宜敷者之聳嫁取諸祝事たりとも儉約を守、絹類堅

着用不仕、尤料理之事一汁一菜ニ相定酒三献ニ不過  
様申合、居室之取飾リハ不及申、器物等花麗ニ無之、  
百姓相応之品を用ひ、親子兄弟親類并懇意之者たりと  
も、音物取やり堅可令停止事、

附り御領分中者不及申、他領も縁組仕候躰嫁取とい  
ふとも、此度被仰出之趣先方へ申達、掟不崩様可申  
合候、尤他所より参り候躰嫁取たりとも、木綿地布  
之外着用仕間敷候、何事不依婚禮祝儀事取かはせ配  
り物向後堅無用たるべき事、

一、郷中神事祭礼等之儀随分輕ク申合、費無之様可仕  
候、數年献來り候神供之類者各別之事、新規之儀仕間  
敷候、尤親類縁者懇意之者呼集、振舞被酒盛可致無  
用、勿論餅配リ物等堅仕間敷事、

一、年頭并五節句之祝儀是又輕ク申合、村中者不及申、  
他村之親類縁者懇意之者たりとも、音物取やり堅仕間  
敷、

附り、盆中裏祭并灯籠輕ク可仕候、十五歳以上踊り

耳成地区

可為無用候、

一、葬礼之儀、父母死去之節各別之事ニ候得者、大切ニ  
取斗ヒ候儀、孝行之筋有之といへとも近キ頃者世上之  
外聞を而已繕ひ、実心を失ひ、無益之花麗を尽し、前  
後之入用を不厭、分限不相応之致方共相聞江候、父母  
者勿論妻子兄弟縁者たり共、死骸者塵抹無之様入念可  
相送候、尤葬送之節忌服無之者平日之懇意杯と申、大  
勢其家ニ入集り候得者、自然と物入費茂多ク有之間、  
忌服不受程之者共相互ニ遠慮いたし、不可寄集、尤親  
類縁者たりとも□中見廻之音物堅無用ニ可致事、

附り、年廻法事等右ニ準シ、輕ク取斗と可申候、他  
領之寺院長老相招候共、料理一汁一菜酒出し申間敷  
候、尤寺院江施物等分限相応より輕ク可申合候、

一、出郷中月侍日侍与号し、村中寄合五穀成就之祈禱相  
願候などと申立、其村之寺社江相集り候儀、向後無用  
ニ候、輕キ者共大勢寄合候得者必諸勝負事を催し、都  
而変之基に相成候、斯申渡候とて仏神信仰を相止候得



と申儀ニハ無之候、信心ハ銘々ニ可有之事ニ候、大勢寄合候得者自然と費有之、無益之事ニ候条、堅可為無用事、

但、雨乞願滿等之節、輕キ灯籠、或ハ山筋リ子共踊之類是迄之通御代官所江相願、差図次第可申合候、操芝居相撲之類、外方芸者雇候様成義決而可為無用

候、

一、諸頼母子并寺社相對之諸勸進猥ニ加入仕間敷事、

右之条々堅相守、村々庄屋年寄組頭共小百姓水吞借家住之者迄、銘々諺聞少茂不相背様可申付候、尤儉約之儀者平日之心掛ニ候、頭百姓共此度致仰出之趣得与奉

年知承也、身相慎奢ケ間敷儀無之候得者、其妻子者不及申、小百姓末々之者共迄、正敷可相成事ニ候、頭百姓共

心得違其身持よろしからず候得者、自然と妻子并小百姓童に至迄身持悪敷、農業之持愼り、田畑之手入不足成時者立毛不熟して可為不作事眼前之道理ニ候条、大庄屋共者不及申、村々庄屋年寄百姓共急度相慎、耕作情を出

し、年貢不納無之様可心掛候、己が家業未熟ニして未進を申立候儀□敷可存事百姓之常たるべく候、能々其理をわきまへ、其村々者不及申、近村之者共迄相互ニ心付、御領分中一流ニ睦敷申合致、仰出を相守リ、反吟味ニいたし其身者勿論、妻子下々ニ至迄相背候者見聞及候者、庄屋年寄之身持たりとも、無遠慮大庄屋迄早速可申達、万一大庄屋共於油断者御代官江直ニ可附出候、若隱置後日ニ外方相知候ハ、本人同前ニ可為曲事候、尤繁々御役人相廻し候間、少茂相背候もの於有之者、当人ハ勿論、其村々庄屋年寄組頭、其組々大庄屋共ニ急度御咎可被仰付候、条常々堅可相守者也、

宝曆九卯年七月

十市郡上品寺村庄屋

上田三郎次郎 ㊦

同村年寄

宗兵衛 ㊦

同断

治右衛門 ㊦

組頭

勘四郎 ㊦



出屋敷  
 平兵衛 ⑩  
 又兵衛 ⑩  
 太兵衛 ⑩  
 伝七 ⑩  
 平次郎 ⑩  
 新介 ⑩  
 専笠(無印)  
 後家 ⑩  
 市兵衛  
 後家 ⑩  
 長兵衛 ⑩  
 源六 ⑩  
 藤七 ⑩  
 五兵衛 ⑩  
 甚兵衛 ⑩  
 与助 ⑩  
 清九郎 ⑩  
 甚介 ⑩

大垣村  
 大垣村庄屋  
 上田三郎次郎 ⑩  
 同村年寄  
 又三郎 ⑩  
 同断  
 忠五郎 ⑩  
 組頭  
 甚平 ⑩  
 同断  
 又四郎 ⑩  
 同断  
 清六 ⑩  
 同断  
 儀兵衛 ⑩  
 百姓  
 長兵衛 ⑩  
 彦五郎 ⑩  
 彦兵衛 ⑩  
 佐兵衛 ⑩  
 清次郎 ⑩  
 同  
 喜兵衛 ⑩

庄 吉 印  
 与 四 郎 印  
 源 七 印  
 清 九 郎 印  
 彦 四 郎 印  
 伊 兵 衛 印  
 清 吉 印  
 太 兵 衛 印  
 後 家 印  
 甚 七 印  
 甚 四 郎 印  
 重 兵 衛 印  
 九 兵 衛 印  
 宇 兵 衛 印  
 与 次 兵 衛 印  
 清 三 郎 印  
 妙 智 印  
 文 四 郎 印

仁兵衛

○上品寺村高名寄帳

宝曆□年八月

丑年高名寄帳  
 八月吉日  
 上田長憲

非人番

孫 八 印  
 利 助 印  
 貞 心 (無印)  
 吉 兵 衛 印  
 清 助 印  
 勘 四 郎 印  
 庄 九 郎 印

(上田長守文書)

一、拾三石貳升七合五夕

又壹升四合勘四郎北ノ方忠  
 拾三石四升壹合五夕

勘四郎

屋敷高之内入

一、八石七斗壹升貳合

武兵衛

一、貳石六斗八升九合三夕

権三郎

一、貳石六斗五升六合

平兵衛

一、六石六斗八升三合九夕

源兵衛

一、四石三斗五合

嘉兵衛

一、七石八斗壹升六夕

茂平治

一、九石八斗七升五合

治右衛門

一、四石壹斗六升七合九夕

平三郎

一、壹斗六合

彦兵衛

一、壹斗三升七合

喜兵衛

一、六石四斗七升貳合五夕

吉兵衛

一、壹斗六升貳合

勘助

一、拾三石壹斗貳合五夕

宗兵衛

一、七石三斗七升九合五夕

太兵衛

一、六斗貳升九合

道場

一、七石四斗貳合五夕

与兵衛

一、拾貳石五斗九升九合五夕

彦四郎

一、壹石四升七合

久兵衛

一、七石三斗九合

忠次郎

一、三斗八升壹合

源七

内 貳斗六升四合ハ 北ノ屋敷六助へ入

残七石三升壹合

源四郎

一、五升六合五夕

長四郎

一、七石九斗八合

源四郎

一、三斗六升三合

善兵衛

一、六斗壹升壹夕

藤助

一、四石六斗貳升八合四夕

宗七

一、三石五升六合五夕

仁兵衛

一、六石壹斗壹升壹合五夕

新兵衛

一、壹石八斗壹升貳合八夕

喜平治

一、四石三斗四升四合

治良兵衛

一、貳石三斗九升貳合貳夕

源三郎

一、五石八斗貳升八合

六助

又式斗六升四合八忠次郎北ノ屋敷入

ノ六石九升式合

一、式石五斗四合

五兵衛

一、五石四斗六升八合五夕

神田

一、三石三斗八升八合

中地

一、壹石七斗三升六合

北八木村木原屋  
正左衛門

一、八斗七升六合

同 新賀屋  
勘兵衛

一、六斗九合

同 白屋  
与助

一、式斗五升式合

同 阿免屋  
儀兵衛

一、八斗三升六合

南八木村大工  
伝兵衛

一、拾四石式斗五升七合

きわ

一、六斗八升九合

今井木綿屋  
甚助

一、壹石五斗三升四合

同 熊野屋  
五兵衛

一、式石式斗壹升四合

今井鮎屋(カ)  
長兵衛

一、八斗九升三合

同 新堂屋  
忠五郎

一、六石五斗式升

同 加セヤ  
仁兵衛

一、九斗式升五合

新賀村  
善四郎

一、五石七斗五升七合五石

新堂村  
善次郎

一、三石六斗壹升式合

新口村  
又市郎地

一、八拾石五斗式升三合三夕

新賀村  
佐右衛門

一、式拾三石壹斗七升七合

三郎次郎

合三百九石七斗五合

内

百五拾六石四斗三升七合七夕

村高

式拾三石壹斗七升七合

自分高

五石四斗六升八合五夕

神田高

三石三斗八升八合

中地高

百式拾壹石式斗三升三合八夕

出作高

ノ三百九石七斗五合

又

四拾貳石五斗三升五合

荒地底  
高へし(マ)マ  
弁高

合三百五拾貳石貳斗四升元高也

又

八拾八石六升

無地貳割  
半增高也

合四百四拾石三斗

○武家並庶民へ奉公人々返し御触写

明和三年正月

(上田長守文書)

明和三戌年

奉公人引返し御触留メ

正月

覚

一、御領分<sup>カ</sup>他領江奉公かせきに被出候男女ともニ、人返し被仰付候間、当戌春出替り之節より、御領分中ニ

而奉公致し候様ニ村々庄屋年寄ともニ可申渡候、在中男女出替り之儀者、極月之由相聞江候、<sup>(マ)</sup>又、他領江奉公ニ不參、御領分中ニ而奉公稼候様ニ可申付候、去西極月、他領江奉公ニ奉公<sup>(マ)マ</sup>罷出候男女有之ハ、庄屋年寄共相働、可成丈ケ引返し、若無抛子細有之分ハ、可申出品ニより可及沙汰候、自然公儀御奉公仕居候もの有之候ハ、其訳書出し可申候、

一、男女ともニ出替り候所、當時<sup>カ</sup>若他領江奉公之約束致し、給銀等請取之候者有之候ハ、庄屋年寄埒明候之様ニ可申付候、

一、御家中奉公ニ出候儀、男女ともニ勝手次第ニ可致候、

一、御領分中、男女ともニ人返しニ付、在中奉公人出替り之節<sup>カ</sup>、他領に奉公ニ出し不申儀ニ付、一村切ニ人別急度相改メ、委細之書付ニ庄屋年寄組頭印形致し可指出候、宗門帳江引合人別相改候、此旨可相心得候、

右之通被仰出候間、御領分中村々江可被触知候、以上、

戌正月

右之趣此度御領分中人返し被仰付候間、一村切ニ庄屋年寄組頭立合、人別前帳之趣を以吟味いたし、委細書付ニ庄屋年寄組頭印形致し、組切ニ大庄屋吟味奥印取之、来ル二月朔日同十五日迄、朝五ツ半時夕八ツ時迄ニ御用懸リ土屋新兵衛右役所江差出、吟味之上可請差図候、此旨村中大小之百姓水吞末々之もの迄急度為申聞、心得違無之様致べし、若心得違之もの有之、他領江奉公ニ罷出候ハ、当人ハ勿論、親類并大庄屋年寄其組之組頭迄可為越度もの也、

戌正月廿八日

山 八左衛門  
小 四郎左衛門

観音寺村御書始、但馬村出屋敷御書留メ

袋帳ニして上ハ書ニ

被仰出之覚

戌正月 役所

覚

(表紙の部分か?)

耳成地区

- 一、武士奉公人御直參衆江歩行奉公以上之者、人返し免除可申付候、足輕以下之分ハ、人返し可申付事、
- 一、他国他領江罷出候奉公人之内、数年相勤候上ハ、主人より世帯をもらひ、其所ニ而妻子有之もの之事、
- 一、年季之通、奉公相勤候上、主人方暇を取、其所ニ住居妻子有之もの之事、
- 一、数年奉公仕候上、主人養子ニ致し、家督譲リ受候もの之事、
- 一、主人手前暇を取、其所ニ而外江養子ニ参り候もの之事、
- 一、数年相勤候上、手代様ニ成、或者主人相果候跡、幼少ニ而其手代世帯一式預り候もの之事、
- 一、寺院方ニ奉公致し、出家ニ成候者、又ハ末ニ出家之望有之もの之事、
- 一、他国他領江奉公ニ罷出、数年相勤候ニ付、一兩年之内主人より身上可為持約束ニ而、先々より願書証文取置候者之事、



一、年季之通相勤候上、末々養子ニ致し可申ト約束ニ而、主人方より願書証文取置候もの之事、

一、其主人ト奉公人親類縁者ニ而、末々身上有付為申ト

証文取置、給銀も取不申、預ケ置置候もの之事、

一、七拾歳以上之者之事、

一、酒(社)とうし、油しほり相勤候もの之事、

右類之者人返し免除申付候、

一、歳十三以下之者、他国他領江奉公ニ出し候もの、暫

人返し免除之事、

一、年季奉公人極メ之事

十ヶ年季 六年勤候者

七ヶ年季 五年勤候者

六ヶ年季 四年勤候者

五ヶ年季 三年勤候者

右年数相勤候もの、分ハ残年季為相勤、年明キ候て人返

し可申付候、年季残候間ハ免除之事、

但年季其以下ハ右ニ准可請指図候、

右之類之者無抛子細有之候ハ、庄屋年寄印形書付を以、役所江可申出候、以上、

戌正月

役所

但、右廻状并御帳面一所ニ二月三日九ッ過、多村方参写取同日七ツ時、内膳村へ遣ス、但上品寺村飯高村式ヶ村ハ印形いたし遣ス、平八(?)

○飢人へ被下置扶持米覚

明和八年四月十七日

(上田長守文書)

(表紙欠丁)

覚

一、米貳石七斗八升四合

飢人五拾貳人へ被下置候御扶持米

右渡方

一、米五升

源兵衛 ㊦

一、同五升

清吉 ㊦

一、同五升

太助 ㊦

- 一、同五升 (破) 伊兵衛 ㊦
- 利助 ㊦
- 字兵衛 ㊦
- 治兵衛 ㊦
- 一、同五升 はる ㊦
- 一、同五升 又右衛門 ㊦
- 一、同五升 彦四郎 ㊦
- 一、同五升 源六 ㊦
- 一、同五升 清藏 ㊦
- 一、同五升 清助 ㊦
- 一、同五升 さん ㊦
- 一、同五升 佐兵衛 ㊦
- 一、米五升 重兵衛 ㊦
- 一、米五升 善次郎 ㊦
- 一、同五升 嘉兵衛 ㊦
- 一、同五升 角兵衛 ㊦
- 一、同三升 清六 ㊦

耳成地区

- 一、同三升 九兵衛 ㊦
- 一、同三升 甚四郎 ㊦
- 一、同三升 忠兵衛 ㊦
- 一、同三升 与次兵衛 ㊦
- (破) 源七 ㊦

右渡米ノ壹石壹斗三升

残壹石六斗五升四合

此御米中地御未進方へ差續

右者当卯春飢人共江御扶持米奉願候処右之石數米被下置難有奉存候、依之飢人五拾式人江右御米致割賦可相渡之処村中打寄相談之上何分中地方御年貢御未進致難儀候ニ付村役人中へ相願極貧窮之者共江右之通割渡御米槌ニ受取申処相違無御座候、相殘候御米中地御未進ニ御見續□候様ニ相願申候、然ル上者右飢御扶持米割方ニ付聊申分無御座候ニ付村中連印之請取仍如件、

源兵衛 ㊦

明和八辛卯年

耳成地区

四月十七日

清吉 清助 太助 伊兵衛 利助 宇兵衛 治兵衛 はる 又右衛門 彦四郎 源六 清蔵 清助 さん 佐兵衛 重兵衛 善次郎

加兵衛 角兵衛 清六 九兵衛 甚四郎 忠兵衛 与次兵衛 源七 彦兵衛 甚兵衛 丈助 喜平治 又三郎 儀兵衛 清次郎 長十郎

九四六

○上品寺村御救米割賦帳

明和九年六月

(上田長守文書)

明和九年 辰年 但馬組  
 十市郡上品寺村御救米割賦帳  
 六月 上品寺村 扣へ

(明和七年)(明和八年)  
 去々寅年去ル卯年大凶作ニ付、必至と行詰り、朝暮之煙  
 も立兼候極難之百姓へ、村中相談之上御救米別段ニ割渡  
 シ候名前左之通、

一、米三拾石 御救米

内

耳成地区

庄屋 徳次郎 ㊦  
 同  
 上田三郎次郎 (印ナシ)  
 年寄 忠五郎 ㊦  
 同断 又四郎 ㊦

- |          |  |
|----------|--|
| 一、式石九斗壹升 | 武兵衛                                      |
| 一、壹石五斗五升 | 平八                                       |
| 一、四斗四升   | 吉兵衛                                      |
| 一、式石式斗   | 彦五郎                                      |
| 一、四斗式升   | 喜平次                                      |
| 一、壹石六斗   | 茂平次                                      |
| 一、壹石五斗八升 | 源 <small>(破)</small> <small>□(破)</small> |
| 一、式斗七升   | 藤  |
| 一、三斗六升   | 庄兵衛                                      |
| 一、四斗四升   | 長四郎                                      |
| 一、七斗六升   | 善兵衛                                      |
| 一、壹石式斗六升 | 九兵衛                                      |
| 一、壹石三斗四升 | 六兵衛                                      |
| 一、五斗壹升   | 長兵衛                                      |
| 一、拾五石壹斗  |  |

去々寅年去ル卯年大凶作ニ付、惣百姓必至と行詰り致方

も無御座段々御願奉申上候処、此度御慈悲を以御救米被

下置難有、村中相談之上割賦仕候名前左之通、

一、壹石三斗三升

勘四郎

一、五斗五升

嘉兵衛

一、九斗八升

治右衛門

一、九斗七升

宗兵衛

一、七升

道場

一、壹斗

忠次郎

一、貳斗四升

源四郎

一、壹斗壹升

観音寺

一、四斗九升

仁兵衛

一、八升

源三郎

一、九斗八升

源介

一、三斗壹升

藤兵衛

一、三升

只八

一、三斗

喜兵衛

一、四斗六升

勘介

一、九斗壹升

甚三郎

一、四斗九升

甚七

一、三斗

平四郎

一、四斗貳升

宗八

一、五斗

八兵衛

一、四斗三升

次郎兵衛

一、貳斗九升

寅之介

一、三升

忠七

一、四石五斗三升

上田弥三郎

拾四石九斗

惣合三拾石 御救米

一、近年不作打続、村方惣一統困窮仕候上、去々寅

年去ル卯年大凶作ニ付、必至と行詰リ、百姓相続難成

候ニ付、段々御願奉申上候処、御憐愍を以此度村方惣

百姓為御救、御米三拾石被下置冥加仕極難有奉存候、

村中高持百姓共打寄相談之上、割賦仕候処相違無御座

候、為其高持百姓江割渡し候受取印形帳面差上申候処

仍而如件、

明和九壬辰年六月

上品寺村年寄 宗 兵衛

同村同断 治右衛門

同村組頭 甚三郎

同断 武兵衛

同村百姓惣代 宗 八

○上品寺村御成箇免定之事

寛政元年十一月

(上田長守文書)

和州市郡上品寺村西御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

取米三百七拾八石六斗五升八合 定厘八ツ六分

内米八拾七石三斗五升貳合 当西当引

残取米貳百九拾壹石三斗六合

外

一、米拾三石貳斗九合

夫米

耳成地区

一、米八石七斗三升九合

口米

納合米三百拾三石貳斗五升四合

右之通当西御成箇相極之間惣百姓并入作之者迄立会無高下令割賦来ル極月十日以前可皆済者也、

寛政元酉年十一月

堀江伝太夫

長沢伴蔵

松山銀平

雨宮嘉右衛門

内野六郎左衛門

戸倉徳之進

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

○上品寺村御成箇免定之事

天保二年十一月

(上田長守文書)

和州市郡上品寺村卯御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

九四九

取米三百七拾八石六斗五升八合 定厘八ツ六分

内米百七石四斗三升壹合 当卯検見了簡引

残取米貳百七拾壹石貳斗貳升七合

外

一、米拾三石貳斗九合 夫米

一、米八石壹斗三升七合 口米

納合米貳百九拾貳石五斗七升三合

右之通当卯御成箇相極之間惣百姓并入作之者迄立会無高

下令割賦来ル極月十日以前可皆済者也、

天保二卯年十一月 岡野祖右衛門 ㊦

林 彦 太 夫 ㊦

大津詰ニ付不罷加印

前本定右衛門

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

┌

○聖護院宮入峯御通輿入用書上帳

天保十年八月 (上田長守文書)

天保拾年

聖護院宮様御通輿諸入用書上帳

亥八月

上品寺村

上品寺村

一、人足貳拾五人 道作り并く彘掛ケ

代三拾七匁五分

一、人足貳人 二階堂方田原村迄

代三匁

一、拾貳匁 すな持人足八人

一、人足貳人 ほうき持

三匁

一、人足貳人 けこう持

三匁

一、人足六人 御先そうじ

九匁

一、人足七人 先案内

拾匁五分

一、人足貳人 村方番

三匁

一、人足五拾五人 御伝人足

百拾匁

一、人足貳人 弁とう持

四匁

一、人足貳人 小善人足(アア)

四匁

惣ノ百五人

右之通聖護院様御通行ニ付伝馬人足并道作り崩欠路□人  
足書付奉差上候通相違無御座候、以上、

天保拾年

亥八月

上品寺村庄屋

上田清次郎

年寄彦兵衛

同断伊右衛門

○上品寺村御成箇免定之事

万延元年十一月

(上田長守文書)

和州十市郡上品寺村申御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

取米三百七拾八石六斗五升八合

定厘八ツ六分

米貳拾六石四斗七升五合

当申檢見了簡引

内 米七拾壹石三斗六升五合

同稲方皆損引

米七拾八石七斗八升六合

同田木綿皆損引

米拾石貳斗六升八合

同畑方皆損引

残取米百九拾壹石七斗六升四合

一、米拾三石貳斗九合

夫米

一、米五石七斗五升三合

口米

納合米貳百拾石七斗貳升六合

右之通当申御成箇相極之間惣百姓并入作之者迄立会無高  
下令割賦来ル極月十日以前可皆済者也、

万延元年十一月

橋本猪野右衛門 ㊦



和田忠兵衛 ㊤

深井喜右衛門 ㊤

吉川幾右衛門 ㊤

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

○天誅組騒乱ニ付軍用米出入覚

文久三年八月二十七日

(上田長守文書)

文久三年 軍用米村々出入覚帳 亥八月廿七日
-----------------------------

米村之入

八月廿七日

一、貳石

□□村

一、貳石

矢部村

一、三石

伴堂村

一、壹石貳斗

多村

一、貳石

ひよぶ村

一、貳石五斗

□□□

一、壹石

とん出村

一、壹石

三川村

一、壹石

大垣村

一、貳石

上品寺村

一、同壹石五斗

上品寺村

米ノ拾七石七斗

同廿九日

一、白米三石

金剛寺村入

一、白米三石

松本村入

一、同貳石

南村

一、同三石

弁財天村

一、同五石

古寺村

一、同貳石

中村

一、同貳石

中村

同 一、同四石 大網村

同 一、同壹石 的場村

同 一、同五石 茅野村

ノ三拾石内八月廿九日貳拾石出

一、同貳石也 的場村

九月朔日

一、海馬拾壹(綱莖)ノ目 金剛寺村

一、□壹石也 同断

一、海馬拾壹(綱莖)ノ目 松本村

一、□壹石也 同断

八月廿七日

一、ぬか三石 古寺村

請取

内

同 同出壹石五斗 多村

善兵衛へ渡し

同 同出壹石五斗 村惣(代)□へ渡し

米同 一、出壹石五斗 矢部村

役代渡し

同同 一、出壹石 大垣村

役代渡し

同同 一、出八石 大□様

仰付夫惣□へ渡し

同 一、□五斗 村夫惣□へ渡し

同 一、海馬十一ノ五百目 同人惣□へ渡し

米出ノ拾石五斗

同廿八日

同ノ七石出候

合拾七五斗

廿七日

耳成地区

九五三

一、白米貳斗 上品寺村

一、同断貳斗 多村

内

一、 拾壹ヶ村之

中飯

一、白米八升

□□□村

南村右両人足中飯

外

一、米拾三石貳斗九合

一、米六石八升六合

納合米貳百貳拾貳石壹斗七升七合

右之通当辰御成箇相極之間惣百姓并入作之者迄立会無高  
下令割賦来ル極月十日以前可皆落者也

明治元辰年十一月

○上品寺村御成箇免定之事

明治元年十一月

(上田長守文書)

和州十市郡上品寺村辰御成箇免定之事

一、高四百四拾石三斗

高辻

取米三百七拾八石六斗五升八合 定厘八ツ六分

米五拾七石四斗壹升五合 当辰檢見了簡引

内 米三拾貳石壹斗六升壹合 同稻方皆損引

米七拾壹石七升貳合 同田木綿皆損引

米拾五石壹斗貳升八合 同畑方皆損引

夫米

口米

沢井半之助 ㊦

山下貫左衛門 ㊦

出張ニ付不罷加印

中村良作

出坂ニ付不罷加印

中村壮左衛門

壺井对助 ㊦

和田忠兵衛 ㊦

上品寺村

庄屋

年寄

惣百姓

掲載史料所蔵・協力者一覧

真福寺・正倉院・成實堂文庫・天理図書館・京都大学・談山神社・内閣文庫・日本地名学研究所・松浦章・秋山日出雄・下八釣区・森源治郎・地黄区・山崎伊平・河合正義・森村庄逸・細川弘光・本善寺・寺田勝治・河合鋭治・広吉寿彦・喜多靖・平田寅之助・森村政逸・上田宗司・大願寺・今井博道・今西啓師・吉田勝司・上田隆一・上田久一・小綱区・平井良朋・森川康男・尊勝院・山本宗治・蘆村雅光・膳夫区・東池尻区・飯道勇夫・南浦区・上田貞三・戒外区・南山区・喜多堅治・四条新町宮座・長村正裕・田中区・山田小三郎・見瀬区・竹川忠紀・高岡公之・鳥屋区・中西善盛・西池尻区・村島兵治・松村輝雄・吉田忠繁・江南房次郎・弓場豊・越智治喜・梅本晴久・前川彦左久・堀部卓治・井上伊重郎・松村正喜・称名院・中西利一郎・曾我区講中・米沢昌康・岡橋久徳・東大寺・安達信正・安達信安・藤本政隆・今沢為男・中町区・吉川禎一・依岡栄太郎・平田喬祐・森村繁・森本育寛・上田長守・中野文彦・永島福太郎・池田末則・矢沢邑一・藤田慶子・吉岡洋子・小林久美・加藤洋子・高橋亘・山田浩之

檀原市史 史料 第三卷

昭和六十一年三月一日 印刷

昭和六十一年十月一日 発行

編 集 改訂檀原市史編纂委員会

発行者 三 浦 太 郎

印刷所 大信印刷株式会社

奈良県檀原市八木町一―一―一八

発行所 檀原市役所

電話 〇七四四二―二―四〇〇一番